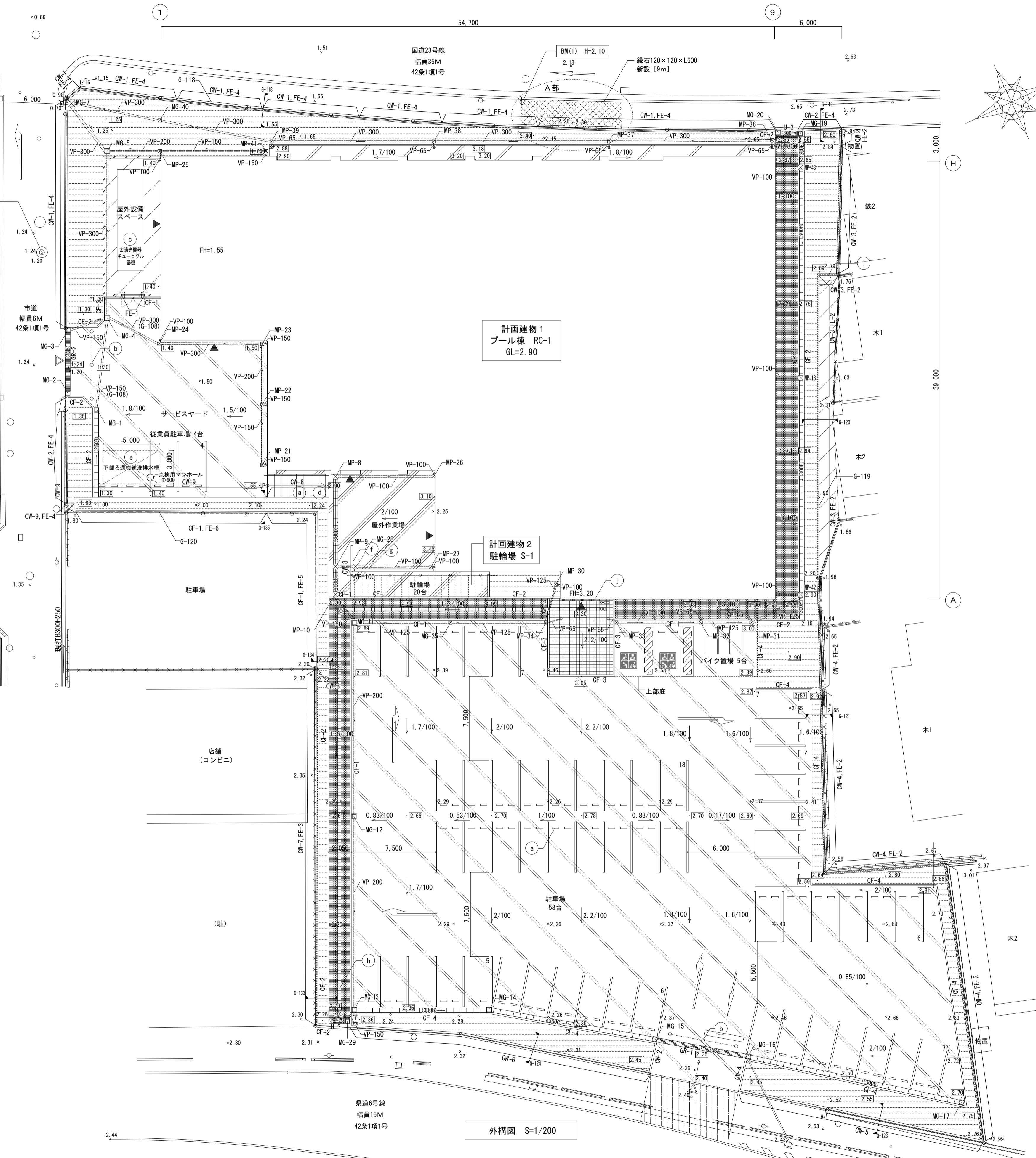


△敷地境界線
- アスファルト舗装 t=50 撤去範囲 (砕石t150共) [21m]

A部外構図(撤去図) S=1/200

樹リスト

記号	雨水枡	蓋天端レベル	接続レベル	樹天端から管底まで深さ	枡幅×D	耐荷重	樹タイプ
		m	m	H(mm)	mm	t	
MG-1		1.29	0.94	350	450×450	T-6	樹450-A
MG-2		1.25	0.91	340	450×450	T-6	樹450-A
MG-3		1.24	0.85	390	450×450	T-6	樹450-A
MG-4		1.31	0.81	500	450×450	T-6	樹450-A
MG-5		1.31	0.67	640	450×450	歩行用	樹450-A
MG-7		1.31	0.61	700	450×450	歩行用	樹450-A
MP-26		3.10	2.44	660	300×300	歩行用	樹300-1090
MP-8		2.90	2.37	530	450×450	歩行用	樹450-A
MP-9		2.90	2.31	590	450×450	歩行用	樹450-A
MP-10		2.90	2.29	610	450×450	歩行用	樹450-A
MG-11		2.89	2.27	620	450×450	T-2	樹450-A
MG-12		2.62	2.13	490	450×450	T-20	樹450-B
MG-13		2.33	2.00	330	450×450	T-2	樹450-A
MG-14		2.35	1.92	430	450×450	T-2	樹450-A
MG-15		2.35	1.81	540	450×450	T-2	樹450-A
MG-16		2.35	1.76	590	450×450	T-2	樹450-A
MG-17		2.35	1.99	360	450×450	T-2	樹450-A
MP-33		3.15	2.44	720	300×300	T-2	樹300-1090
MP-32		3.08	2.36	700	300×300	T-2	樹300-1090
MP-31		3.05	2.32	680	300×300	T-2	樹300-1090
MP-42		2.95	2.27	680	450×450	歩行用	樹450-A
MP-18		2.85	2.08	770	300×300	歩行用	樹300-1090
MP-43		2.64	1.89	750	300×300	歩行用	樹300-1090
MG-19		2.64	1.87	770	300×300	歩行用	樹300-1090
MG-20		2.64	1.85	790	300×300	歩行用	樹300-1090
MP-36		2.65	1.85	800	450×450	歩行用	樹450-A
MP-37		2.48	1.56	920	300×300	歩行用	樹300-1090
MP-38		2.09	1.25	840	450×450	歩行用	樹450-A
MP-39		1.59	0.97	620	300×300	歩行用	樹300-790
MG-40		1.35	0.77	580	300×300	歩行用	樹300-790
MG-7		1.31	0.61	700	450×450	歩行用	樹450-A
MP-21		1.54	1.27	270	300×300	歩行用	樹300-490
MP-22		1.52	1.21	310	300×300	歩行用	樹300-490
MP-23		1.50	1.15	350	300×300	歩行用	樹300-790
MP-24		1.40	1.05	350	300×300	歩行用	樹300-790
MG-41		1.31	0.81	500	450×450	T-6	樹450-A
MP-41		1.62	1.17	450	300×300	歩行用	樹300-790
MP-25		1.40	1.08	320	300×300	歩行用	樹300-490
MG-5		1.31	0.67	640	450×450	歩行用	樹450-A
MP-27		3.09	2.44	650	300×300	歩行用	樹300-1090
MG-28		2.94	2.38	560	450×450	歩行用	樹450-A
MP-9		2.90	2.31	590	450×450	歩行用	樹450-A
MG-29		2.31	2.01	300	450×450	歩行用	樹450-A
MG-13		2.33	2.00	330	450×450	T-2	樹450-A
MP-30		3.17	2.69	480	300×300	歩行用	樹300-790
MP-34		3.00	2.47	530	450×450	T-2	樹450-A
MG-35		3.01	2.43	580	450×450	T-2	樹450-A
MG-11		2.89	2.27	620	450×450	T-2	樹450-A



計画建物1
プール棟 RC-1
GL=2.90

計画建物2
駐輪場 S-1

外構図 S=1/200

記号	名称
CON-1 ※(G-101)	土間コンクリート(金コテ仕上)
CON-2	土間コンクリート(剛毛引き仕上)
ILB-1 (G-102)	インターロッキングブロック舗装(歩道部)
AS-1 (G-103)	透水性アスファルト舗装(車路・駐車場用)
	アスファルト舗装(歩道用)t50 (砕石t150共) [22.3m]
GV-1	砂利敷(単粒度砕石4号) t=100
S01-1	緑地帯 A-064図による
T1-1	300角タイル(下地モルタル共) 土間コンクリートt150 (D10t200共) RC-40t-150
CW**	コンクリート擁壁
CF-1 (G-104)	地先境界ブロック W150
CF-2 (G-105a)	緑地帯用ブロック W150
CF-3 (G-104)	化粧ブロック(みかけ) W150
CF-4 (G-105b)	駐車場周囲用ブロック W150
FE-1 (G-130)	FE-1:H=3.30 両開き戸付き
FE-2	目隠しフェンス H=1500
FE-3~4	メッシュフェンス FE-3:H=1500 FE-4:H=1200
FE-5~6	メッシュフェンス (独立基礎180×180×H450共) FE-5:H=1500 FE-6:H=1200
GR-1~2 (G-107)	U形側溝 横断用 ※蓋下端からの深さを示す スチール製グレーチング蓋(T-20)
U-1 (G-106)	U形側溝 PU-3 ※(側溝規格) コパ1蓋(3種) F#-1型(1種)蓋(10m内外)
U-2 (G-106)	U形側溝 PU-3 ※(側溝規格) コパ1蓋(1種) F#-1型(1種)蓋(歩行用)10m内外
U-3 (G-***)	U形側溝 PU-3 ※(側溝規格) コパ1蓋(1種) F#-1型(1種)蓋(歩行用)
MG** (G-110)	雨水浸透枡300角, 450角 スチール製グレーチング蓋
MP** (G-109)	雨水浸透枡300角, 450角 PC既製蓋
VP**	雨水管 VP φ65, 100, 125, 150, 200, 300
DR	たて引きドレン 鋼鉄製
(G-129)	乗入工事範囲
a	車止めブロック(G-113)
b	バリアカー(上下式 バリア型)(G-116)
c	設備基礎(G-122)
d	階段, 階段手摺(G-128)
e	ろ過機逆洗排水枡(G-132)
f	RC目隠し壁1(G-126)
g	RC目隠し壁2(G-127)
h	点字ブロック(警告・誘導ブロック)
i	目隠しフェンス厚 W1000×H1500
j	SUS製品グレーチング(歩行用)W150(G-117) 細目ノンスリップ(溶融亜鉛メッキ処理)

・X, XX 現況レベルを示す
 ・XX 計画レベルを示す
 △ 敷地出入口を示す
 ▲ 建物出入口を示す
 GL±0=KBW=800 =2.9
 FL±0=KBW=1,100 =3.2
 KBW H=2.1 ※(G-***)は外構詳細図に該当番号

※A3版の場合は50%縮小とする。

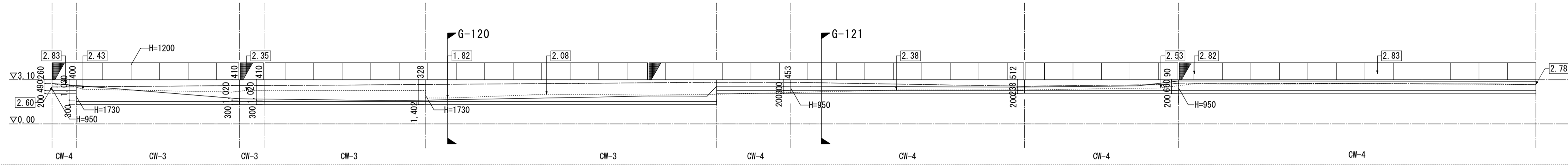
<p>G-101 土間コンクリート 詳細図 S=1/20</p> <p>※コンクリート呼び強度 (18-8-25)</p>	<p>G-103 透水性アスファルト舗装 詳細図 S=1/20</p> <p>※路床、路盤は機械転圧を行うこと。 ※路床設計CBRは8%を標準とする。</p>	<p>G-105a 緑地帯用ブロック 詳細図 S=1/10</p>	<p>G-106 U型側溝(PU-3) 詳細図 S=1/20</p> <p>※JIS型落蓋とし、U-1・U-2は10m毎に1m(0.5m×2枚)グレーチングとする。</p>	<p>G-107 U型側溝(横断面) 詳細図 S=1/20</p> <p>※グレーチング蓋は、T-20とする。 ※()内寸法はGR-1とする。</p>	<p>G-109 雨水浸透樹(樹300-490, 790, 1090) 詳細図 S=1/20</p> <p>樹300-490</p> <p>樹300-790, 1090</p>																									
<p>G-102 インターロッキングブロック舗装 詳細図 S=1/10</p> <p>再生クラッシュラン(RC-40) t100</p>	<p>G-104 地先境界ブロック 詳細図 S=1/10</p> <p>※路床、路盤は機械転圧を行うこと。 ※路床設計CBRは8%を標準とする。</p>	<p>G-105b 緑地帯用ブロック 詳細図 S=1/20</p>	<p>G-108 従業者駐車場埋設雨水管 詳細図 S=1/20</p> <p>※コンクリート強度、スランプ：Fc-21N/mm² S-15 温度補正無しとする。</p>	<p>G-108 従業者駐車場埋設雨水管 詳細図 S=1/20</p>	<p>G-109 雨水浸透樹(樹300-490, 790, 1090) 詳細図 S=1/20</p> <p>樹300-790, 1090</p>																									
<p>G-110 雨水浸透樹(樹450-A) 詳細図 S=1/20</p> <p>※グレーチング蓋(T-2, T-6, T20)は、#16固定、#4製鉄片キリ付、クッション付とする。 ※樹H=1088対対応型</p>	<p>G-111 雨水浸透樹(樹450-B) 詳細図 S=1/10</p> <p>※グレーチング蓋は、#16固定、#4製鉄片キリ付、クッション付とする。 ※樹H=1040対対応型</p>	<p>G-112 駐車区画 詳細図 S=1/100</p>	<p>G-113 車止めブロック 詳細図 S=1/20</p>	<p>G-114 駐車場路面案内表示 詳細図 S=1/50</p> <p>表示サイン: ペイント式 ハンドマーカー</p>	<p>G-115 おもいやり駐車場区画表示 詳細図 S=1/50</p> <p>三重おもいやり駐車場 利用規制制度シンボルマーク</p> <p>カラー設定(参考)</p> <table border="1"> <tr><td>H</td><td>: 138</td><td>C</td><td>: 96%</td></tr> <tr><td>S</td><td>: 99%</td><td>M</td><td>: 1%</td></tr> <tr><td>B</td><td>: 54%</td><td>Y</td><td>: 99%</td></tr> <tr><td>R</td><td>: 14</td><td>K</td><td>: 0%</td></tr> <tr><td>G</td><td>: 139</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>#</td><td>: E8836</td><td></td><td></td></tr> </table>	H	: 138	C	: 96%	S	: 99%	M	: 1%	B	: 54%	Y	: 99%	R	: 14	K	: 0%	G	: 139			#	: E8836			<p>G-115 おもいやり駐車場区画表示 詳細図 S=1/50</p>
H	: 138	C	: 96%																											
S	: 99%	M	: 1%																											
B	: 54%	Y	: 99%																											
R	: 14	K	: 0%																											
G	: 139																													
#	: E8836																													
<p>G-116 バリカー 詳細図 S=1/20</p> <p>※(株)サボ -ル: LA-8KC-BF, LA-8KC-E-BF 同等品</p>	<p>G-117 排水側溝(出入口前) 詳細図 S=1/10</p>	<p>G-118 CW-1 擁壁1 詳細図 S=1/30</p> <p>(*)は実際の外構レベルによる変動する。 ※コンクリート呼び強度 (21-8-25)、化粧目地@1,000内外(フェンス柱に合わせる) ※仕上(両面): フッ素樹脂クリアー塗装 ※水抜き孔内径75mm以上の硬質塩化ビニール層等を用いて、 屋面板2に1ヶ所千鳥状に配置すること。</p>	<p>G-119 CW-2 擁壁2 詳細図 S=1/30</p> <p>(*)は実際の外構レベルによる変動する。 ※コンクリート呼び強度 (21-8-25)、化粧目地@1,000内外(フェンス柱に合わせる) ※仕上(両面): フッ素樹脂クリアー塗装 ※水抜き孔内径75mm以上の硬質塩化ビニール層等を用いて、 屋面板2に1ヶ所千鳥状に配置すること。</p>	<p>G-120 CW-3 擁壁3 詳細図 S=1/30</p> <p>(*)は実際の外構レベルによる変動する。 ※コンクリート呼び強度 (21-8-25)、化粧目地@1,000内外(フェンス柱に合わせる) ※仕上(両面): フッ素樹脂クリアー塗装 ※水抜き孔内径75mm以上の硬質塩化ビニール層等を用いて、 屋面板2に1ヶ所千鳥状に配置すること。</p>	<p>G-121 CW-4 擁壁4 詳細図 S=1/30</p> <p>(*)は実際の外構レベルによる変動する。 ※コンクリート呼び強度 (21-8-25)、化粧目地@1,000内外(フェンス柱に合わせる) ※仕上(両面): フッ素樹脂クリアー塗装 ※水抜き孔内径75mm以上の硬質塩化ビニール層等を用いて、 屋面板2に1ヶ所千鳥状に配置すること。</p>																									

※A3版の場合は50%縮小とする。

G-122 設備基礎 詳細図	G-123 CW-5 擁壁5 詳細図	G-124 CW-6 擁壁6 詳細図	G-125 U型側溝 (蓋無し) 詳細図	G-126 目隠し壁1 詳細図
<p>太陽光機器、キュービクル基礎</p> <p>※コンクリート呼び強度 (18-15-25)</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外 (フェンス柱に合わせる)</p> <p>※仕上 (両面) : フッ素樹脂クリアー塗装</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外 (フェンス柱に合わせる)</p> <p>※仕上 (両面) : フッ素樹脂クリアー塗装</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (18-15-25)、化粧目地@1,000内外</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (18-15-25)、化粧目地@1,000内外</p>
G-127 目隠し壁2 詳細図	G-128 階段 詳細図	G-129 乗入 詳細図	G-130 設備スペース門扉 詳細図	
<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外</p>	<p>*ジオテキスタイル (不織布)、フィルター層は透水性ブロックを使用した場合に追加する</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外</p>	
G-131 西側避難通路手摺 詳細図	G-132 ろ過機逆洗排水槽	G-133 CW-7 擁壁7 詳細図	G-134 CW-8 擁壁8 詳細図	G-135 CW-9 擁壁9 詳細図
<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外 (フェンス柱に合わせる)</p> <p>※仕上 (両面) : フッ素樹脂クリアー塗装</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外 (フェンス柱に合わせる)</p> <p>※仕上 (両面) : フッ素樹脂クリアー塗装</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外</p> <p>※仕上 (両面) : フッ素樹脂クリアー塗装</p>	<p>※コンクリート呼び強度 (21-15-25)、化粧目地@1,000内外 (フェンス柱に合わせる)</p> <p>※仕上 (両面) : フッ素樹脂クリアー塗装</p>
<p>工事名称 温水プール改築工事 (建築工事)</p> <p>設計年月 令和6年2月</p> <p>図面名称 外構詳細図 (2)</p> <p>縮尺 A1: 図示</p> <p>図面番号 A-062</p>				<p>※A3版の場合は50%縮小とする。</p>

——— 計画レベル (建物側)
 ——— 計画レベル (隣地、道路側)
 ——— 現況レベル

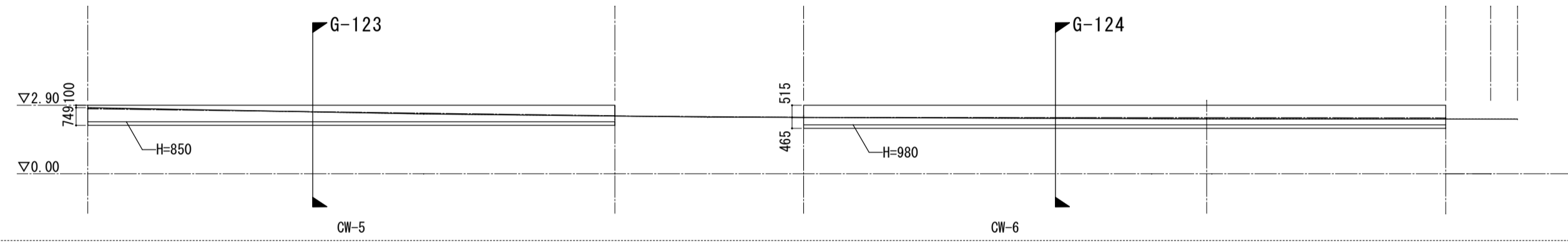
フェンス



擁壁 (CW)
(敷地内より外へ見た姿図)

北側 擁壁展開図 1/200

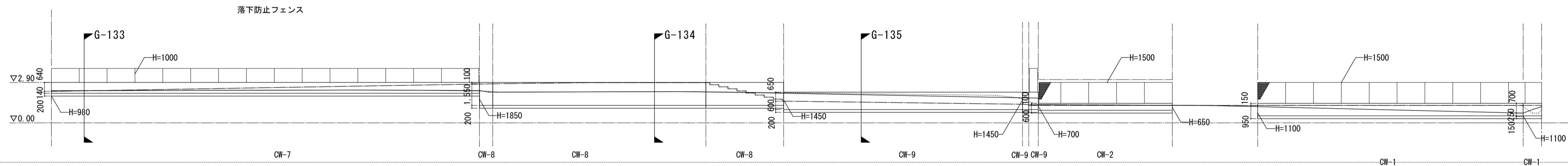
フェンス



擁壁 (CW)

東側 擁壁展開図 1/200

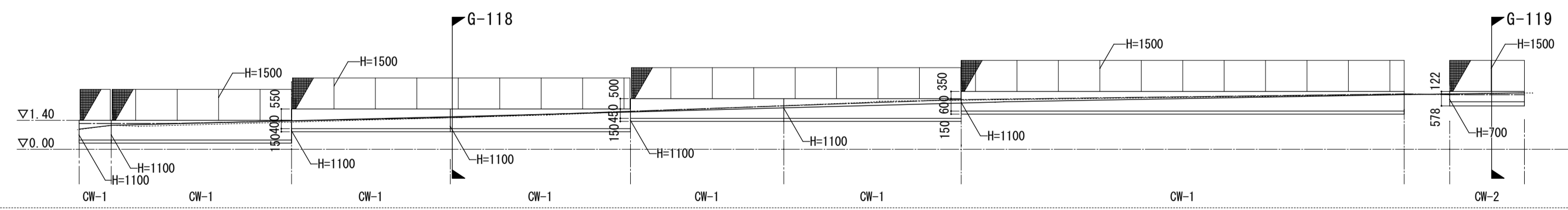
フェンス



擁壁 (CW)

南側 擁壁展開図 1/200

フェンス

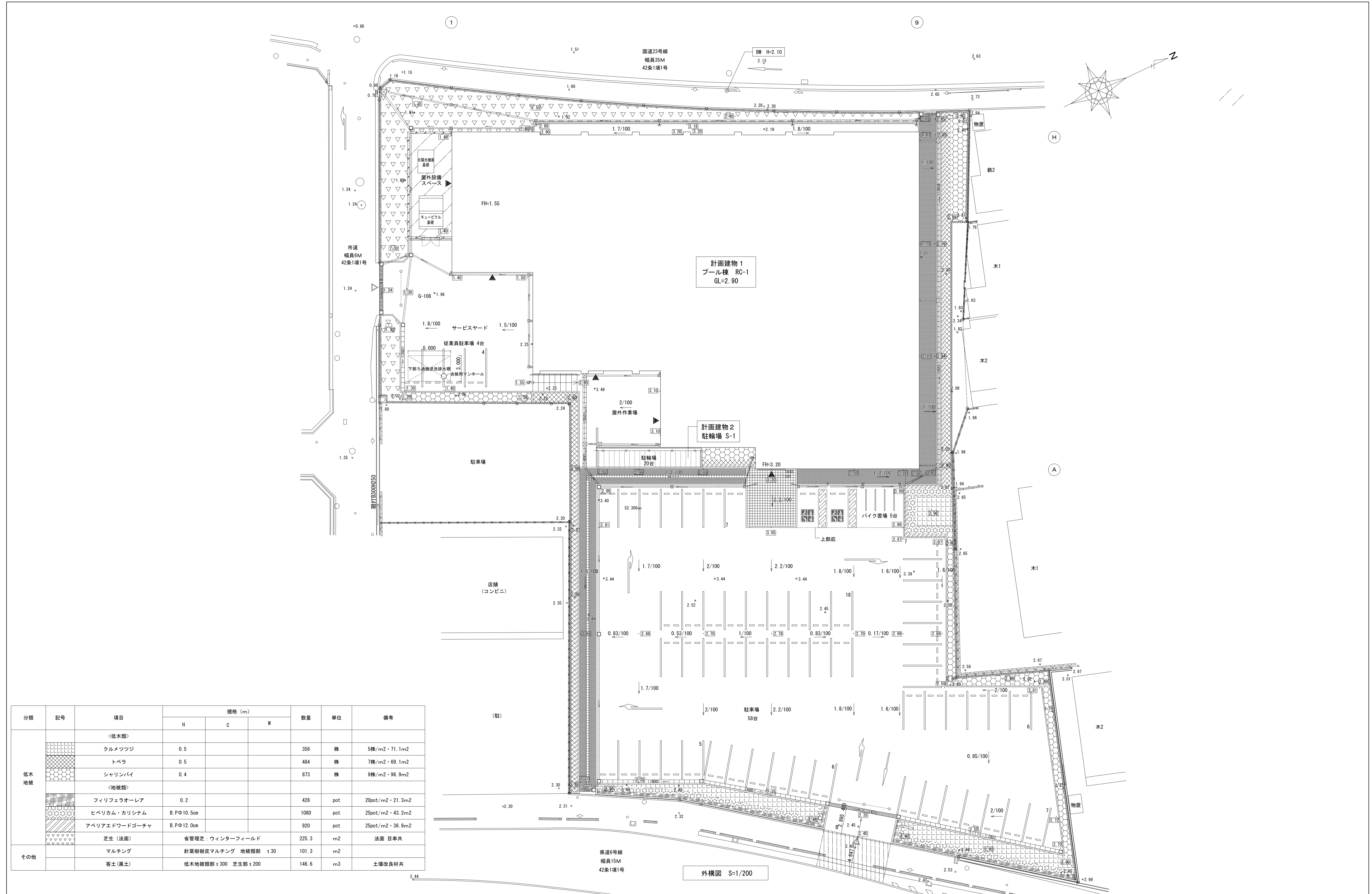


擁壁 (CW)

西側 擁壁展開図 1/200

工 事 名 称 温 水 プ ール 改 築 工 事 (建 築 工 事)	工事名称 温水プール改築工事 (建築工事)	設計年月 令和6年2月	
	株式会社 総企画設計 名古屋支店 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号 一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行	図面名称 外構詳細図(4) (擁壁展開図)	縮尺 A1:1/200

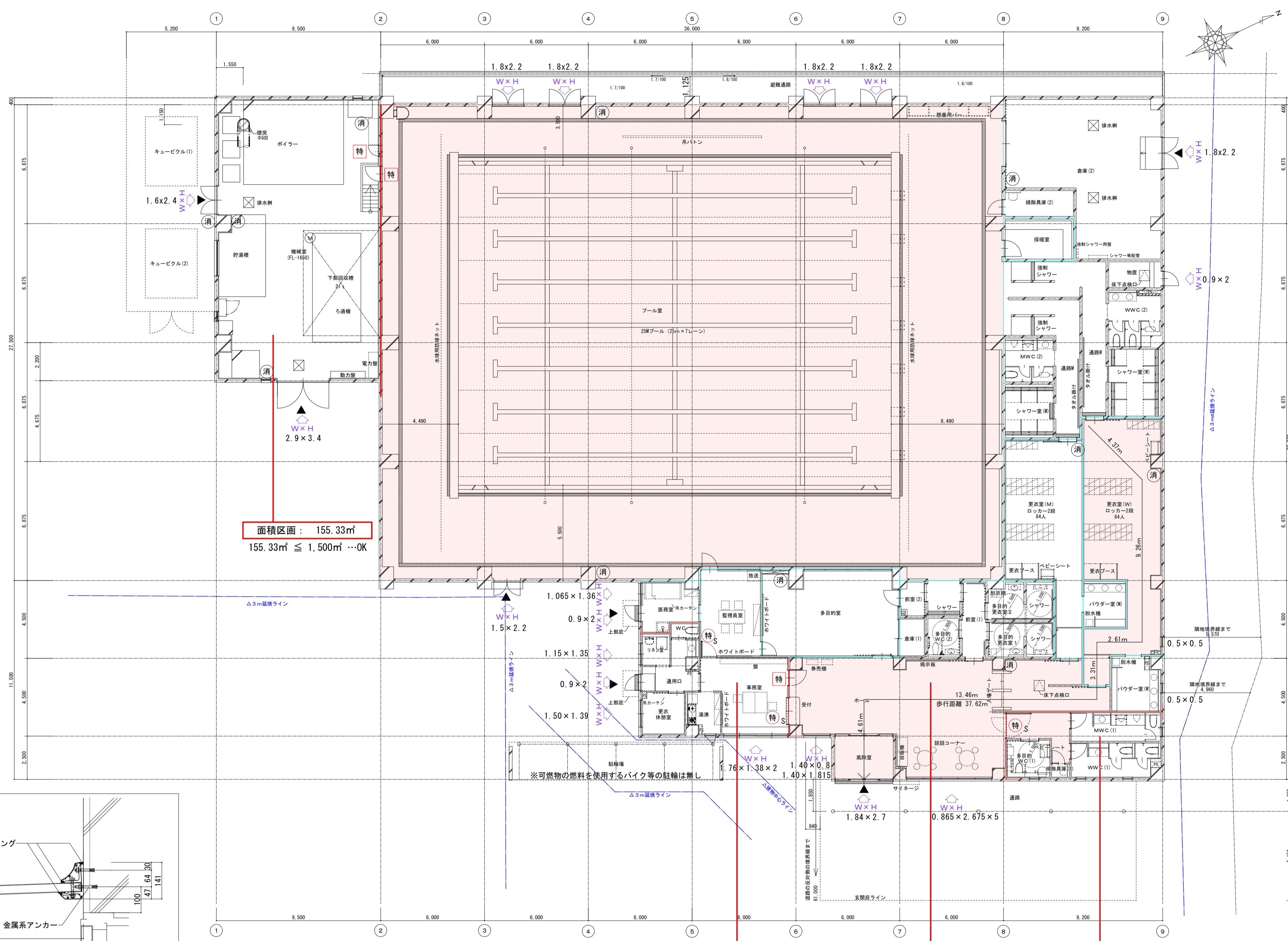
※A3版の場合は50%縮小とする。



分類	記号	項目	規格 (m)			数量	単位	備考
			H	C	W			
低木 地被	<低木類>	クルメツツジ	0.5			356	株	5株/m ² ・71.1m ²
		トベラ	0.5			484	株	7株/m ² ・69.1m ²
		シャリンバイ	0.4			873	株	9株/m ² ・96.9m ²
	<地被類>	フィリフェラオーレア	0.2			426	pot	20pot/m ² ・21.3m ²
		ヒベリカム・カリシナム	B.PΦ10.5cm			1080	pot	25pot/m ² ・43.2m ²
		アペリアエドワードゴージャ	B.PΦ12.0cm			920	pot	25pot/m ² ・36.8m ²
その他	芝生 (法面)	省管理芝: ウインターフィールド			225.3	m ²	法面 目串共	
	マルチング	針葉樹樹皮マルチング 地被類部 t30			101.3	m ²		
	客土 (黒土)	低木地被類部 t300 芝生部 t200			146.6	m ³	土壌改良材共	

外構図 S=1/200

※A3版の場合は50%縮小とする。

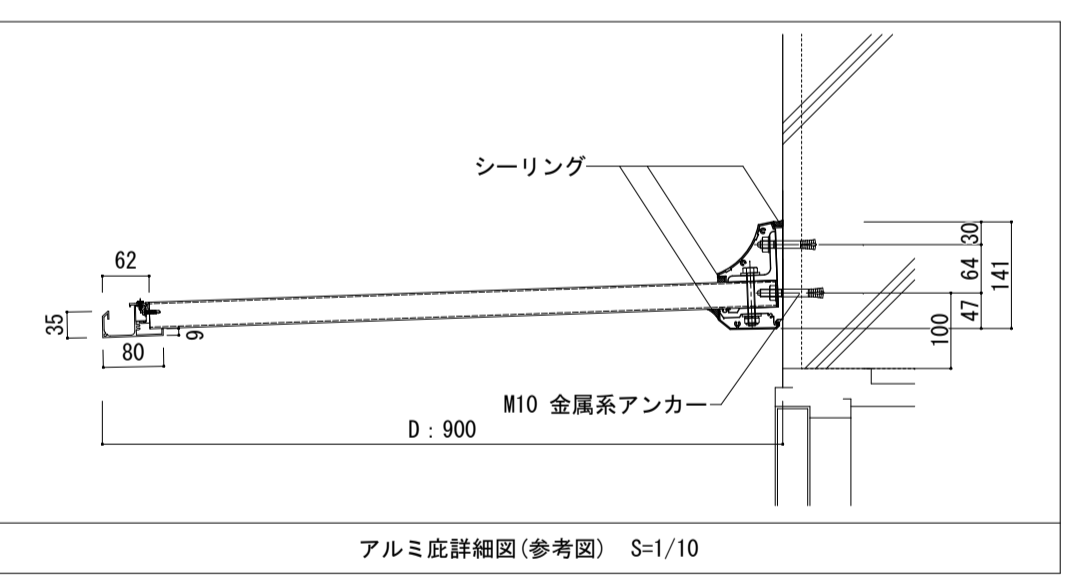


面積区画：155.33㎡
155.33㎡ ≤ 1,500㎡ …OK

面積区画：45.06㎡
45.06㎡ ≤ 1,500㎡ …OK

面積区画：1,485.75㎡
1,485.75㎡ ≤ 1,500㎡ …OK

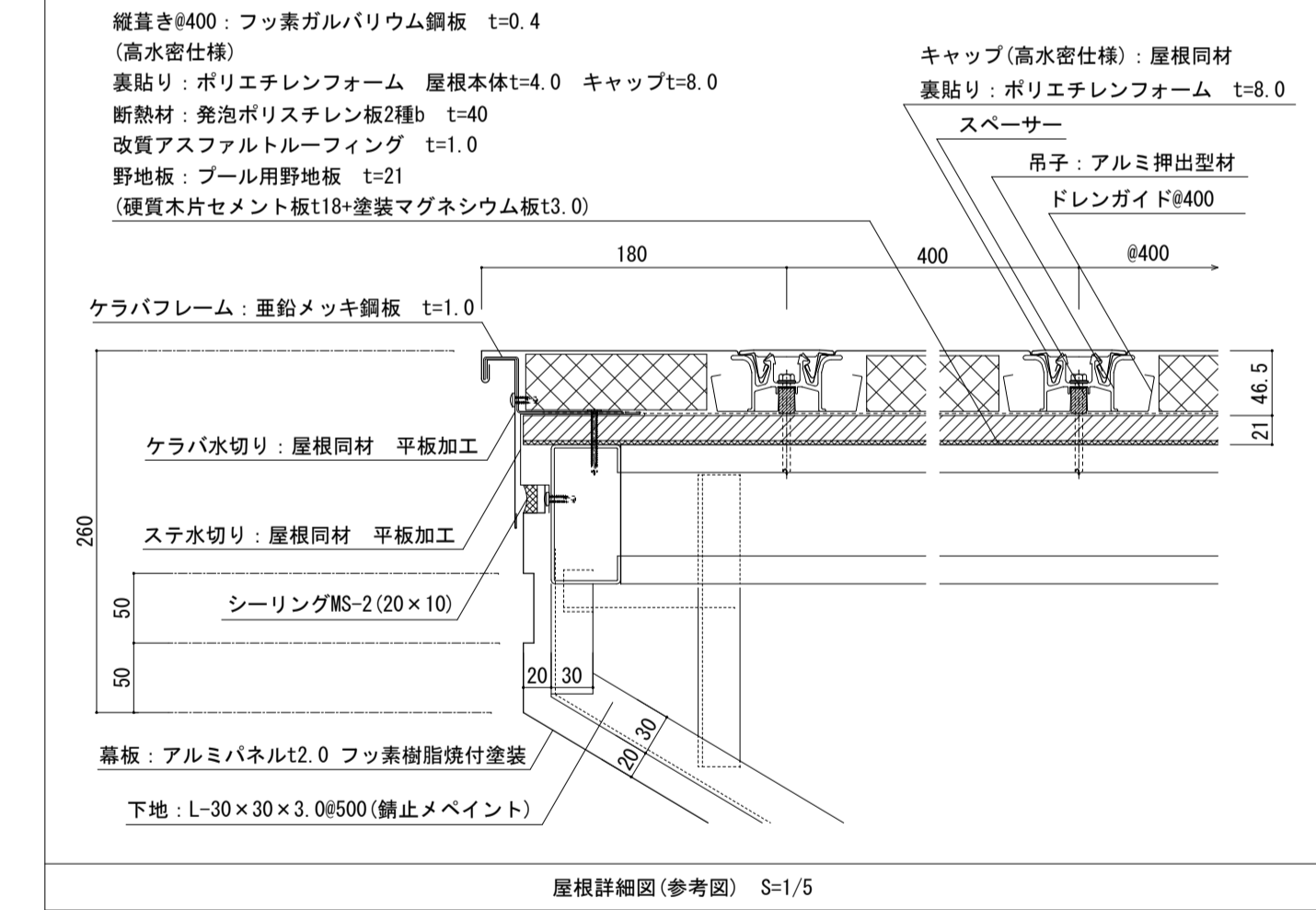
面積区画：35.29㎡
35.29㎡ ≤ 1,500㎡ …OK



アルミ庇詳細図(参考図) S-1/10

幅	踏面	蹴上
905	185	206.25

※令第27条に該当し、令第23条から令第25条までの規定の適用外とする。



屋根詳細図(参考図) S-1/5

室名	室面積	採光必要窓面積	採光有効窓面積	判定	採光係数A(=d/h × α-β)
ホール・談話コーナー	96.78	4.84	6.58	OK	A=61.0/5.2 × 8-1=92...3
多目的室	40.72	2.04	0	不燃区画	
更衣室(M)	45.09	2.25	0	不燃区画	
更衣室(W)	59.46	2.97	0.75	不燃区画	A=5.5/4.3 × 8-1=9.2...3
パウダー室(W)	6.89	0.34	0	不燃区画	
パウダー室(W)	9.81	0.49	0.75	OK	A=4.9/4.3 × 8-1=8.1...3
事務室	20.47	1.02	4.85	OK	A=1.0で算定
監視員室	18.04	0.90	0	不燃区画	
医務室	9.51	0.48	1.44	OK	A=1.0で算定
更衣休憩室	6.59	0.33	1.95	OK	A=1.0で算定
プール室	986.33	49.32	0	不燃区画	
採暖室	10.16	0.51	0	不燃区画	

室名	室面積	換気必要窓面積	換気有効窓面積	判定	換気方式(建具符号等)
ホール・談話コーナー	96.78	4.84	0	NG	機械換気
多目的室	40.72	2.04	0	NG	機械換気
更衣室(M)	45.09	2.25	0	NG	機械換気
更衣室(W)	59.46	2.97	0	NG	機械換気
パウダー室(W)	6.89	0.34	0	NG	機械換気
パウダー室(W)	9.81	0.49	0	NG	機械換気
事務室	20.47	1.02	2.42	OK	自然換気(AW4)
監視員室	18.04	0.90	0	NG	機械換気
医務室	9.51	0.48	2.54	OK	自然換気(AW3)
更衣休憩室	6.59	0.33	1.04	OK	自然換気(AW6)
プール室	986.33	49.32	19.14	NG	機械換気
採暖室	10.16	0.51	0	NG	機械換気

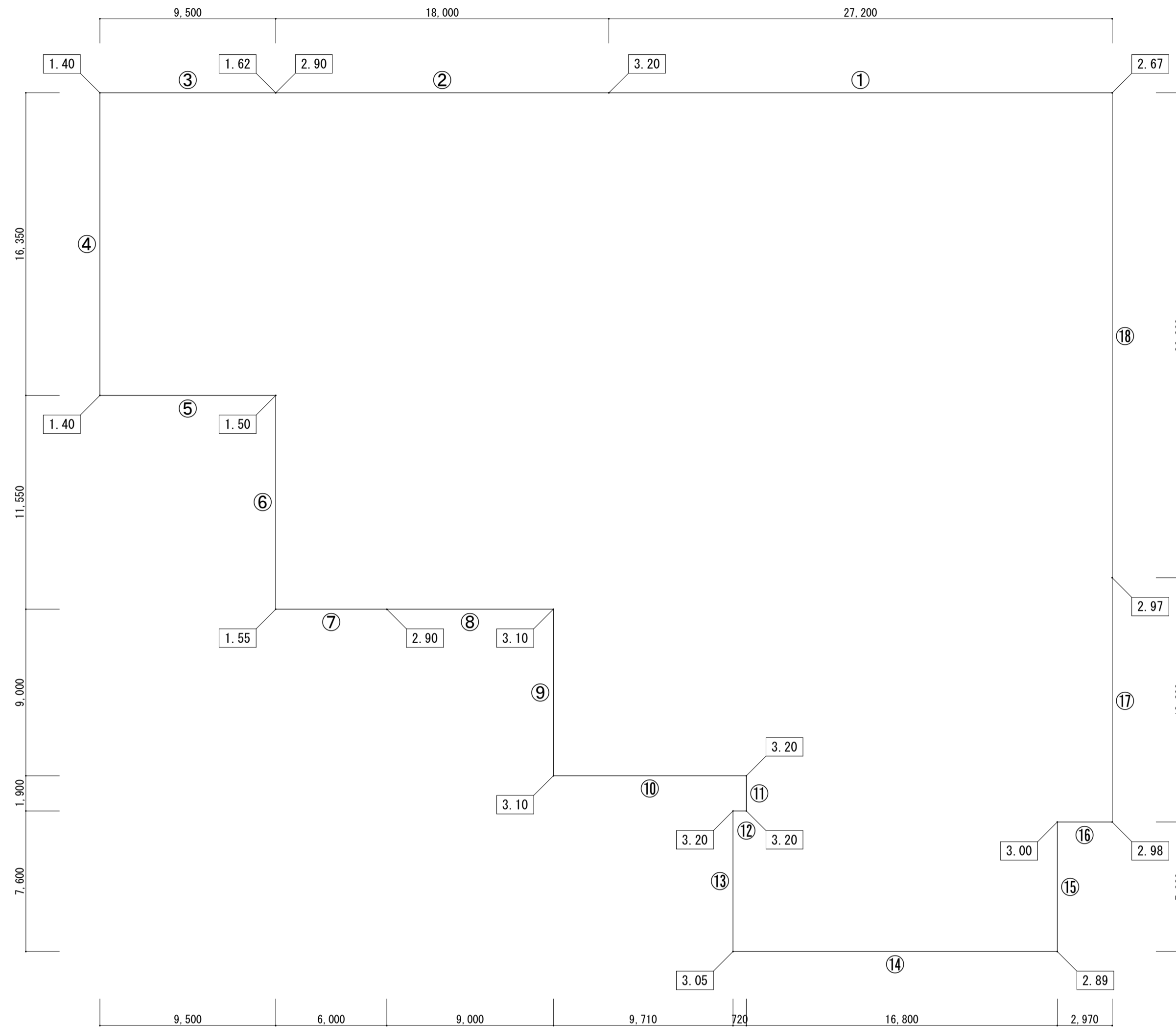
室名	室面積	排煙必要面積	排煙有効面積	判定	備考
ホール・談話コーナー	96.78	1.94	0	内装準不燃	内装制限(令128条の302)※
更衣室(W)	59.46	1.19	0	内装準不燃	内装制限(令128条の302)※
プール室	986.33	19.73	0	内装準不燃	内装制限(令128条の302)※

記号	色	面積区画(令112条1項)	特記事項
—	あか	面積区画(令112条1項)	・仕上げ・下地共☆☆☆☆使用とする。また、天井裏等使用材料は☆☆☆☆とする。
—	あざ	延焼ライン	・各廊下の幅は1200以上、段差なしとする。
W×H	みずいろ	防火区画開口部	・面積区画を構成する特定防火設備については、告示2563号に適合する構造とする。
㎡	あか	防火区画面積	・屋外出入口には、内部サターン・外部リジダー錠を設置。
—	みずいろ	不燃区画(RC壁、LGS壁)(仕様はA-009参照)(法35条の2)	・内部下地材は全てLGS下地(不燃材)とする。
—	あか	内装制限(仕上)壁、天井とも準不燃材料以上(法35条の2)	・防火区画のスタンドレル部分は900以上とする。
—	あざ	RC壁、柱(耐力壁、非耐力壁 構造図参照)	・軒裏は不燃材(アルミパネル)とする。
—	みずいろ	非耐力壁(LGS下地の上、ボード)(A-009参照)	・(消)は消火器(備品)設置位置を示す。
特	あざ	特定防火設備(常時閉鎖扉、令112条第19項)	・特記無き内装仕上材は全て難燃材料以上とする。
特S	あざ	特定防火設備(随時閉鎖扉・煙感知運動、令112条第19項)	・建築基準法施行令第9条の建築基準法関係規定に適合しているものとする。

仕様材料表 ※主要構造部は不燃材料とする		消防火無窓判定			
主要構造部	構造	仕様	認定番号等	床面積	必要開口面積
外壁(耐火構造)	RC	鉄筋コンクリート t=180	H12告示第1399号 第1号第一号イ	1,849.54	61.65
柱(耐火構造)	RC	鉄筋コンクリート	H12告示第1399号 第1号第一号イ		
梁(耐火構造)	RC	鉄筋コンクリート	H12告示第1399号 第1号第一号イ		
床(耐火構造)	RC	鉄筋コンクリート	H12告示第1399号 第1号第一号イ		
屋根(屋上)(耐火構造)	RC	鉄筋コンクリート	H12告示第1399号 第5号第一号		
屋根(不燃材料)	S	フッ素ガルバリウム鋼板 t=0.4	NM-8697		
階段(耐火構造)	RC	鉄筋コンクリート	H12告示第1399号 第6号第一号		
屋根(不燃材料)	S	アルミニウムパネル	H16告示第1178号 第九号		
間仕切壁(耐火構造)	RC	鉄筋コンクリート t=120以上	H12告示第1399号 第1号第一号イ		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	FKt=6.0	NM-8576		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-Rt=12.5	NM-8619		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-St=12.5	NM-9639		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-Ht=12.5	NM-9645		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	FKt=6.0	NM-8576		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-Rt=12.5	NM-8619		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-St=12.5	NM-9639		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-Ht=12.5	NM-9645		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	FKt=6.0	NM-8576		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-Rt=12.5	NM-8619		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-St=12.5	NM-9639		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	GB-Ht=12.5	NM-9645		
間仕切壁(不燃区画)(不燃材料)	S	FKt=6.0	NM-8576		
合計				1,849.54	64.59 > 61.65

部位	間仕切壁(非耐力壁)(不燃区画)	間仕切壁(耐力壁)(不燃区画)	間仕切壁(非耐力壁)(不燃区画)
耐火時間	1時間	1時間	1時間
認定番号等	NM-8576, NM-8619, NM-9639, NM-9645	H12建告1399号1-イ	H12建告1399号1-イ
部位	間仕切壁(非耐力壁)(面積区画)	間仕切壁(耐力壁)(面積区画)	間仕切壁(非耐力壁)(面積区画)
耐火時間	1時間	1時間	1時間
認定番号等	FPO60NP-0199	H12建告1399号1-イ	H12建告1399号1-イ

※A3版の場合は50%縮小とする。



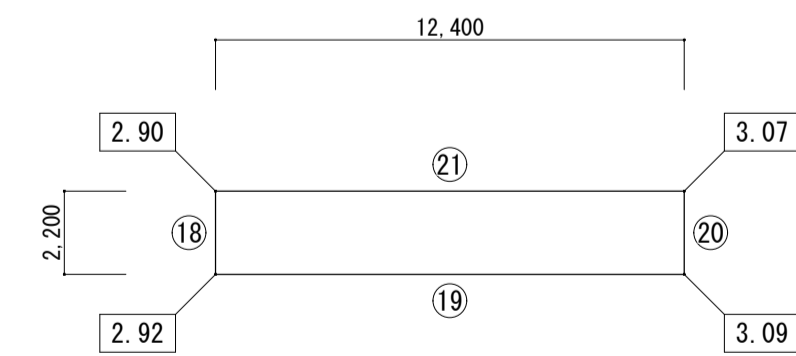
温水プール 平均G L算定図

平均G L算定表

No	長さ	高低差	GL上面積
①	27.20	2.67 - 3.20	79.832
②	18.00	3.20 - 2.90	54.900
③	9.50	1.62 - 1.40	14.345
④	16.35	1.40 - 1.40	22.890
⑤	9.50	1.40 - 1.50	13.775
⑥	11.55	1.50 - 1.55	17.614
⑦	6.00	1.55 - 2.90	13.350
⑧	9.00	2.90 - 3.10	27.000
⑨	9.00	3.10 - 3.10	27.900
⑩	10.43	3.10 - 3.20	32.855
⑪	1.90	3.20 - 3.20	6.080
⑫	0.72	3.20 - 3.20	2.304
⑬	7.60	3.20 - 3.05	23.750
⑭	17.52	3.05 - 2.89	52.034
⑮	7.00	2.89 - 3.00	20.615
⑯	2.97	3.00 - 2.98	8.880
⑰	13.20	2.98 - 2.97	39.270
⑱	26.20	2.97 - 2.67	73.884
計	203.64		531.278

平均GL = GL上面積(合計) / 長さ(合計)
 $531.278 / 203.64 = 2.6089 \dots \approx 2.61$
 GL = 2.90
 \therefore 平均GL = GL-290

最高の高さ 最高の軒高
 GL より 10.800 GL より 10.360
 平均GLより 11.090 平均GLより 10.650



駐輪場 平均G L算定図

平均G L算定表

No	長さ	高低差	GL上面積
⑱	2.20	2.90 - 2.92	6.402
⑲	12.40	2.92 - 3.09	37.262
⑳	2.20	3.09 - 3.07	6.776
㉑	12.40	3.07 - 2.90	37.014
計	29.20		87.454

平均GL = GL上面積(合計) / 長さ(合計)
 $87.454 / 29.20 = 2.995 \approx 3.00$
 GL = 2.90
 \therefore 平均GL = GL+100

最高の高さ 最高の軒高
 GL より 2.520 GL より 2.370
 平均GLより 2.420 平均GLより 2.270

※A3版の場合は50%縮小とする。





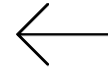
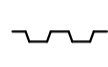
〈ステップ1 解体工事〉

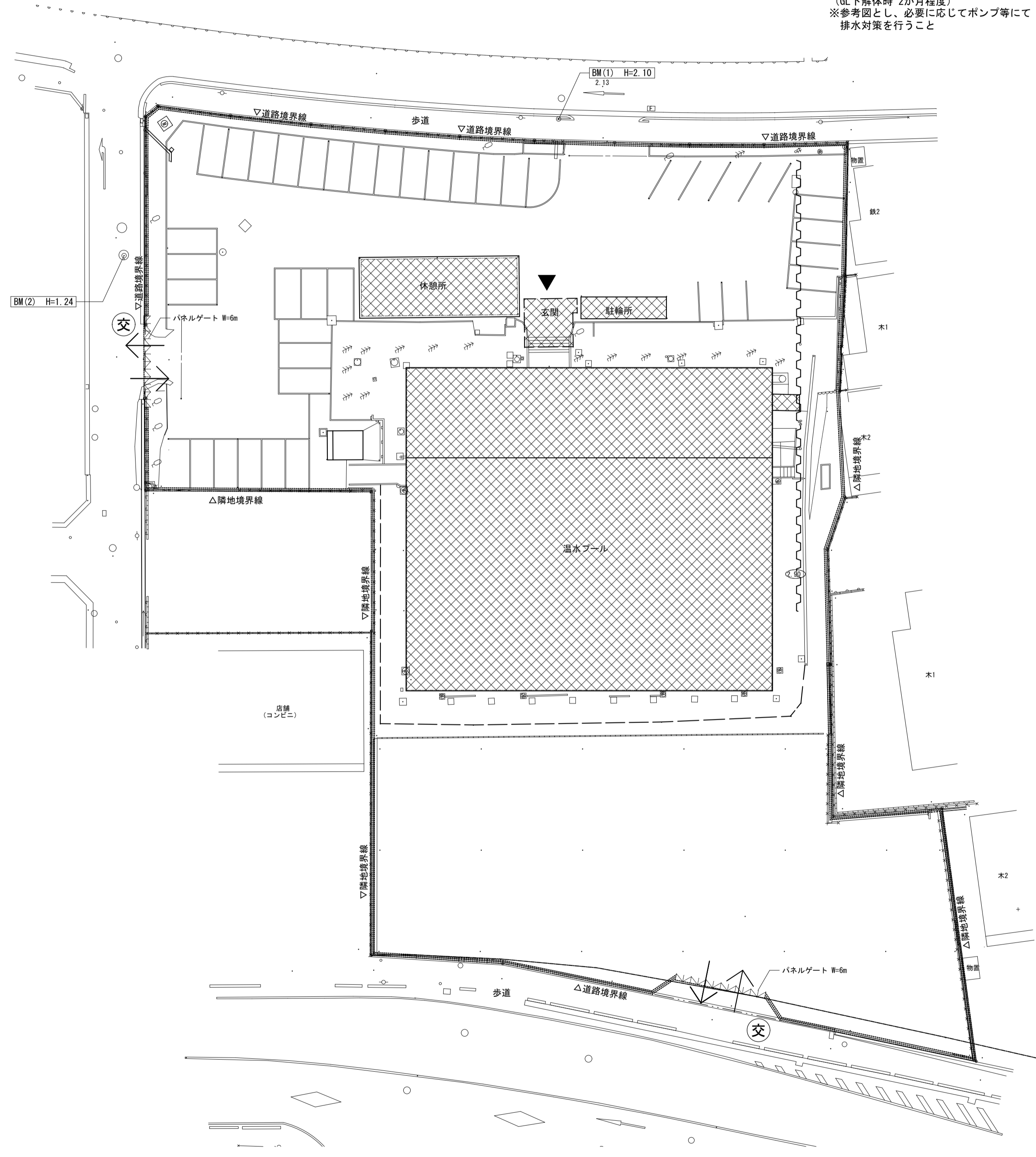
手順概要 (R6年 7月上旬~R6年 11月中旬)

①上屋解体

※該当範囲を他のステップで施工する場合は、監督職員と協議を行うこと

凡例

-  取りこわし建物
※建物解体時は、防音パネルにて建物周囲を囲うこと
(くさび緊結式足場+防音パネル)
ただし休憩所、駐輪場は防音シートとする
-  仮囲い範囲(新規)
※仮囲いは成形鋼板とし、特記なき限りH3.0m
控え2.0mとする。
-  キャスターゲートH1.8m(新規)
-  交通誘導員
-  工事車両
-  矢板 (SP-4形 H=10.5m L=44.5m)
(GL下解体時 2か月程度)
※参考図とし、必要に応じてポンプ等にて
排水対策を行うこと



〈ステップ2 解体工事〉

手順概要 (R6年 11月中旬~R7年 1月中旬)




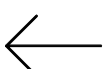
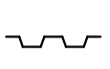
①杭引抜、外構解体

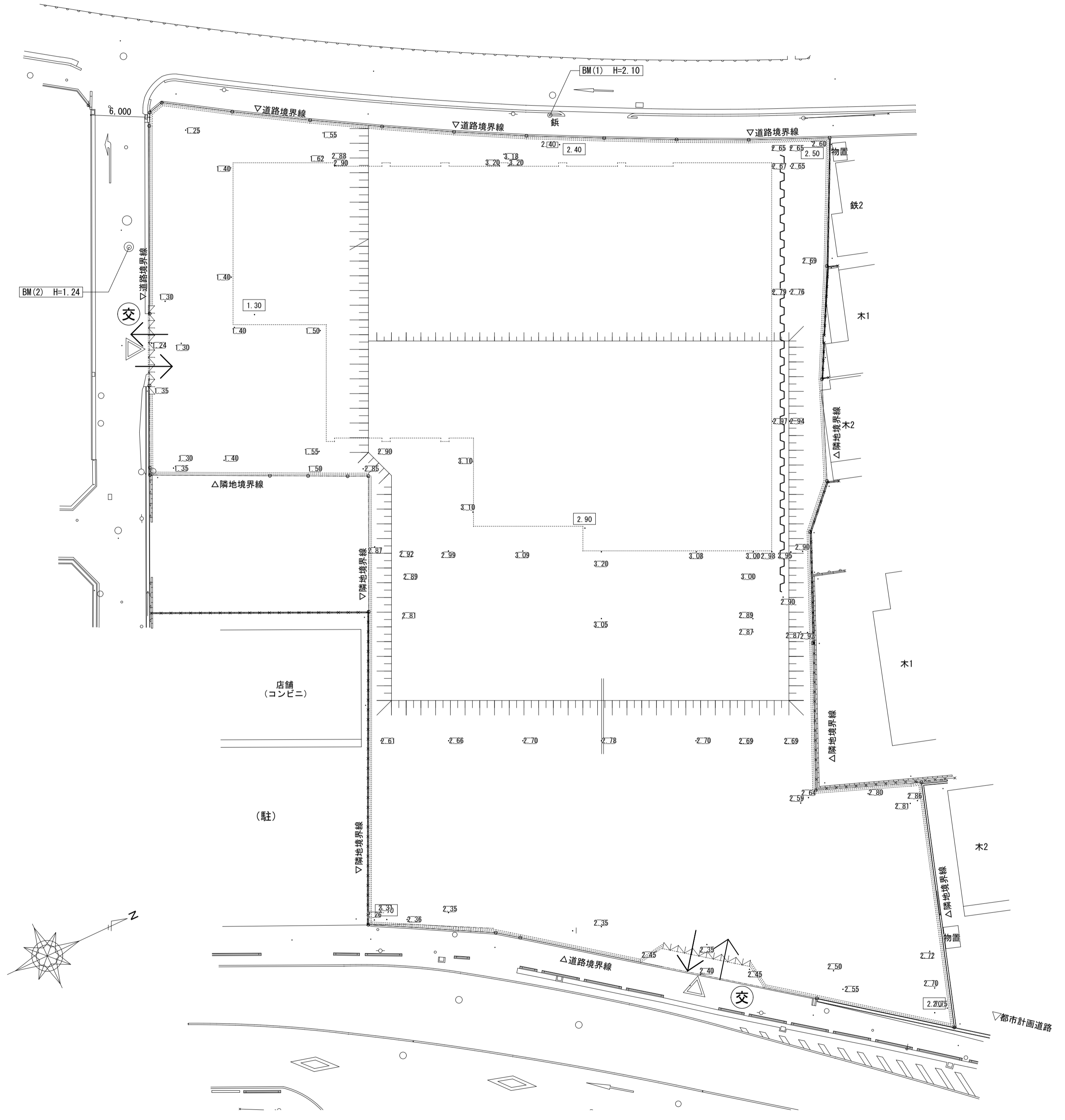
②整地

③西側乗り入れ撤去、歩道復旧

※該当範囲を他のステップで施工する場合は、監督職員と協議を行うこと

凡例

-  仮囲い範囲(既設)
-  キャスターゲートH1.8m(既設)
-  交通誘導員
-  工事車両
-  矢板 (SP-4形 H=10.5m L=44.5m) (既設)
※参考図とし、必要に応じてポンプ等にて
排水対策を行うこと



仮設計画図 (ステップ3) S=1/300

記 事	工事名称	温水プール改築工事 (建築工事)			設計年月	令和6年2月
	図面名称	仮設計画図 (ステップ1、ステップ2)			縮尺	A1:1/300
	株式会社 総企画設計 名古屋支店	一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号	印	図面番号	A-067	
		一級建築士 (大臣) 第270315号	管理建築士 犬飼 和行			

※A3版の場合は50%縮小とする。

〈ステップ3 建築工事〉

手順概要 (R7年 1月中旬~R7年 12月末)

① プール棟建築、駐輪場基礎建築

※ 該当範囲を他のステップで施工する場合は、監督職員と協議を行うこと

凡例

----- 仮囲い範囲(既設)

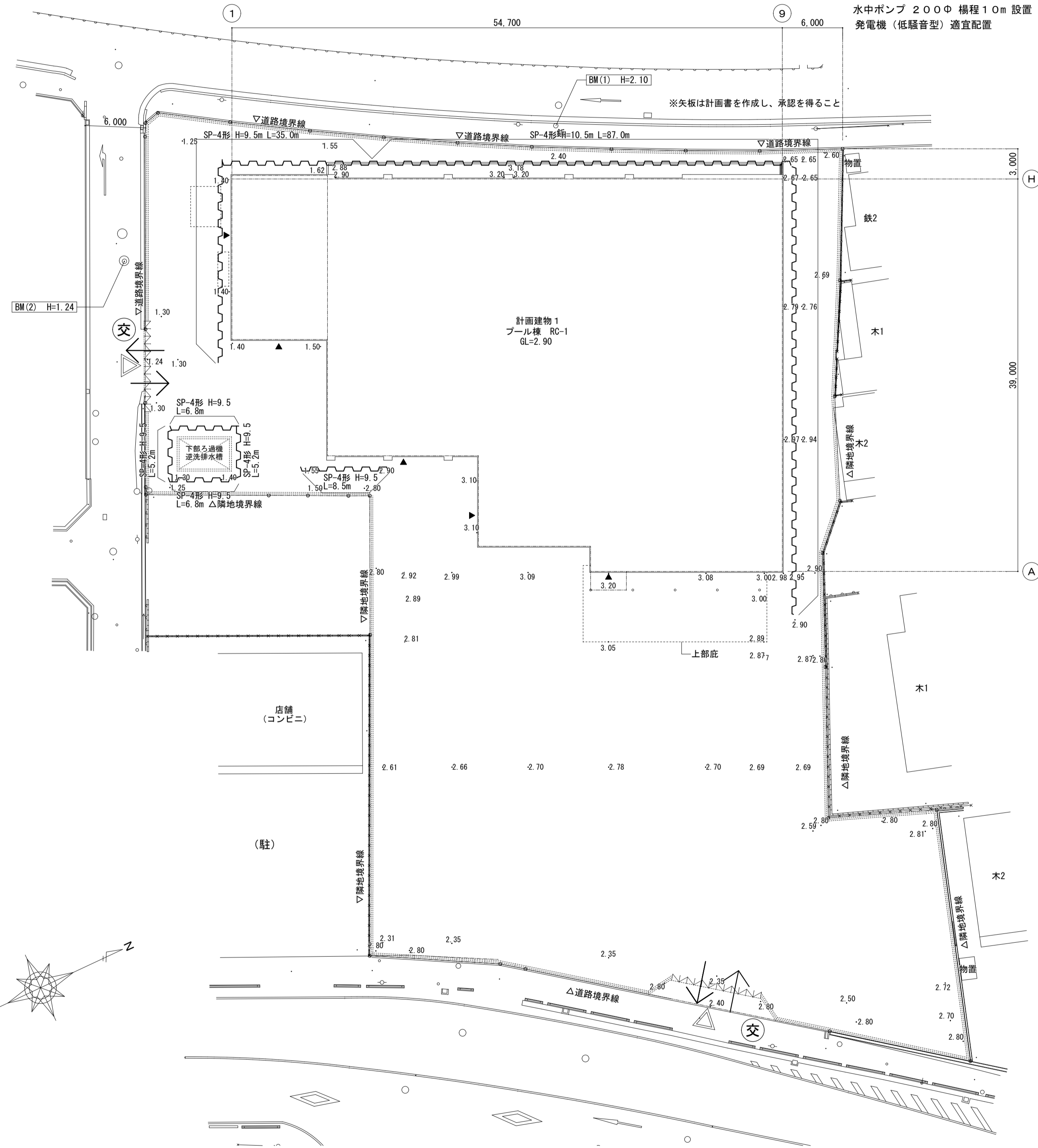
~~~~~ キャスターゲートH1.8m(既設)

⊗ 交通誘導員

← 工事車両

~~~~~ 矢板 (GL下施工時 3か月程度)  
※ 参考図とし、必要に応じてポンプ等にて排水対策を行うこと

水替え 解体工事から土工期間の水替えについて
水中ポンプ 200φ 揚程10m 設置
発電機 (低騒音型) 適宜配置



仮設計画図 (ステップ3) S=1/300

〈ステップ4 建築工事〉

手順概要 (R8年 1月~R8年 2月末)

① 駐輪場建築

② 外構整備

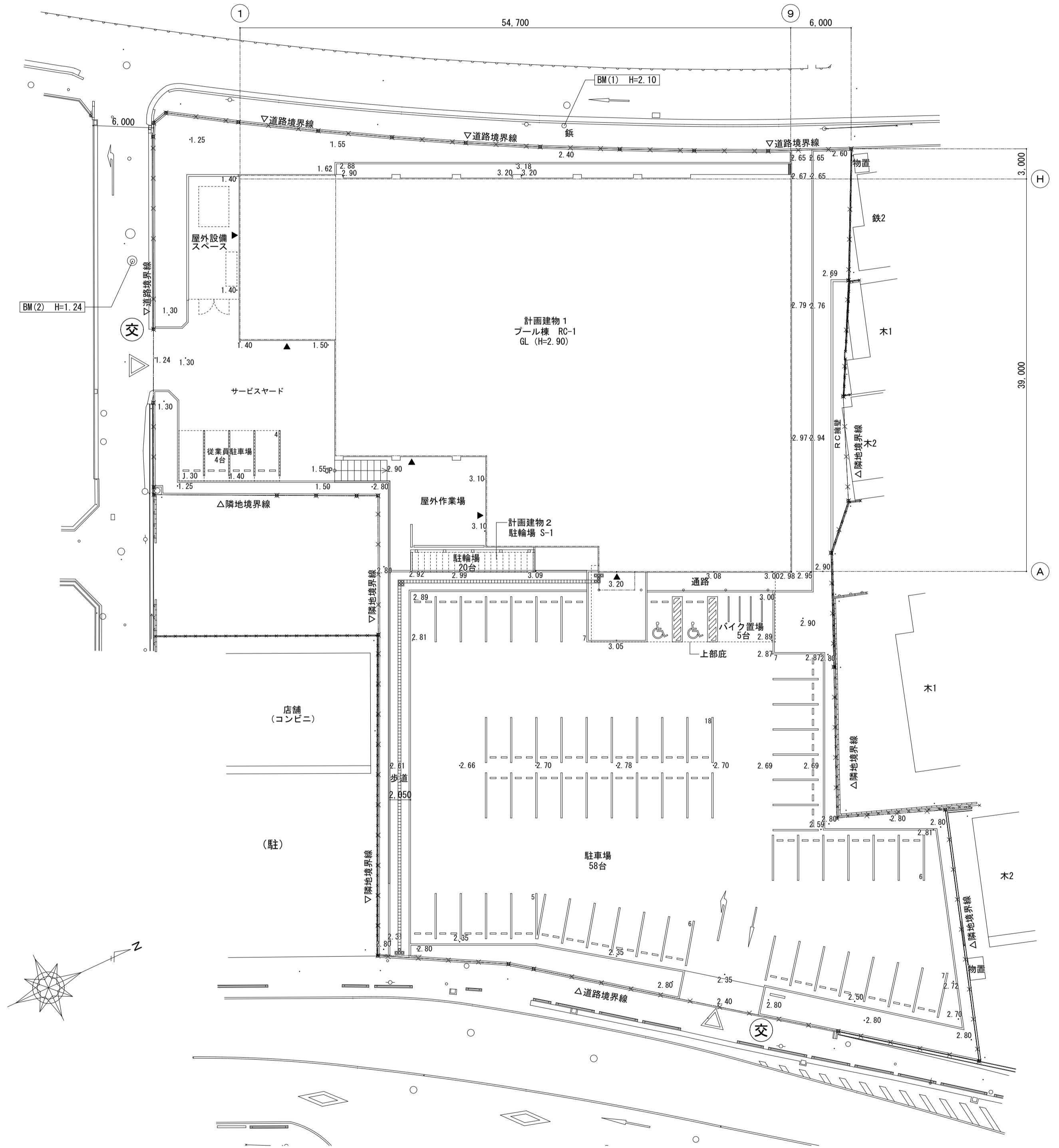
※ 該当範囲を他のステップで施工する場合は、監督職員と協議を行うこと

凡例

⊗ 交通誘導員

⊗ 交通誘導員

← 工事車両



仮設計画図 (ステップ4) S=1/300

| | | | | | | |
|---|------|---------------------|---------------------------------|---|------|----------|
| 工 | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | | | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 図面名称 | 仮設計画図 (ステップ3、ステップ4) | | | 縮尺 | A1:1/300 |
| 事 | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号 | 印 | 図面番号 | A-068 |
| | 監理者 | | 一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | | | |

※A3版の場合は50%縮小とする。

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■印を記入する。
(適用の内容はA001～A004を優先する。)

1. 建築物の構造内容

(1) 建築場所 三重県四日市市昌栄町 地内
(2) 工事種別 ■新築 ■増築 □増改築 □改築
(3) 構造設計一級建築士の関与 ■必要 □必要としない
注 (3) 構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認する。
(4) 構造種別
(5) 階数
(6) 主要用途
(7) 屋上付属物
(8) 特別な荷重
(9) 付帯工事
(10) 増築計画
(11) 構造計算ルート

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

Table with columns for application (適用箇所), type (種類), design strength (設計基準強度), material strength (品質基準強度), slab (スラブ), and remarks (備考).

Table for reinforcement (鉄筋) with columns for type (種類), diameter (径), application (使用箇所), and construction method (継手工法).

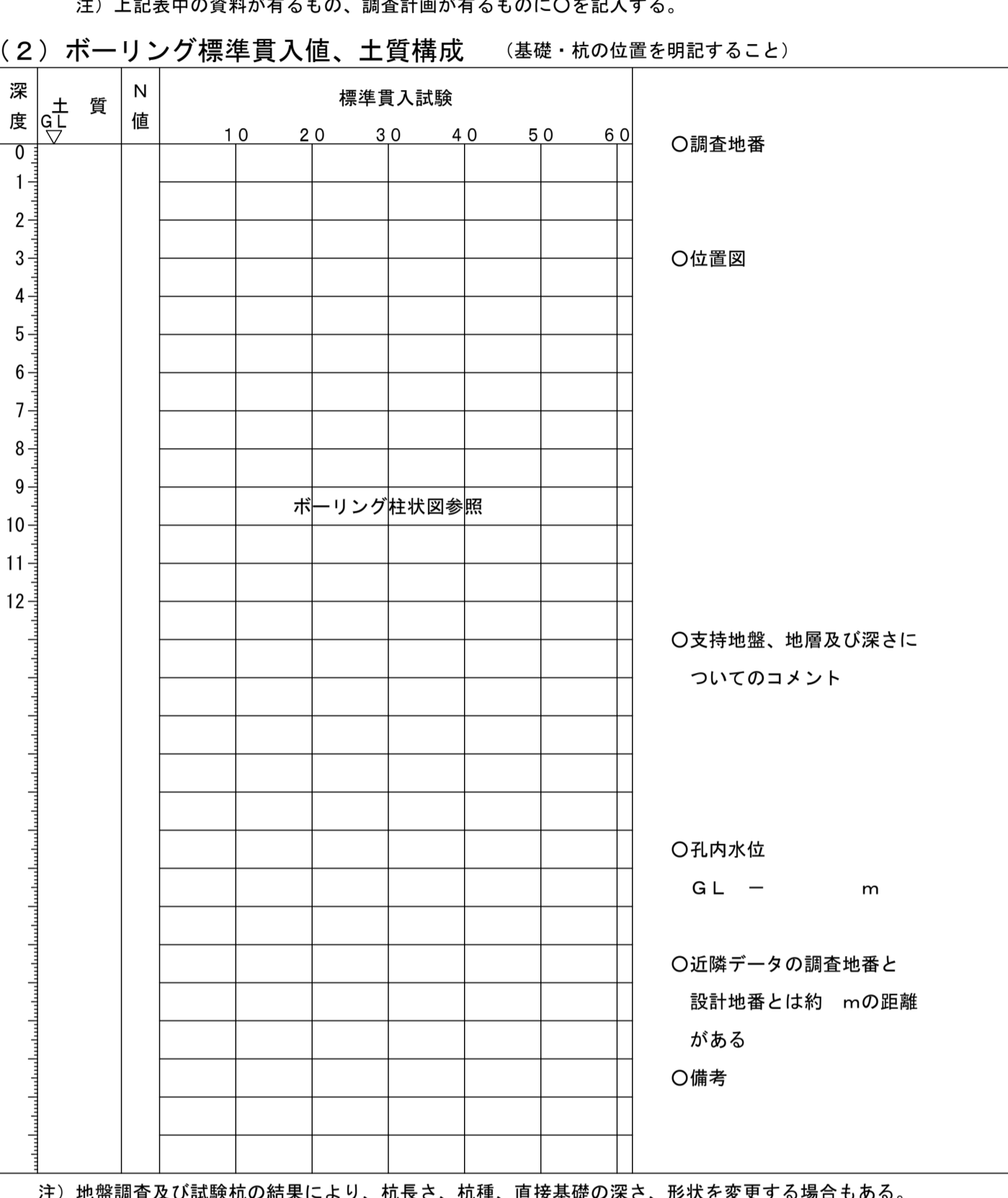
Table for steel structure (鉄骨) with columns for type (種類), application (使用箇所), field joint (現場溶接), and JIS specifications (JIS規格・認定番号等).

(5) ボルト
■高力ボルト
■F10T (JIS B 1186) ■S10T (認定品)
■F8T (認定品)
■ボルト (JIS B 1180) M M ■中ボルト (M12) : 強度区分 4. 8
■アンカーボルト

Table for roof and floor (屋根、床、壁) with columns for material (材種), type (型式), thickness (厚), other (その他), application (使用箇所), and construction method (仕様・構法).

3. 地盤

Table for ground investigation and plan (地盤調査資料と調査計画) with columns for investigation item (調査項目), material availability (資料有り), and plan status (調査計画).



4. 地業工事

(1) 直接基礎 □ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎
(2) 地盤改良 □浅層混合処理工法 □深層混合処理工法
(3) 杭基礎 □摩擦杭 □摩擦杭兼圧入杭

Table for foundation (杭基礎) with columns for pile type (杭種), material (材料), construction method (施工法), and remarks (備考).

Table for pile load and spacing (杭仕様) with columns for pile diameter (杭径), design capacity (設計支持力), pile head depth (杭の先端の深さ), number of piles (本数), and special notes (特記事項).

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度 (Fc) が 36 N/mm² 以下に適用し、鉄筋の材種はSD390以下に適用する。

(1) コンクリート
■コンクリートはJIS A 5308 (レディーミストコンクリート)に適合するJIS認証工場の製品とし、
■施工に関しては標準図に記載されている事項を除外、JASS 5 による。
■耐久設計基準強度 Fcd □短期 □標準 □長期 □超長期
■セメントは、JIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

(2) 鉄筋
■鉄筋はJIS G 3112 の規格品を標準とする。
■高強度せん断補強筋は、JIS G 3137 に規定されるD種1号適合品とする。
■鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「型式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。

Table for reinforcement construction (鉄筋継手工法) with columns for construction method (継手工法), construction level (継手の位置等の設計条件), and reinforcement diameter (鉄筋の径).

注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定、評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書 2007)」によって検討した部分の条件・仕様によること。

(3) 型枠
■材料 合板厚12mmを標準とする。
■施工 JASS 5 による。

Table for formwork (型枠) with columns for element type (種類), location (部位), and concrete temperature (コンクリートの圧縮強度).

注) 1 片持ちび、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
■日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
■製作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書
■認定または登録工場 (大臣認定 S H M R J グレード)
■材料規格証明書※、または試験成績書

(3) 工事監理者が行う検査項目
(■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
■現付検査 ■組立・開先検査 ■製品検査 ■建方検査
(4) 接合部の溶接は下記によること
■平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ
■鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
■日本建築学会「溶接工作規準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
■日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」

Table for joint inspection (接合部の検査) with columns for inspection item (検査箇所), inspection method (検査方法), inspection rate (検査率又は検査数), and remarks (備考).

注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主等に報告すること

■高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)
■軸力導入試験 □要 ■否 高力ボルトすり係数試験 □要 ■否
■一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。

(6) 防錆塗装
■防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
■錆止めのペイントは、■JIS K 5621、□JIS K 5625、■JIS K 5674、
■JIS K 5551、5552 (DP塗装部) を使用して、
4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。

(7) 耐火被覆の材料
□

7. 設備関係

■建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防錆のための有効な措置を講じること。
■建築物に設ける壁からの突出する水栓・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。

8. その他

■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
■建築設備の構造安定性などに関する規定(令129条2の3 二号三号)について法適合確認した。

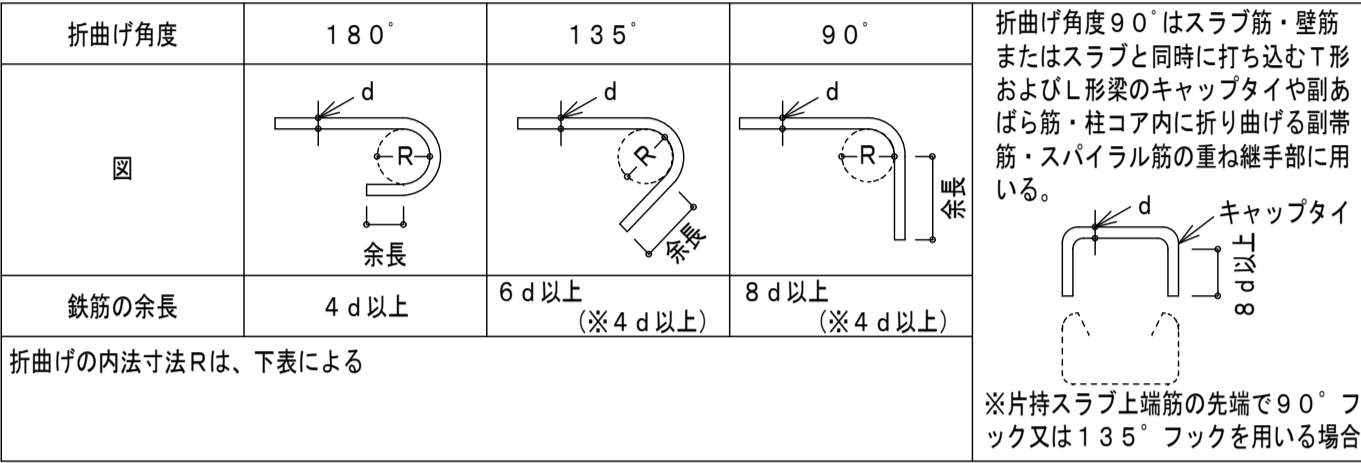
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）

1. 一般事項

- 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- 記号 d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直径
@…間隔 r…半径 C…中心線 Qo…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ
S T…あばら筋 HOOP…帯筋 S. HOOP…補強帯筋 φ…直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋の折曲げ形状・寸法-1



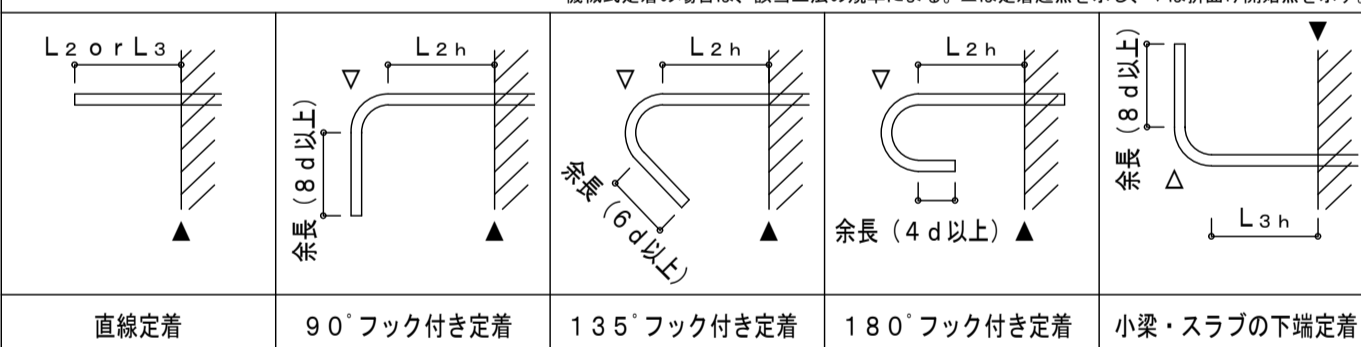
(2) 鉄筋の折曲げ形状・寸法-2



(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

| コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²) | 一般定着 (直線L ₂ またはフック付L _{2h}) | | | | 特別な定着及び重ね継手の長さ (直線L ₁ またはフック付L _{1h}) | | | |
|---|---|---------------------|---------------------|---------------------|---|---------------------|---------------------|---------------------|
| | SD295 | SD345 | SD390 | SD490 | SD295 | SD345 | SD390 | SD490 |
| 18 | 40d または
30d フック付 | 40d または
30d フック付 | - | - | 45d または
35d フック付 | 50d または
35d フック付 | - | - |
| 21 | 35d または
25d フック付 | 35d または
25d フック付 | 40d または
30d フック付 | - | 40d または
30d フック付 | 45d または
30d フック付 | 50d または
35d フック付 | - |
| 24~27 | 30d または
20d フック付 | 35d または
25d フック付 | 40d または
30d フック付 | 45d または
35d フック付 | 35d または
25d フック付 | 40d または
30d フック付 | 45d または
35d フック付 | 55d または
40d フック付 |
| 30~36 | 30d または
20d フック付 | 30d または
25d フック付 | 35d または
25d フック付 | 40d または
30d フック付 | 35d または
25d フック付 | 35d または
25d フック付 | 40d または
30d フック付 | 50d または
35d フック付 |
| 39~45 | 25d または
15d フック付 | 30d または
20d フック付 | 35d または
25d フック付 | 40d または
30d フック付 | 30d または
25d フック付 | 35d または
25d フック付 | 40d または
30d フック付 | 45d または
35d フック付 |
| 小梁、スラブの下端筋 (直線L ₂ またはフック付L _{2h}) | SD295 | SD345, SD390 | 小梁 | スラブ | 20d または
10d フック付 | 10d フック付 | 10d フック付 | 150mm以上 |

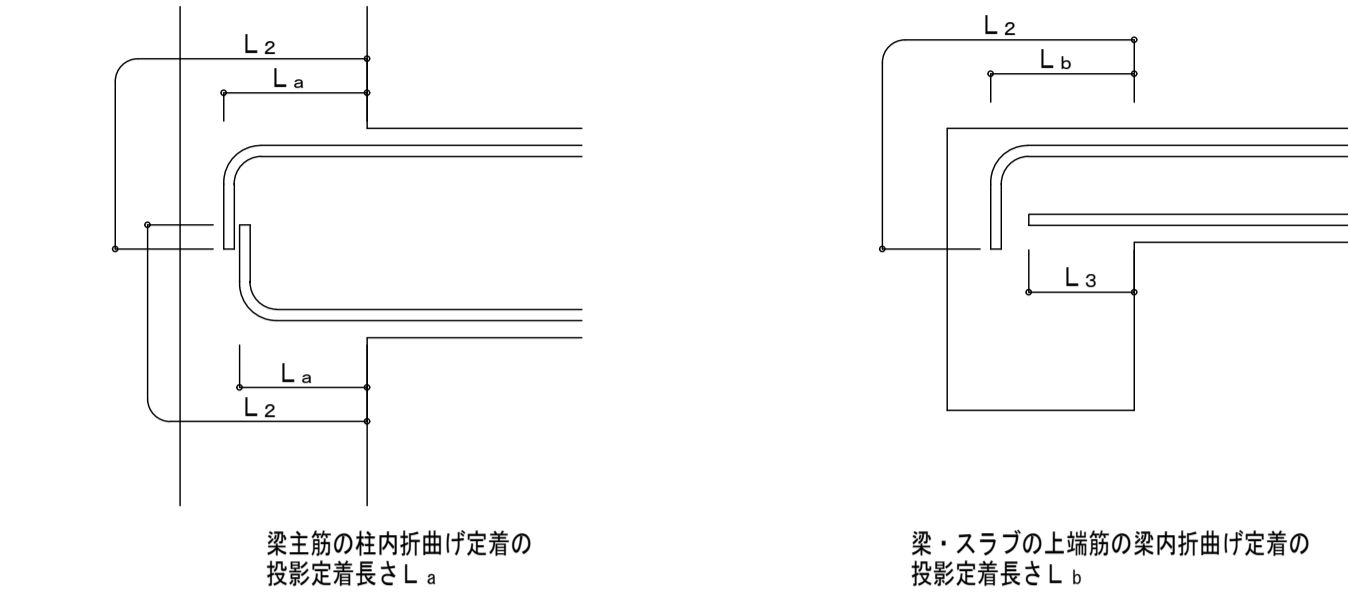
一般定着の直線L₂ またはフック付きのL_{2h} の図



※フック付の定着長さL_{2h} は、定着起点からの鉄筋の折曲げ開始点までの距離とし、折曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
[注] 柱梁接合部内に折曲げ定着する梁主筋を柱せいとの3/4倍以上のみ込ませてもフック付き定着長さ (L₂) が確保できない場合は、柱せいとの3/4倍のみ込みを保ちながら、投影定着長さL (小梁、スラブはL_b) に加え、余長も含め折曲げ定着長さL₂を確保する。

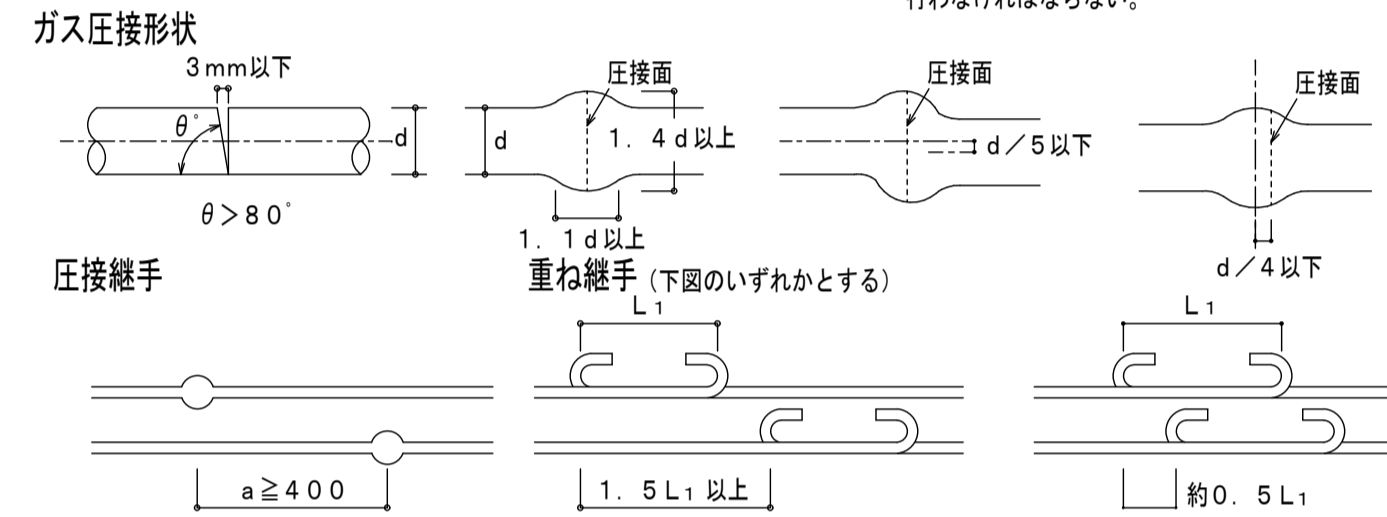
| コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²) | 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さL _a | | | | 小梁やスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さL _b (片持の小梁・スラブを除く) | | | |
|------------------------------------|----------------------------------|-------|-------|-------|--|-------|-------|-------|
| | SD295 | SD345 | SD390 | SD490 | SD295 | SD345 | SD390 | SD490 |
| 18 | 20d | 20d | - | - | 15d | 20d | - | - |
| 21 | 15d | 20d | 20d | - | 15d | 20d | 20d | - |
| 24~27 | 15d | 20d | 20d | 25d | 15d | 15d | 20d | - |
| 30~36 | 15d | 15d | 20d | 25d | 15d | 15d | 15d | - |
| 39~45 | 15d | 15d | 15d | 20d | 15d | 15d | 15d | - |

※梁主筋を柱へ定着する場合、L_aの数値は原則として柱せいとの3/4倍以上とする。



重ね継手
1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離とし、末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

圧接可能な鉄筋の種類
鉄筋の種類: SD295, SD345, SD390, SD490
圧接可能な鉄筋の種類: SD295, SD345, SD390, SD490



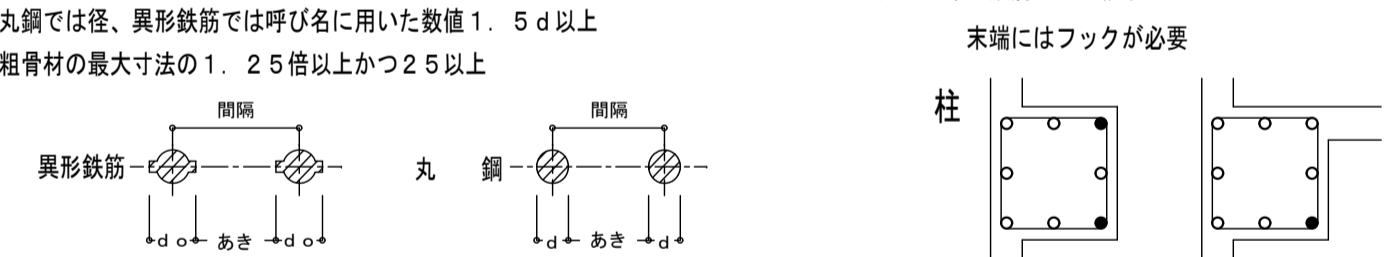
(4) かぶり厚さ (単位: mm)

| 部 位 | 設計かぶり厚さ最小かぶり厚さ (mm) |
|----------|---------------------|
| 土に接しない部分 | 30 |
| 土に接する部分 | 30 |

※土に接する部分に軽量コンクリートを用いる場合は、10mm増しの値とする。
標準かぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mm増しの値とする。

[注] (1) 耐久性上有効な仕上げ (モルタル塗り、タイル貼り、外断熱工法による仕上げ等) のある場合、屋外部分に限り () 内の数値とすることができ、(2) 土に接する部分に軽量コンクリートを用いる場合は、10mm増しの値とする。

(5) 鉄筋のあき

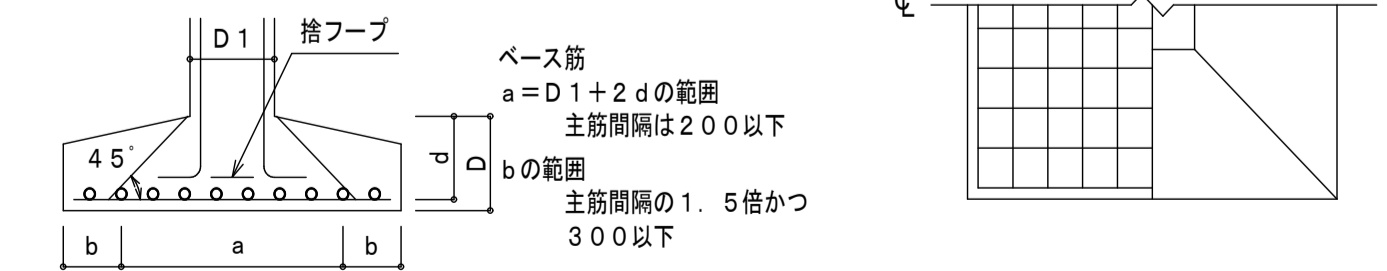


(6) 鉄筋のフック

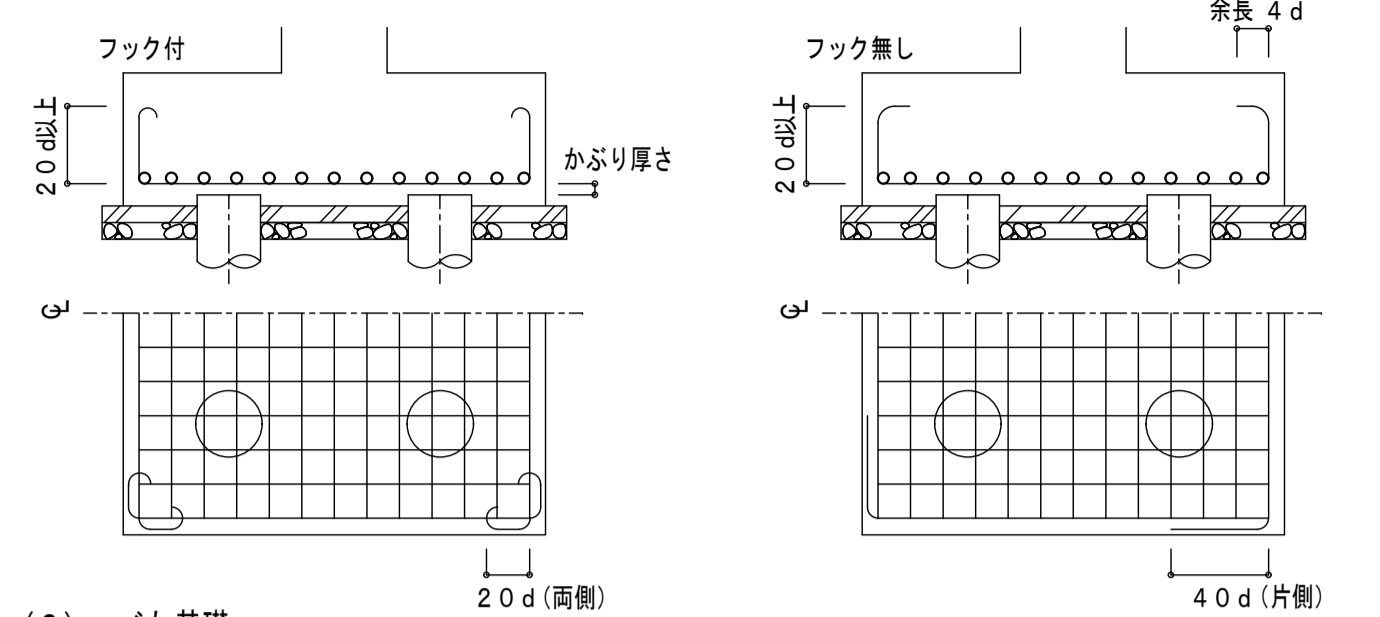
- (a~f) に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける
- 丸鋼
 - あばら筋、帯筋
 - 煙突の鉄筋
 - 柱、梁 (基礎梁は除く) の出さみ部分の鉄筋 (右図参照)
 - 単純梁の下端筋
 - その他、本配筋標準に記載する箇所

3. 基礎

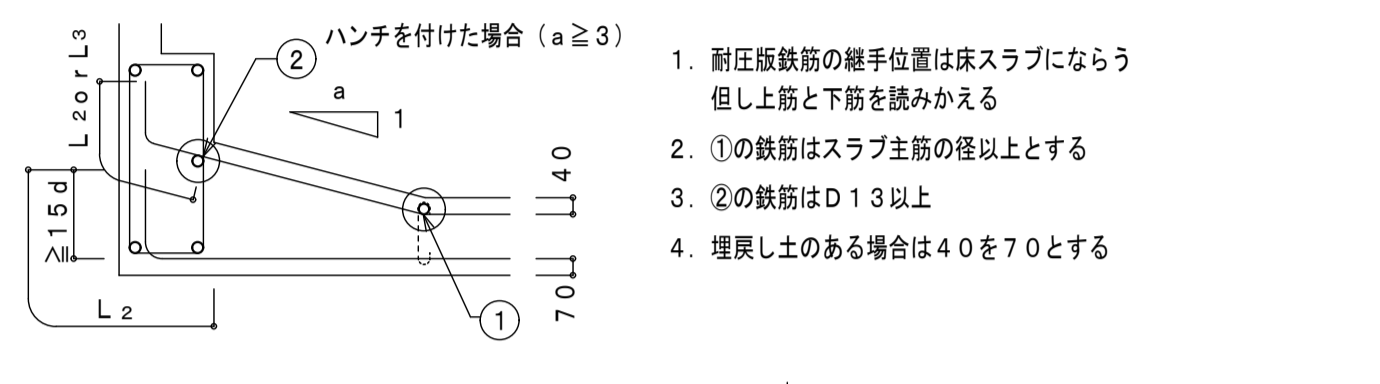
(1) 直接基礎



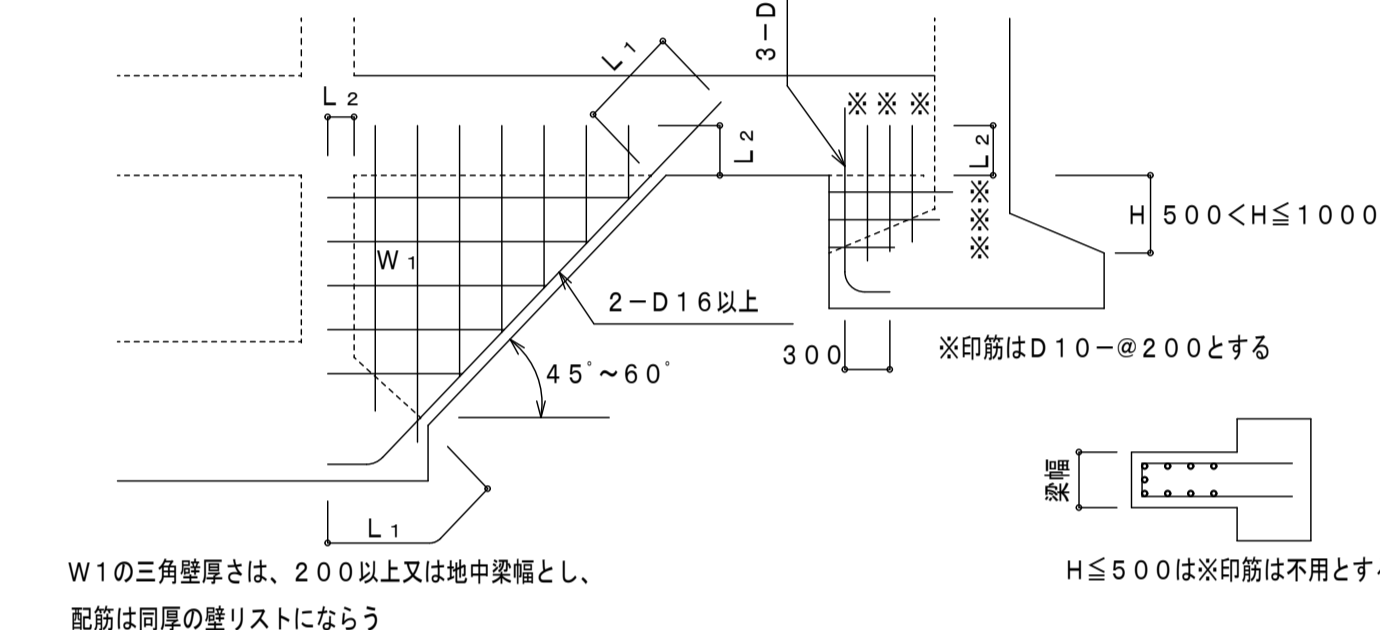
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

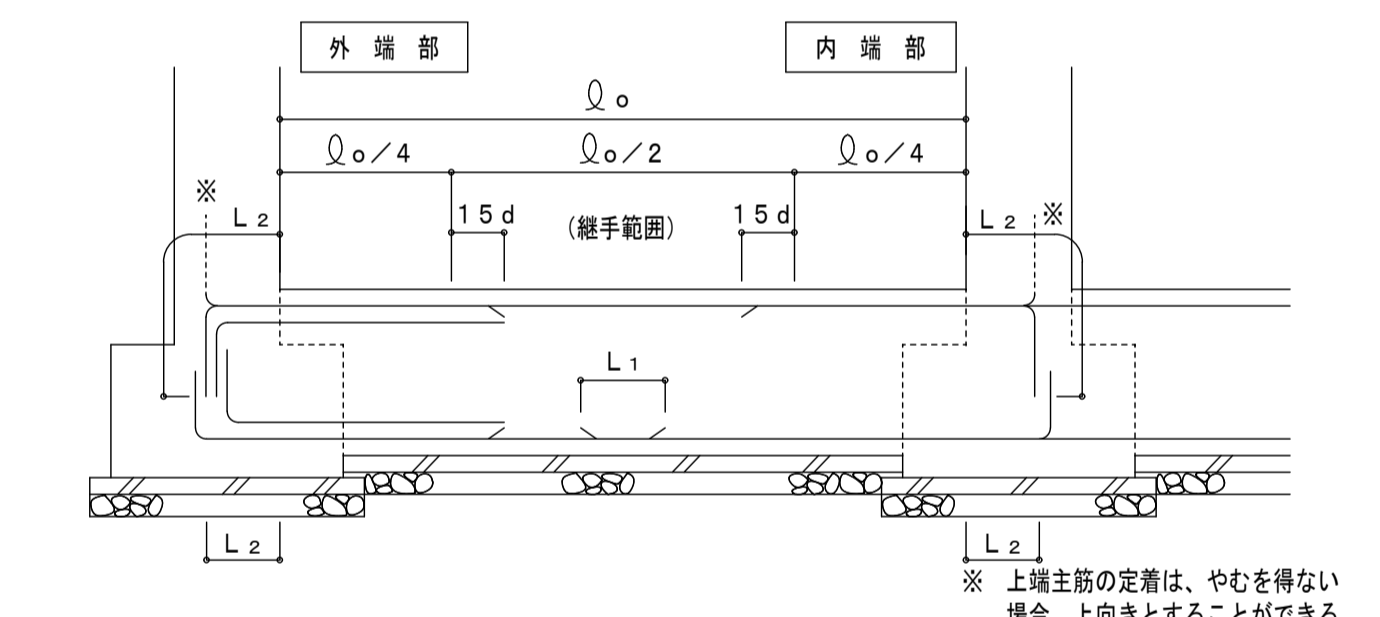


(4) 基礎接合部の補強

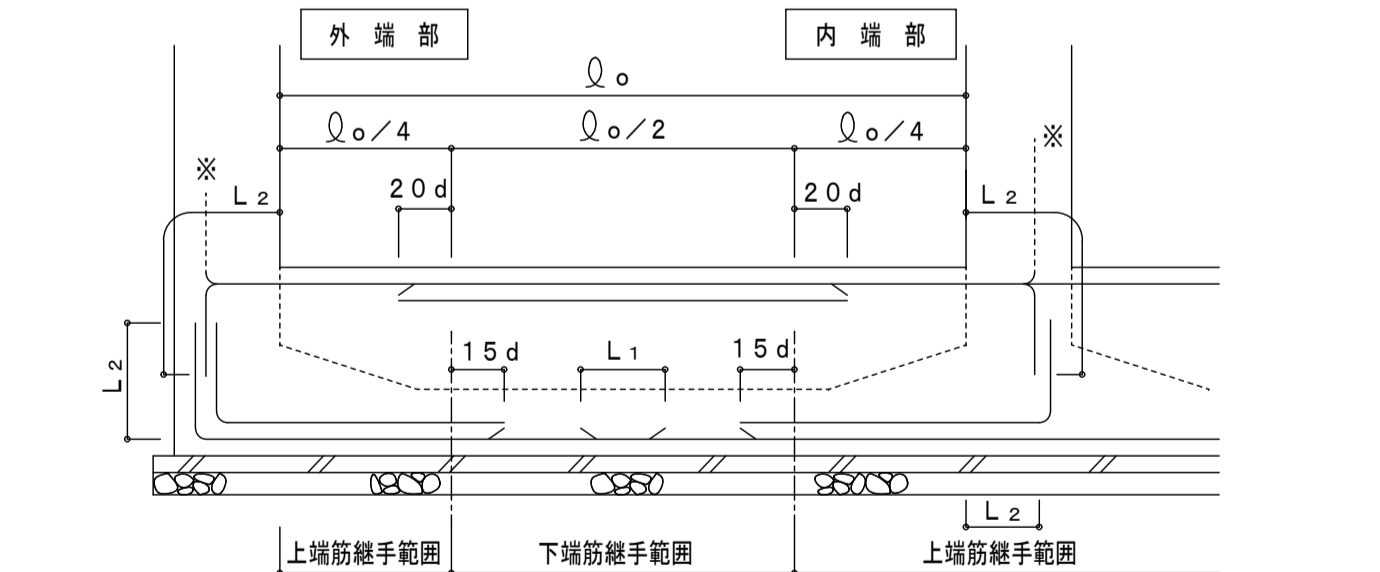


4. 地中梁

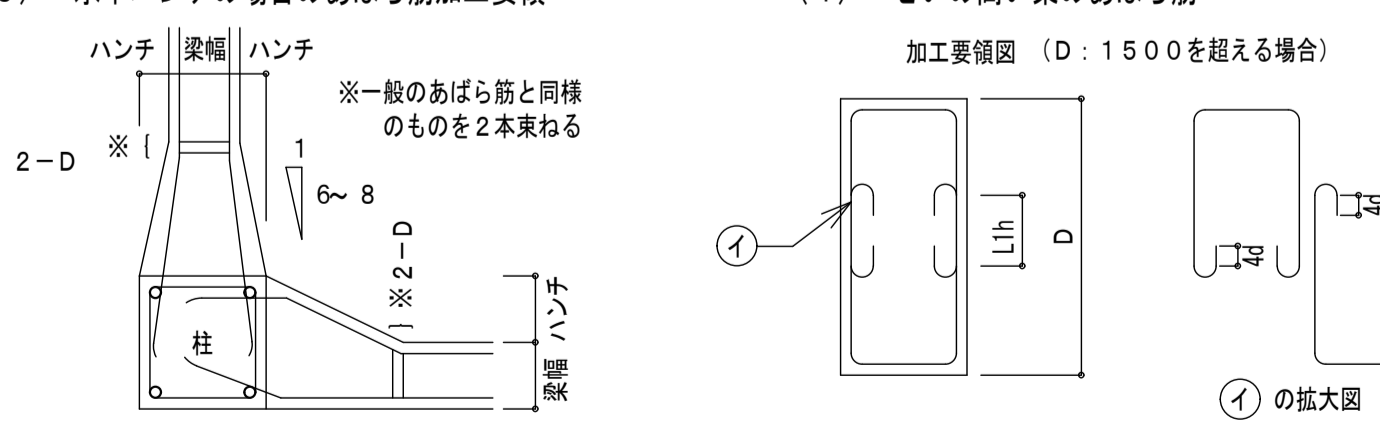
(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



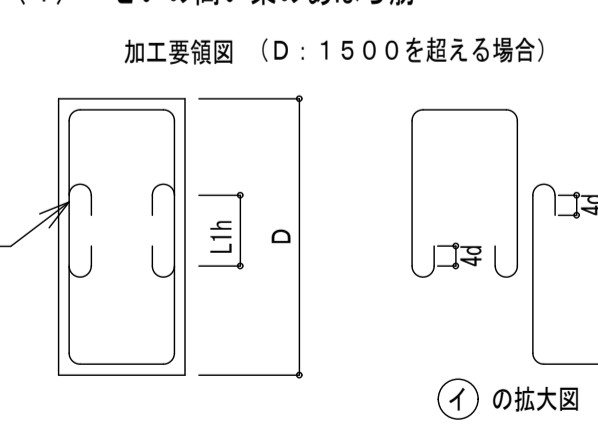
(2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



(3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

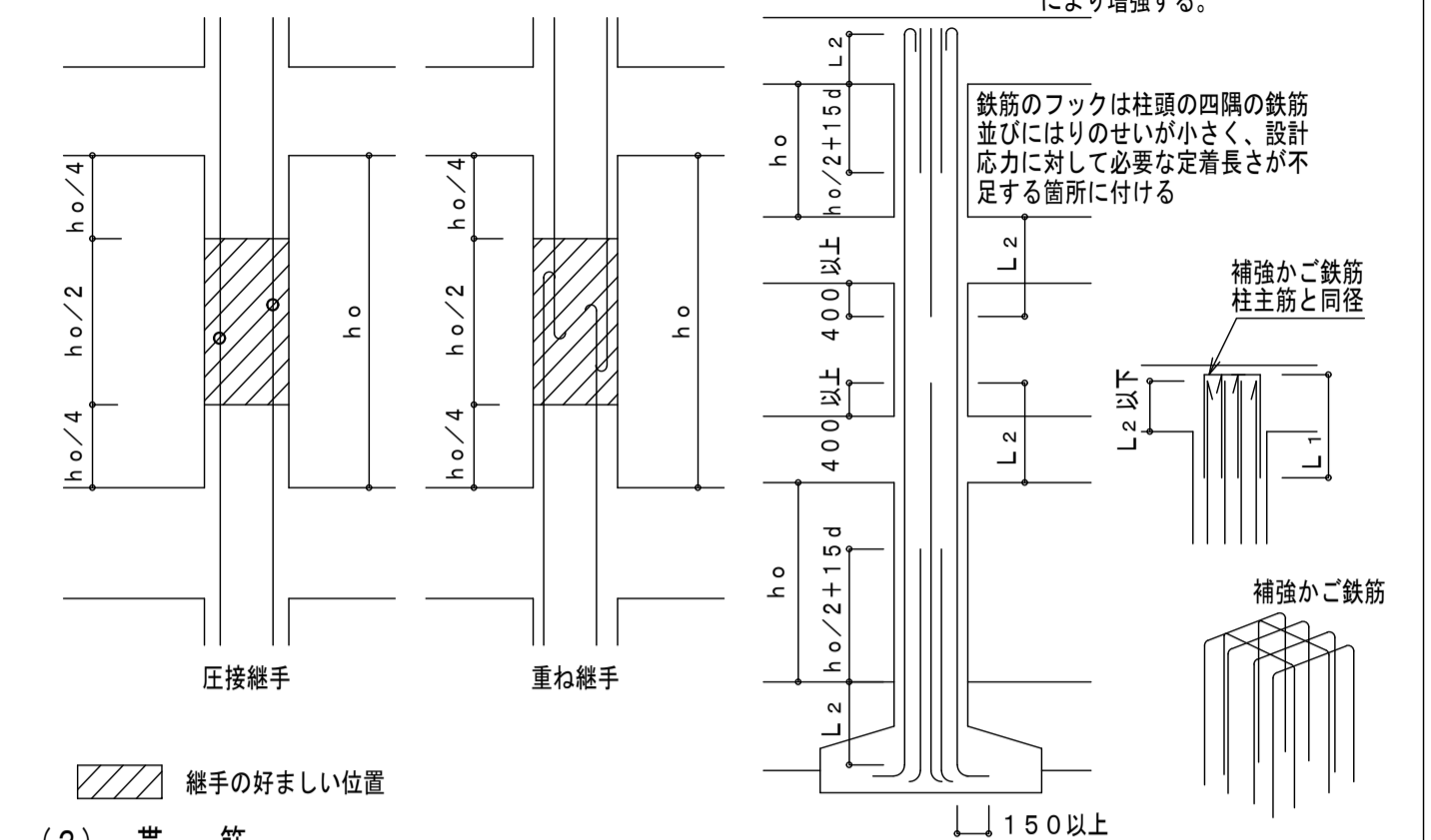


(4) せいの高い梁のあばら筋

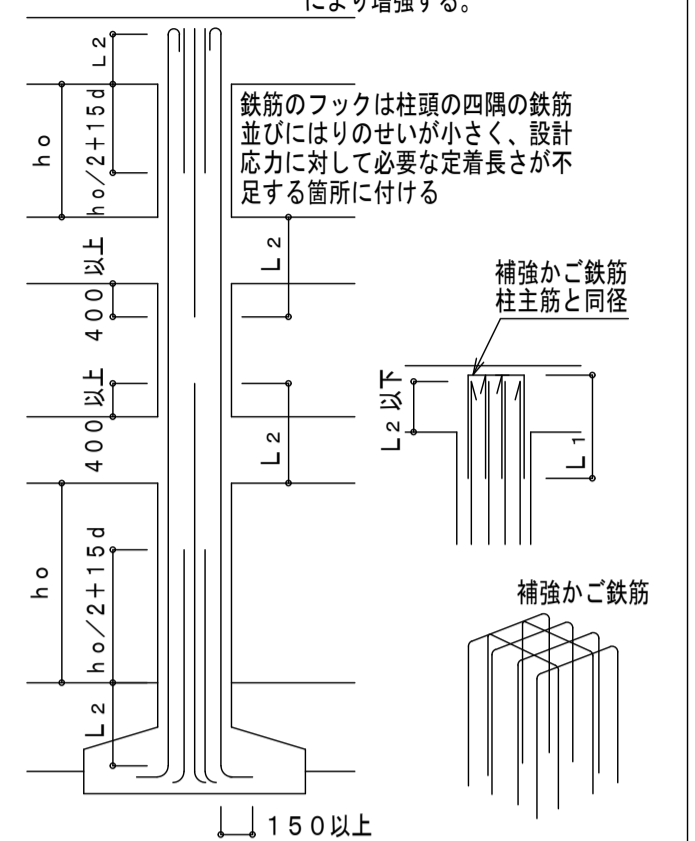


5. 柱

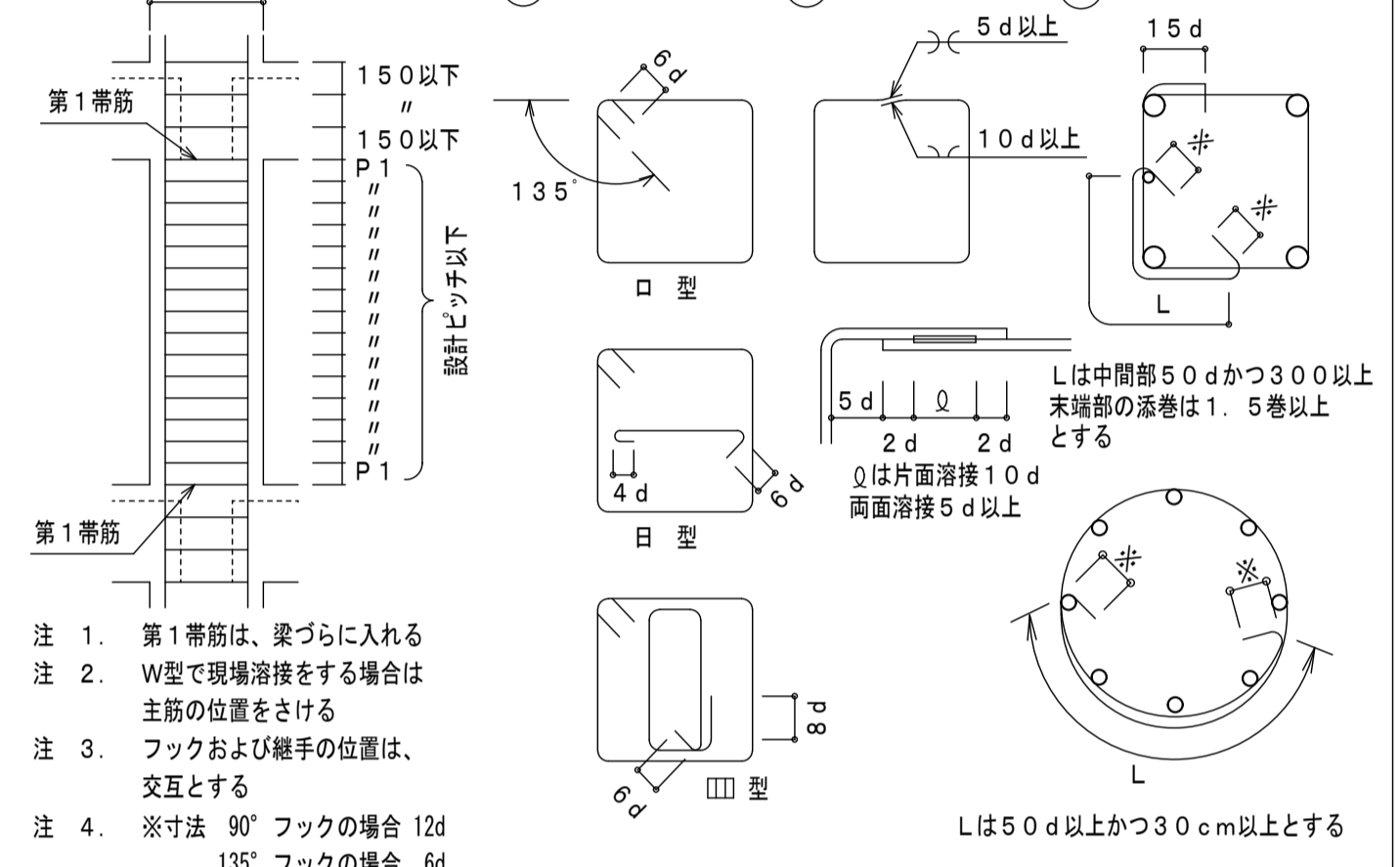
(1) 柱主筋の継手



(2) 柱主筋の定着

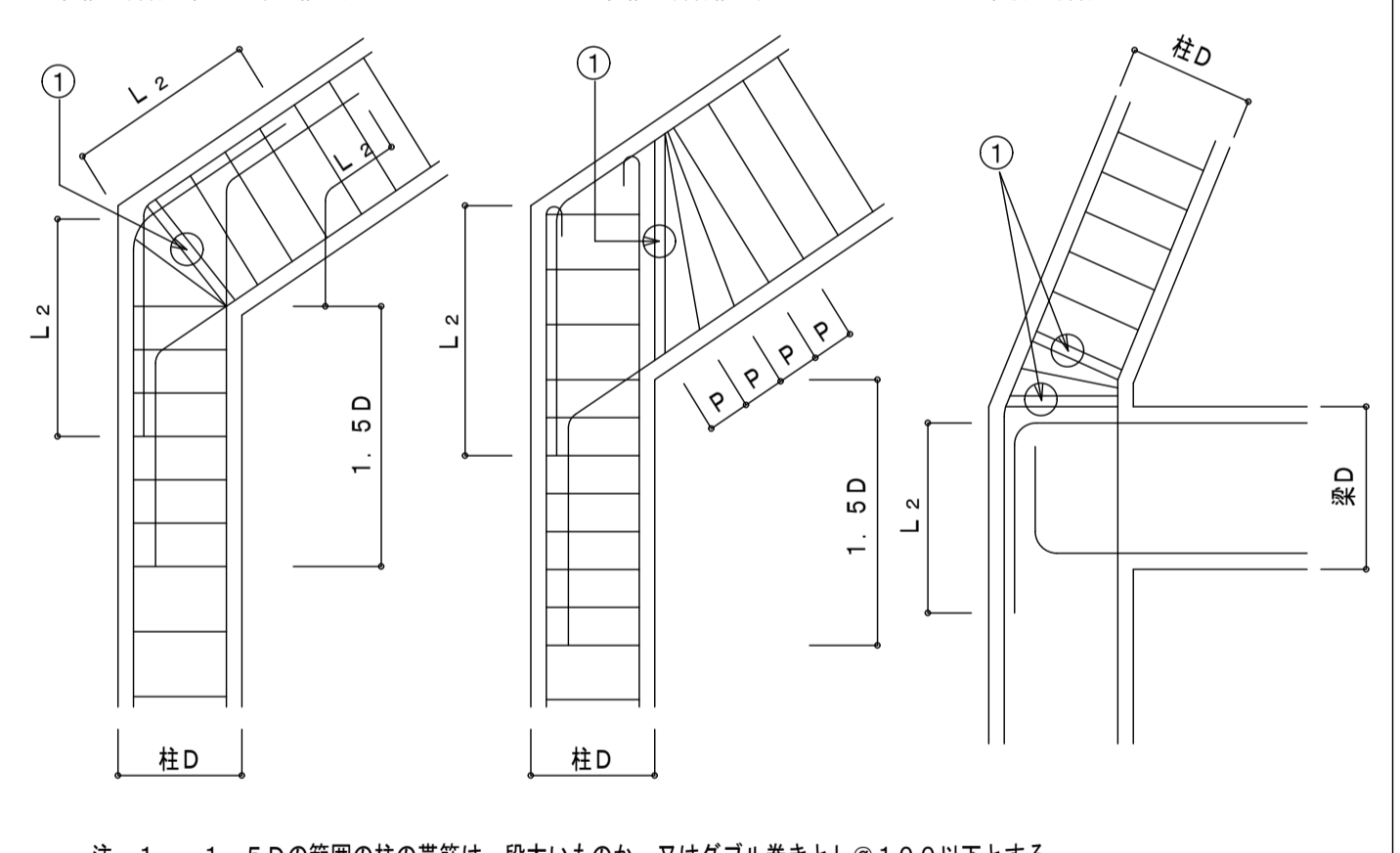


(3) 帯筋



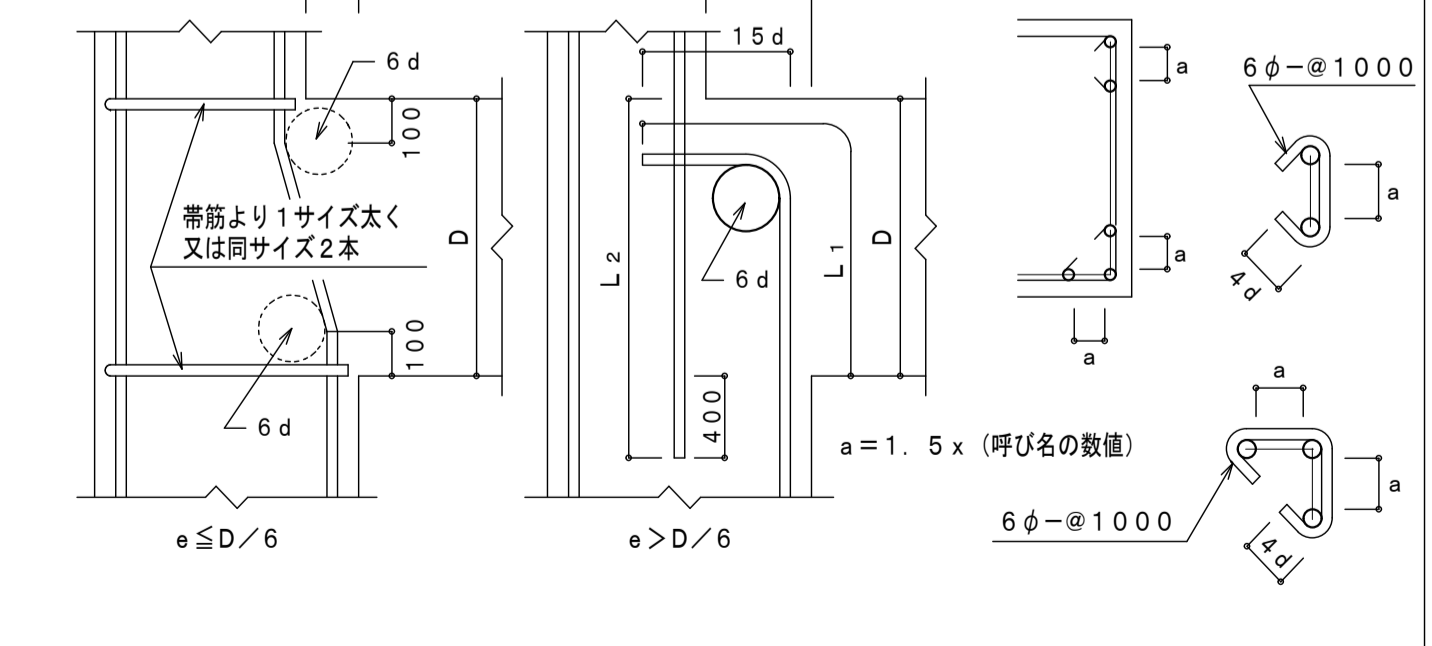
注 1. 第1帯筋は、梁づらに入れる
注 2. W型で現場溶接をする場合は、主筋の位置をさける
注 3. フックおよび継手の位置は、交互とする
注 4. ※寸法 90° フックの場合 12d, 135° フックの場合 6d

(4) 斜め柱・斜め梁

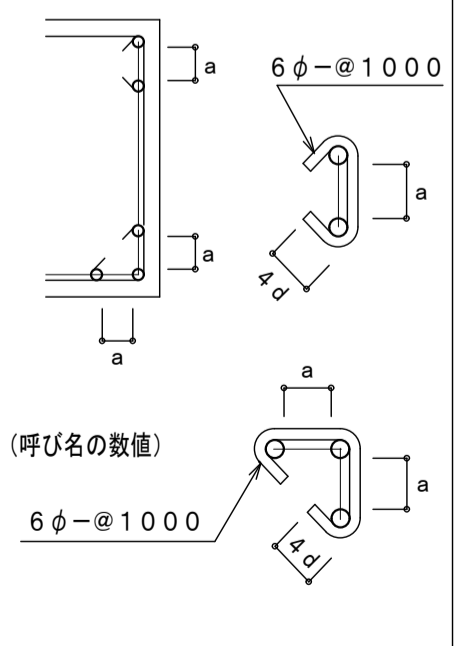


注 1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞り



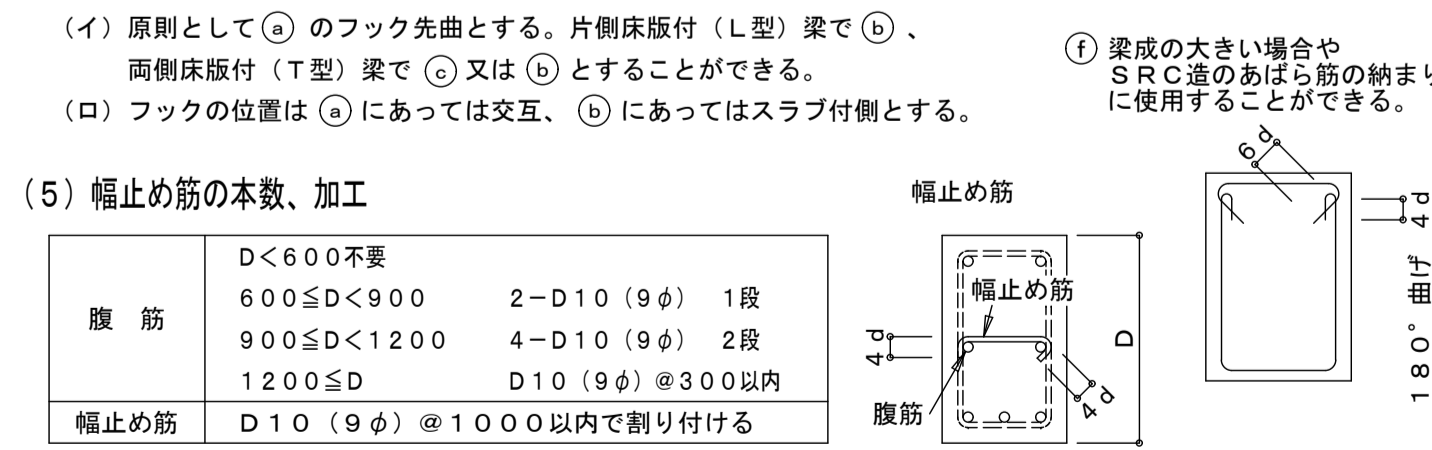
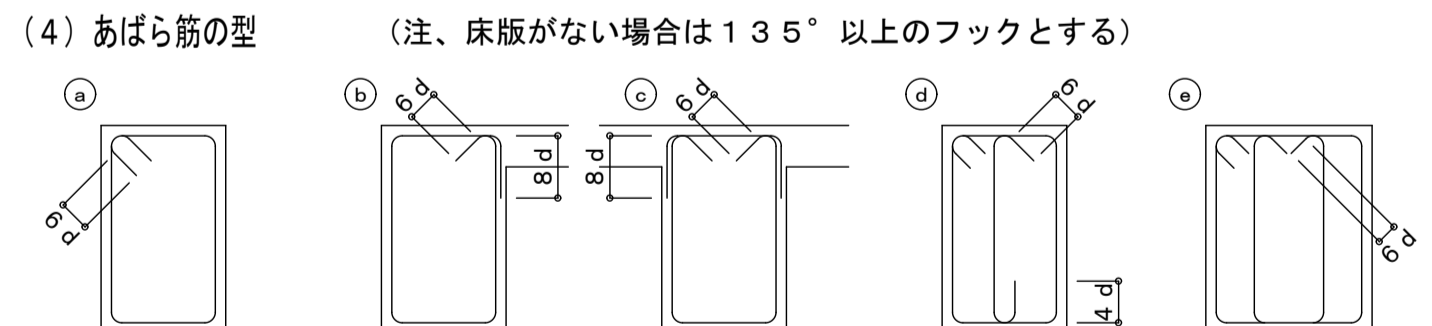
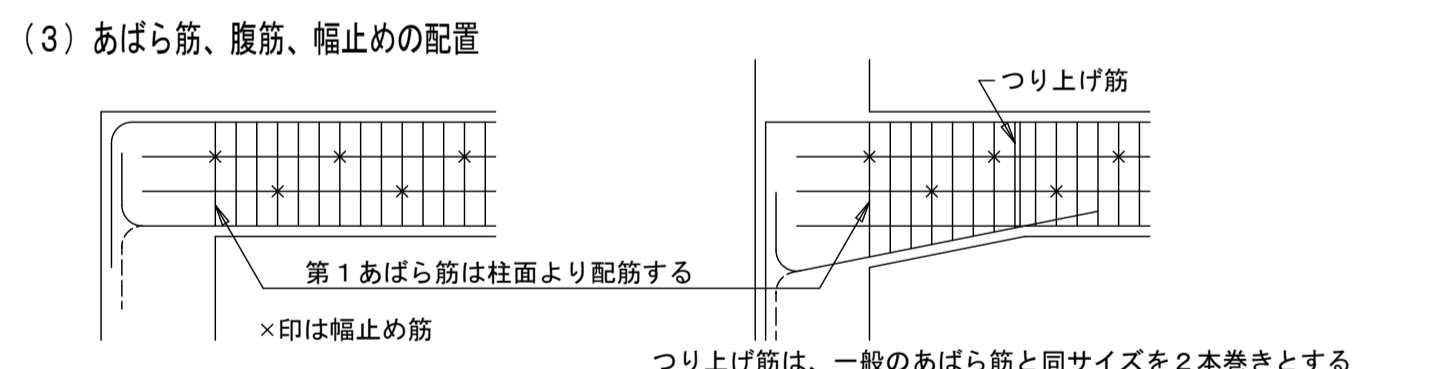
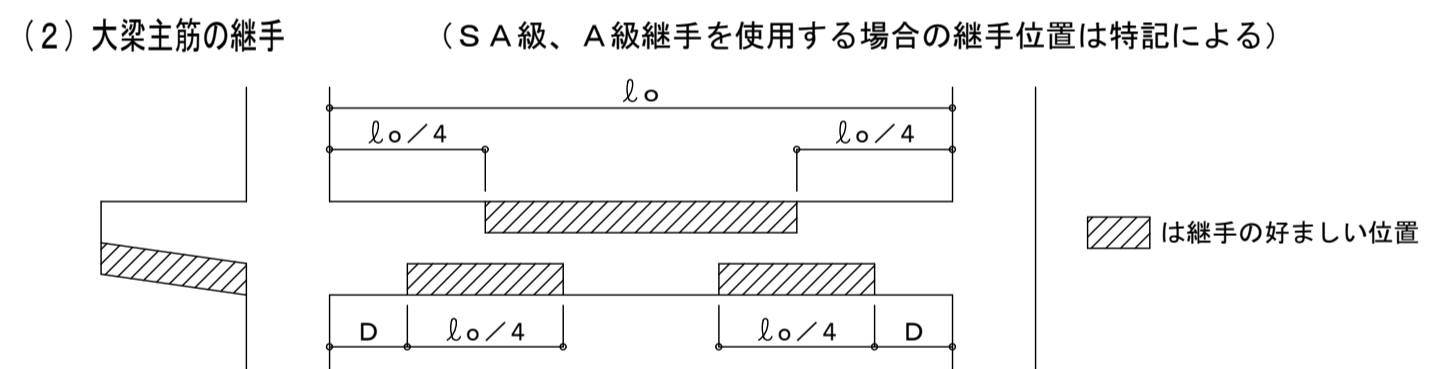
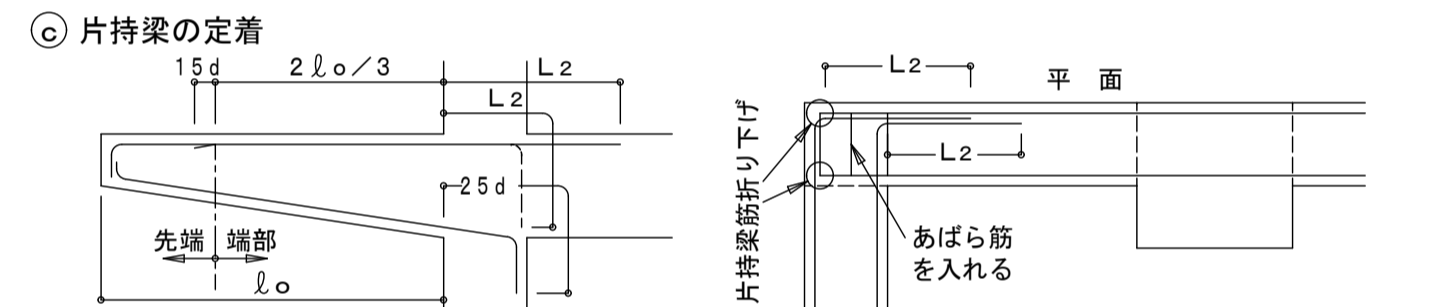
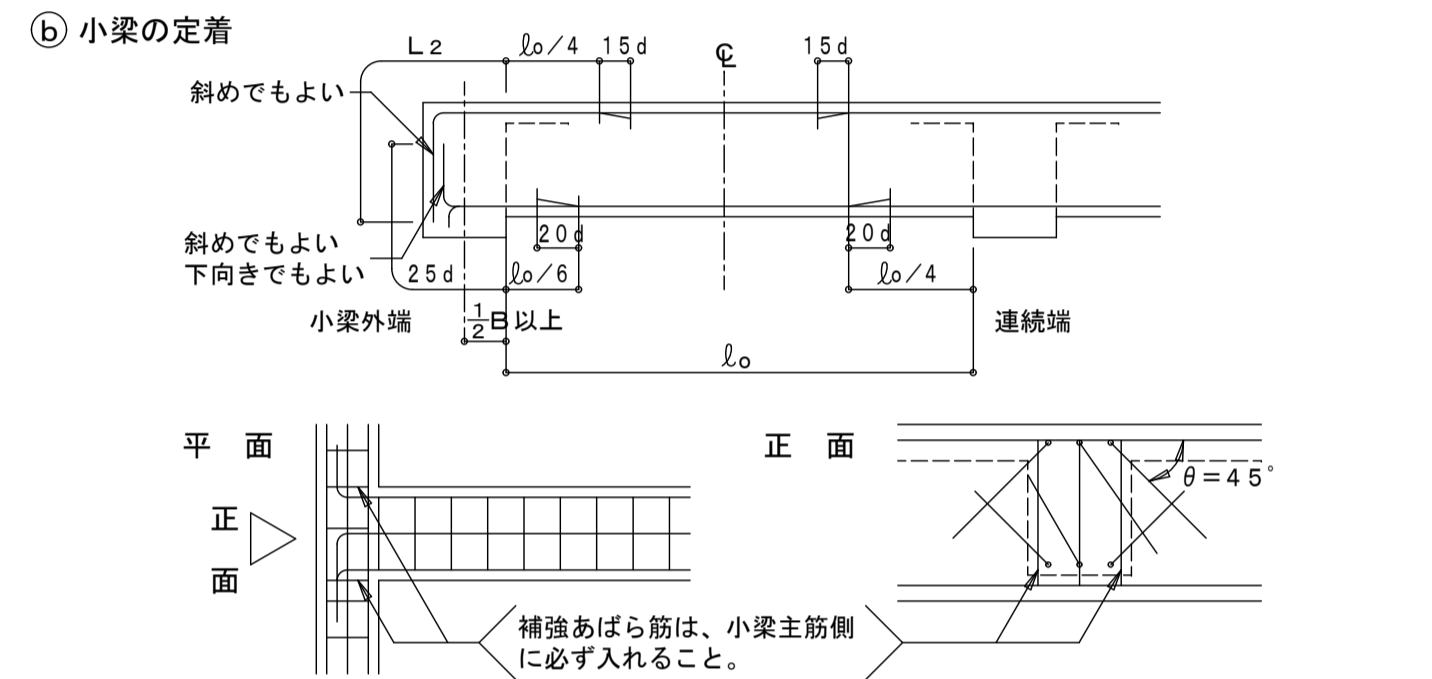
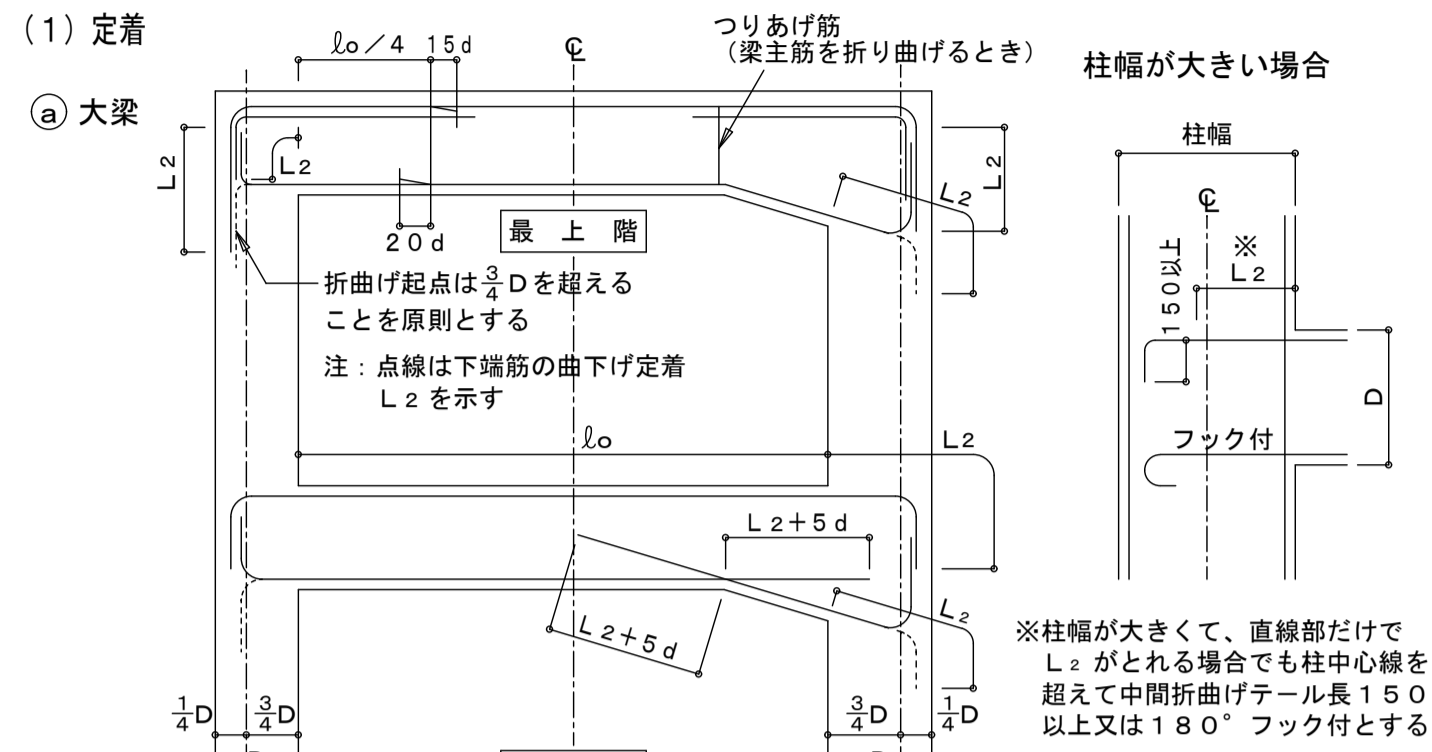
(6) 二段筋の保持



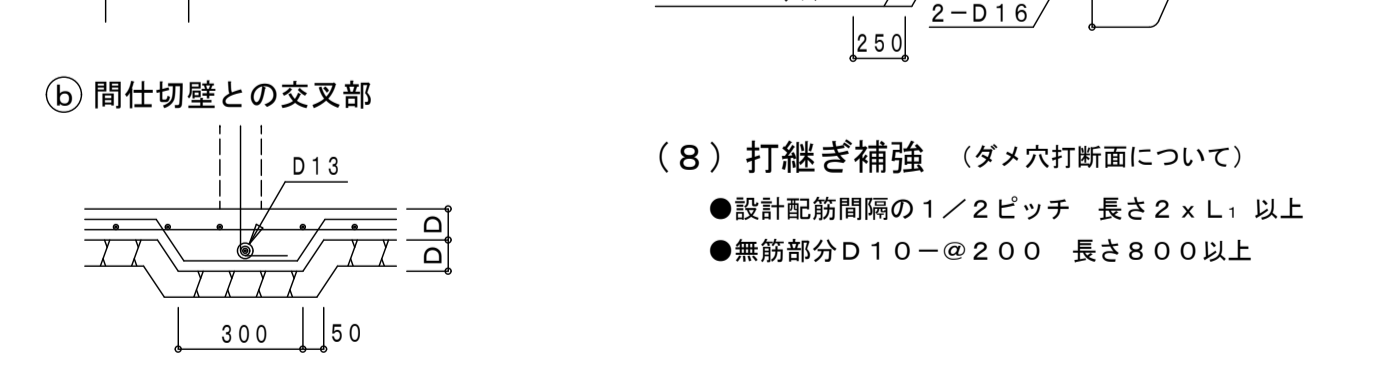
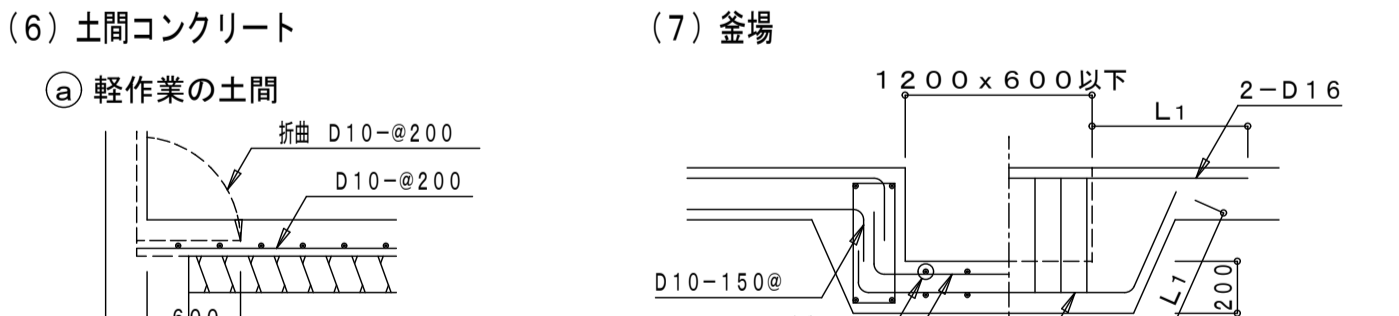
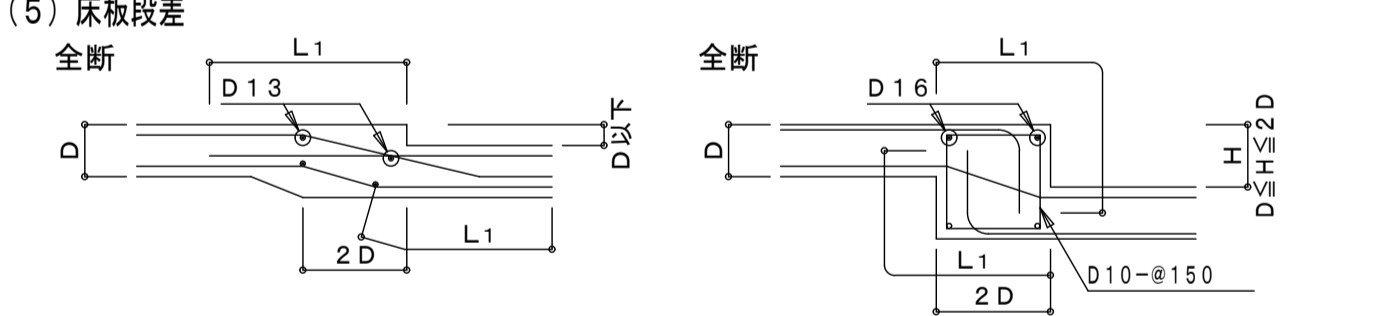
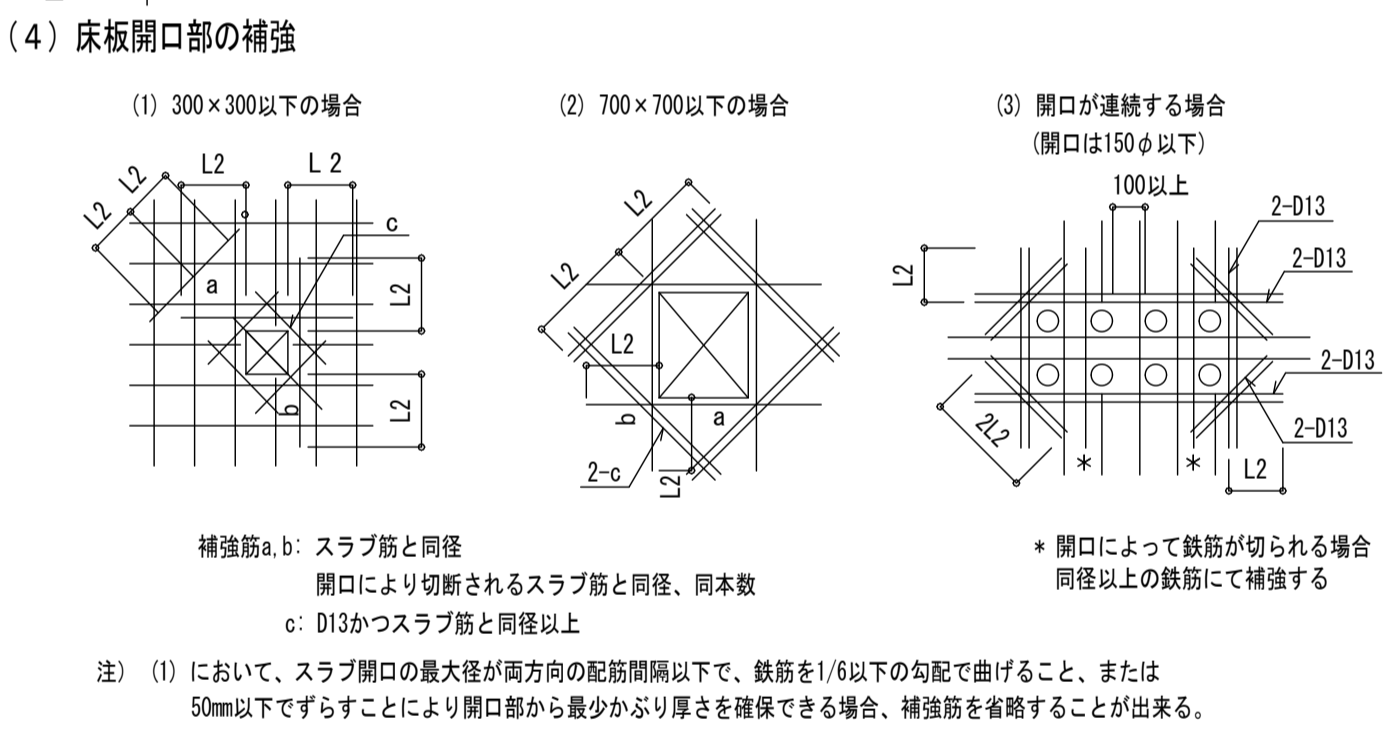
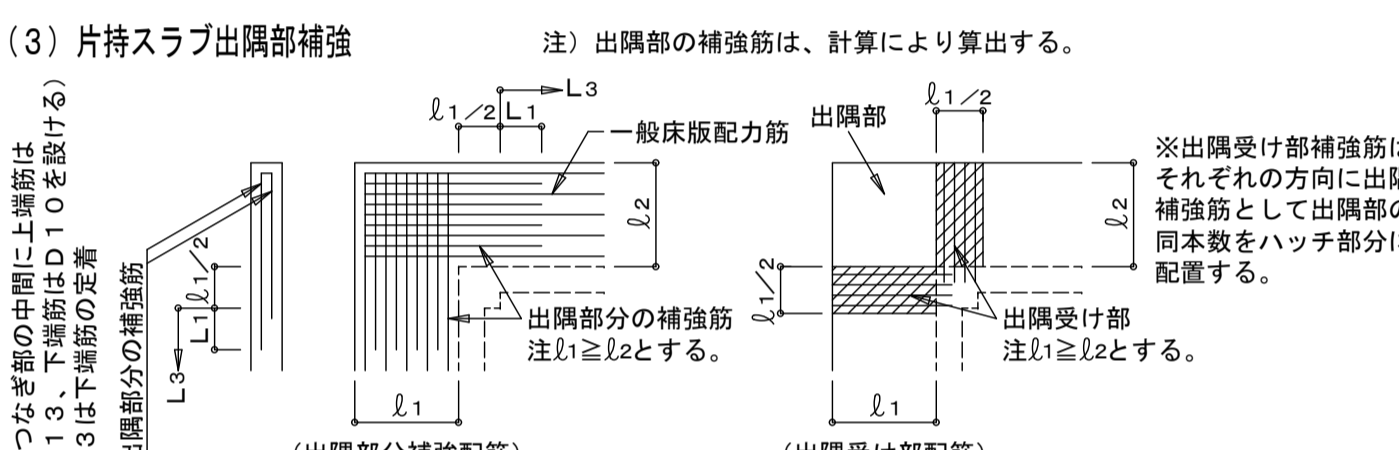
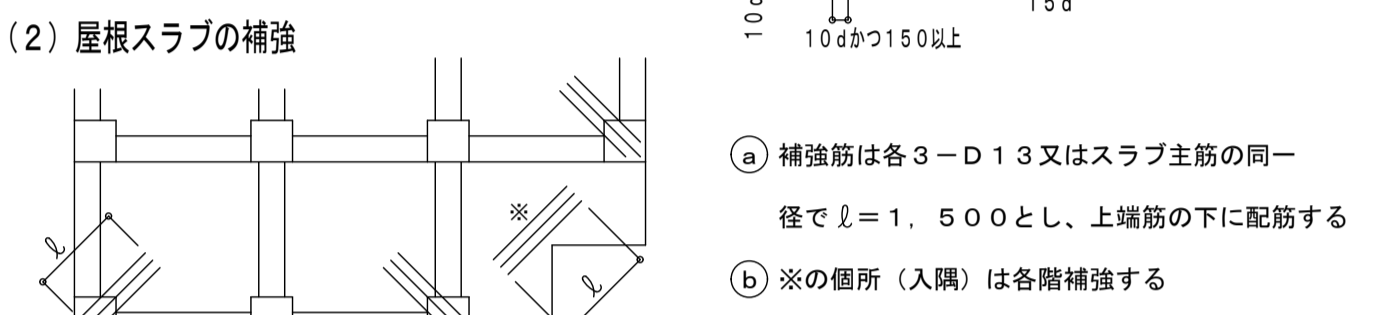
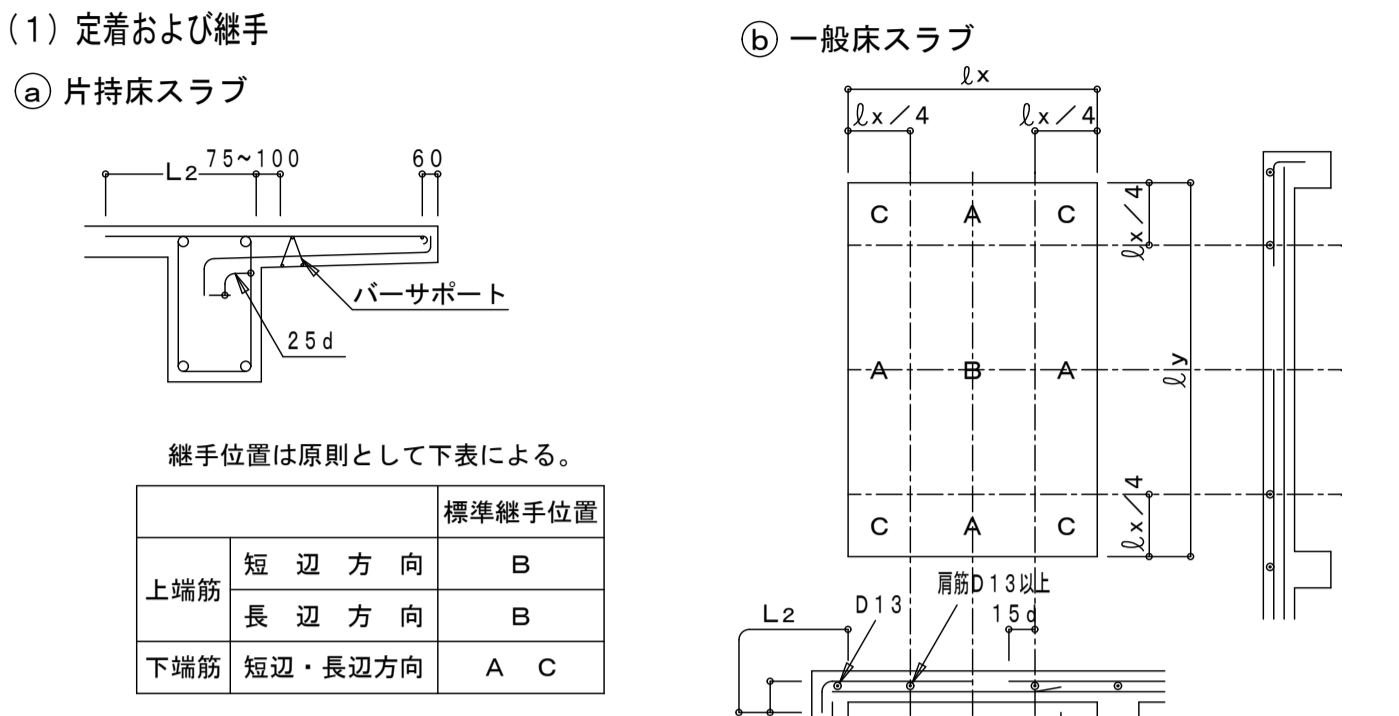
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

※修正箇所は下線を引くこと
L=本構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

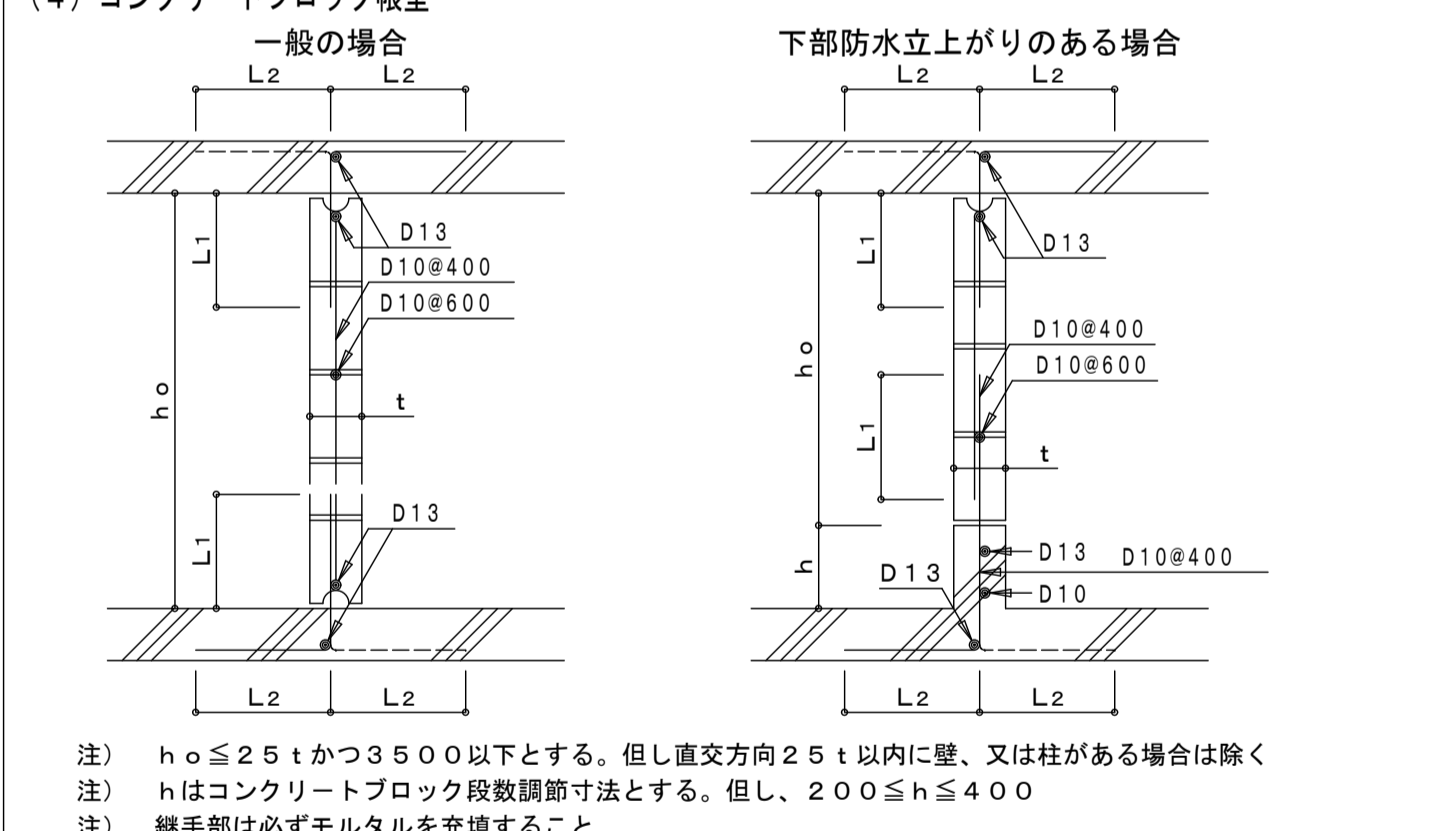
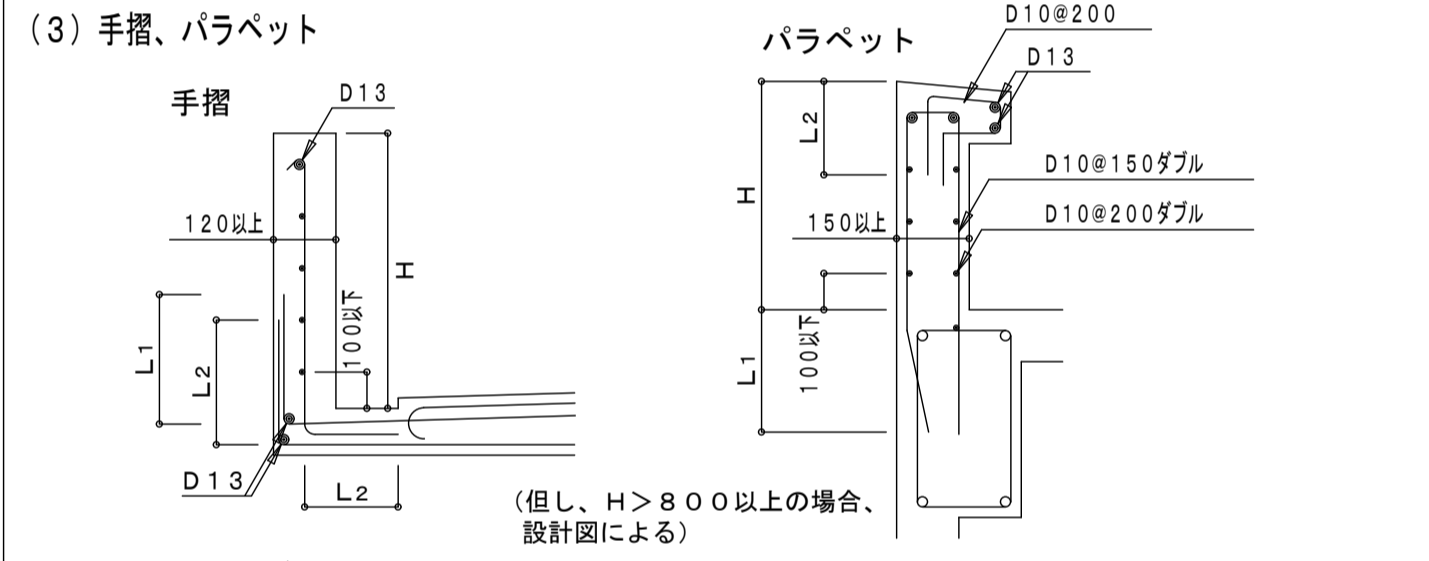
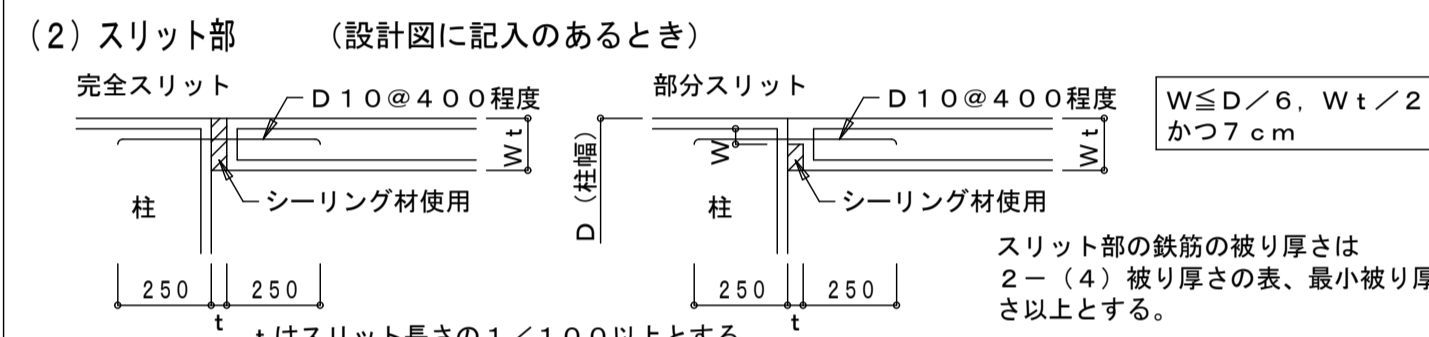
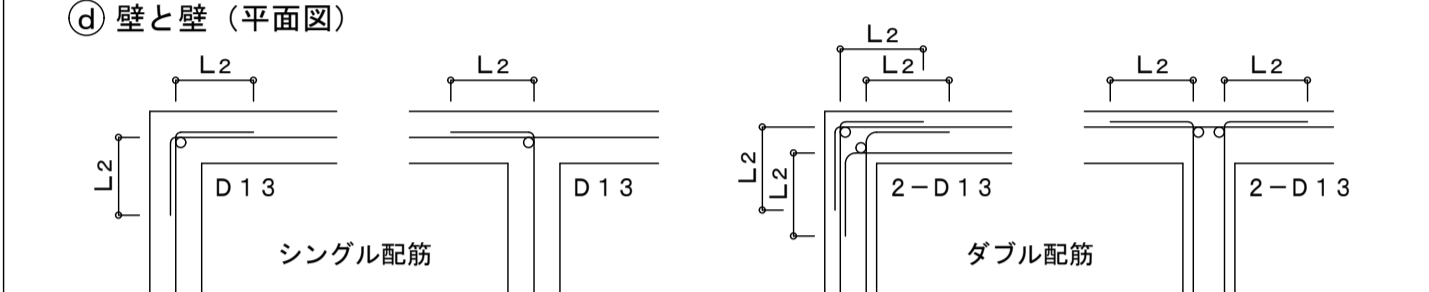
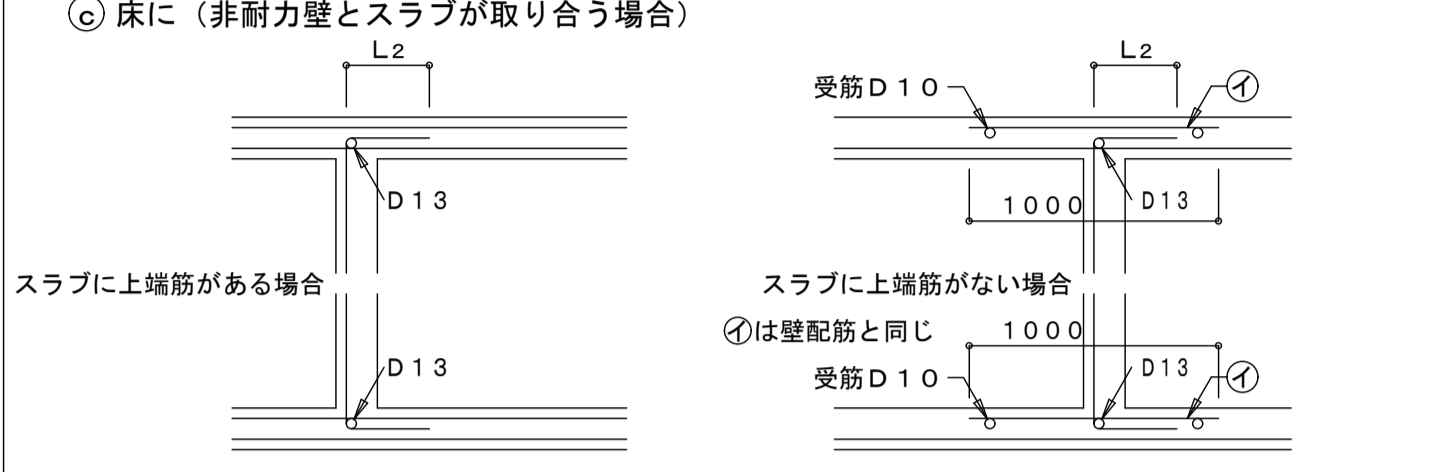
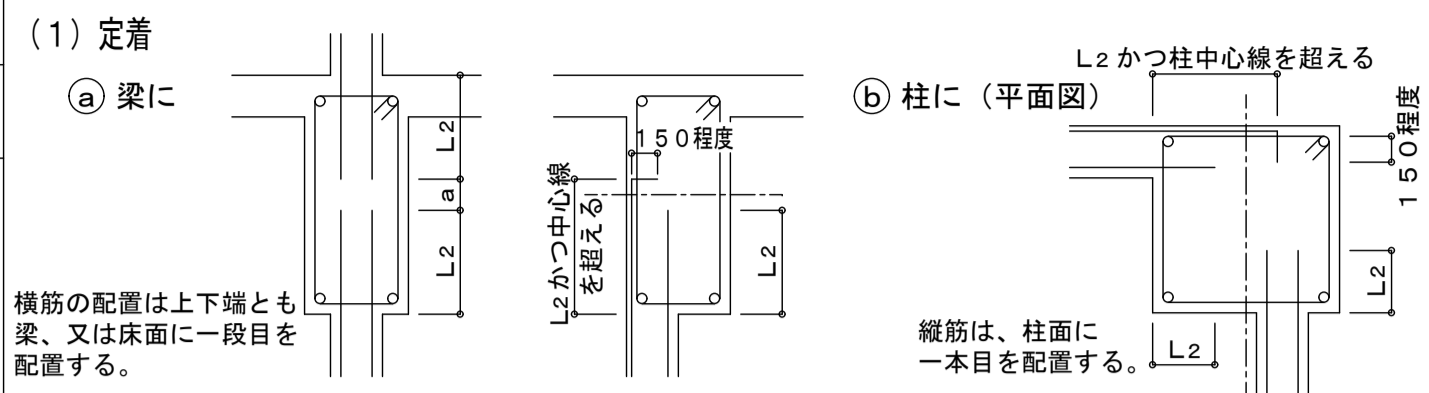
6. 大梁、小梁、片持梁



7. 床版

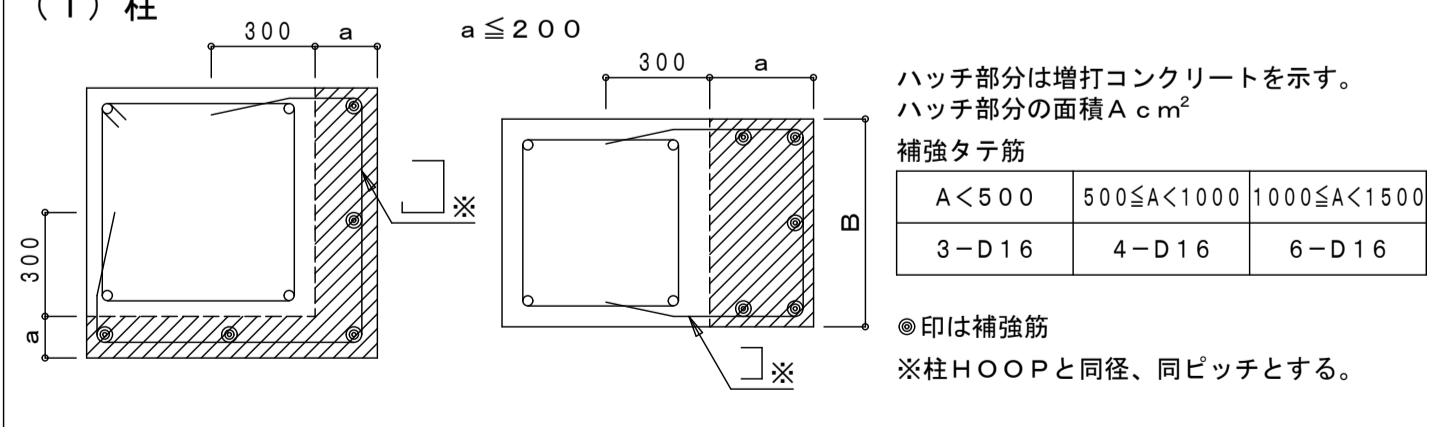


8. 壁

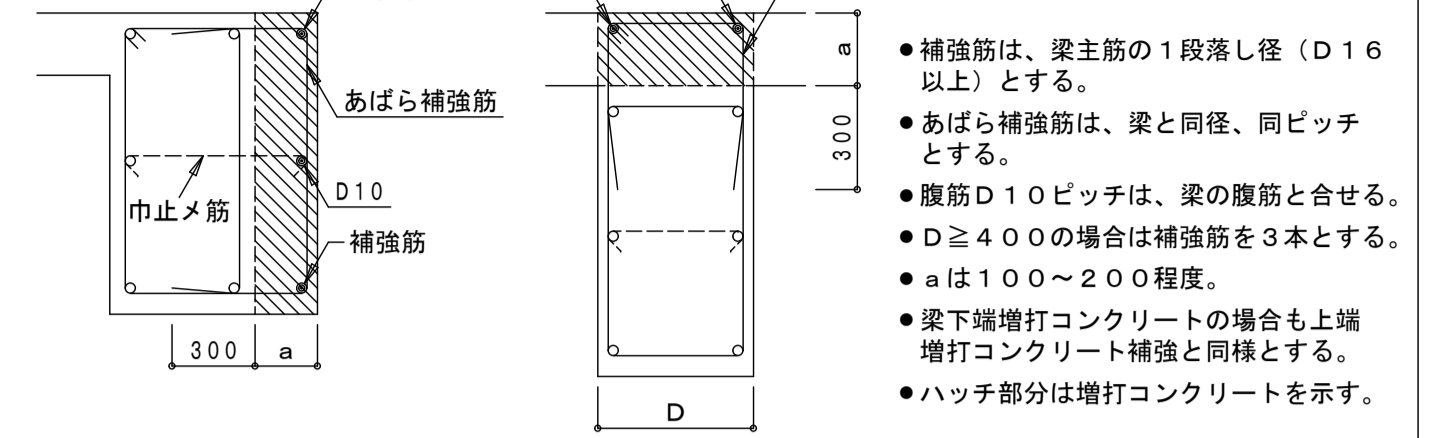


9. 柱、梁増打コンクリート補強

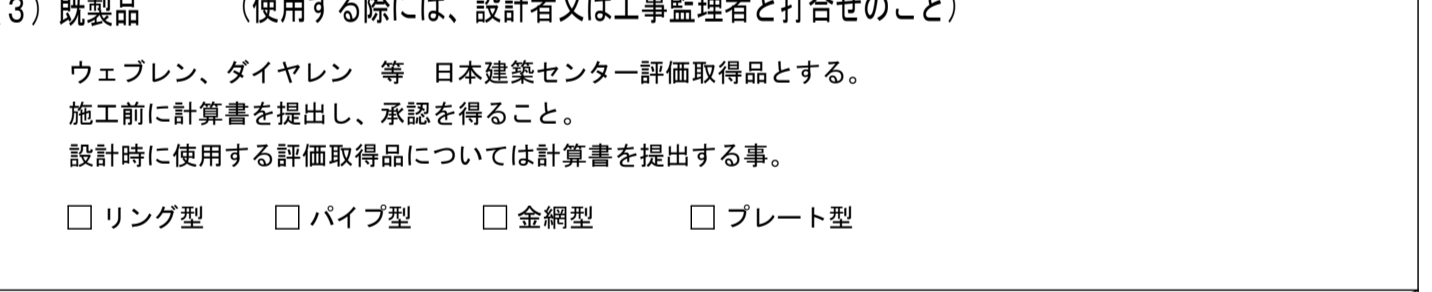
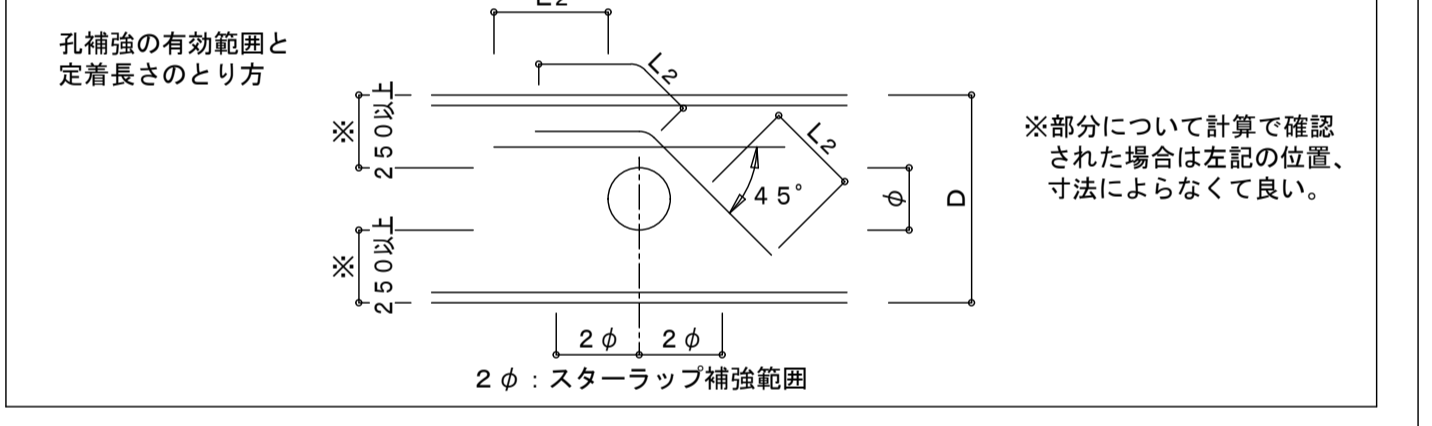
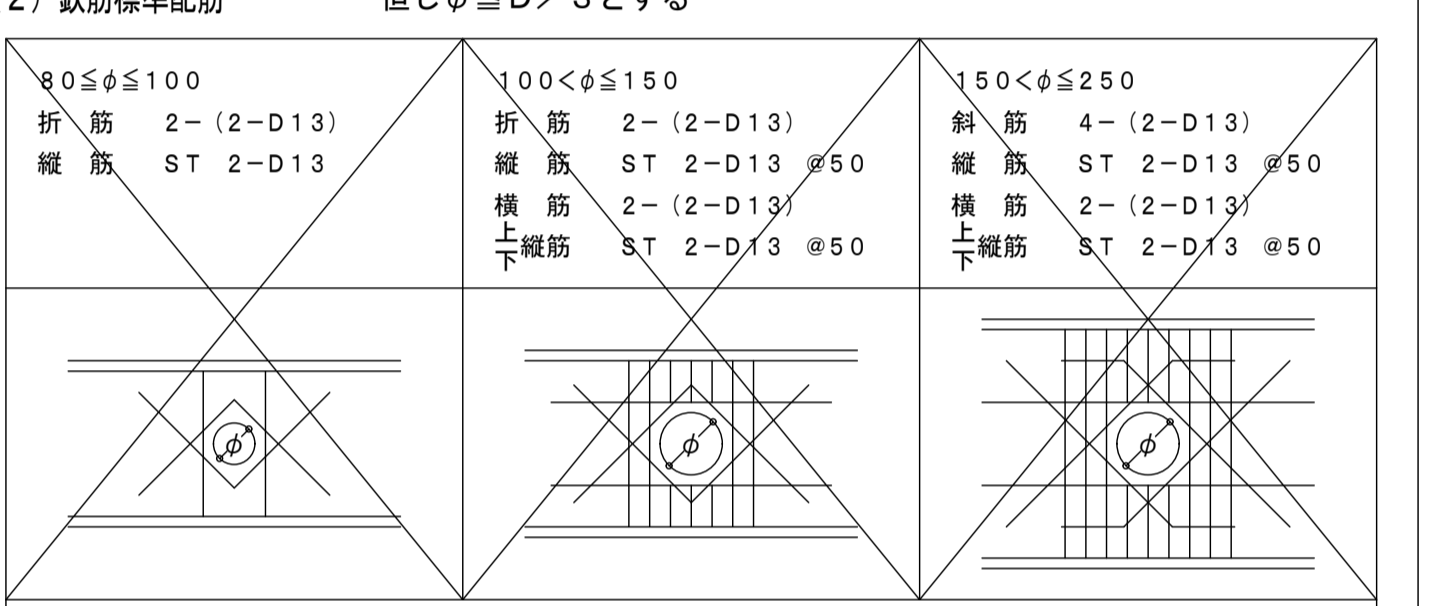
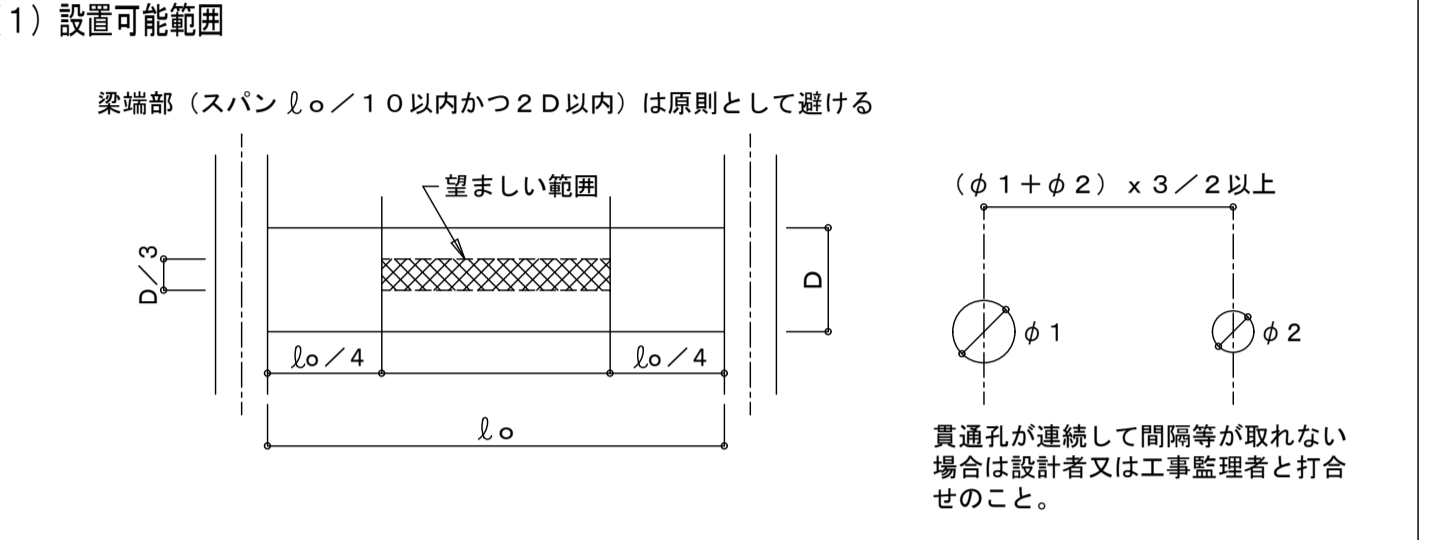
(増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと)



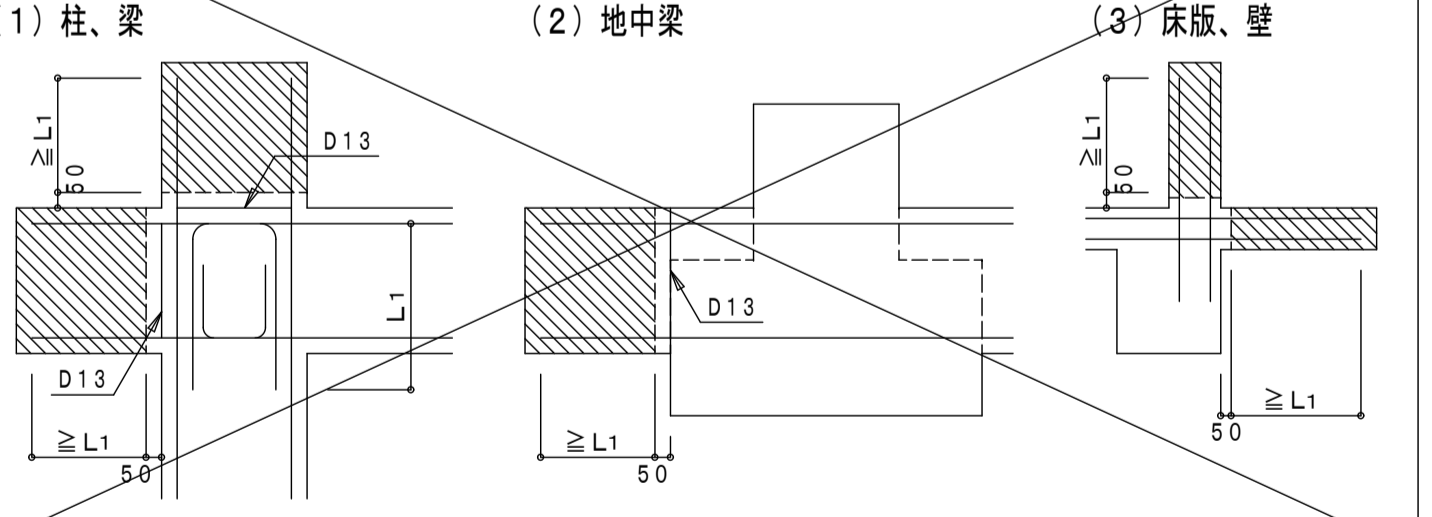
(2) 梁



10. 梁貫通孔補強 (開口補強筋については計算により確認すること)



11. 増築予定 (将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手法を考慮して措置する)



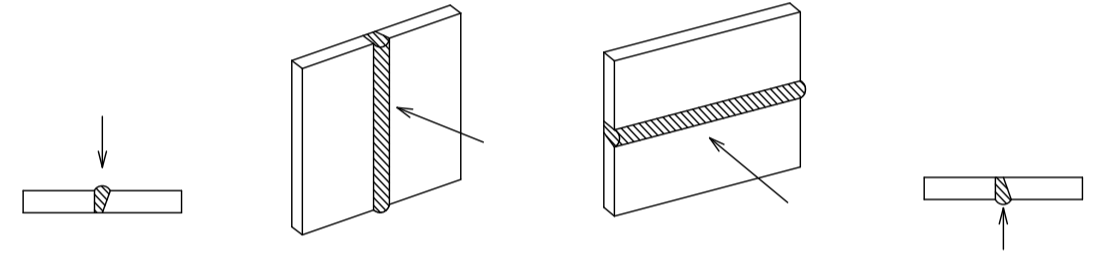
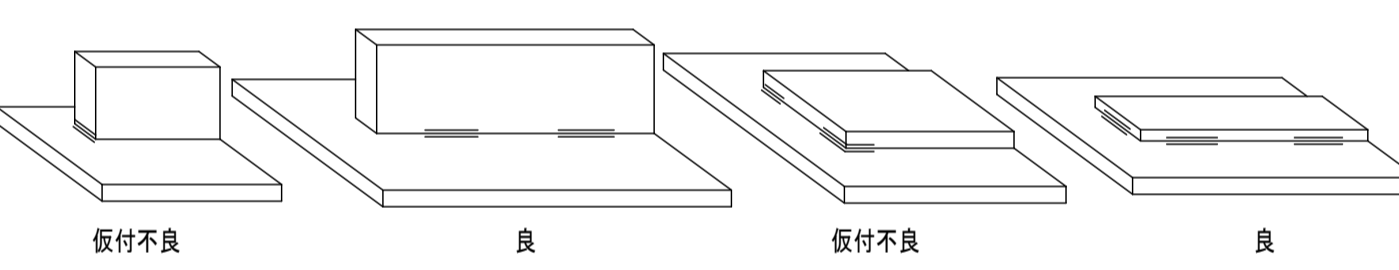
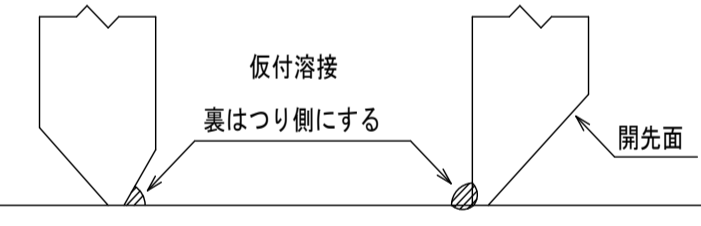
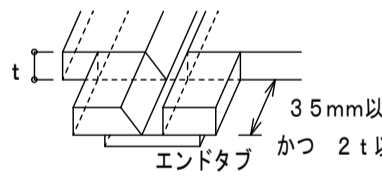
12. 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号は下表による。

| | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 記号 | ● | × | φ | ○ | ◎ | ※ |
| 異形鉄筋 | D10 | D13 | D16 | D19 | D22 | D25 |
| 丸鋼 | 9φ | 13φ | 16φ | 19φ | 22φ | 25φ |

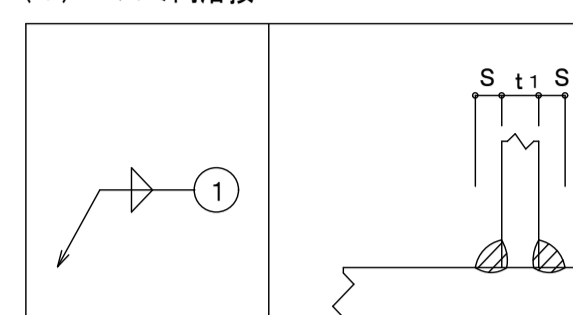
鉄骨構造標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
 - (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが4.0mm以下のものとする
 - (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨制作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る
 - (b) 鋼管部材の分岐継ぎ手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 - (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本編めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者
- 溶接技能者は施工する溶接に適合するJIS Z 3801 (手溶接) またはJIS Z 3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
 - (ロ) アークエアークラウジング機 (直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
 - (ハ) サブマージアーク溶接機1式 (ヘ) 溶接棒乾燥器
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアークラウジング (AAG)
- (d) 溶接姿勢
- 
- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
- 組立て溶接は溶接の終、始端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 
- (f) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同先形状のエンドタブを取り付ける
 - エンドタブの材質は、母材と同質とする
 - エンドタブの長さは、MC: 35mm 以上
NGC、GC: 40mm 以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
 - プレス鋼板タブ、圓形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る
- 
- (ロ) 裏あて金
- 材質母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ハ) スカーラップ半径は30~35mmと、10mmのダブルールとする
- (ニ) 裏はつり
- 標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の確認を履行し、部材に確認マークをつける
- (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためないように、養生を行なう
- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接標準図 (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位mm)

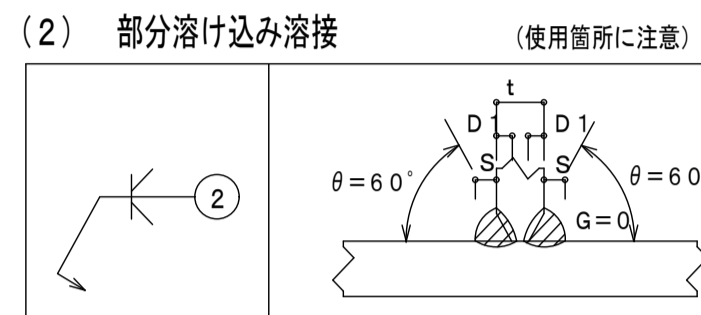
(1) スミ肉溶接



| t ≤ 16mm | | | |
|----------|-----|------|-------|
| t | 7以下 | 8~10 | 11~13 |
| S | 6 | 7 | 10 |

- 但し片面溶接の場合はS=tとする
- tはt1、t2の小さな方とする
- 余盛は(1+0.1S)mm以下とする
- 軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所) に注意

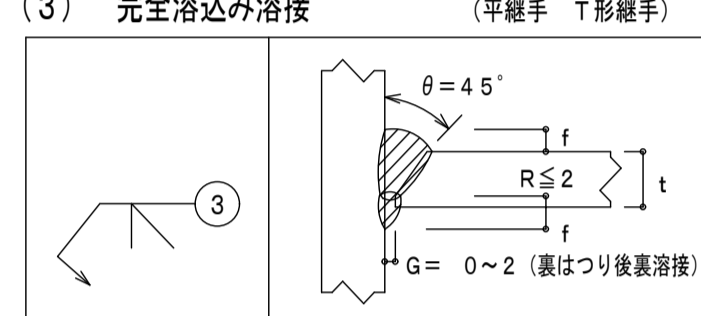


D1 ≥ t/3 t/4 ≤ S ≤ 10mm t ≤ t1

| t | t > 16mm |
|------|----------|
| 溶接姿勢 | F、V |

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

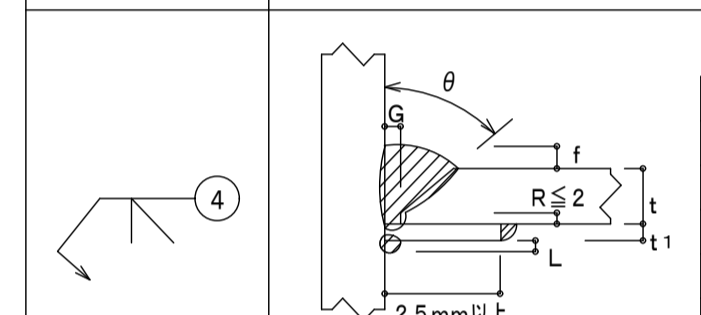
(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)



f = t/4

| t | 6 < t < 19mm |
|------|--------------|
| 溶接姿勢 | F、V |

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する AAG

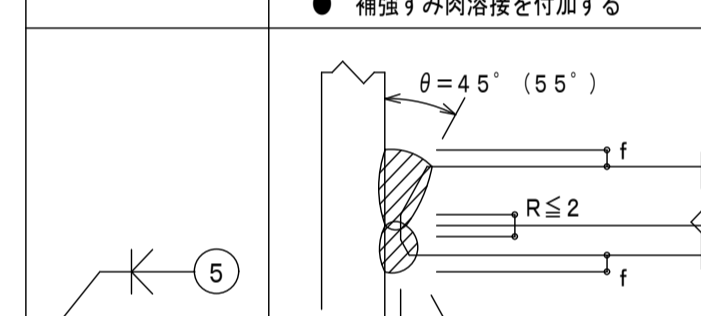


f = t/4

| MC NGC GC | |
|-------------|---------------------|
| t mm | θ G t1 L θ G t1 L |
| 6 ≤ t < 12 | 45° 6 6 5 45° 6 6 5 |
| 12 ≤ t < 16 | 35° 9 9 8 45° 6 9 8 |
| 16 ≤ t | 35° 9 9 8 35° 9 9 8 |

溶接姿勢 F、V

- 補強すみ肉溶接を付加する



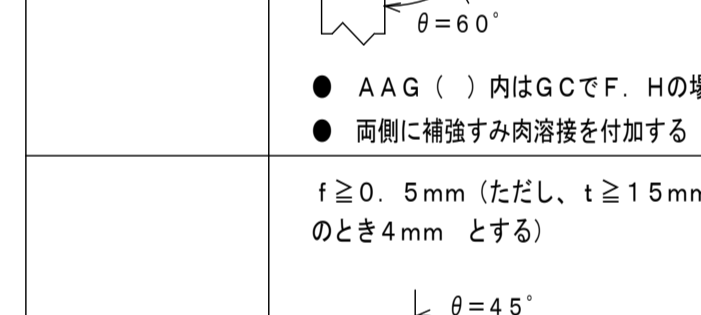
f = t/4

| T形合せ継手余盛 | |
|-------------|-----------|
| のど厚 t mm | 余盛りの高さ mm |
| t ≤ 4 | 1 |
| 4 < t ≤ 12 | 2 |
| 12 < t ≤ 19 | 3 |
| t > 19 | 4 |

溶接姿勢 F、V

- AAG () 内はGCでF、Hの場合
- 両側に補強すみ肉溶接を付加する


f ≥ 0.5mm (ただし、t ≥ 15mm のとき4mmとする)



削り面 a > 4mm の場合 平継手で板厚が異なるとき

| t | 6 < t < 19mm |
|------|--------------|
| 溶接姿勢 | F、V |

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

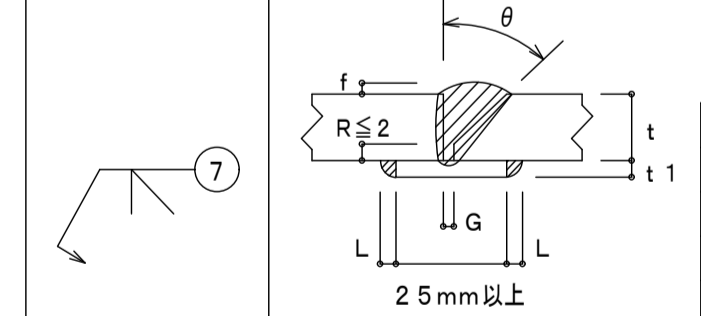


f = t/4

| MC NGC GC | |
|-------------|---------------------|
| t mm | θ G t1 L θ G t1 L |
| 6 < t < 12 | 45° 6 6 5 45° 6 6 5 |
| 12 ≤ t ≤ 19 | 35° 9 9 5 45° 6 9 5 |
| t > 19 | 35° 9 9 8 35° 9 9 8 |

溶接姿勢 F、V

(4) フレア溶接

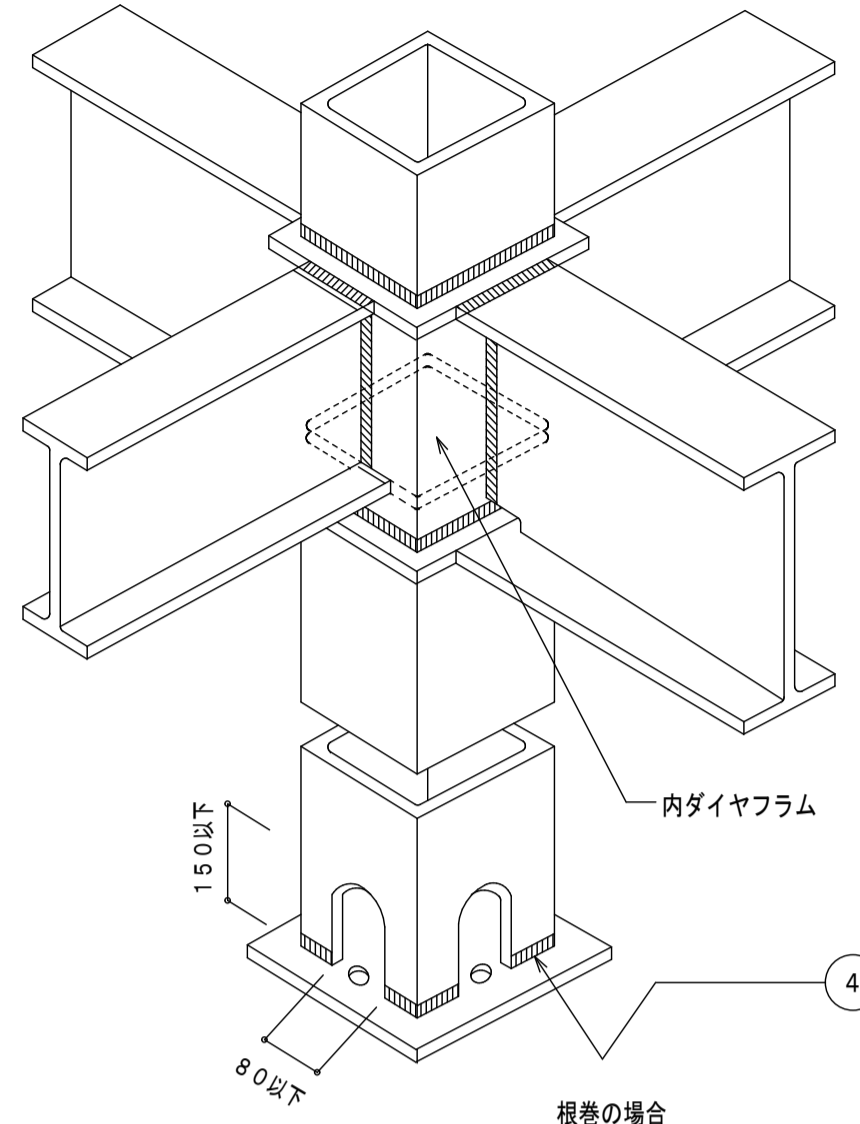


| 寸法 (mm) | | |
|---------|----|-----|
| φ | B | S |
| 9 | 7 | 4 |
| 13 | 8 | 4.5 |
| 16 | 9 | 5 |
| 19 | 10 | 6 |
| 22 | 11 | 7 |
| 25 | 12 | 8 |

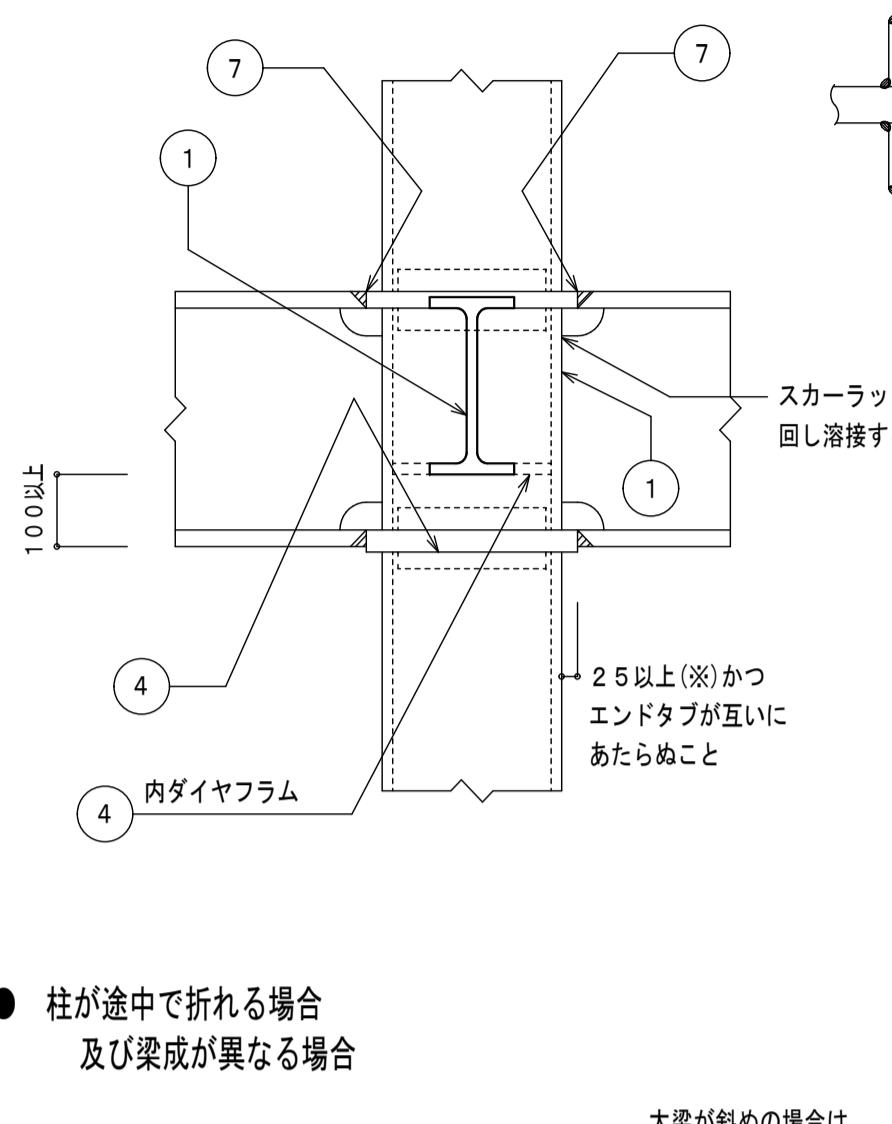
- フレア溶接長は、鋼板に接する全長とする
- 9mm~16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
- 溶接傾角度θは30°~40°とする

○ 溶接記号番号を ○ 中に記入のこと

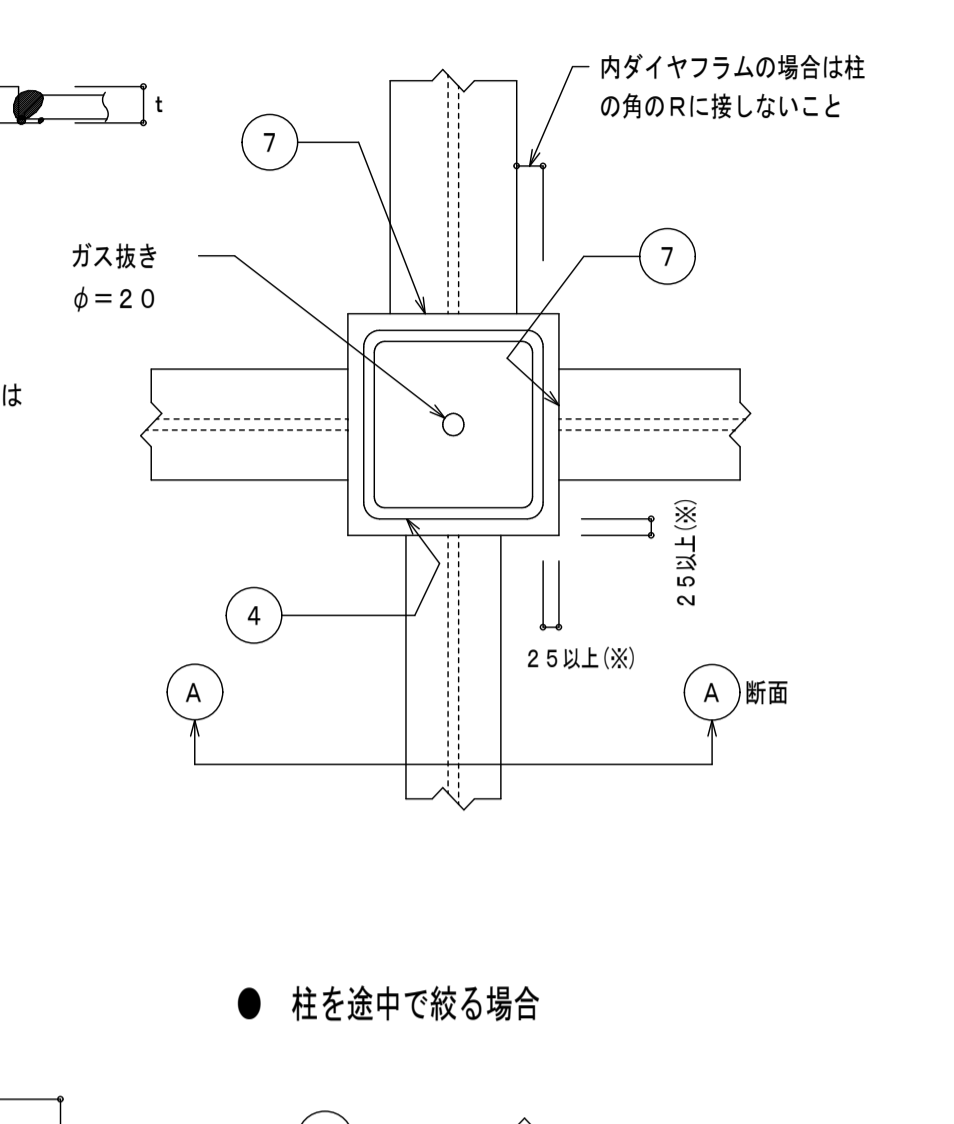
● BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



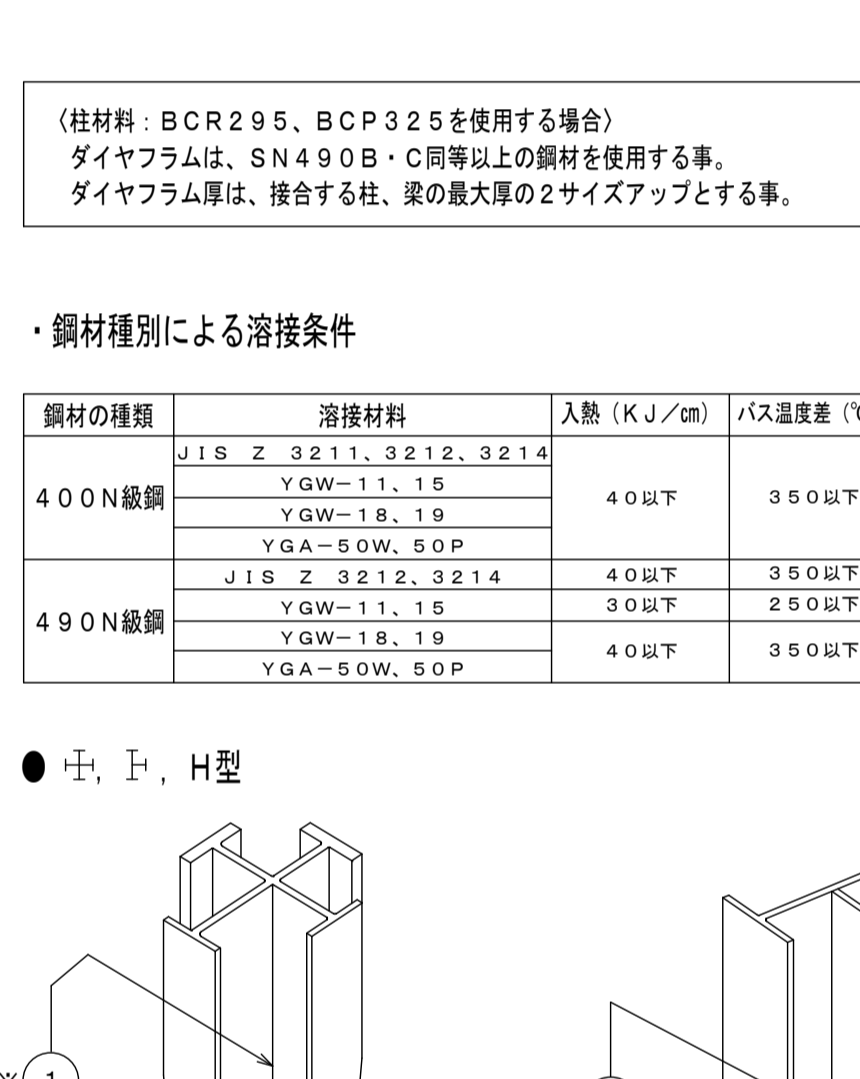
● 柱が途中で折れる場合及び梁成が異なる場合



● 柱を途中で截る場合



● B、H方式



● 鋼材種別による溶接条件

| 鋼材の種類 | 溶接材料 | 入熱 (KJ/cm) | パス温度差 (°C) |
|--------|----------------------|------------|------------|
| 400N級鋼 | JIS Z 3211、3212、3214 | 40以下 | 350以下 |
| | YGW-11、15 | | |
| | YGA-50W、50P | | |
| 490N級鋼 | JIS Z 3212、3214 | 40以下 | 350以下 |
| | YGW-11、15 | | |
| | YGA-50W、50P | | |

● 柱を途中で折れる場合及び梁成が異なる場合

(柱材料: BCR295、BCP325を使用する場合)
ダイヤフラムは、SN490B・C同等以上の鋼材を使用する事。
ダイヤフラム厚は、接合する柱、梁の最大厚の2サイズアップとする事。

● 鋼材種別による溶接条件

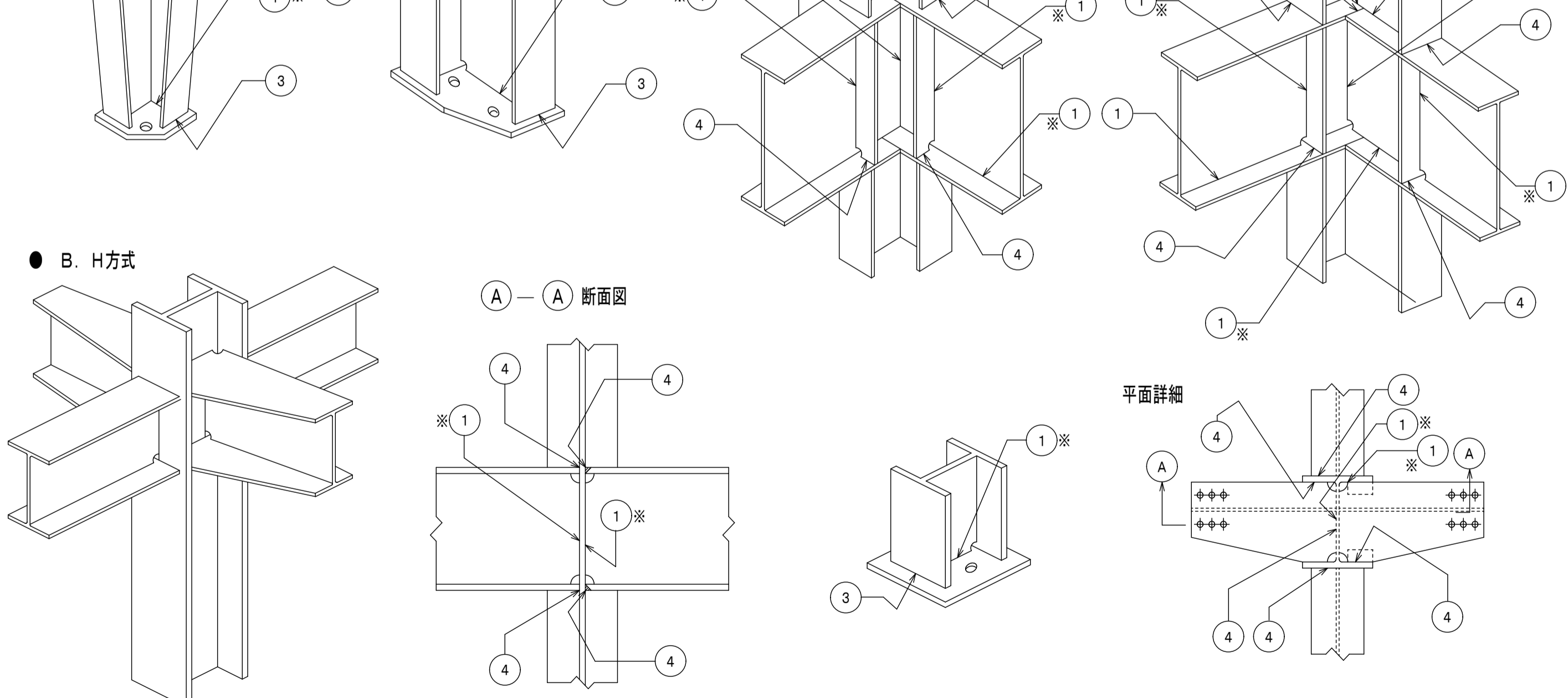
t > 柱フランジのプレート厚 θ = 75° ~ 105°

● 柱を途中で截る場合

テーパー管もしくはプレート加工

● B、H方式

● 溶接標準図



鉄骨構造標準図 (2)

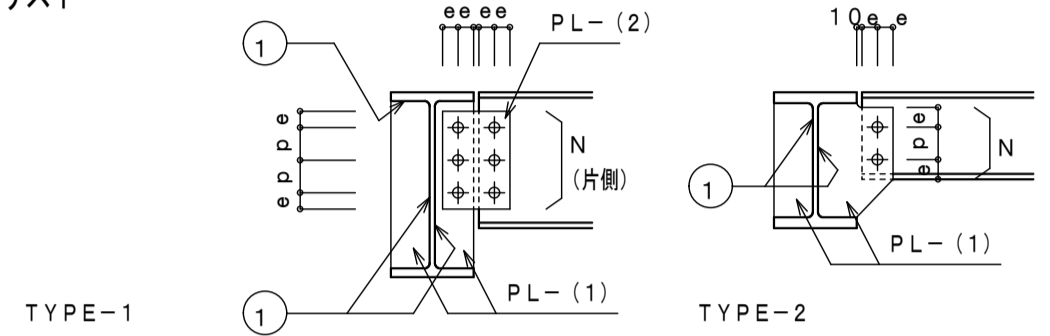
3. 継手標準図、その他

(1) ボルトピッチ (P)、ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

| 呼び | ボルト穴径 | 最小縁端距離 (e) | | | | ピッチ (P) | |
|-----|-------|------------|-----|-----|-----------|---------|----|
| | | (1) | (2) | (3) | (2)(3)の標準 | 最小 | 標準 |
| M16 | 18 | 40 | 28 | 22 | 40 | 40 | 60 |
| M20 | 22 | 50 | 34 | 26 | 40 | 50 | 70 |
| M22 | 24 | 55 | 38 | 28 | 40 | 55 | 80 |
| M24 | 26 | 60 | 44 | 30 | 45 | 60 | 90 |

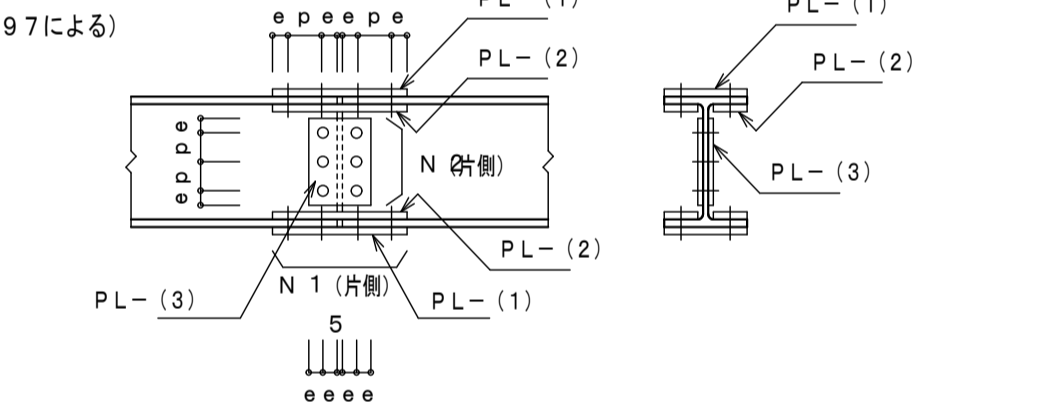
【注】(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
 (2) せん断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上線の場合の縁端距離

(2) ピン接合梁継手リスト



| 符号 | タイプ | 部材 | PL-(1) | PL-(2) | N-径 |
|----|-----|---------|--------|--------|-----|
| | | 部材リスト参照 | | | |

(3) 梁鋼接合継手リスト

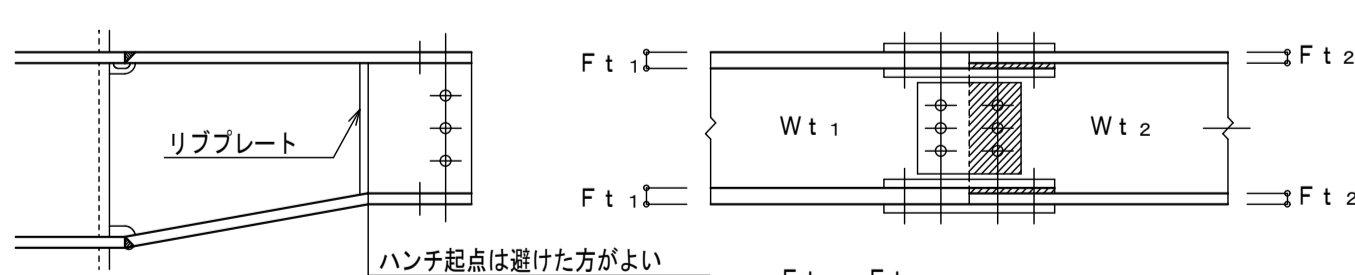


注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

| 符号 | 部材 | フランジ | | | ウェブ | |
|----|---------|--------|--------|------|--------|------|
| | | PL-(1) | PL-(2) | N1-径 | PL-(3) | N2-径 |
| | 部材リスト参照 | | | | | |

(4) ハンチ部の継手

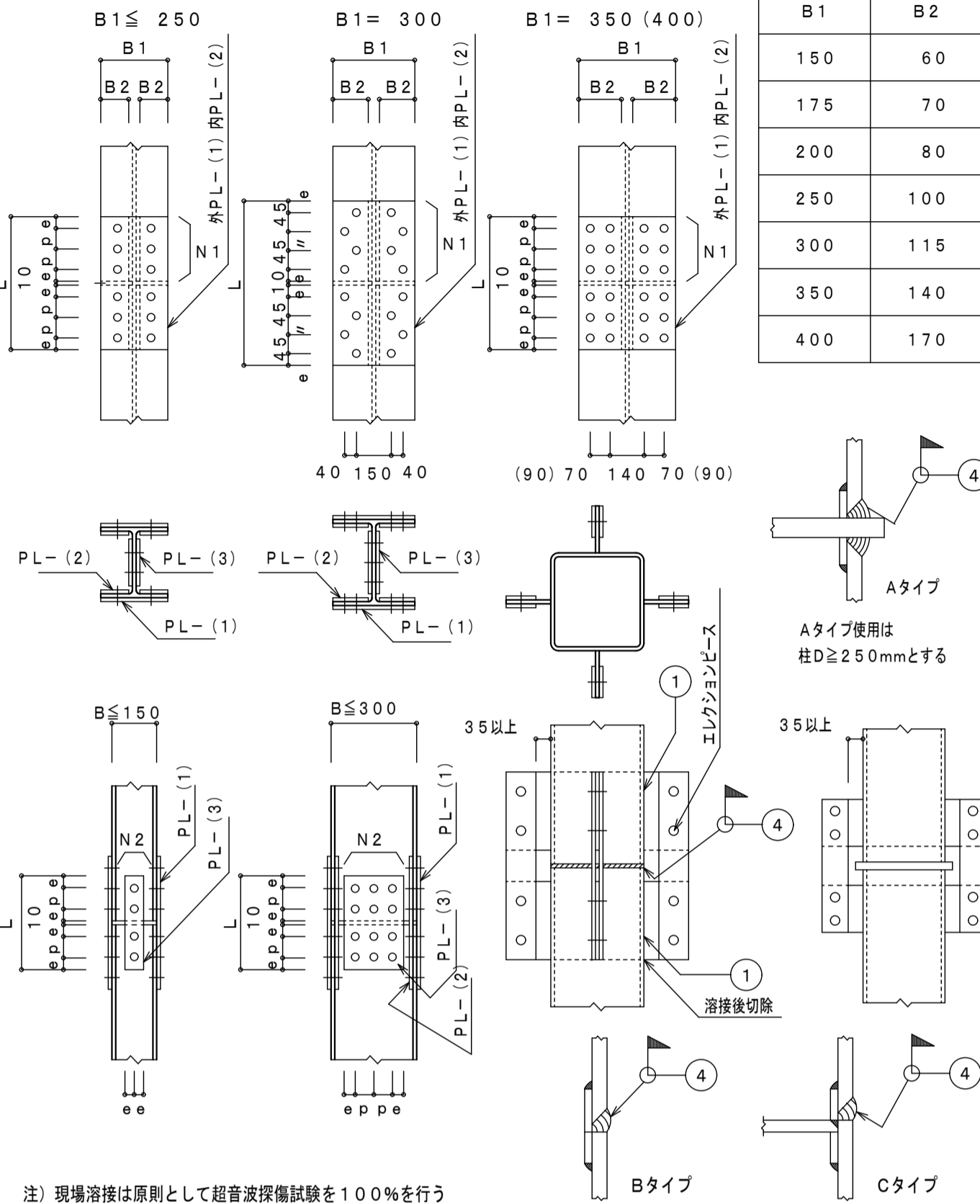
フランジ及ウェブ厚のある場合



ハンチ部は普通 1: 4程度であるが構造図による
 $Ft_1 - Ft_2 > 1mm$ フィラプレート併用のこと

(5) 柱継手リスト

(SCSS-H97による)



注) 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う

| 符号 | 部材 | フランジ | | | ウェブ | |
|----|----|--------|--------|------|--------|------|
| | | PL-(1) | PL-(2) | N1-径 | PL-(3) | N2-径 |
| | | | | | | |

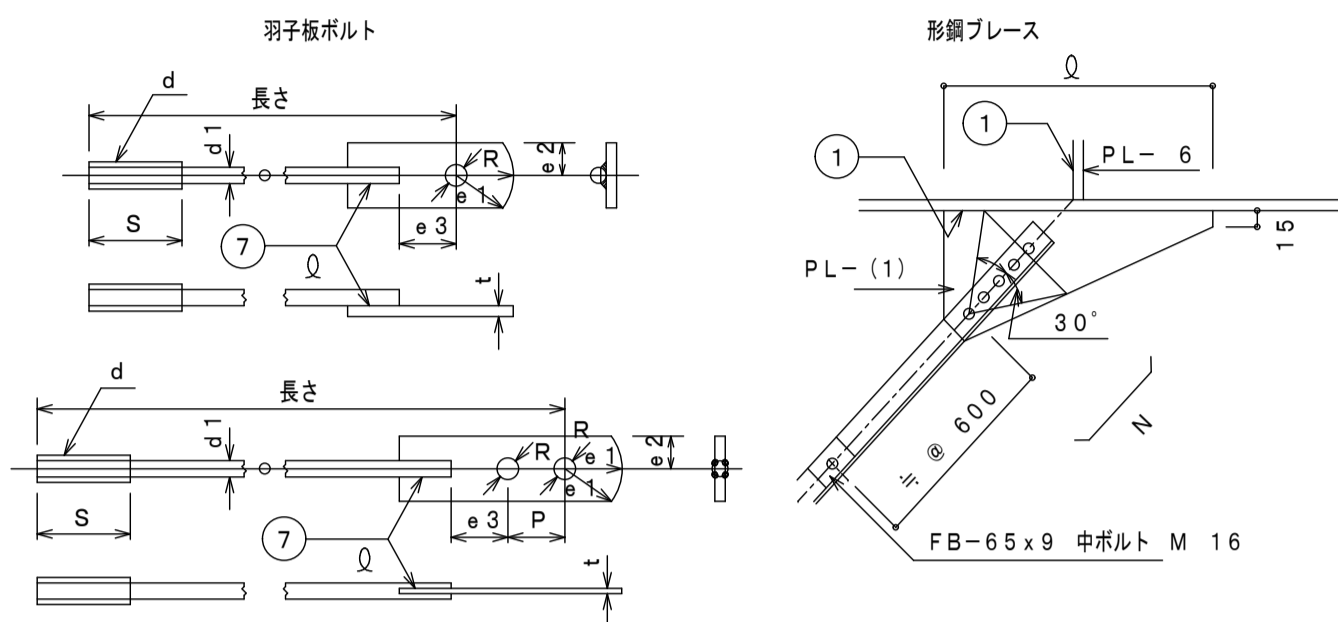
(6) 鉄骨ブレース (JIS規格品とする...JISA5540~5542...1982)

| ねじの呼び (d) | 軸径 d1 | M12 | M14 | M16 | M18 | M20 | M22 | M24 | |
|------------------------|-----------------------|------------|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 最大 | 10.81 | 12.65 | 14.65 | 16.33 | 18.33 | 20.33 | 21.99 |
| 最小 | 10.64 | 12.46 | 14.46 | 16.11 | 18.11 | 20.11 | 21.77 | | |
| 調整ねじの長さ S | | 100 | 115 | 125 | 140 | 150 | 165 | 175 | |
| 取付ボルト穴径 許容差 +0. -0.5mm | R | 13 | 17 | 17 | 21.5 | 21.5 | 23.5 | 21.5 | |
| はしあき (最小) | (2) e1 | 35 | 40 | 45 | 50 | 50 | 55 | 50 | |
| 切板製 | へりあき (最小) | (1) e2 | 22 | 28 | 28 | 34 | 34 | 38 | 38 |
| | 板厚 t | | 4.5 | 6 | 6 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 平鋼製 | へりあき (最小) | (1) e2 | 19 | 25 | 25 | 32.5 | 32.5 | 37.5 | 37.5 |
| | 板厚 t | | 4.5 | 6 | 6 | 9 | 9 | 9 | 9 |
| 取付ボルト | ボルト端から取付ボルト穴芯のあき (最小) | e3 | 47 | 52 | 59 | 66 | 66 | 73 | 70 |
| | 溶接長さ (最小) | Q | 40 | 50 | 55 | 60 | 75 | 85 | 85 |
| (2) 種類 | | JIS B 1186 | 2種高力ボルト (F10T) 又は JIS B 1180 中 8g 10.9 | | | | | | |
| | ねじの呼び | M12 | M16 | M16 | M20 | M20 | M22 | M20 | |
| 本数 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | |

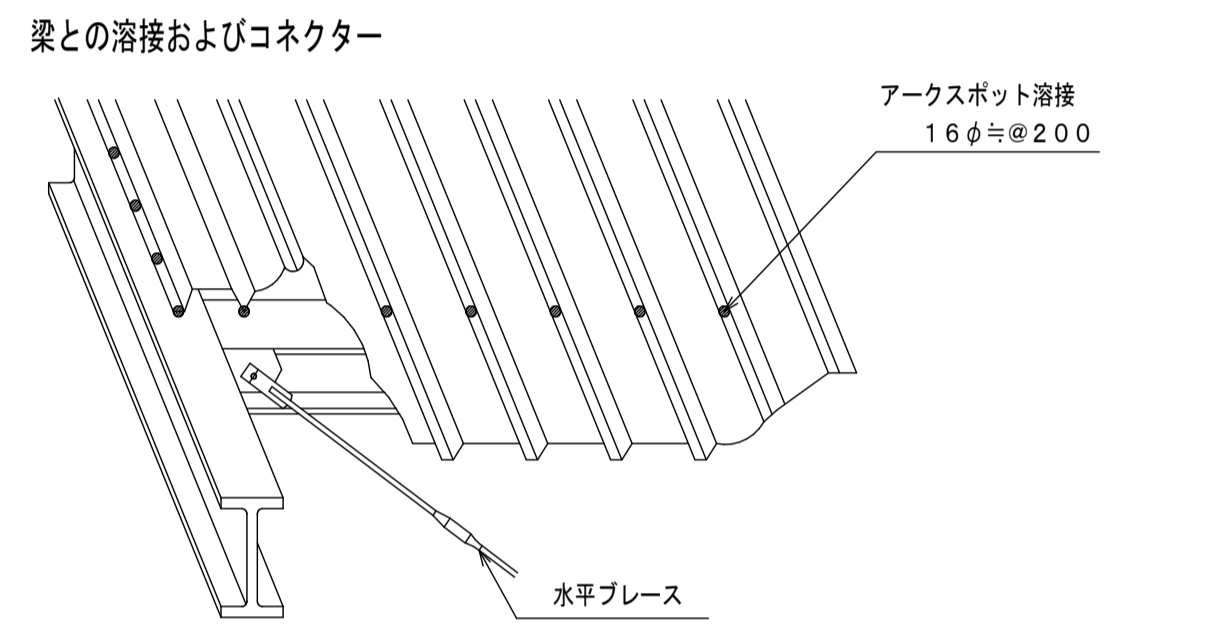
注 (1) e1, e2が確保されていれば形状は自由でよい
 (2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (支圧) 接合とする

(b) 形鋼ブレース

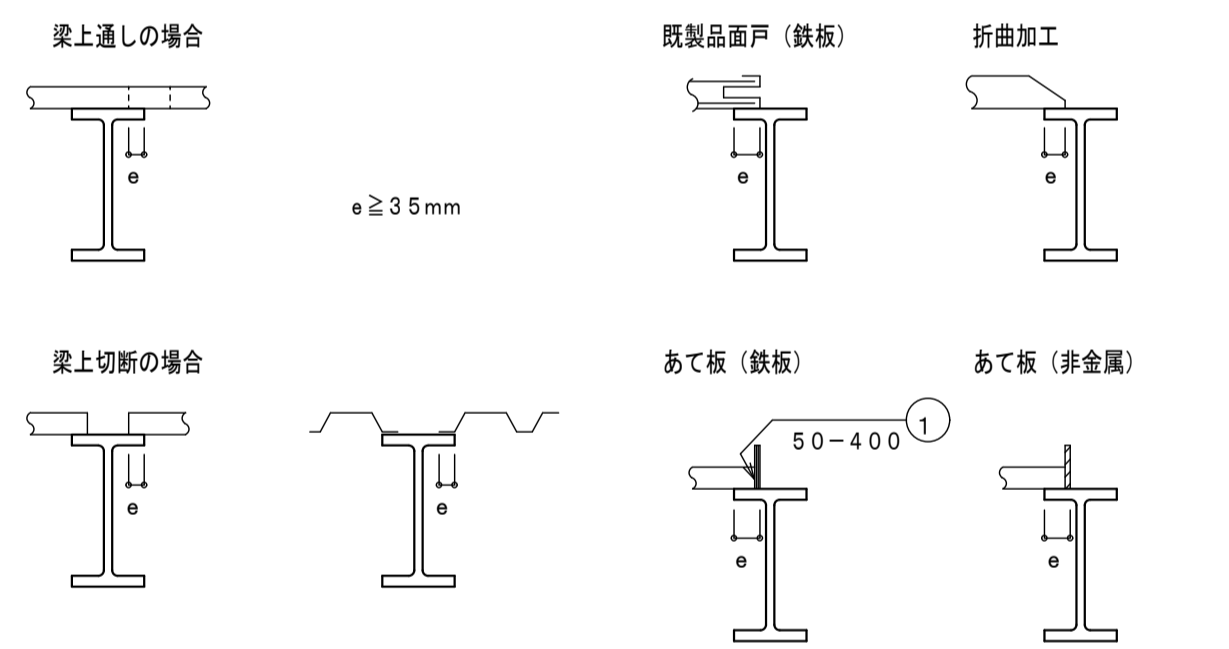
| 符号 | 部材 | PL-(1) | N-径 | Q |
|----|---------|--------|-----|---|
| | 部材リスト参照 | | | |



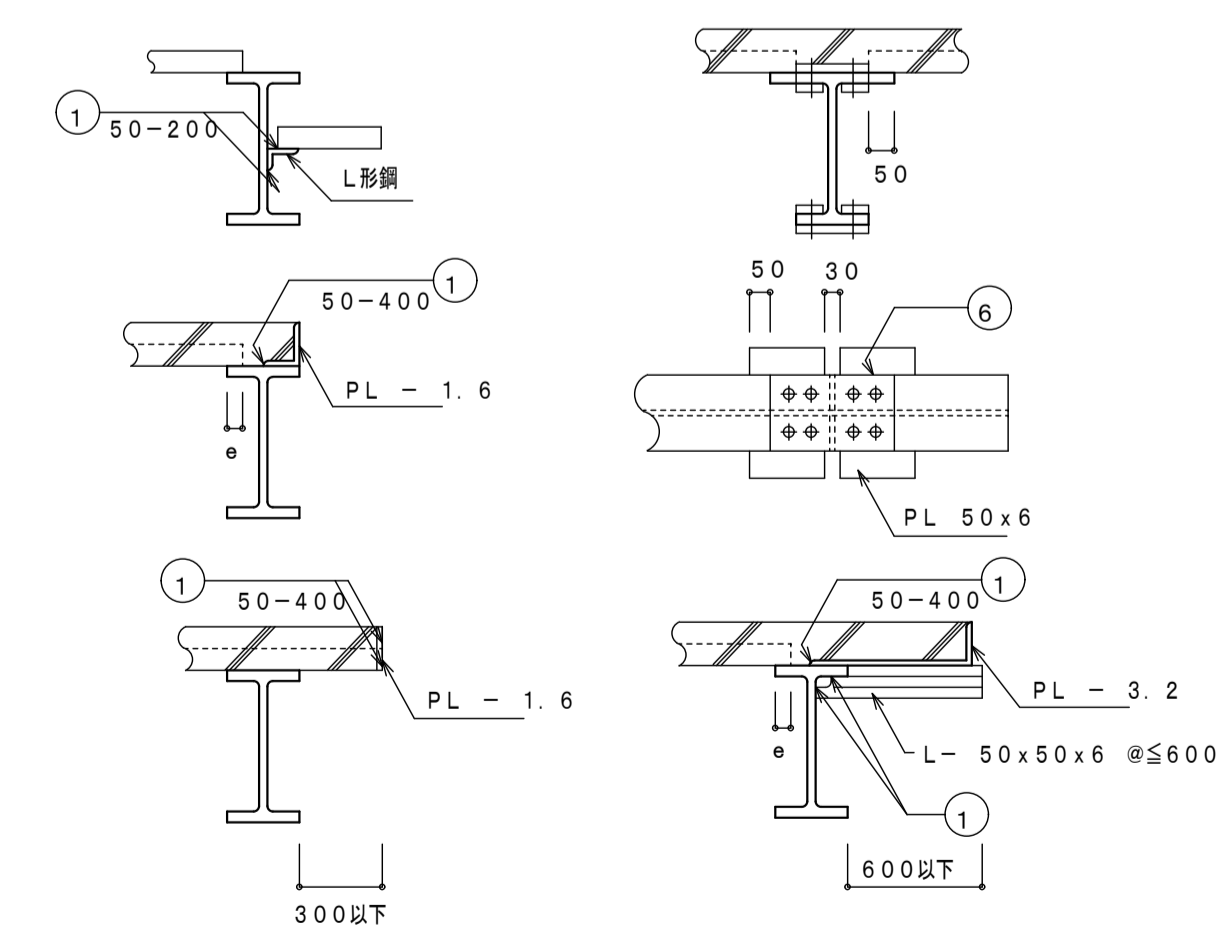
(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)



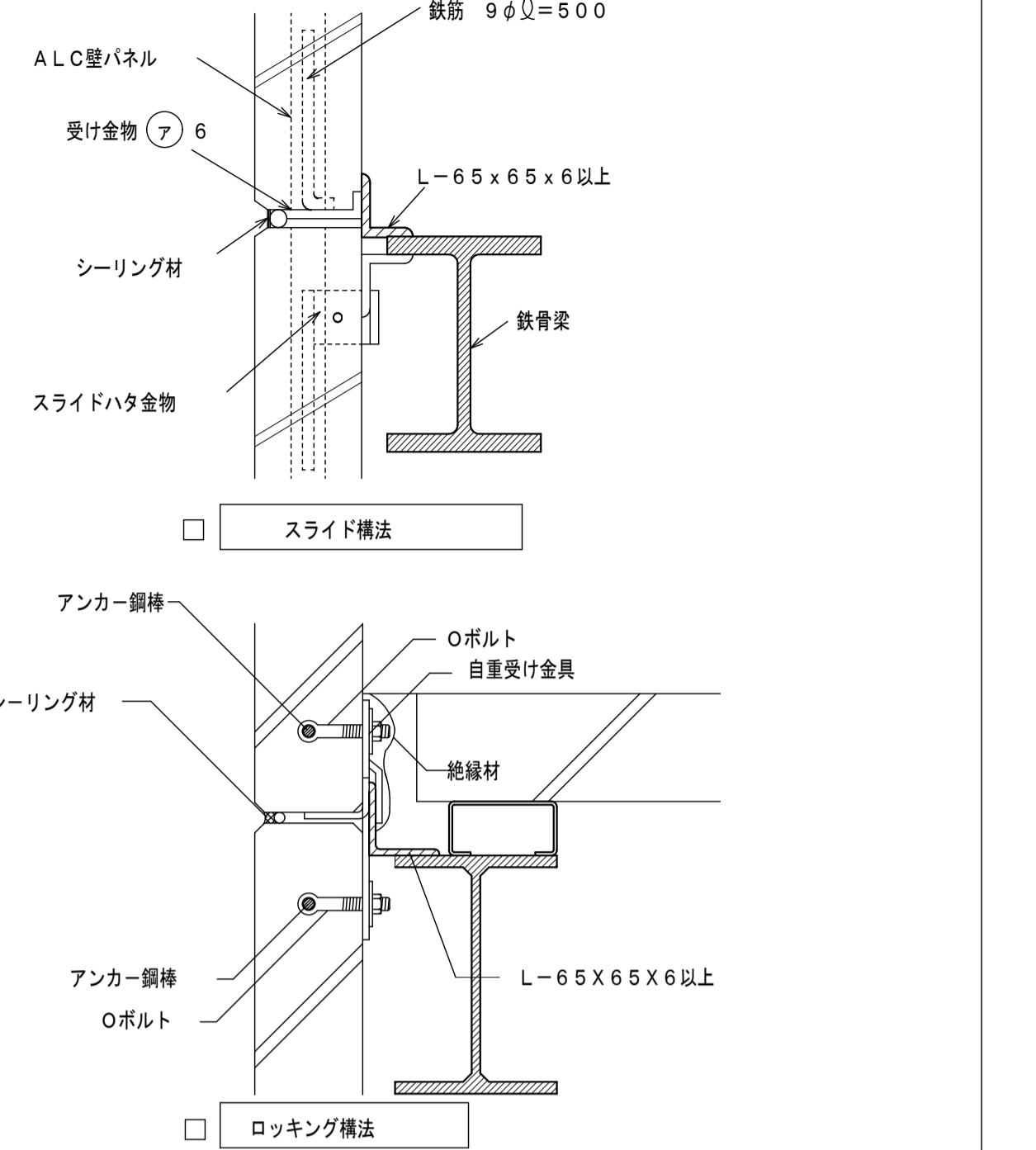
受梁へのかり寸法および端部処理



スラブ端部の補足材



(8) ALC板取付要領

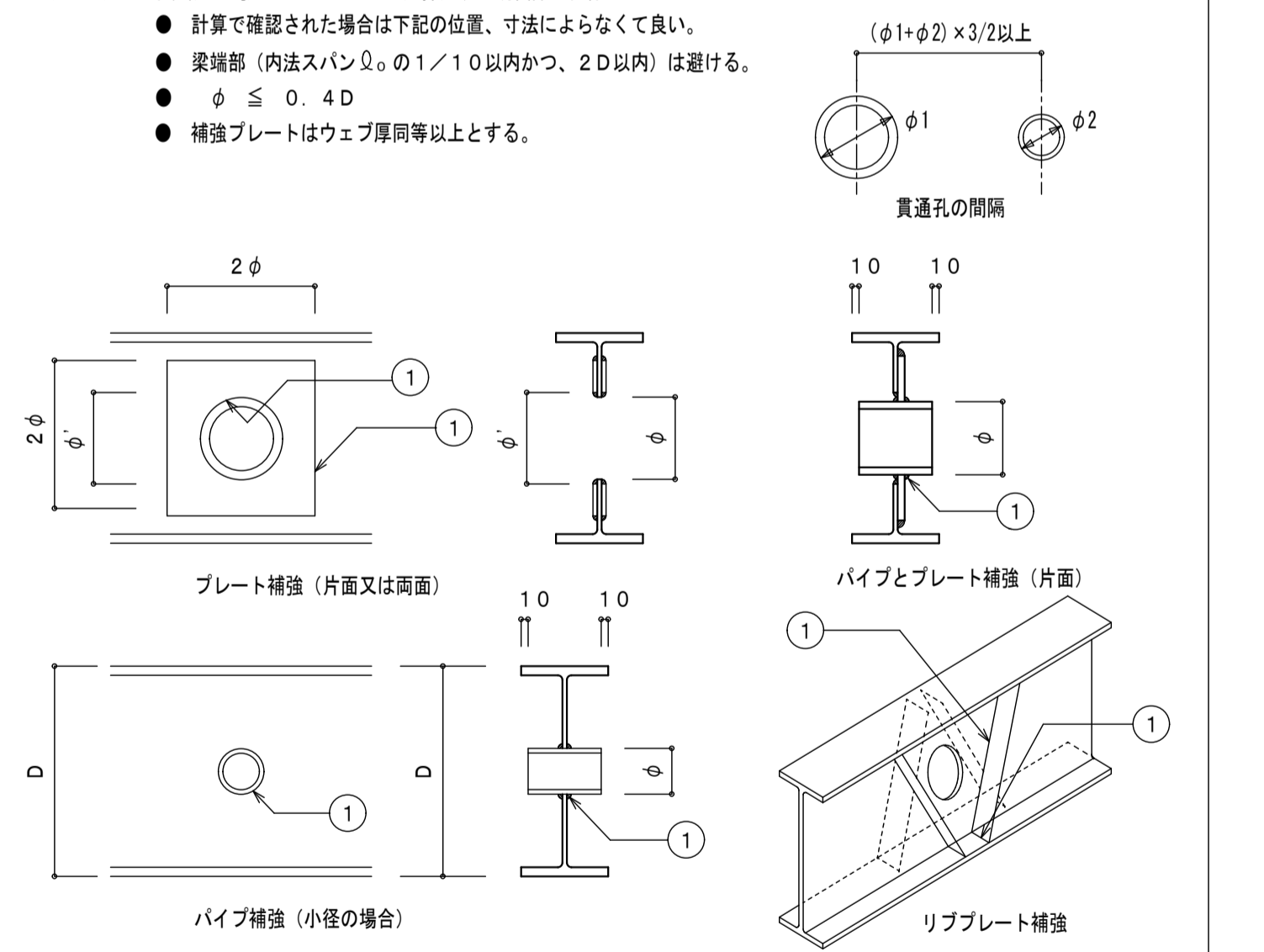


(9) 頭付きスタッド (JIS 1198) スタッド材の標準形状・寸法

| 形状 D | スタッド材 | | | |
|-------|-------|---------|---------|-------------------|
| | 呼び名 | 軸径 d mm | 頭径 D mm | 頭高さ T mm |
| φ13mm | 13.0 | 22.0 | 10.0 | 50, 80, 100, 130 |
| | 12.7 | 25.4 | 7.9 | |
| φ16mm | 16.0 | 29.0 | 10.0 | 80, 100, 130 |
| | 15.8 | 31.7 | 7.9 | |
| φ19mm | 19.0 | 32.0 | 10.0 | 80, 100, 130, 150 |
| | 19.0 | 31.7 | 9.5 | |
| φ22mm | 22.0 | 35.0 | 10.0 | 100, 130, 150 |
| | 22.2 | 34.9 | 9.5 | |

(10) 梁貫通補強

注) 採用する既製品の仕様による
 ● 計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
 ● 梁端部 (内法スパン L の 1/10 以内かつ、2D 以内) は避ける。
 ● φ ≤ 0.4D
 ● 補強プレートはウェブ厚同等以上とする。

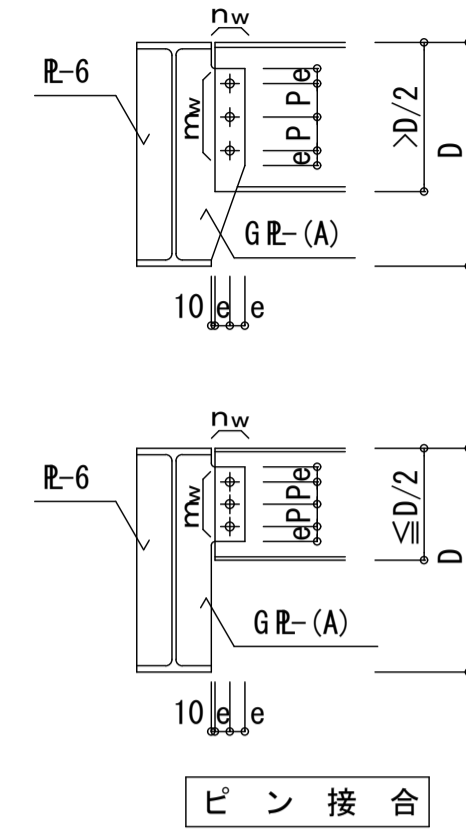
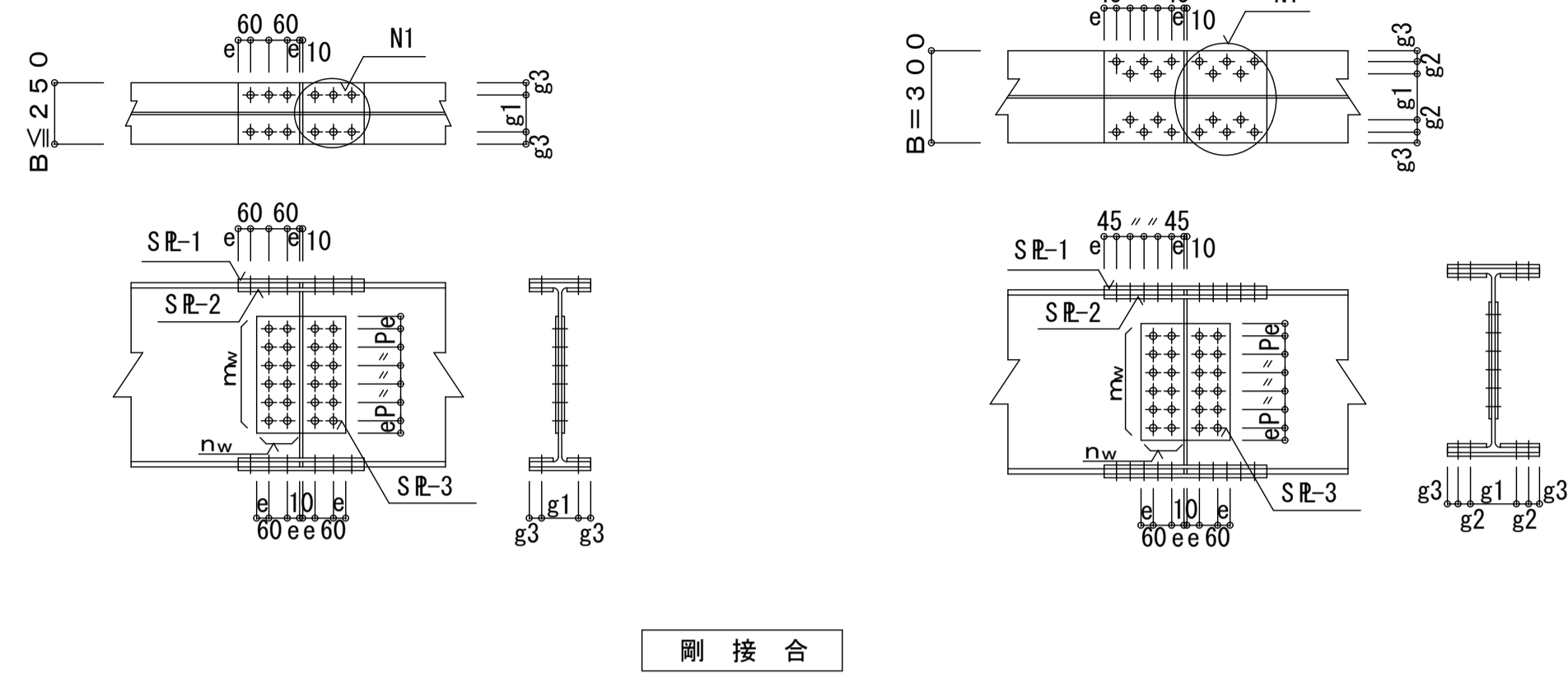


プレート補強の板厚

| スリーブ径 | 補強板 |
|-----------|-------------------|
| φ ≤ 0.15D | 補強板不要 |
| φ ≤ D/4 | Web板厚以上 (片面) |
| φ ≤ D/3 | Web板厚x1.2倍以上 (片面) |
| φ ≤ 0.4D | Web板厚以上 (両面) |

梁継手リスト (H形)

特記なき限り 1. 鉄骨構造標準接合部 (SCSS-H97) による。 2. 部材とSRの材質は同じとする。



鉄骨共通事項

- 1. 部材接合面に1mmを超えるはだすぎが生じる場合には、接合面にフィラープレートを挿入すること。
2. 高力ボルトの孔径は公称軸径d+2mmとする。
3.
4. 端あきe=40とする。但し※印部材のウェブはe1=70とする。

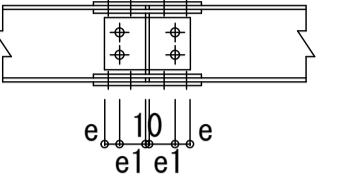


Table with columns: 呼び, 孔径, B, g1, g2, g3. Rows include M16, M20, M22 with various hole diameters and spacing values.

・フランジ・ウェブは、同径のボルトとする。

Main table listing beam materials (SS400, SM490A, SN400B) and their connections. Columns include material, dimensions (H, T, B, R), connection type (剛接合, ピン接合), and specific connection details like flange and web configurations.

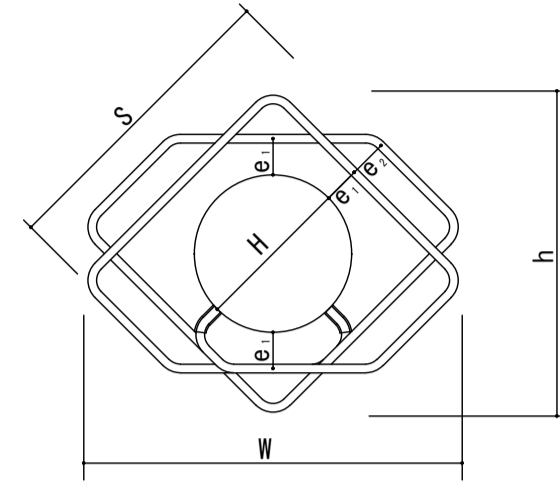
※A3版の場合は50%縮小とする。

梁貫通孔補強筋 スーパーハリーZ Mタイプ標準図 (参考)

一般財団法人日本建築センターによる一般評定
「BCJ評定-RC0224-06」(平成30年3月14日付)

株式会社 栗本鐵工所
建材事業部 生産管理部
スーパーハリー計算センター
TEL:0280(97)1305

1. スーパーハリーZ Mタイプ形状寸法及び重量



タイプ別 e 寸法一覧

| TYPE | e ₁ | e ₂ |
|------|----------------|----------------|
| M A | 43 | 43 |
| M B | 44 | 45 |
| M C | 46 | 48 |
| M D | 47 | 51 |
| M E | 49 | 55 |

使用材料

KSS785-K
(認定番号 MSRB-0004)

タイプ別キャップ色一覧

| TYPE | キャップ色 |
|------|-------|
| M A | 白色 |
| M B | 黄色 |
| M C | 青色 |
| M D | 緑色 |
| M E | 赤色 |

| 呼径 | 適用孔徑
(スリーブ外径) | MA (S6) | | | | MB (S8) | | | | MC (S10) | | | | MD (S13) | | | | ME (S16) | | | |
|-----|------------------|---------|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|----------|------|-----|-----|----------|------|-----|------|----------|------|-----|------|
| | | h | W | S | 重量 | h | W | S | 重量 | h | W | S | 重量 | h | W | S | 重量 | h | W | S | 重量 |
| 100 | ~114 | 273 | 334 | 286 | 1.0 | 272 | 336 | 292 | 1.6 | 274 | 342 | 302 | 2.3 | 272 | 344 | 310 | 4.1 | 272 | 350 | 322 | 6.5 |
| 125 | ~140 | 310 | 370 | 312 | 1.1 | 309 | 373 | 318 | 1.7 | 311 | 379 | 328 | 2.5 | 309 | 381 | 336 | 4.5 | 309 | 387 | 348 | 7.2 |
| 150 | ~165 | 345 | 406 | 337 | 1.2 | 345 | 408 | 343 | 1.9 | 346 | 414 | 353 | 2.8 | 344 | 416 | 361 | 4.9 | 345 | 422 | 373 | 7.9 |
| 175 | ~200 | 395 | 455 | 372 | 1.4 | 394 | 458 | 378 | 2.1 | 396 | 464 | 388 | 3.1 | 394 | 466 | 396 | 5.5 | 394 | 472 | 408 | 8.8 |
| 200 | ~225 | 430 | 491 | 397 | 1.5 | 429 | 493 | 403 | 2.3 | 431 | 499 | 413 | 3.3 | 429 | 501 | 421 | 6.0 | 429 | 507 | 433 | 9.4 |
| 225 | ~250 | 465 | 526 | 422 | 1.6 | 465 | 528 | 428 | 2.5 | 467 | 535 | 438 | 3.6 | 465 | 537 | 446 | 6.4 | 465 | 543 | 458 | 10.1 |
| 250 | ~275 | 501 | 561 | 447 | 1.7 | 500 | 564 | 453 | 2.6 | 502 | 570 | 463 | 3.8 | 500 | 572 | 471 | 6.8 | 500 | 578 | 483 | 10.8 |
| 275 | ~287 | 518 | 578 | 459 | 1.7 | 517 | 581 | 465 | 2.7 | 519 | 587 | 475 | 3.9 | 517 | 589 | 483 | 7.0 | 517 | 595 | 495 | 11.1 |
| 300 | ~325 | 571 | 632 | 497 | 1.9 | 571 | 634 | 503 | 2.9 | 573 | 641 | 513 | 4.3 | 571 | 643 | 521 | 7.6 | 571 | 649 | 533 | 12.1 |
| 325 | ~337 | 588 | 649 | 509 | 1.9 | 588 | 651 | 515 | 3.0 | 590 | 658 | 525 | 4.4 | 588 | 660 | 533 | 7.8 | 588 | 666 | 545 | 12.4 |
| 350 | ~375 | - | - | - | - | 642 | 705 | 553 | 3.3 | 643 | 711 | 563 | 4.8 | 641 | 713 | 571 | 8.5 | 642 | 719 | 583 | 13.4 |
| 400 | ~414 | - | - | - | - | 697 | 760 | 592 | 3.5 | 699 | 766 | 602 | 5.1 | 696 | 769 | 610 | 9.1 | 697 | 775 | 622 | 14.5 |
| 450 | ~465 | - | - | - | - | 769 | 832 | 643 | 3.9 | 771 | 839 | 653 | 5.6 | 769 | 841 | 661 | 10.0 | 769 | 847 | 673 | 15.8 |
| 500 | ~516 | - | - | - | - | - | - | - | - | 843 | 911 | 704 | 6.1 | 841 | 913 | 712 | 10.9 | 841 | 919 | 724 | 17.2 |
| 550 | ~550 | - | - | - | - | - | - | - | - | 891 | 959 | 738 | 6.4 | 889 | 961 | 746 | 11.4 | 889 | 967 | 758 | 18.1 |
| 600 | ~600 | - | - | - | - | - | - | - | - | 962 | 1030 | 788 | 6.9 | 960 | 1032 | 796 | 12.3 | 960 | 1038 | 808 | 19.4 |
| 650 | ~650 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1032 | 1100 | 838 | 7.4 | 1030 | 1102 | 846 | 13.1 | 1030 | 1108 | 858 | 20.7 |
| 700 | ~700 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1103 | 1171 | 888 | 7.8 | 1101 | 1173 | 896 | 14.0 | 1101 | 1179 | 908 | 22.0 |
| 750 | ~750 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1174 | 1242 | 938 | 8.3 | 1172 | 1244 | 946 | 14.8 | 1172 | 1250 | 958 | 23.3 |

※外径 H、h、W、S、e の単位は mm 重量の単位は kg/組

2. 一般事項および適用範囲

■一般事項

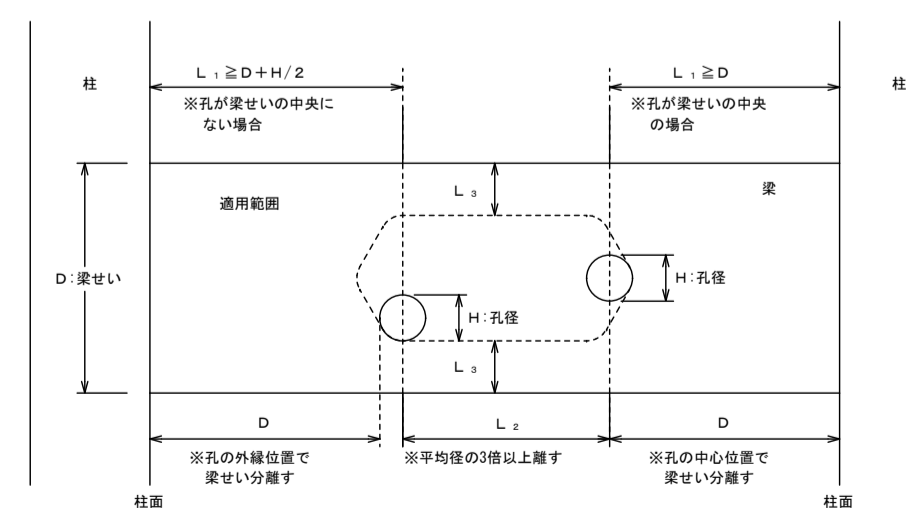
- ・施工に先立ち、補強計算書にもとづきスーパーハリーZ Mタイプの種類、枚数の確認を行い、あばら筋、結束線の用意をする。
- ・製品には鉄筋径別に色分けされたアンカーキャップや製品種類を記載したラベルが取り付けられているので間違いが無いかな必ず確認する。
- ・製品は錆の発生、コンクリートとの付着性能を損なう物質(油、泥等)の付着を避け保管する。

■使用材料の適用範囲

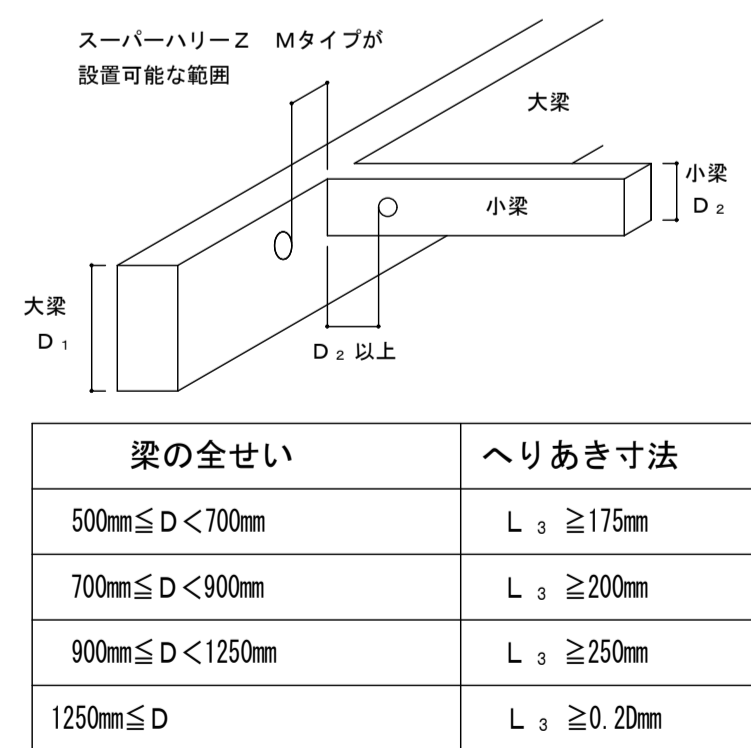
コンクリート : Fc21~67
鉄筋 : 主筋 SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490 (JIS G 3112)
あばら筋 SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490 (JIS G 3112)
590N/mm²級鋼, 685N/mm²級鋼, 785N/mm²級鋼, 1275N/mm²級鋼 (建築基準法第37条第二号適合品)
スーパーハリーZ Mタイプ KSS785-K (認定番号MSRB-0004)

■貫通孔適用範囲

- (1) 孔径 (H)
孔径は100~750mmとし、梁せい (D) の1/3以下とする。
- (2) 孔位置
a) 柱際から水平方向の孔中心位置 (L1)
柱際から水平方向の孔中心位置 L1は、孔が梁せいの中央にある場合 L1 ≥ D とする。それ以外は L1 ≥ D+H/2 とする。
b) 孔間中心距離 (L2)
孔が複数あるときの孔の中心水平間隔 L2は、孔平均径の3倍以上とする。
c) へりあき最小寸法
へりあき最小寸法 L3は表の値とする。
大梁と小梁が直交する箇所での孔位置は右図による。



D : 梁せい H : 孔径 (スリーブ外径)
L₁ : 柱際から孔の中心までの距離
L₂ : 孔と孔の中心水平距離
L₃ : 梁の上下面から孔面までの距離

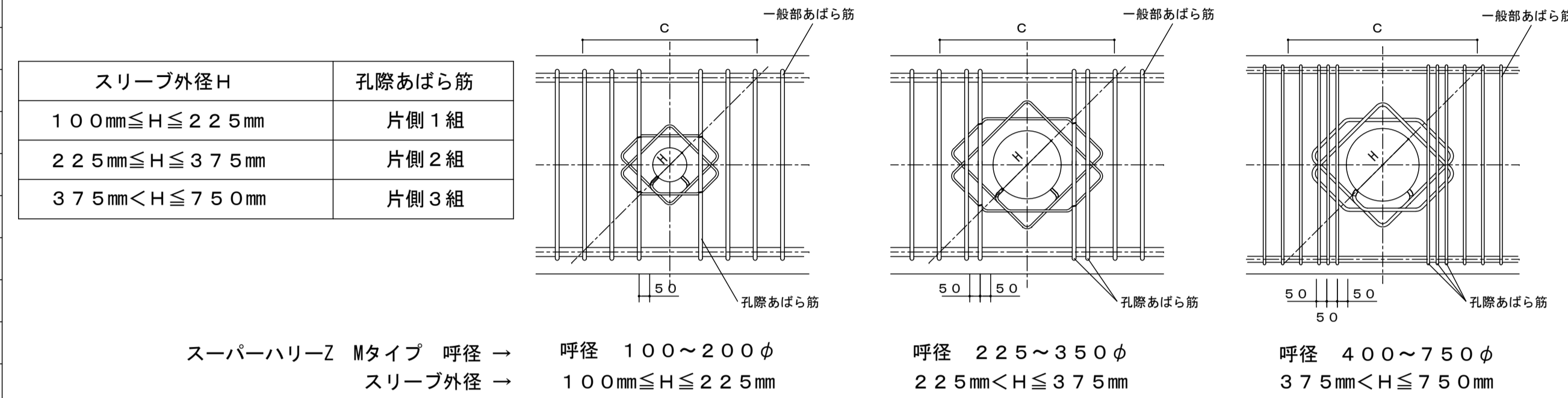


| 梁の全せい | へりあき寸法 |
|--------------------|-------------------------|
| 500mm ≤ D < 700mm | L ₃ ≥ 175mm |
| 700mm ≤ D < 900mm | L ₃ ≥ 200mm |
| 900mm ≤ D < 1250mm | L ₃ ≥ 250mm |
| 1250mm ≤ D | L ₃ ≥ 0.2Dmm |

3. スーパーハリーZ Mタイプ標準配筋図

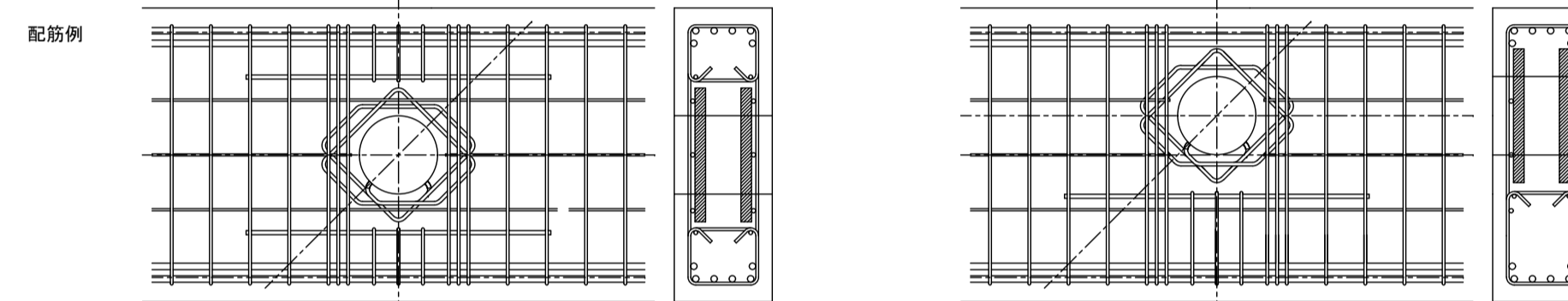
■孔際あばら筋

通常配筋されるあばら筋を孔の両側に寄せて使用する。孔の両側には、必ず孔際あばら筋を1組以上配筋する。
標準配筋は下図の通りとする。施工の際には、必ず補強計算書を確認し、孔際あばら筋の配筋に注意する。



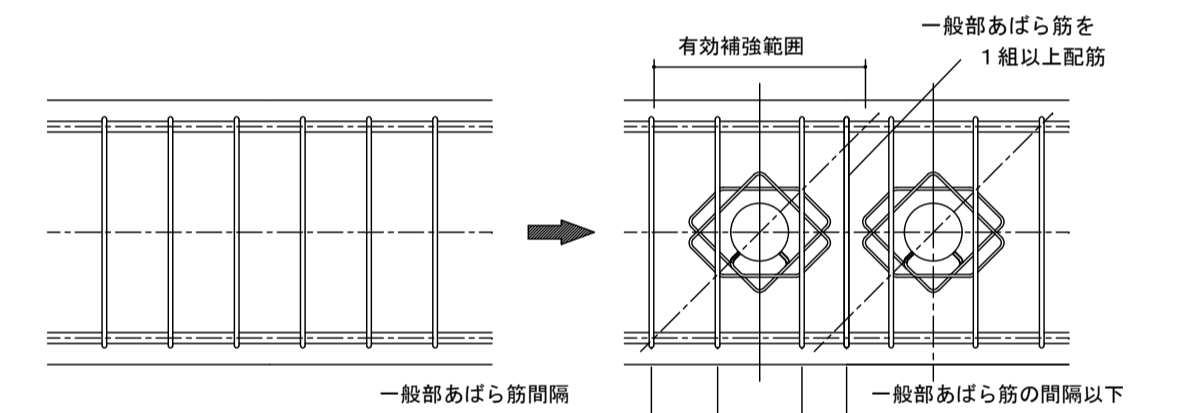
■孔上下の補強方法

孔径が400mm以上となる場合は、補強計算より求められた補強筋の他、孔上下位置に配筋を行う。



■孔が近接して複数ある場合

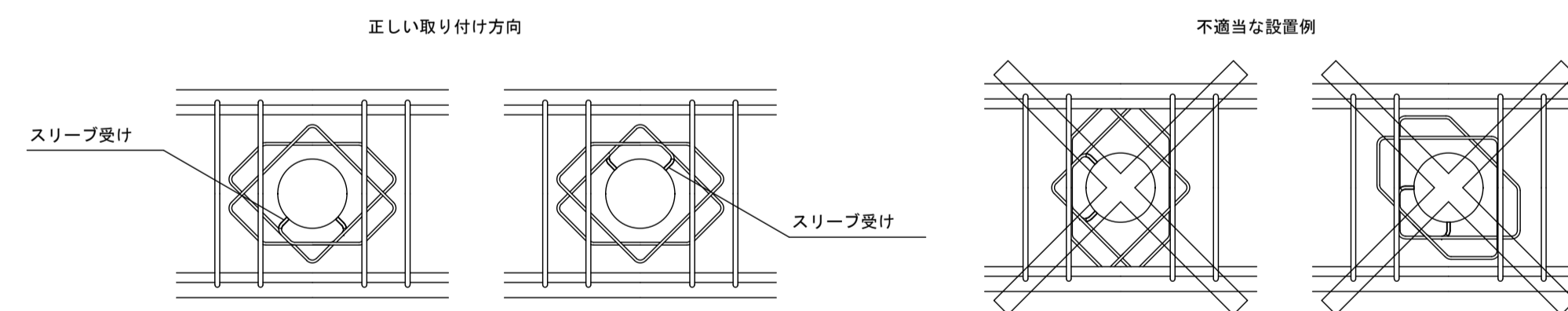
孔が近接して複数ある場合、各々の孔際には、孔際あばら筋を1組以上配筋する。
また、孔-孔間のあばら筋は一般部あばら筋の間隔以下になるようにし、一般部あばら筋を1組以上配筋する。
ただし、鉄筋のあきが確保できない場合はこの限りではない。



4. スーパーハリーZ Mタイプ施工要領

■施工上の留意点

- (1) 製品の方向
スリーブ受けが孔の上または下になるように取り付ける。裏表の区別はない。



(2) かぶり厚さの確認

スーパーハリーZ Mタイプのかぶり厚さを確保する。

(3) 製品の取り付け位置の保持方法

スーパーハリーZ Mタイプは図に示すようにあばら筋の内側に取り付け、結束線で孔際あばら筋に4~6ヶ所程度結束する。
梁断面から見たスーパーハリーZ Mタイプどうしの間隔は、鉄筋のあきを確保する。

(4) 製品の取り付け検査

製品の取り付け検査は、設計マニュアルのチェックシートを参考に実施する。

■標準的な施工順序

- (1) 孔際あばら筋本数及びスーパーハリーZ Mタイプのタイプを確認する。
- (2) 孔際あばら筋、一般部あばら筋を配筋する。
- (3) あばら筋内側にスーパーハリーZ Mタイプを設置し、結束線で4~6ヶ所程度結束する。
- (4) 有効補強範囲内の鉄筋間隔が適当であるか確認する。

Ver 1. 2

※スーパーハリーZ Mタイプ標準図の評定内容など、製品の性能に関わる内容の編集はご遠慮下さい。編集された内容については弊社では責任を負いかねます。

| 記 | 工事名称 | 設計年月 |
|---|--|---|
| | 温水プール改築工事 (建築工事) | 令和6年2月 |
| 事 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
構造設計一級建築士 第3858号
一級建築士 (大士) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面名称
スーパーハリーZ Mタイプ標準図 (参考図)
縮尺
A1:1/-
図面番号
S-007 |

※A3版の場合は50%縮小とする。

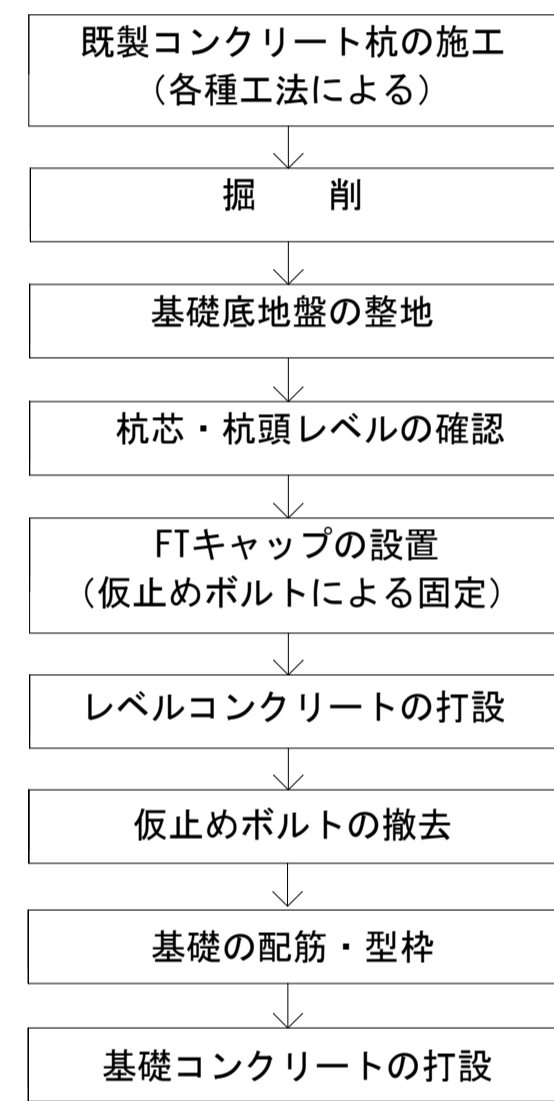
■構法概要

1. 本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
2. 杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周とパイルキャップの界面にテーパ状のクリアランスを設ける。
3. 杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。

■使用材料（適用範囲）

- ・杭：各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭等）
- ・杭径：300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）：普通コンクリート 設計基準強度：18～60 N/mm²
（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

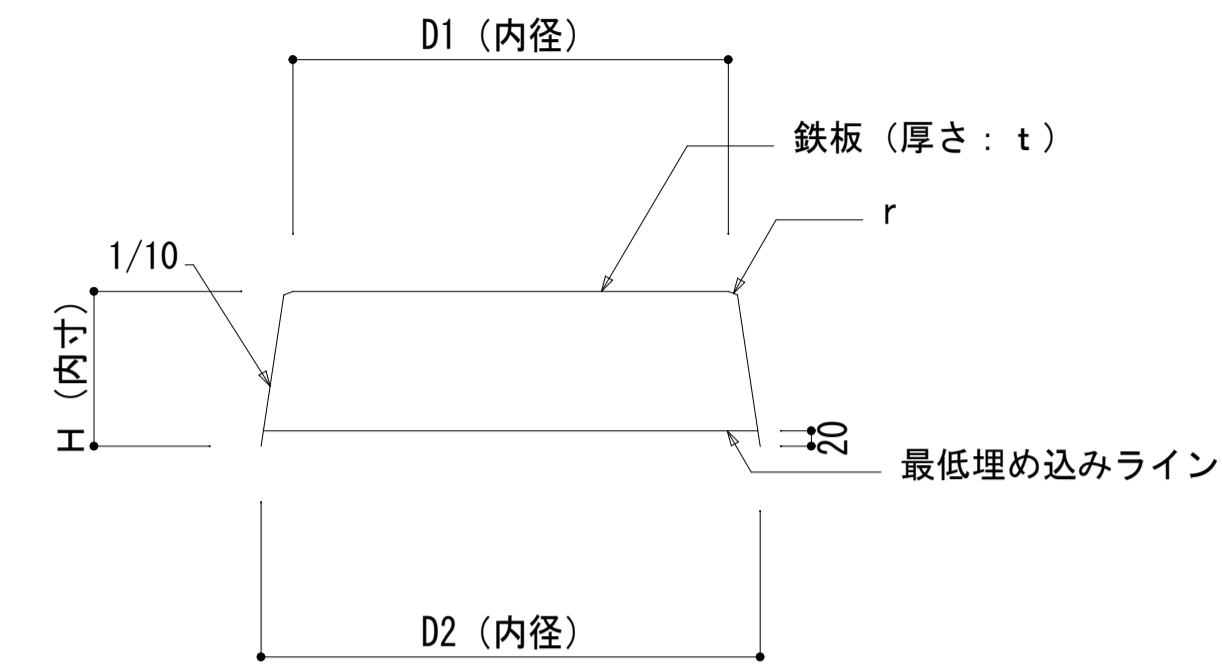
■施工手順



*留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- ・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーパ型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。
- ・FTキャップ設置後に木槌等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで砕石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスペーサー等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

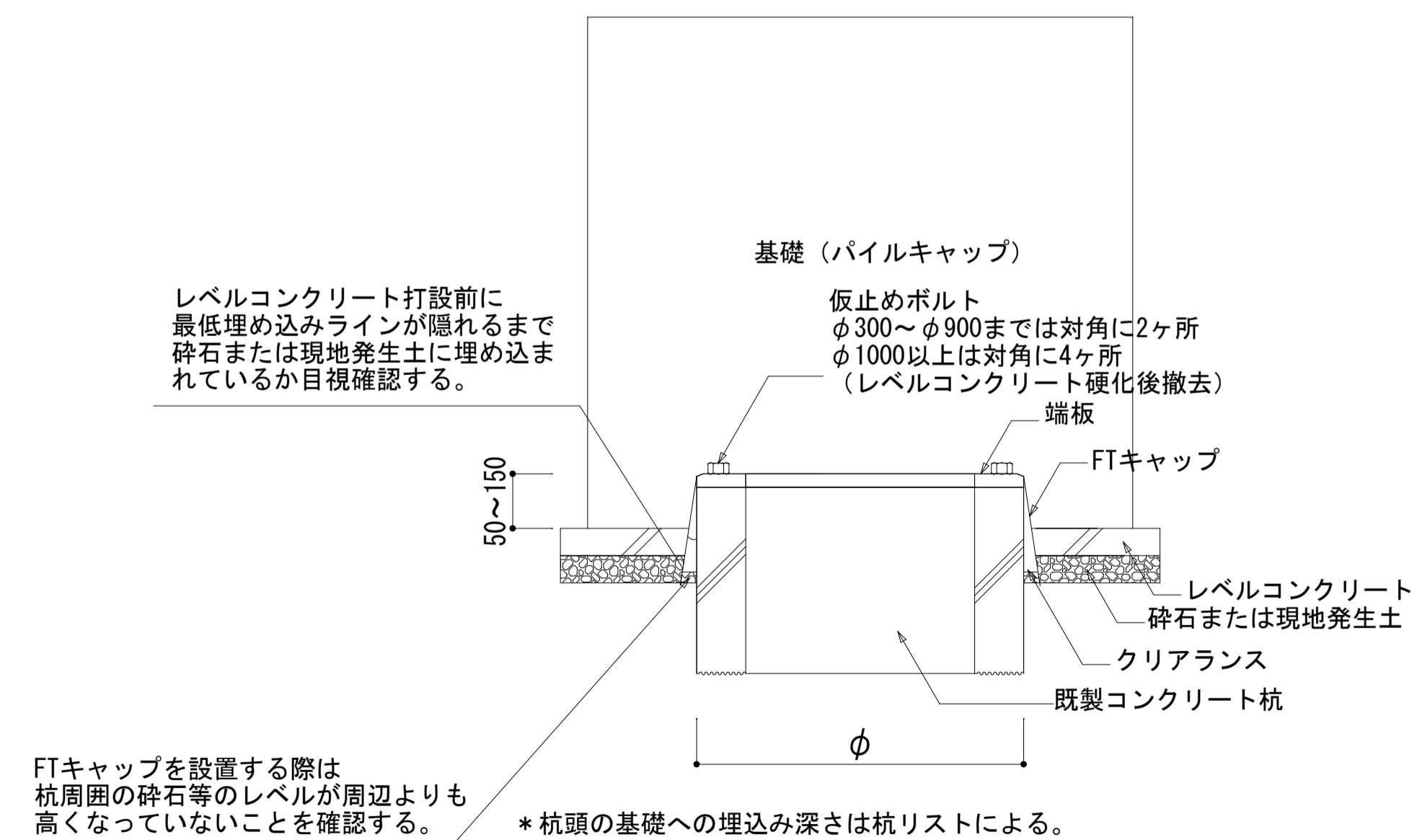
■FTキャップ（テーパ型枠）仕様



| 杭径：φ | 鉄板厚さ：t (mm) | D1 (mm) | D2 (mm) | H (mm) | r (mm) | W (kg) |
|------|-------------|---------|---------|--------|--------|--------|
| 300 | 1.2 | 301 | 345 | 201 | 2.0 | 1.8 |
| 350 | 1.2 | 351 | 395 | 201 | 2.0 | 2.3 |
| 400 | 1.2 | 401 | 445 | 201 | 2.0 | 2.7 |
| 450 | 1.2 | 451 | 495 | 201 | 2.0 | 3.2 |
| 500 | 1.2 | 501 | 545 | 201 | 2.0 | 3.8 |
| 600 | 1.6 | 601 | 645 | 201 | 2.0 | 7.2 |
| 700 | 1.6 | 701 | 745 | 201 | 2.0 | 9.0 |
| 800 | 2.0 | 801 | 845 | 201 | 2.0 | 13.8 |
| 900 | 2.0 | 901 | 945 | 201 | 2.0 | 17.4 |
| 1000 | 2.3 | 1001 | 1045 | 201 | 2.0 | 23.9 |
| 1100 | 3.2 | 1101 | 1145 | 201 | 2.0 | 38.6 |
| 1200 | 3.2 | 1201 | 1245 | 201 | 2.0 | 44.3 |

- *FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。
- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
- ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図



Hyper-MEGA工法(膨張型) 特記仕様書

1. 一般事項

- 1) 本工事に採用する工法は「Hyper-MEGA工法」(認定番号:TACP-0527号,TACP-0528号,TACP-0529号)とする。
- 2) 工事着手前に、工事概要・工程・使用する杭の明細・使用機械等を明記した施工計画書を作成し、監督員の承認を得る。
- 3) 工事施工者および管理者は、ジャパンパイル株式会社もしくはジャパンパイル株式会社承認した施工会社とする。ただし、後者の場合でも地盤の許容支持力については、ジャパンパイル株式会社が責任を負う。

2. 使用杭

- 1) 杭の構造

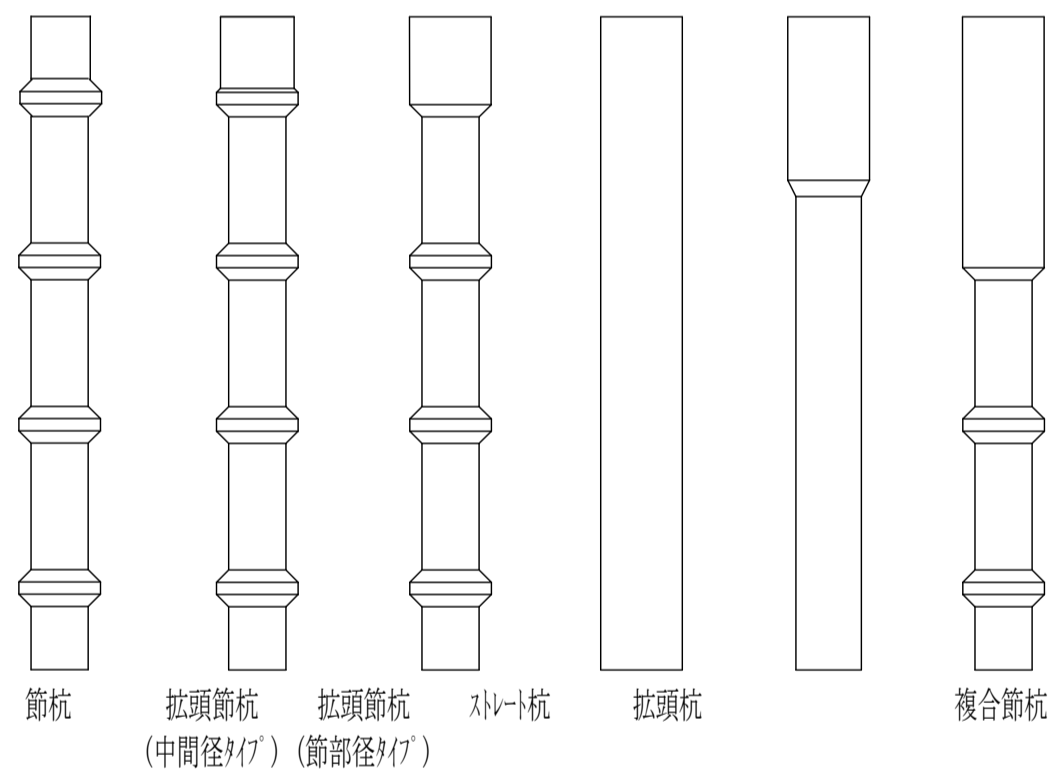
使用する杭は下記のものとする。

 - ①平成13年国土交通省告示第1113号8号第二号、第三号、第四号、第五号及び第六号の何れかに基づきコンクリートの許容応力度が規定された既製コンクリート杭。
 - ②建築基準法施工令第90条、平成12年国土交通省告示第2464号第1、第2に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼管。
- 2) 杭の構成

節杭(拡頭節杭、複合杭を含む)のみ、または節杭(拡頭節杭を含む)とこの上方に継いで使用するスリット杭(拡頭杭を含む)により基礎杭を構成する。なお、下杭には必ず節杭(拡頭節杭を含む)を使用する。
- 3) 杭径
 - ①節杭(拡頭節杭を含む)の径は、以下のとおりである。
 - 節部径 φ440～φ1200mm
 - 軸部径 φ300～φ1000mm
 - ②スリット杭(拡頭杭を含む)の径は、以下のとおりである。
 - 杭径 φ298.4～φ1200mm

- 4) 杭姿図

使用する杭の姿図の例を示す。



- 5) 最大施工深さ

最大施工深さは、先端地盤が砂質地盤の場合は杭施工地盤面-68.5m、先端地盤が礫質地盤の場合は杭施工地盤面-68.5m、先端地盤が粘土質地盤の場合は杭施工地盤面-60.0mとする。

3. 試験杭

- 1) 試験杭は、本工事に先立ち、設計・施工計画の妥当性を確認するために実施する。
- 2) 試験杭の位置および数量は、設計図書による。なお、地盤調査・敷地状況・建築物の平面計画等を考慮し、設計者・監督員と協議して決定する。
- 3) 試験杭では、本工事と同一寸法の杭、本工事に使用予定の機械器具を用いることを原則とし、次の項目について確認する。
 1. 施工能率
 2. 使用機械・設備の適否
 3. 掘削液と充填液の配合・使用量の適否
 4. 地盤の構成(逸水の有無、地中障害の有無)
 5. 先端地盤の確認
 6. 根固め部の品質管理
 7. 高止まりの有無

4. 施工方法

代表的な施工手順(拡翼作業を伴い拡大掘削長が杭長の30%以上の場合)を下図に示し、概要を以下に記述する。

- ①杭心セット～掘削

杭打ち機を所定の位置に据え付け、拡大ヘッドを杭心に合わせ掘削心及び鉛直性を確認しつつ、適宜、掘削液を送りながら地盤に適した速度で所定の位置まで掘削する。
- ②掘削完了～根固め部築造

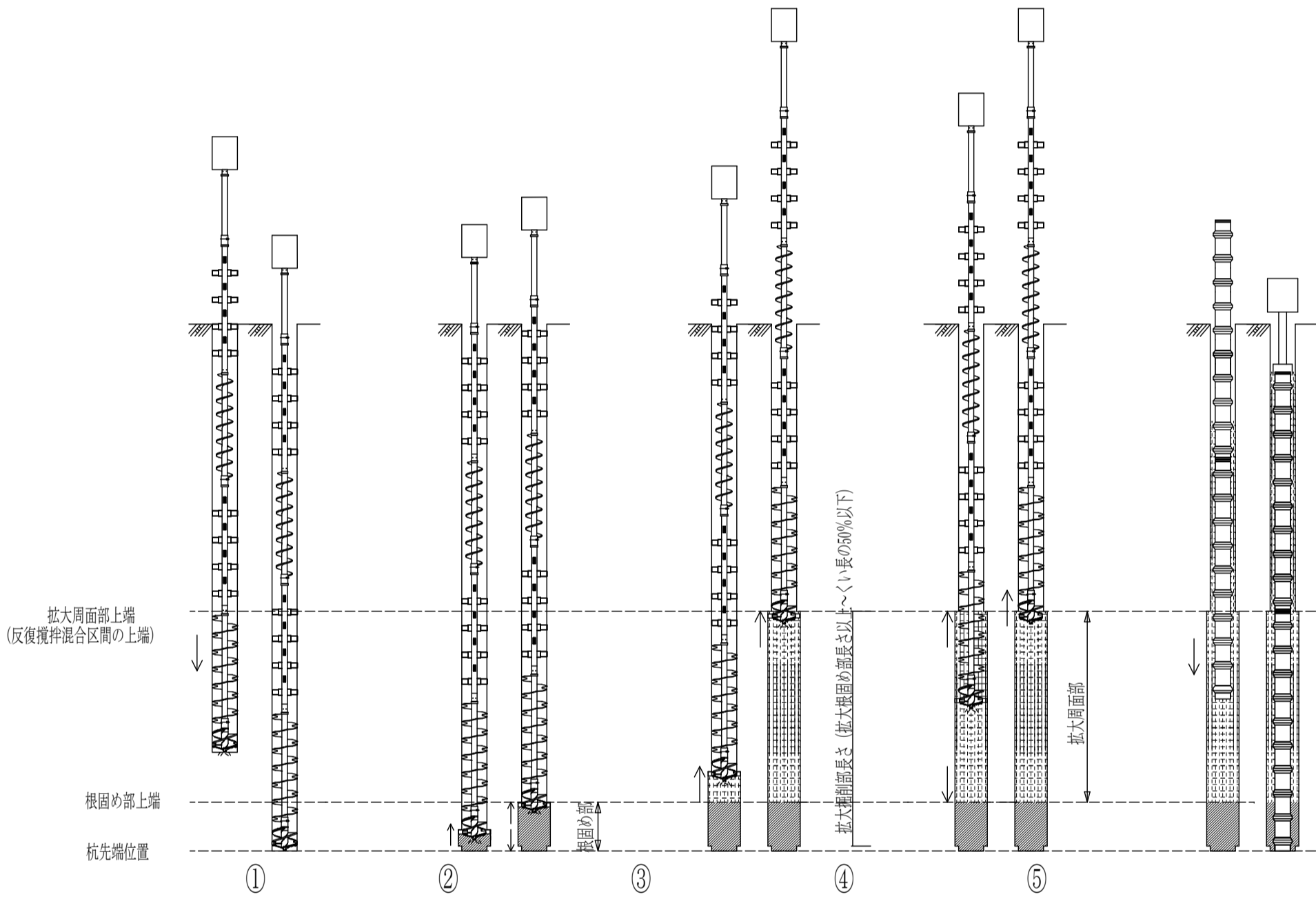
所定深度まで掘削後、拡大ヘッドの拡大翼を拡翼し、根固め液を注入しながら根固め部範囲において地盤の種類に応じた注入方法で根固め部を築造する。
- ③杭周充填液注入

根固め部上端から膨張材を用いた杭周充填液を注入しながら、所定の範囲を拡大掘削する。
- ④攪拌混合～掘削装置の引き上げ

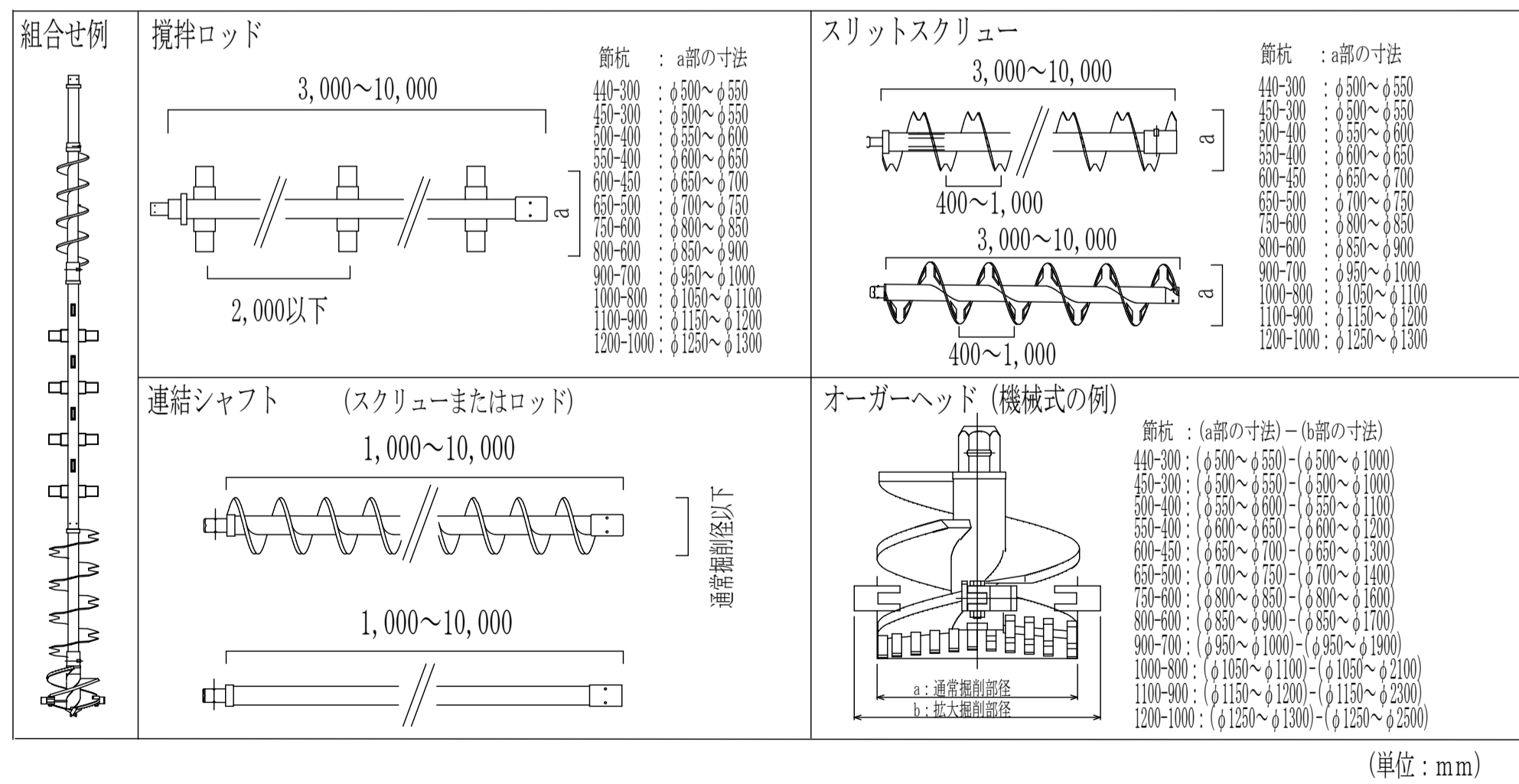
掘削装置を上下反復して、杭周充填液と掘削土砂を攪拌混合する。攪拌混合終了後、拡大翼を開翼して掘削装置を引き上げる。
- ⑤杭の建て込み

掘削孔内に鉛直性を確認しながら杭を建て込む。杭の自重による建て込み後、回転圧入、またはモンケンで圧入・軽打することにより、所定の深度まで杭を定着させる。なお、継杭の場合(溶接継手または機械式継手の場合)は、下杭を保持装置等で保持し、上下の杭の鉛直性を確認して接続し、その後杭を建て込む。

なお、試験掘削または試験杭の結果や地盤状況に応じて、0～0.5m範囲で余掘りを行う場合がある。また、地盤状況に応じて充填液(根固め液、杭周充填液)の注入攪拌前に拡翼作業を行う場合がある。



5. 掘削装置の形状および寸法



6. 充填材の配合と管理

- 1) 材料
 1. セメントは、普通ポルトランドセメントまたは高炉セメントB種を用いる。
 2. 練り混ぜに使用する水は、上水道水またはセメント硬化に悪影響のない水とする。
- 2) 杭周充填液

杭周充填液は、杭体と地盤とを一体化させ、膨張材の効果により杭周面摩擦抵抗を大きく発現させる目的で注入し、水固化材比は85%以下とする。

杭周充填液の標準配合(対象土1mあたり)を下表に示す。

| セメント種 | 膨張材種 | 水固化材比 W/(C+K) (%) | 膨張材置換率 K/(C+K) (%) | セメント C (kg) | 膨張材 K (kg) | 水 W (%) | 注入量 (m ³) |
|--------------|------|-------------------|--------------------|-------------|------------|---------|-----------------------|
| 普通ポルトランドセメント | 無水石膏 | 85 | 6 | 269 | 17 | 243 | 0.334 |
| | 二水石膏 | | 8 | 262 | 23 | 241 | 0.334 |
| 高炉セメントB種 | 無水石膏 | 85 | 7 | 264 | 20 | 241 | 0.334 |
| | 二水石膏 | | 9 | 257 | 25 | 239 | 0.334 |

*セメント:比重3.15(普通ポルトランドセメント)、比重3.05(高炉セメントB種)の場合
膨張材:比重2.9(無水石膏)、2.31(二水石膏)の場合

- 3) 根固め液

杭先端部に、先端支持力を確保するために根固め部の体積量以上を注入し、杭先端平均N値(N₁)と拡大比(ω)に応じて、水セメント比は下記の値以下とする。

| 拡大比 | 水セメント比 | | |
|-----------------|---------------------|--------------------------|---------------------|
| | N ₁ ≤ 20 | 20 < N ₁ ≤ 40 | 40 < N ₁ |
| 1.0 ≤ ω ≤ 1.25 | 100% | 85% | 65% |
| 1.25 < ω ≤ 1.75 | 85% | 60% | 60% |
| 1.75 < ω ≤ 2.0 | 85% | 60% | 55% |

- 4) 強度の管理

管理試験は、充填液について下表により行う。

| 杭の種類 | 回数 | |
|------|----------|------------------|
| 試験杭 | 1本毎 | |
| 本杭 | 継ぎ手のある場合 | 20本毎またはその端数につき1回 |
| | 継ぎ手のない場合 | 30本毎またはその端数につき1回 |

1. 1回の試験の、供試体の数は杭周充填液および根固め液を各3本とする。
2. 供試体は、(公社)土木学会「コンクリート標準示方書(規準編)」のPCグラウトのブリーディング率および膨張率試験方法によるポリエチレン袋、(一社)コンクリートパイル建設技術協会「埋込工法に用いる根固め液及び杭周固定液の圧縮強度試験方法」によるポリエチレン袋、またはこれと同等な袋を用いて、グラウトプラントより採取し、直径50mm・高さ100mm程度の円柱形に仕上げる。
3. 強度試験は、JIS A 1108(コンクリートの圧縮試験方法)による。
4. 充填液の圧縮強さは、材齢28日とし、1回の試験の平均値は下表により管理する。なお、個々の値は、管理値の85%以上の値にて管理する。

| 杭周充填液 | 根固め液 | | | |
|------------------------|-----------------|------------------------|--------------------------|------------------------|
| | 拡大比 | N ₁ ≤ 20 | 20 < N ₁ ≤ 40 | 40 < N ₁ |
| 10N/mm ² 以上 | 1.0 ≤ ω ≤ 1.25 | 10N/mm ² 以上 | 17N/mm ² 以上 | 22N/mm ² 以上 |
| | 1.25 < ω ≤ 1.75 | 17N/mm ² 以上 | 25N/mm ² 以上 | 25N/mm ² 以上 |
| | 1.75 < ω ≤ 2.0 | 17N/mm ² 以上 | 25N/mm ² 以上 | 30N/mm ² 以上 |

- 5) 充填液の密度管理
 1. 杭周充填液および根固め液の密度測定を1日1回以上行う。
 2. 計量・練り混ぜ及び計測のばらつきを考慮し、かつ、所定の圧縮強度が得られるよう、測定結果が計算密度の-1～+3%の範囲であることを確認する。

7. 施工記録

1. 工事概要・組織
2. 実施工程表
3. 使用杭の仕様・諸元
4. 施工方法概要
5. 施工機械の仕様
6. 充填液の材料・配合・使用量・試験結果
7. 試験杭または試験掘削の記録
8. 本杭施工記録
9. 杭配置図
10. 地盤調査結果
11. その他必要事項

| 記 | 事項 | 工事名称 | | 設計年月 | |
|--|----|--------------------------------|---|-----------------------------|--------|
| | | 温水プール改築工事(建築工事) | | 令和6年2月 | |
| 株式会社 練企画設計 名古屋支店 | | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号 | 印 | 図面名称 | 縮尺 |
| 練企画設計 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計一級建築士 第3856号
平野 達 | | 一級建築士(大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | ・ | Hyper-MEGA工法(膨張型)特記仕様書(参考図) | A1:1/- |
| | | | | | S-008B |

※A3版の場合は50%縮小とする。

MAGNUM工法(膨張型) 特記仕様書

1. 一般事項

- 本工事に採用する工法は「MAGNUM工法」(認定番号:TACP-0562号(粘土質地盤),TACP-0563号(礫質地盤),TACP-0564号(砂質地盤))とする。
- 工事着手前に、工事概要・工程・使用する杭の明細・使用機械等を明記した施工計画書を作成し、監督員の承認を得る。
- 工事施工者および管理者は、ジャパンパイル株式会社もしくはジャパンパイル株式会社が承認した施工会社とする。ただし、後者の場合でも地盤の許容支持力については、ジャパンパイル株式会社が責任を負う。

2. 使用杭

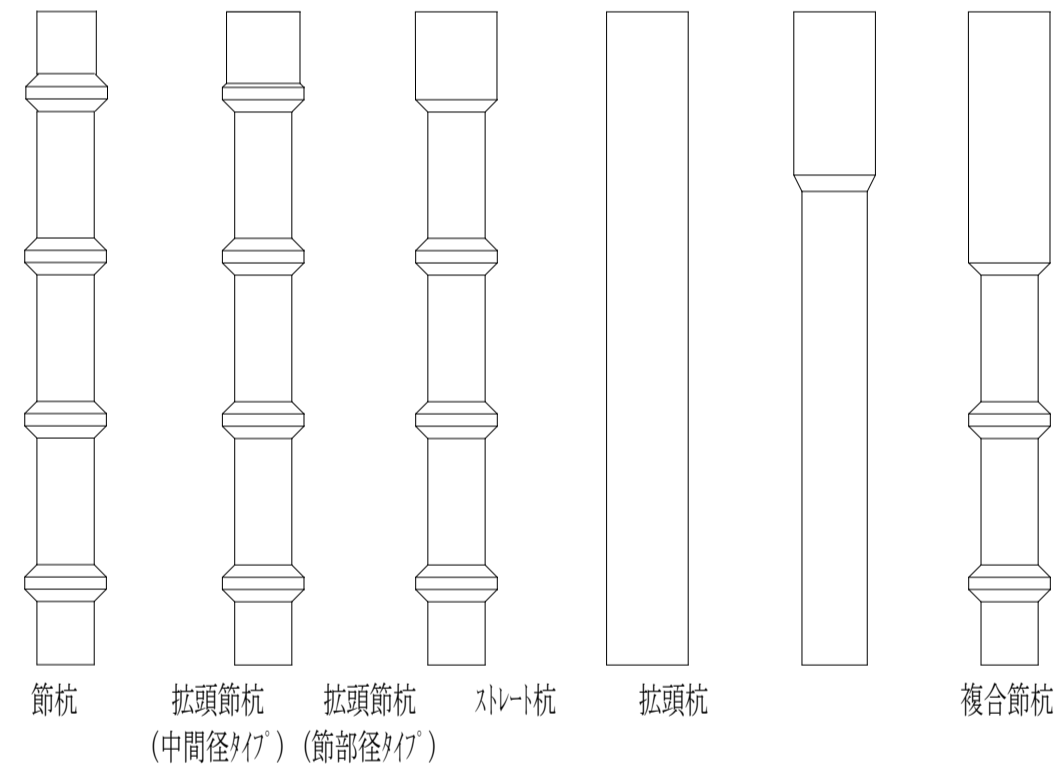
- 杭の構造

使用する杭は下記のものとする。

 - 平成13年国土交通省告示第1113号第8項第二号、第三号、第四号、第五号及び第六号の何れかに基づきコンクリートの許容応力度が規定された既製コンクリート杭。
 - 建築基準法施工令第90条、平成12年国土交通省告示第2464号第1、第2に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼管。
- 杭の構成

節杭(拡頭節杭、複合杭を含む)のみ、または節杭(拡頭節杭を含む)とこの上方に継いで使用するスリット杭(拡頭杭を含む)により基礎杭を構成する。なお、下杭には必ず節杭(拡頭節杭を含む)を使用する。
- 杭径
 - 節杭(拡頭節杭を含む)の径は、以下のとおりである。
 - 根固め部に位置する節部径 φ400~φ1200mm
 - 杭周面部に位置する節部径 φ400~φ1300mm
 - スリット杭(拡頭杭を含む)の径は、以下のとおりである。
 - 杭周面部に位置する杭径 φ300~φ1200mm
- 杭姿図

使用する杭の姿図の例を示す。



- 最大施工深さ

最大施工深さは、先端地盤が砂質地盤の場合は杭施工地盤面-68.5m、先端地盤が礫質地盤の場合は杭施工地盤面-68.5m、先端地盤が粘土質地盤の場合は杭施工地盤面-60.0mとする。

3. 試験杭

- 試験杭は、本工事に先立ち、設計・施工計画の妥当性を確認するために実施する。
- 試験杭の位置および数量は、設計図書による。なお、地盤調査・敷地状況・建築物の平面計画等を考慮し、設計者・監督員と協議して決定する。
- 試験杭では、本工事と同一寸法の杭、本工事に使用予定の機械器具を用いることを原則とし、次の項目について確認する。
 - 施工能率
 - 使用機械・設備の適否
 - 掘削液と充填液の配合・使用量の適否
 - 地盤の構成(浚水の有無、地中障害の有無)
 - 先端地盤の確認
 - 根固め部の品質管理
 - 高止まりの有無

4. 施工方法

代表的な施工手順(拡翼作業を伴わない場合)を下図に示し、概要を以下に記述する。

- 杭心カット～掘削

杭打ち機を所定の位置に据え付け、拡大ヘッドを杭心に合わせ掘削心及び鉛直性を確認しつつ、適宜、掘削液を送りながら所定の深度まで掘削する。なお拡翼作業を伴う場合においては、掘削作業前に地上にて拡翼する場合と掘削時あるいは掘削完了後に拡翼する場合がある。
- 掘削完了～根固め部築造

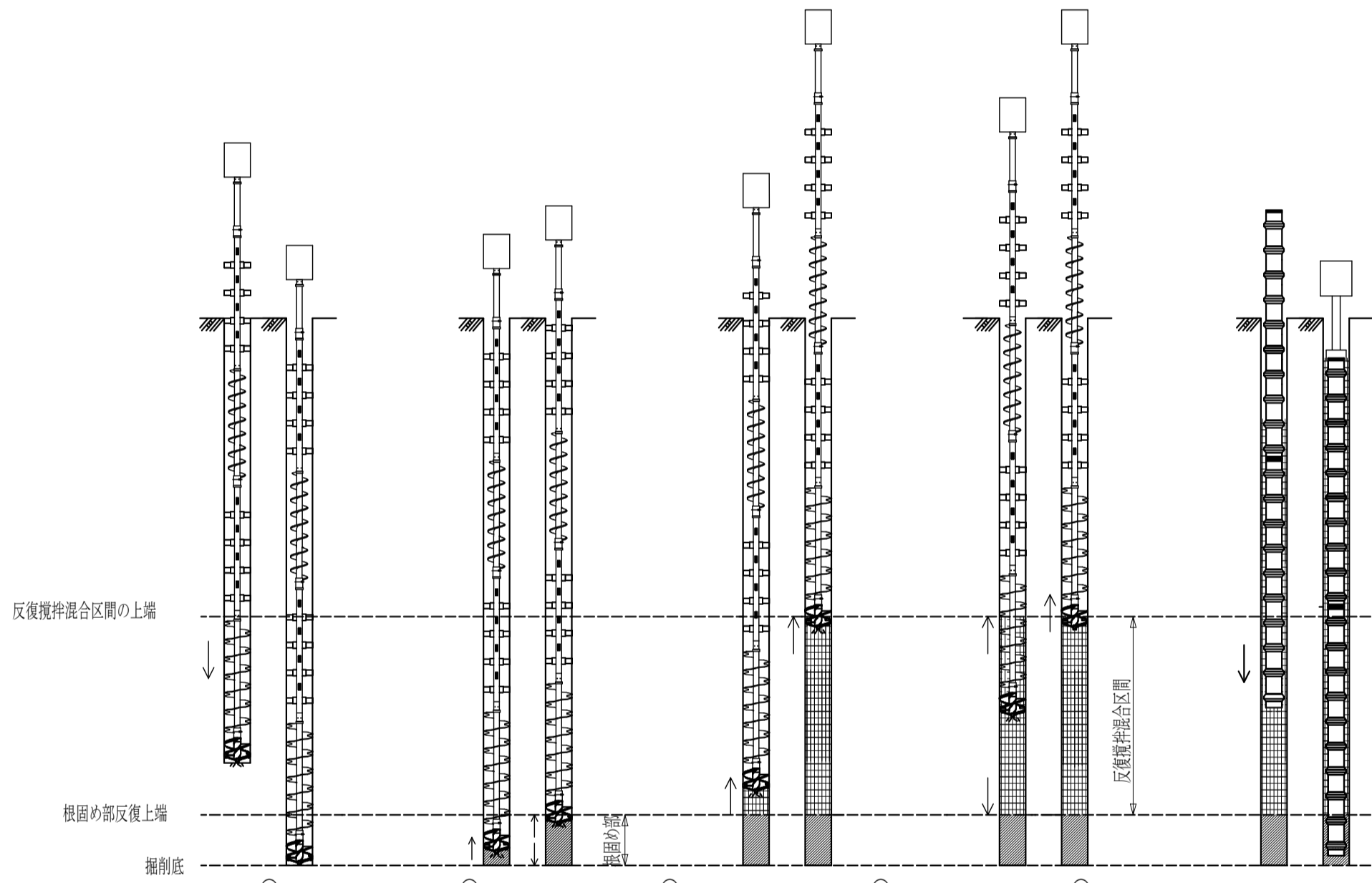
所定深度まで掘削後、根固め部範囲において地盤の種類に応じた注入方法で根固め部を築造する。
- 杭周充填液注入

根固め部上端から膨張材を用いた杭周充填液を注入しながら、所定の深度まで引き上げて掘削する。掘削時あるいは掘削完了後に拡翼する場合は、拡大掘削部全長を拡大掘削した後に杭周充填液を注入する。
- 攪拌混合～掘削装置の引き上げ

所定の範囲を上下反復して杭周充填液と掘削土砂を攪拌混合する。攪拌混合終了後、掘削装置を引き上げる。
- 杭の建て込み

掘削孔内に鉛直性を確認しながら杭を建て込む。杭の自重による建て込み後、回転圧入、またはモンケンで圧入・軽打することにより、所定の深度まで杭を沈設し、定着させる。なお、継杭の場合(溶接継手または機械式継手の場合)は、下杭を保持装置等で保持し、上下の杭の鉛直性を確認して接続し、その後杭を建て込む。

なお、試験掘削または試験杭の結果や地盤状況に応じて、0~0.5m範囲で余掘りを行う場合がある。



5. 掘削装置の形状および寸法

| 組合せ例 | 掘削装置 | 寸法 |
|------|--------------------|---|
| | 攪拌ロッド | 節部径: a部の寸法
400: φ450~φ1000
440: φ500~φ1100
480: φ550~φ1200
520: φ600~φ1300
560: φ650~φ1400
600: φ700~φ1500
640: φ750~φ1600
680: φ800~φ1700
720: φ850~φ1800
760: φ900~φ1900
800: φ950~φ2000
840: φ1000~φ2100
880: φ1050~φ2200
920: φ1100~φ2300
960: φ1150~φ2400
1000: φ1200~φ2500
1040: φ1250~φ2600
1080: φ1300~φ2700 |
| | スリットスクリー | 節部径: a部の寸法
400: φ450~φ1000
440: φ500~φ1100
480: φ550~φ1200
520: φ600~φ1300
560: φ650~φ1400
600: φ700~φ1500
640: φ750~φ1600
680: φ800~φ1700
720: φ850~φ1800
760: φ900~φ1900
800: φ950~φ2000
840: φ1000~φ2100
880: φ1050~φ2200
920: φ1100~φ2300
960: φ1150~φ2400
1000: φ1200~φ2500
1040: φ1250~φ2600
1080: φ1300~φ2700 |
| | 連結シャフト(スクリーまたはロッド) | 節部径: 通常掘削径 - 拡大掘削径
400: φ450~φ900
440: φ500~φ1000
480: φ550~φ1100
520: φ600~φ1200
560: φ650~φ1300
600: φ700~φ1400
640: φ750~φ1500
680: φ800~φ1600
720: φ850~φ1700
760: φ900~φ1800
800: φ950~φ1900
840: φ1000~φ2000
880: φ1050~φ2100
920: φ1100~φ2200
960: φ1150~φ2300
1000: φ1200~φ2400
1040: φ1250~φ2500
1080: φ1300~φ2600 |
| | オーガーヘッド | 節部径: 通常掘削径 - 拡大掘削径
400: φ450~φ900
440: φ500~φ1000
480: φ550~φ1100
520: φ600~φ1200
560: φ650~φ1300
600: φ700~φ1400
640: φ750~φ1500
680: φ800~φ1600
720: φ850~φ1700
760: φ900~φ1800
800: φ950~φ1900
840: φ1000~φ2000
880: φ1050~φ2100
920: φ1100~φ2200
960: φ1150~φ2300
1000: φ1200~φ2400
1040: φ1250~φ2500
1080: φ1300~φ2600 |

De: 拡大掘削径 (単位: mm)

6. 充填材の配合と管理

- 材料
 - セメントは、普通ポルトランドセメントまたは高炉セメントB種を用いる。
 - 練り混ぜに使用する水は、上水道水またはセメント硬化に悪影響のない水とする。
- 杭周充填液

杭周充填液は、杭体と地盤とを一体化させ、膨張材の効果により杭周面摩擦抵抗を大きく発現させる目的で注入し、水セメント比は85%標準、膨張材添加率は7%標準とする。杭周充填液の標準配合(対象土1mあたり)を下表に示す。

| セメント種 | 膨張材種 | 水セメント比 W/C (%) | 膨張材添加率 K/C (%) | セメント C (kg) | 膨張材 K (kg) | 水 W (%) | 注入量 (m ³) |
|--------------|------|----------------|----------------|-------------|------------|---------|-----------------------|
| 普通ポルトランドセメント | 無水石膏 | 85 | 7 | 420 | 29.4 | 357 | 0.500 |
| 高炉セメントB種 | 無水石膏 | 85 | 7 | 417 | 30 | 353 | 0.500 |

*セメント: 密度3.15g/cm³(普通ポルトランドセメント)、密度3.05g/cm³(高炉セメントB種)の場合
膨張材: 密度2.9g/cm³(無水石膏)

- 根固め液

杭先端部に、先端支持力を確保するために根固め部の体積量以上を注入し、杭先端平均N値(N_{平均})と拡大比(ω)に応じて、水セメント比は下記の値以下とする。

| 拡大比 | 水セメント比 | | |
|-----------------|----------------------|---------------------------|----------------------|
| | N _{平均} ≤ 20 | 20 < N _{平均} ≤ 40 | 40 < N _{平均} |
| 1.0 ≤ ω ≤ 1.25 | 65% | 65% | 65% |
| 1.25 < ω ≤ 1.75 | 65% | 60% | 60% |
| 1.75 < ω ≤ 2.0 | 65% | 60% | 55% |

- 強度の管理

管理試験は、充填液について下表により行う。

| 杭の種類別 | | 回数 |
|-------|----------|------------------|
| 試験杭 | | 1本毎 |
| 本杭 | 継ぎ手のある場合 | 20本毎またはその端数につき1回 |
| | 継ぎ手のない場合 | 30本毎またはその端数につき1回 |

- 1回の試験の、供試体の数は杭周充填液および根固め液を各3本とする。
- 供試体は、(公社)土木学会「コンクリート標準示方書(規準編)」のPCグラウトのブリーディング率および膨張率試験方法によるポリエチレン袋、(一社)コンクリートパイル建設技術協会「埋込工法に用いる根固め液及び杭周固定液の圧縮強度試験方法」によるポリエチレン袋、またはこれと同等な袋を用いて、グラウトプラントより採取し、直径50mm・高さ100mm程度の円柱形に仕上げる。
- 強度試験は、JIS A 1108(コンクリートの圧縮試験方法)による。
- 充填液の圧縮強さは、材齢28日とし、1回の試験の平均値は下表により管理する。なお、個々の値は、管理値の85%以上の値にて管理する。

| 杭周充填液 | 根固め液 | | | |
|------------------------|-----------------|------------------------|---------------------------|------------------------|
| | 拡大比 | N _{平均} ≤ 20 | 20 < N _{平均} ≤ 40 | 40 < N _{平均} |
| 10N/mm ² 以上 | 1.0 ≤ ω ≤ 1.25 | 10N/mm ² 以上 | 17N/mm ² 以上 | 22N/mm ² 以上 |
| | 1.25 < ω ≤ 1.75 | 17N/mm ² 以上 | 25N/mm ² 以上 | 25N/mm ² 以上 |
| | 1.75 < ω ≤ 2.0 | 17N/mm ² 以上 | 25N/mm ² 以上 | 30N/mm ² 以上 |

- 充填液の密度管理

- 杭周充填液および根固め液の密度測定を1日1回以上行う。
- 計量・練り混ぜ及び計測のばらつきを考慮し、かつ、所定の圧縮強度が得られるよう、測定結果が計算密度の-1~+3%の範囲であることを確認する。

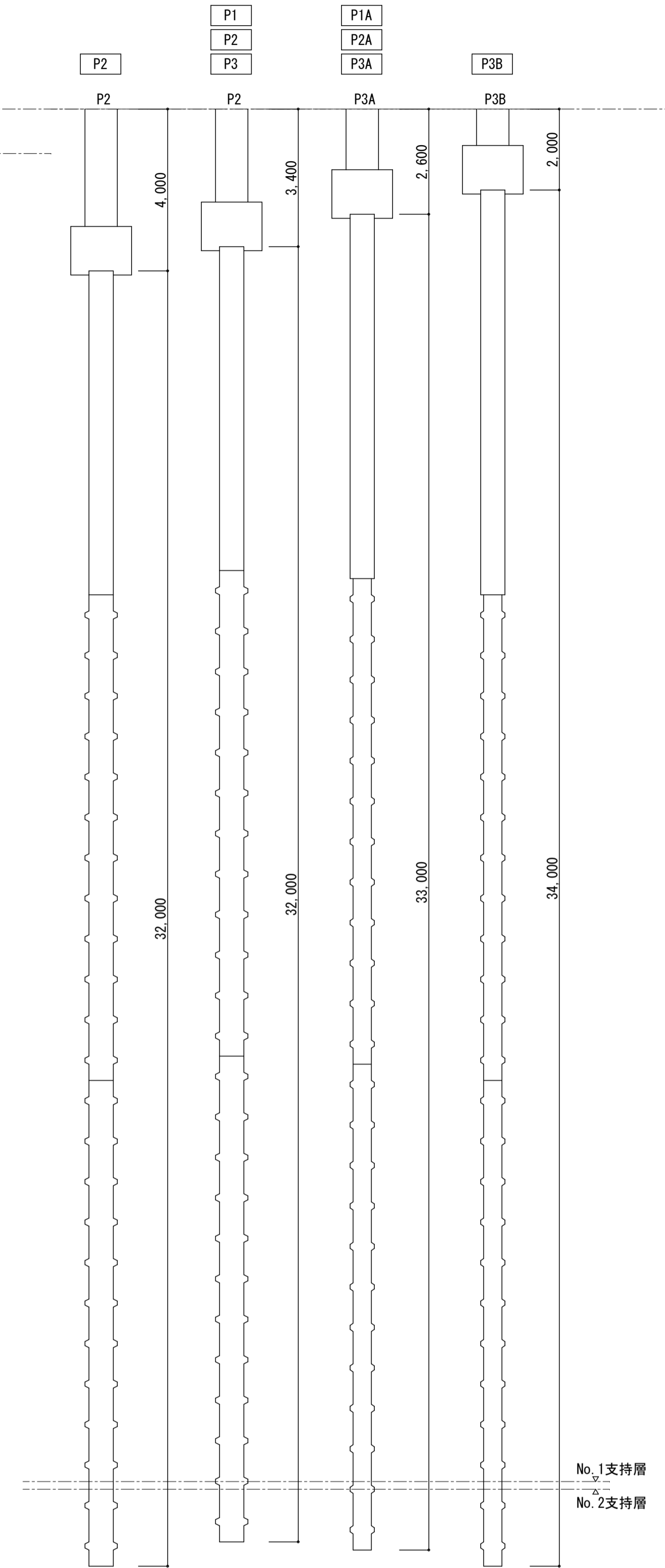
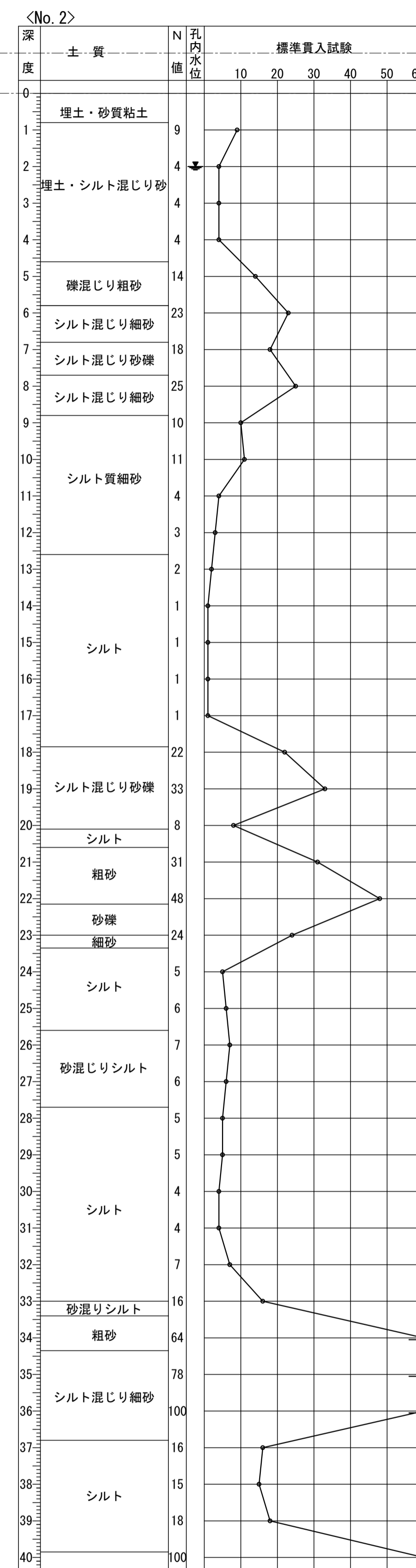
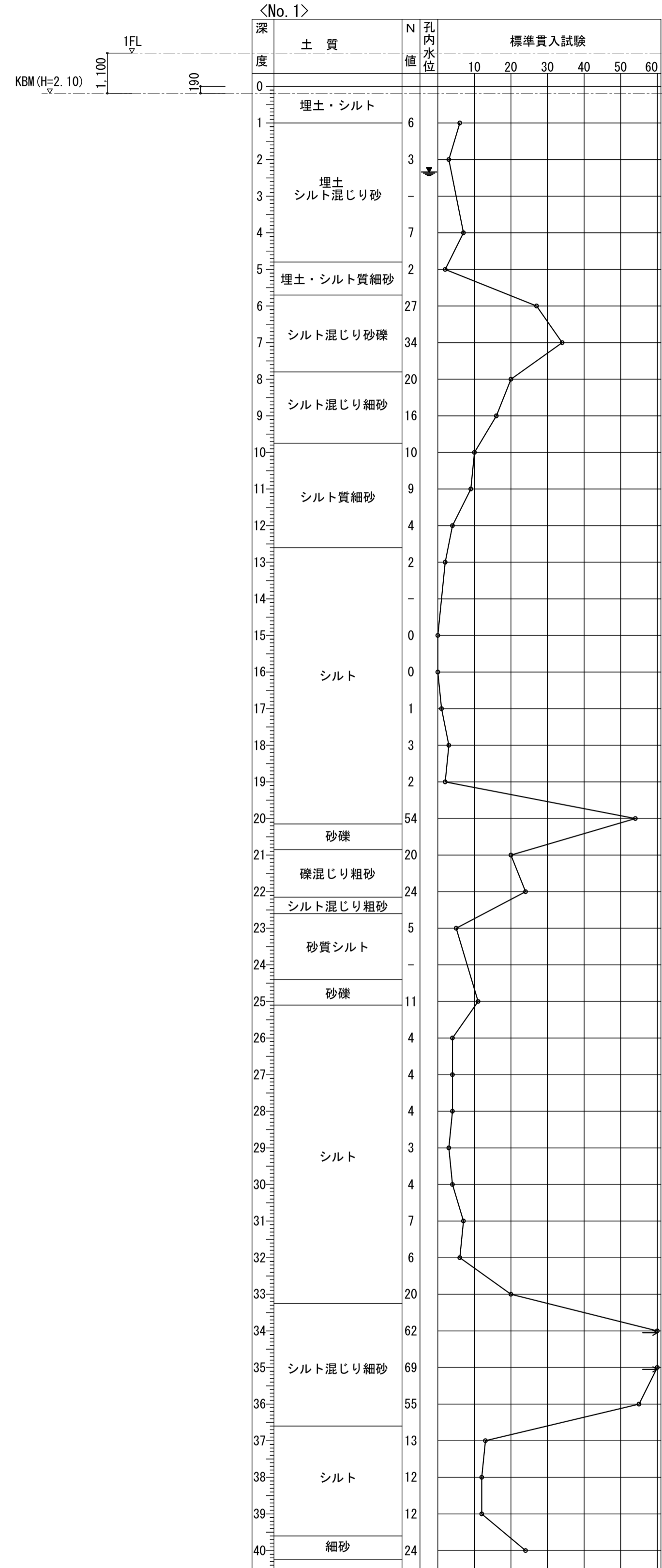
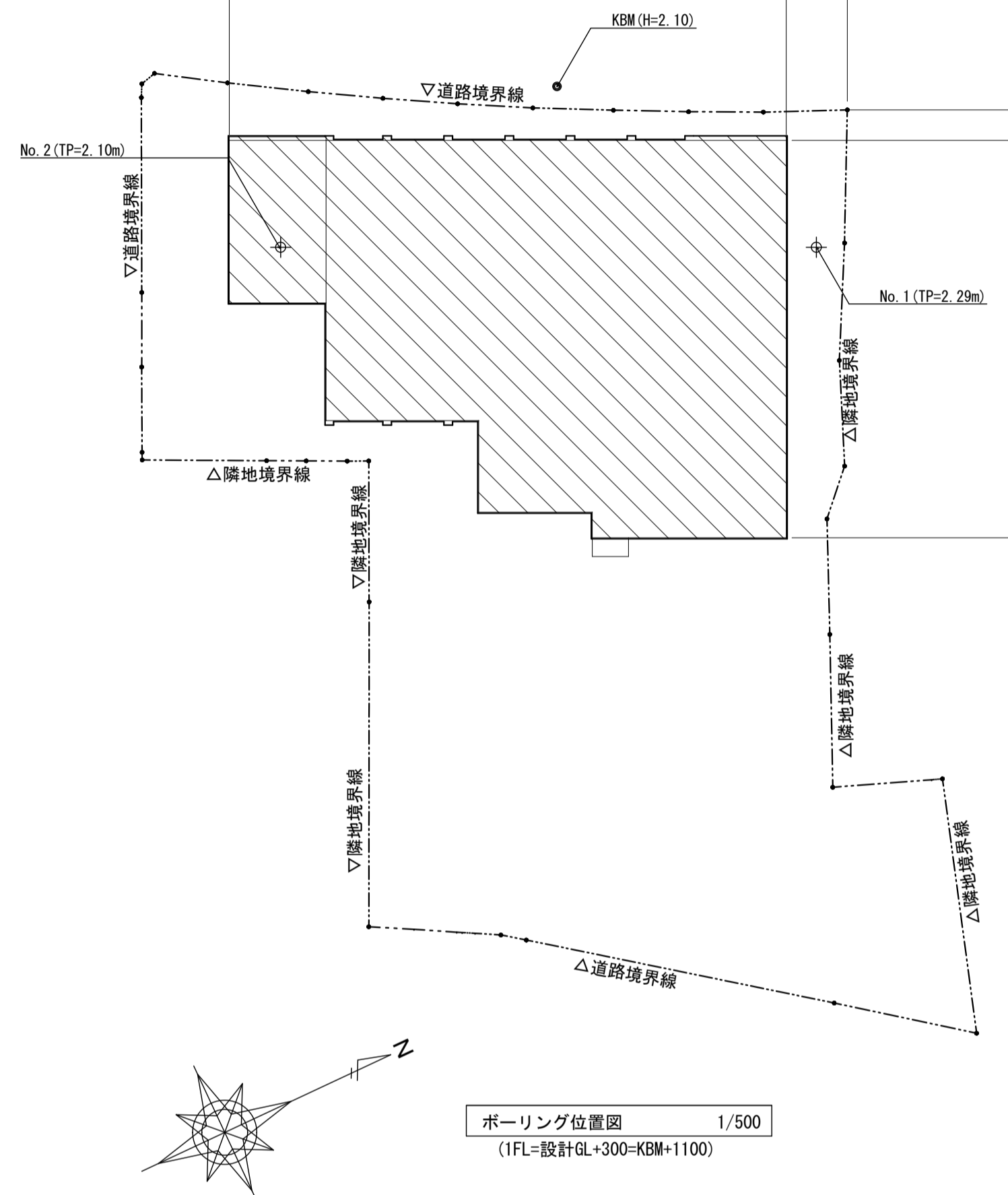
7. 施工記録

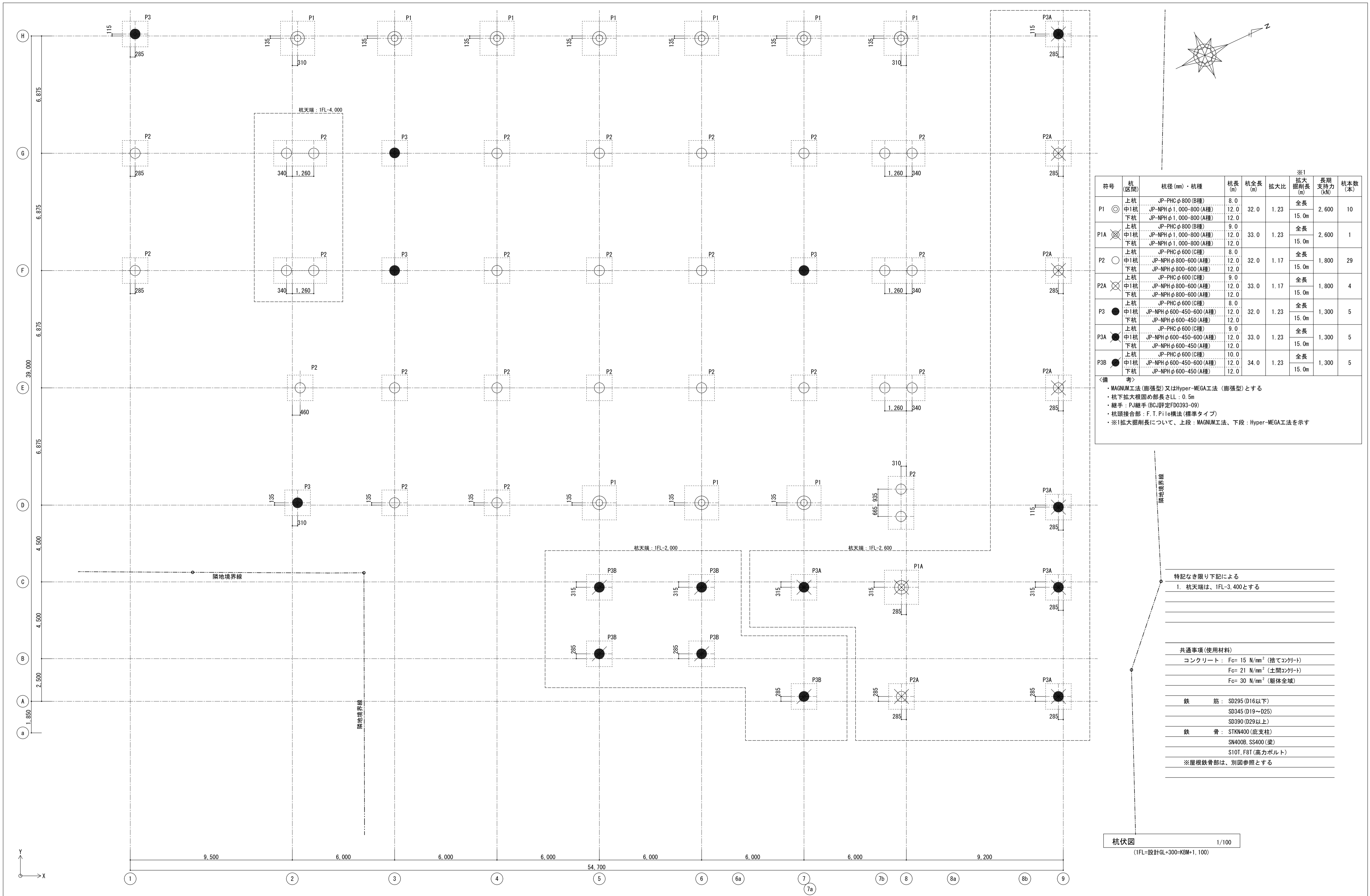
- 工事概要・組織
- 実施工程表
- 使用杭の仕様・諸元
- 施工方法概要
- 施工機械の仕様
- 充填液の材料・配合・使用量・試験結果
- 試験杭または試験掘削の記録
- 本杭施工記録
- 杭配置図
- 地盤調査結果
- その他必要事項

| 記 | 事項 | 工事名称 | | 設計年月 | | |
|------------------|----|--|---|---------------------------------|--------------|----------------|
| | | 温水プール改築工事(建築工事) | | 令和6年2月 | | |
| 株式会社 練企画設計 名古屋支店 | | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士(大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 印 | 図面名称
MAGNUM工法(膨張型)特記仕様書(参考図) | 縮尺
A1:1/- | 図面番号
S-008C |

構造設計: 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計: 一級建築士 第3858号 平野 進

※A3版の場合は50%縮小とする。





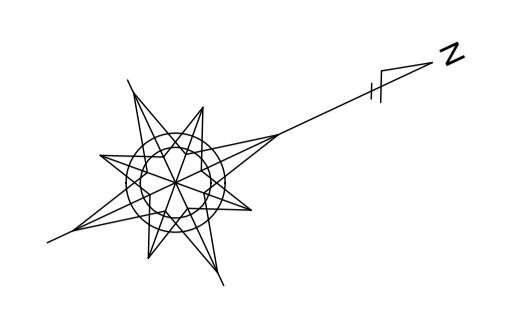
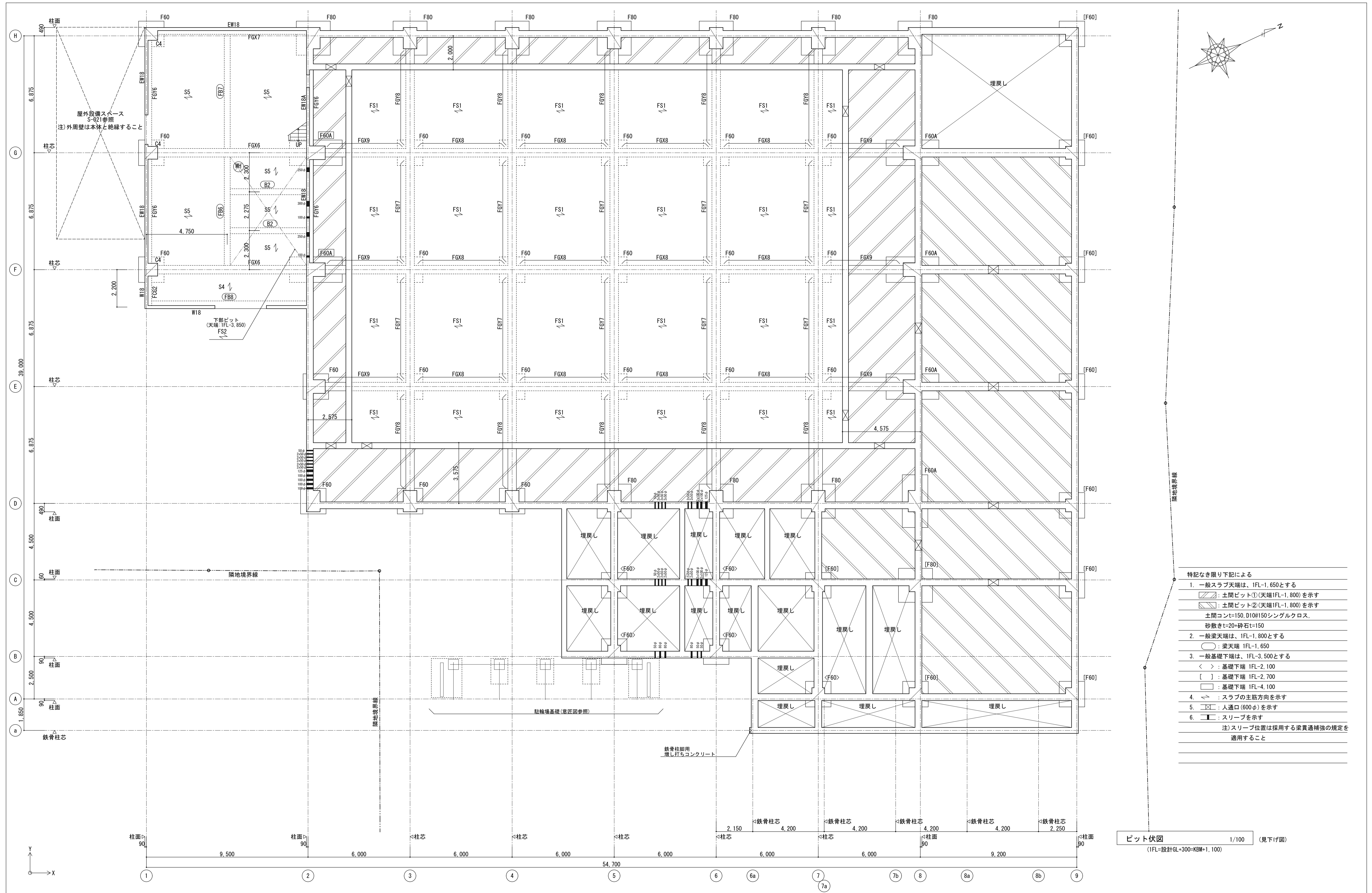
| 符号 | 杭 (区間) | 杭径 (mm) ・ 杭種 | 杭長 (m) | 杭全長 (m) | 拡大比 | ※1 | | |
|-----|--------|-------------------------|--------|---------|------|-----------|------------|---------|
| | | | | | | 拡大掘削長 (m) | 長期支持力 (kN) | 杭本数 (本) |
| P1 | 上杭 | JP-PHCφ800 (B種) | 8.0 | 32.0 | 1.23 | 全長 | 2,600 | 10 |
| | 中1杭 | JP-NPHφ1,000-800 (A種) | 12.0 | | | | | |
| | 下杭 | JP-NPHφ1,000-800 (A種) | 12.0 | | | | | |
| P1A | 上杭 | JP-PHCφ800 (B種) | 9.0 | 33.0 | 1.23 | 全長 | 2,600 | 1 |
| | 中1杭 | JP-NPHφ1,000-800 (A種) | 12.0 | | | | | |
| | 下杭 | JP-NPHφ1,000-800 (A種) | 12.0 | | | | | |
| P2 | 上杭 | JP-PHCφ600 (C種) | 8.0 | 32.0 | 1.17 | 全長 | 1,800 | 29 |
| | 中1杭 | JP-NPHφ800-600 (A種) | 12.0 | | | | | |
| | 下杭 | JP-NPHφ800-600 (A種) | 12.0 | | | | | |
| P2A | 上杭 | JP-PHCφ600 (C種) | 9.0 | 33.0 | 1.17 | 全長 | 1,800 | 4 |
| | 中1杭 | JP-NPHφ800-600 (A種) | 12.0 | | | | | |
| | 下杭 | JP-NPHφ800-600 (A種) | 12.0 | | | | | |
| P3 | 上杭 | JP-PHCφ600 (C種) | 8.0 | 32.0 | 1.23 | 全長 | 1,300 | 5 |
| | 中1杭 | JP-NPHφ600-450-600 (A種) | 12.0 | | | | | |
| | 下杭 | JP-NPHφ600-450 (A種) | 12.0 | | | | | |
| P3A | 上杭 | JP-PHCφ600 (C種) | 9.0 | 33.0 | 1.23 | 全長 | 1,300 | 5 |
| | 中1杭 | JP-NPHφ600-450-600 (A種) | 12.0 | | | | | |
| | 下杭 | JP-NPHφ600-450 (A種) | 12.0 | | | | | |
| P3B | 上杭 | JP-PHCφ600 (C種) | 10.0 | 34.0 | 1.23 | 全長 | 1,300 | 5 |
| | 中1杭 | JP-NPHφ600-450-600 (A種) | 12.0 | | | | | |
| | 下杭 | JP-NPHφ600-450 (A種) | 12.0 | | | | | |

<備考>
 ・MAGNUM工法 (膨張型) 又はHyper-MEGA工法 (膨張型) とする
 ・杭下拡大掘削部長さLL: 0.5m
 ・継手: PJ継手 (BCJ評定FD0393-09)
 ・杭頭接合部: F.T.Pile構法 (標準タイプ)
 ・※1拡大掘削長について、上段: MAGNUM工法、下段: Hyper-MEGA工法を示す

特記なき限り下記による
 1. 杭天端は、1FL-3,400とする

| 共通事項 (使用材料) | |
|-----------------|--|
| コンクリート | Fc = 15 N/mm ² (捨てコンクリート)
Fc = 21 N/mm ² (土間コンクリート)
Fc = 30 N/mm ² (躯体全域) |
| 鉄筋 | SD295 (D16以下)
SD345 (D19~D25)
SD390 (D29以上) |
| 鉄骨 | STKN400 (底支柱)
SN400B, SS400 (梁)
S10T, F8T (高力ボルト) |
| ※屋根鉄骨部は、別図参照とする | |

杭伏図 1/100
 (1FL=設計GL+300+KBM+1,100)

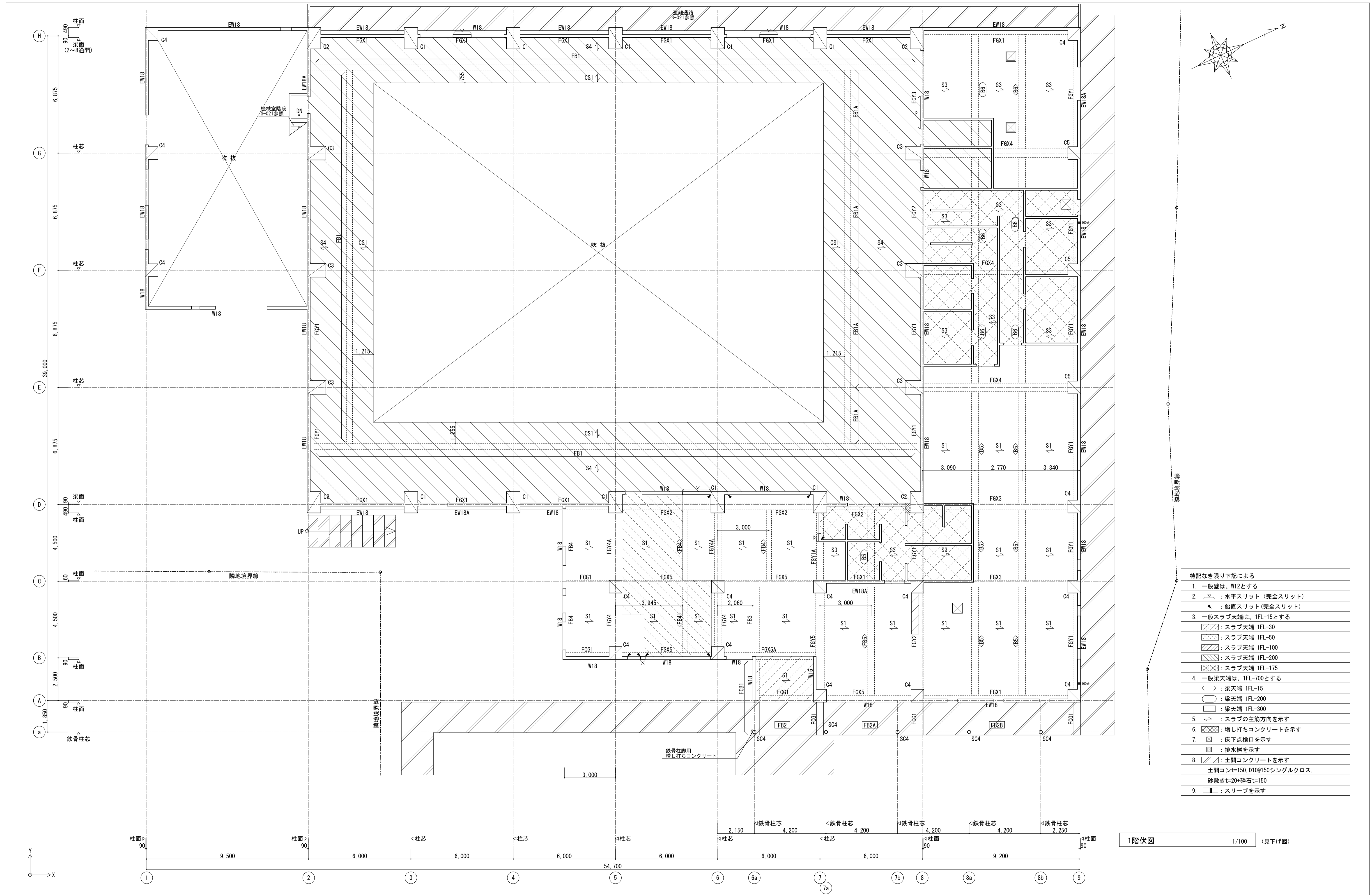


- 特記なき限り下記による
- 一般スラブ天端は、1FL-1,650とする
 - 一般梁天端は、1FL-1,800とする
 - 一般基礎下端は、1FL-3,500とする
 - スラブの主筋方向を示す
 - 人通り(600φ)を示す
 - スリブを示す
- 注) スリブ位置は採用する梁貫通補強の規定を適用すること

ビット伏図 1/100 (見下げ図)
(1FL=設計GL+300+KBM+1,100)

| | | |
|--|---|----------------|
| 工 事 名 称
温 水 プール 改 築 工 事 (建 築 工 事) | 設計年月
令和6年2月 | |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 図面番号
S-011 |
| | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 縮尺
A1:1/100 |
| | 構造設計: 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計: 一級建築士 第3858号 平野 進 | 図面名称
ビット伏図 |

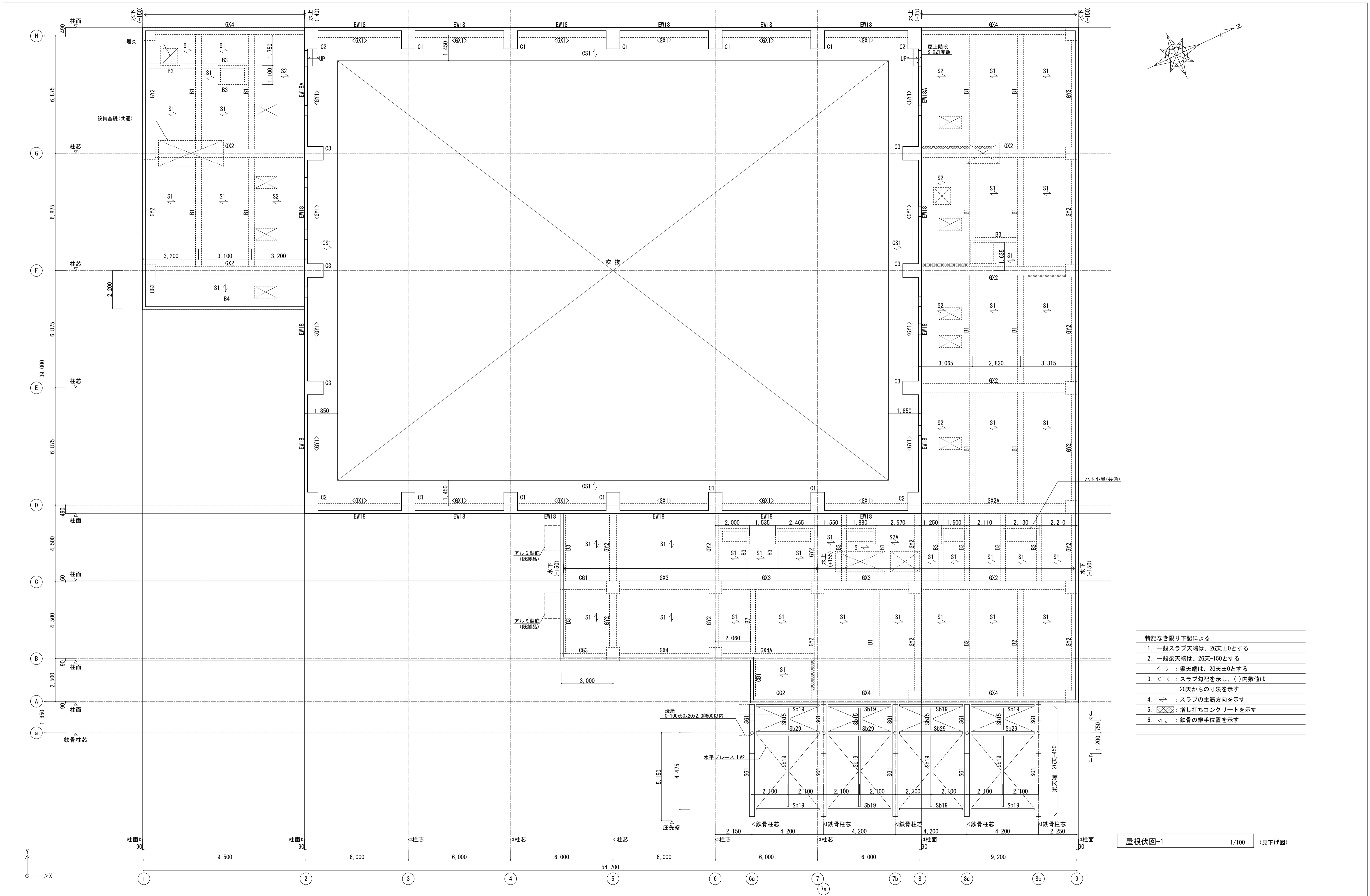
※A3版の場合は50%縮小とする。



- 特記なき限り下記による
- 一般壁は、W12とする
 - ▽ : 水平スリット (完全スリット)
▲ : 鉛直スリット (完全スリット)
 - 一般スラブ天端は、1FL-15とする
 - ▨ : スラブ天端 1FL-30
 - ▧ : スラブ天端 1FL-50
 - ▩ : スラブ天端 1FL-100
 - : スラブ天端 1FL-200
 - : スラブ天端 1FL-175
 - 一般梁天端は、1FL-700とする
< > : 梁天端 1FL-15
○ : 梁天端 1FL-200
□ : 梁天端 1FL-300
 - ← : スラブの主筋方向を示す
 - ▨ : 増し打ちコンクリートを示す
 - ⊗ : 床下点検口を示す
⊠ : 排水桝を示す
 - ▨ : 土間コンクリートを示す
土間コンテ=150, D10@150シングルクロス,
砂敷きt=20+砕石t=150
 - ▬ : スリーブを示す

1階伏図 1/100 (見下げ図)

| | | | | |
|---|---|-----------------|----------------|---------------|
| 工務
事 | 工事名称
温水プール改築工事 (建築工事) | | 設計年月
令和6年2月 | |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (L-4) 第11452号
一級建築士 (大匠) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | | 図面名称
1階伏図 | |
| 構造設計: 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計: 一級建築士 第38558号
平野 進 | | 縮尺
A1: 1/100 | | 図面番号
S-012 |
| ※A3版の場合は50%縮小とする。 | | | | |

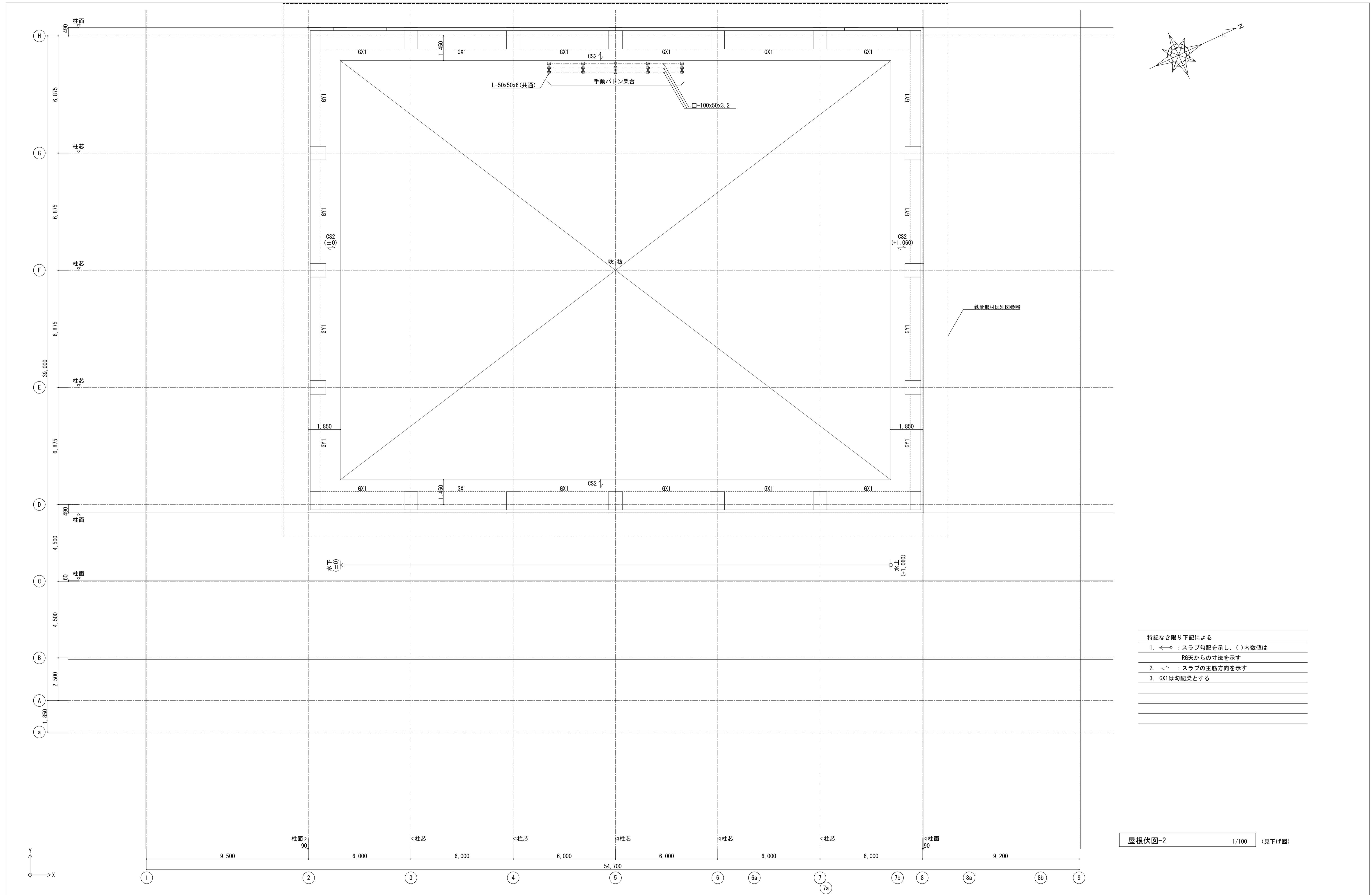


- 特記なき限り下記による
1. 一般スラブ天端は、26天±0とする
 2. 一般梁天端は、26天-150とする
 3. < > : 梁天端は、26天±0とする
 ← → : スラブ勾配を示し、()内数値は26天からの寸法を示す
 4. ↗ ↘ : スラブリの主筋方向を示す
 5. ⊠ : 増し打ちコンクリートを示す
 6. < ∟ : 鉄骨の継手位置を示す

屋根伏図-1 1/100 (見下げ図)

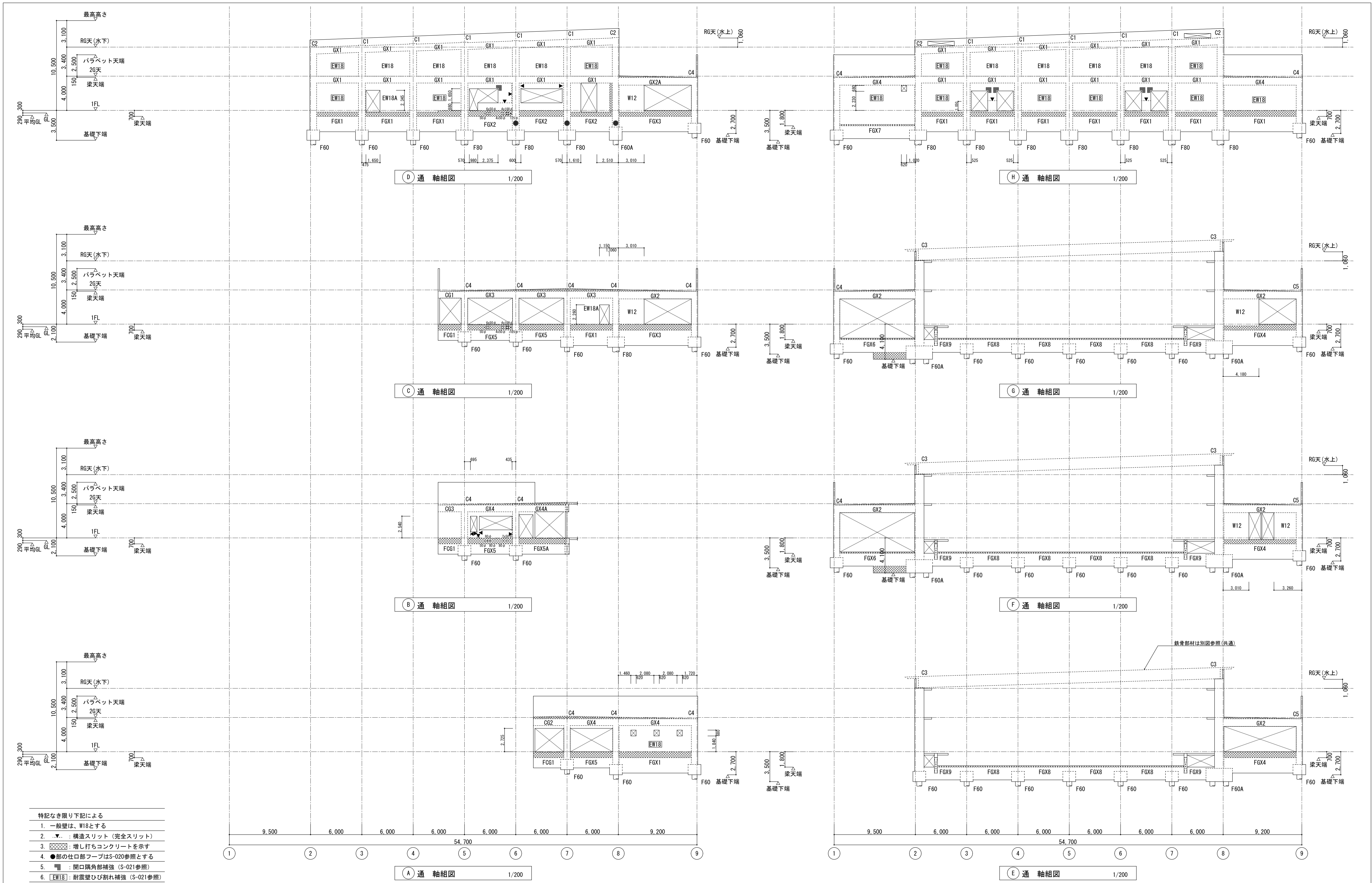
| | |
|--|-----------------|
| 工事項目
温水プール改築工事 (建築工事) | 設計年月
令和6年2月 |
| | 図面番号
S-013 |
| 設計者
株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士 (大匠) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面名称
屋根伏図-1 |
| 構造設計: 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計: 一級建築士 第3858号
平野 進 | 縮尺
A1: 1/100 |

※A3版の場合は50%縮小とする。



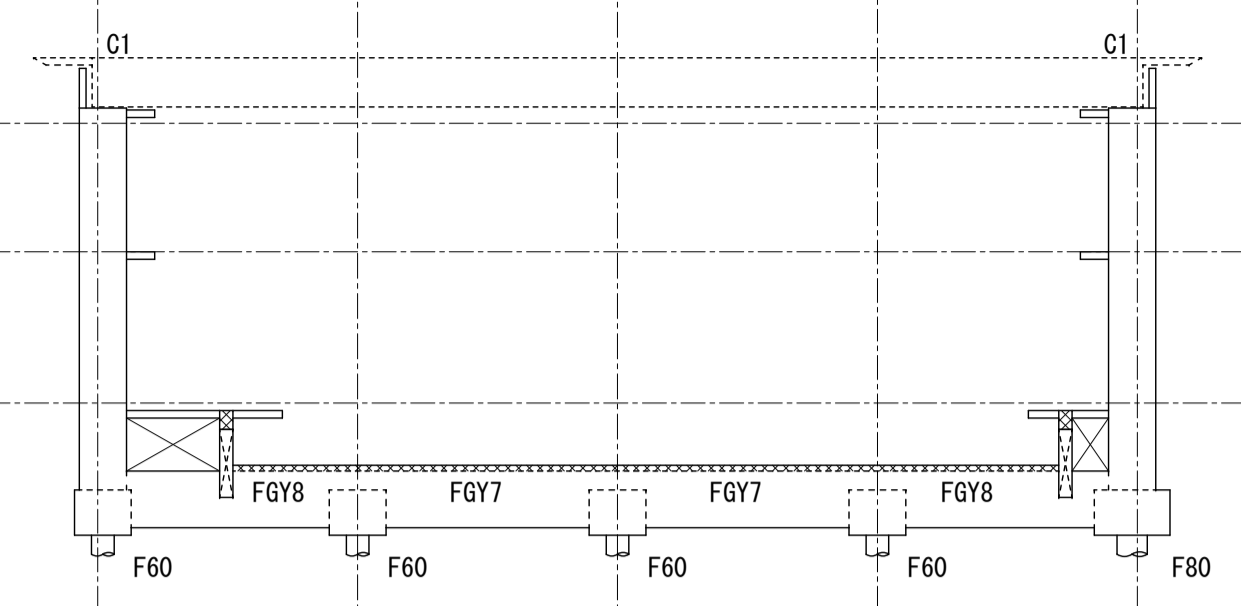
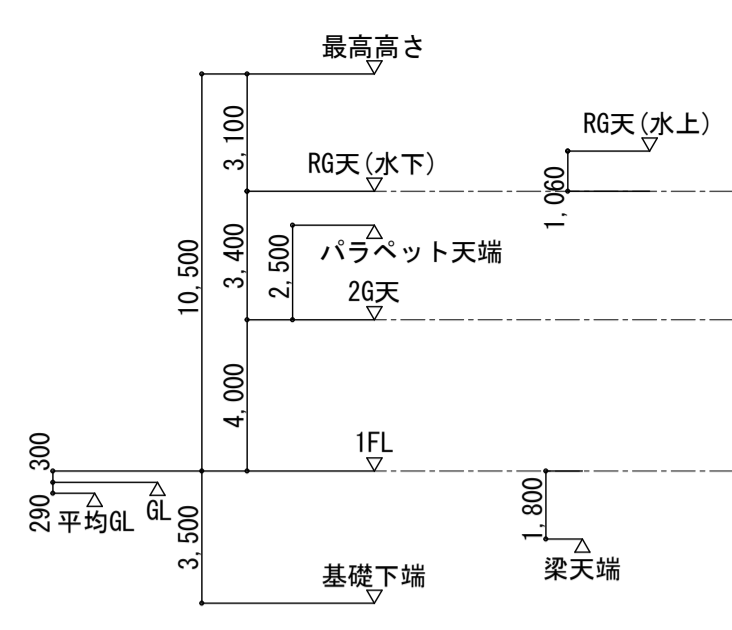
- 特記なき限り下記による
- ←→ : スラブ勾配を示し、()内数値はR6天からの寸法を示す
 - ↔ : スラブの主筋方向を示す
 - GX1は勾配梁とする

| | | | | | | |
|---|---|--|--|------|-------|-------------------|
| 工
事
名 | 温水プール改築工事 (建築工事) | | | | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
<small>一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行</small> | | | | 図面名称 | 屋根伏図-2 |
| 縮尺 | A1:1/100 | | | 図面番号 | S-014 | |
| <small>構造設計: 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計: 一級建築士 第3858号 平野 進</small> | | | | | | ※A3版の場合は50%縮小とする。 |

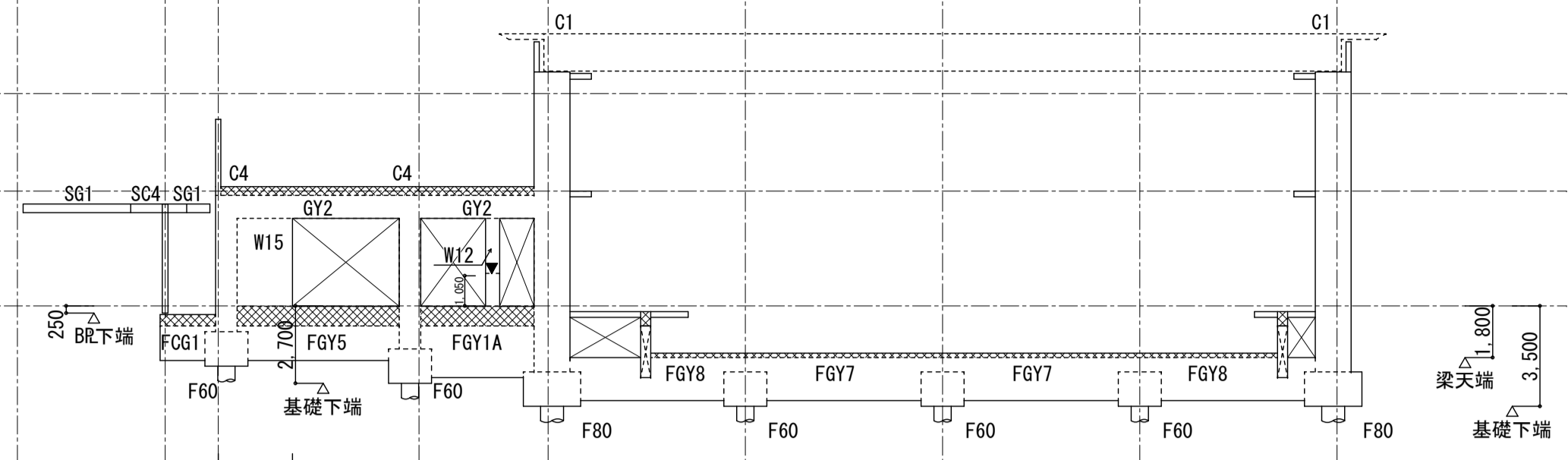


| | | |
|---|-----------------------|-----------------------|
| 工事名称
温水プール改築工事(建築工事) | 設計年月
令和6年2月 | |
| | 図面名称
軸組図-1 | |
| 株式会社 総企画設計
名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士(大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面番号
S-015 | 縮尺
A1:1/200 |
| 構造設計: 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計: 一級建築士 第3858号
平野 進 | | |

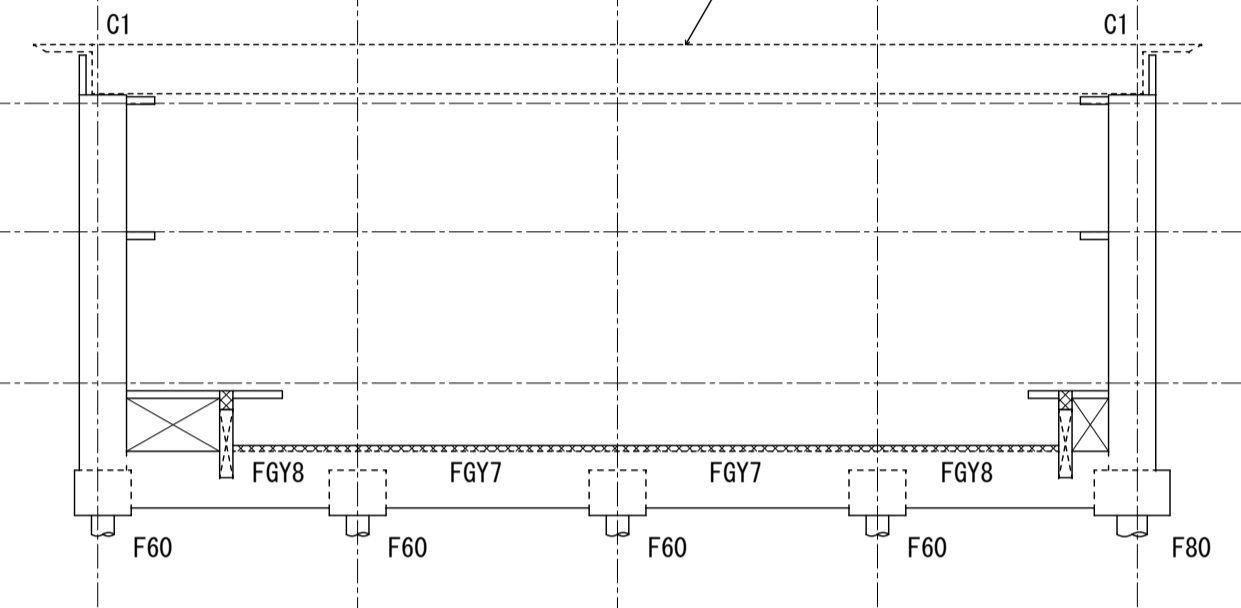
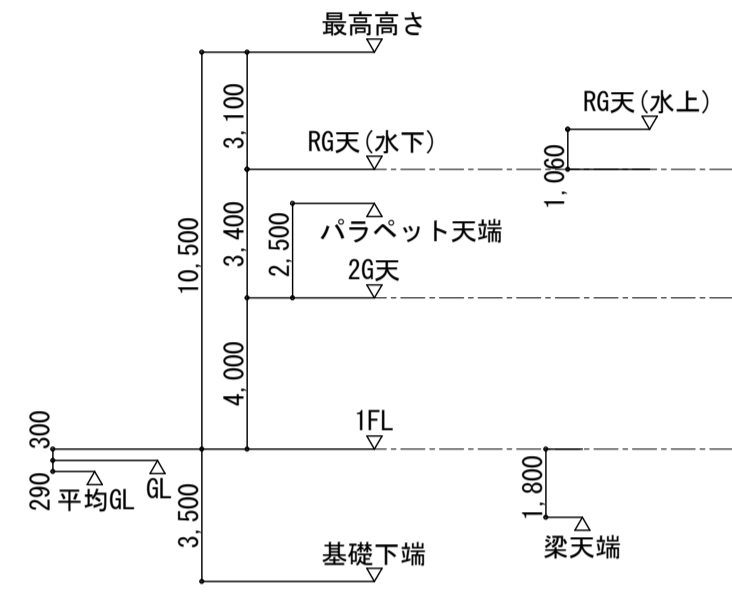
※A3版の場合は50%縮小とする。



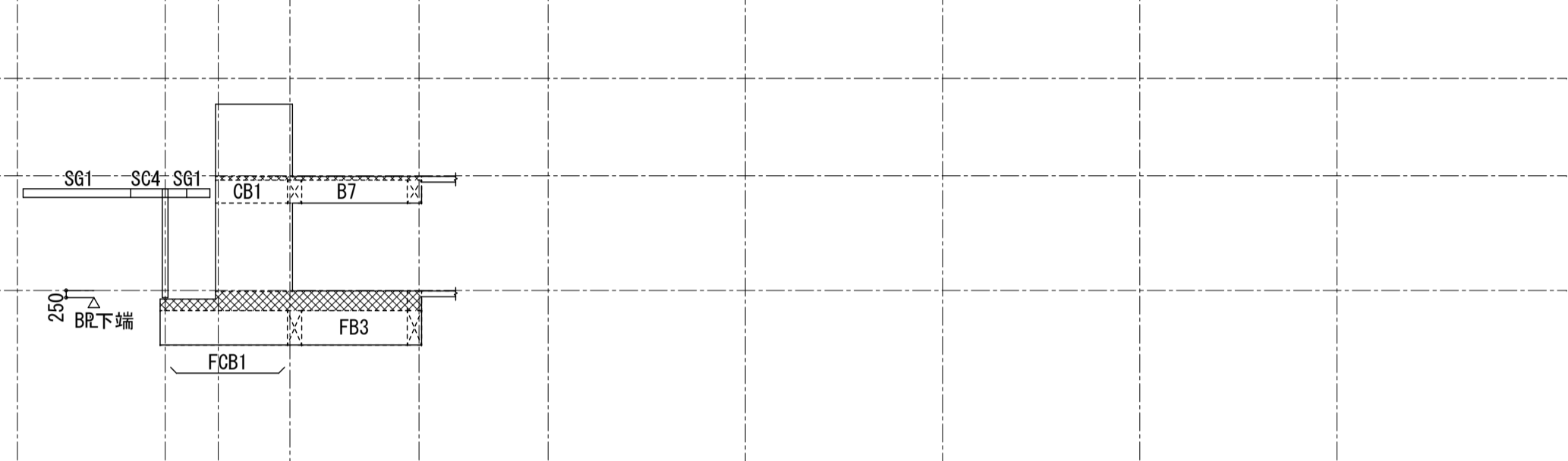
4 通軸組図 1/200



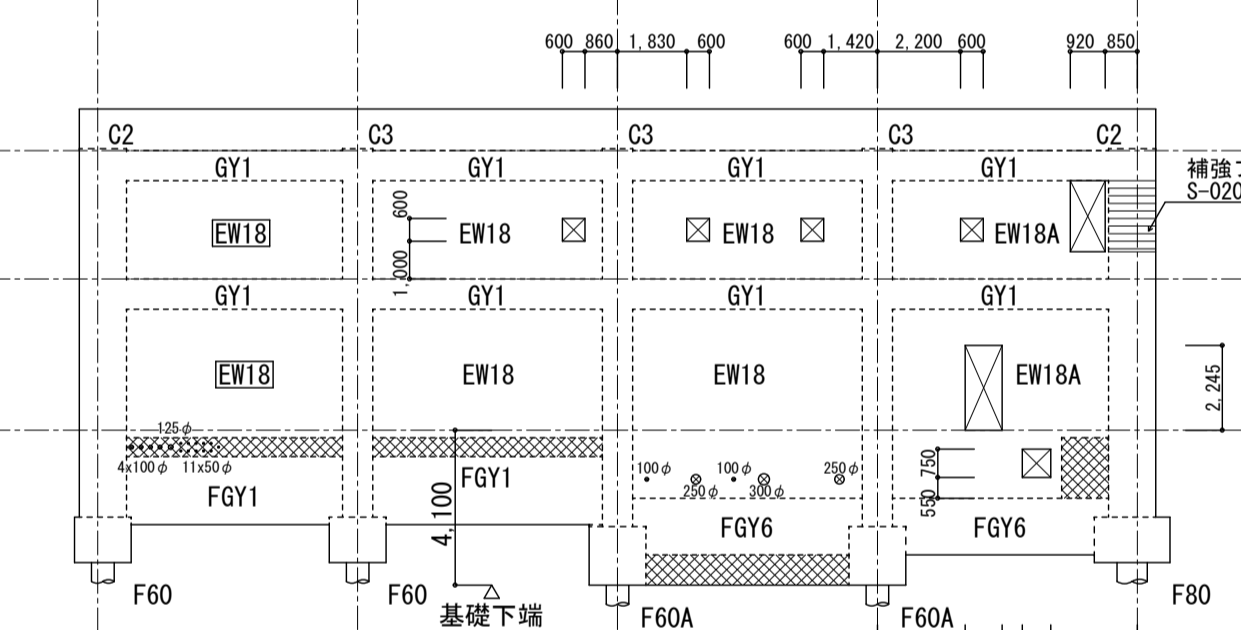
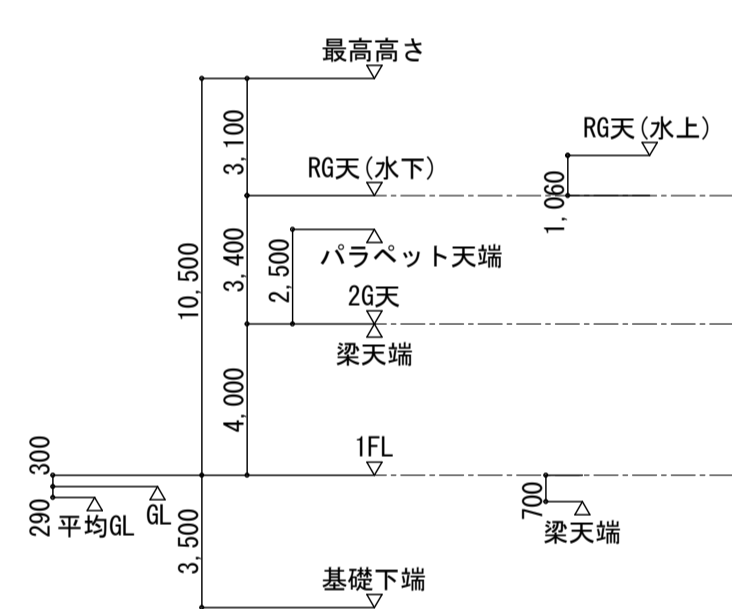
7 通軸組図 1/200



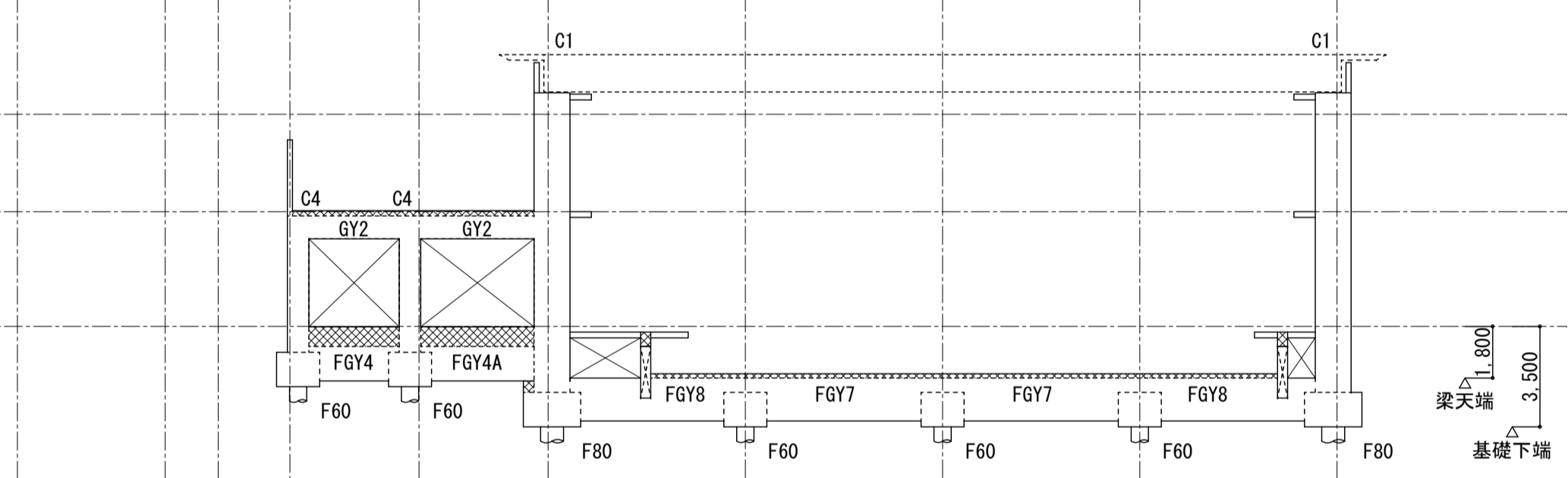
3 通軸組図 1/200



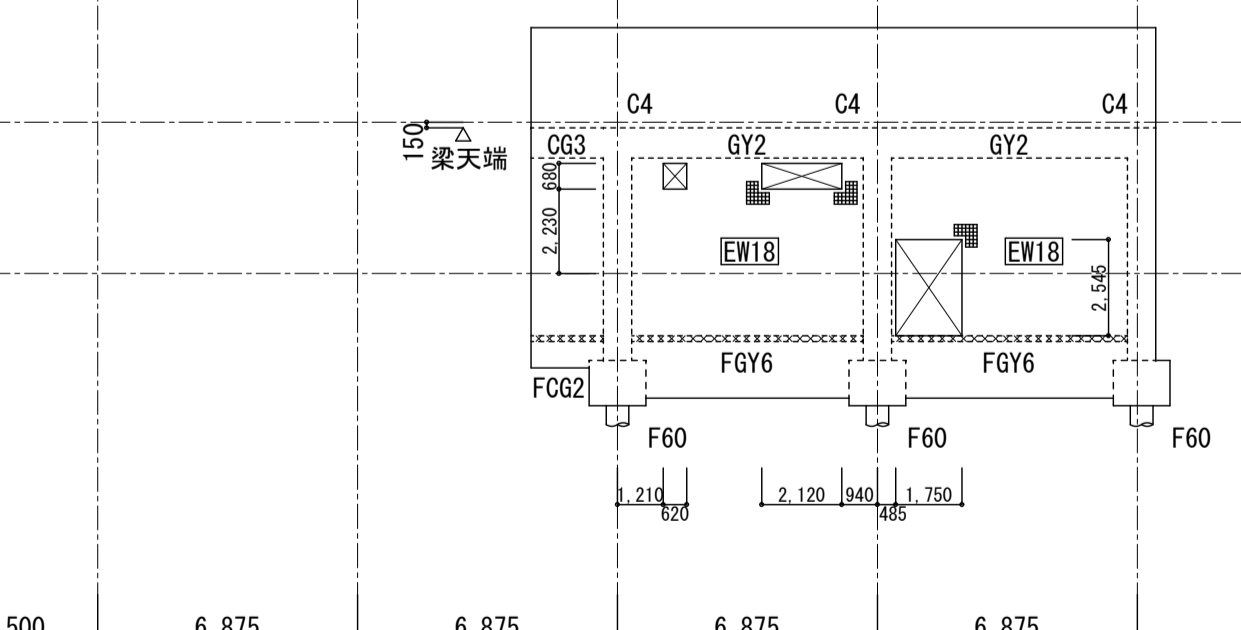
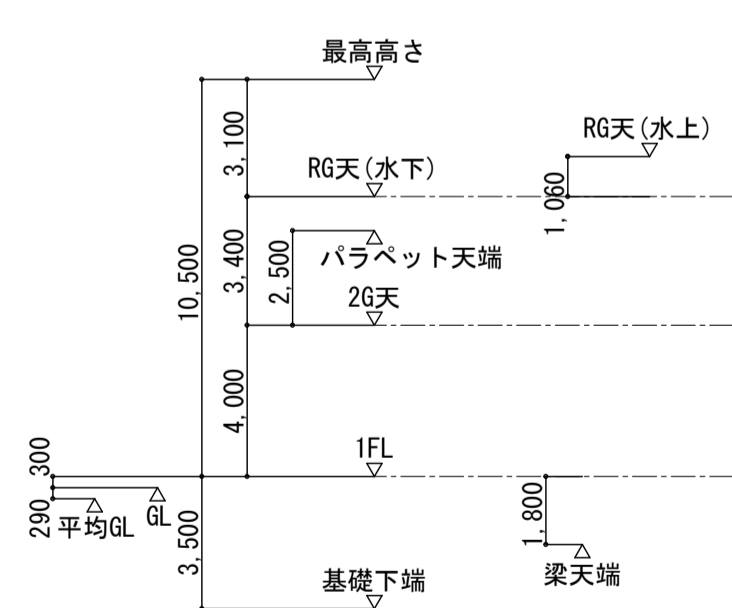
6a 通軸組図 1/200



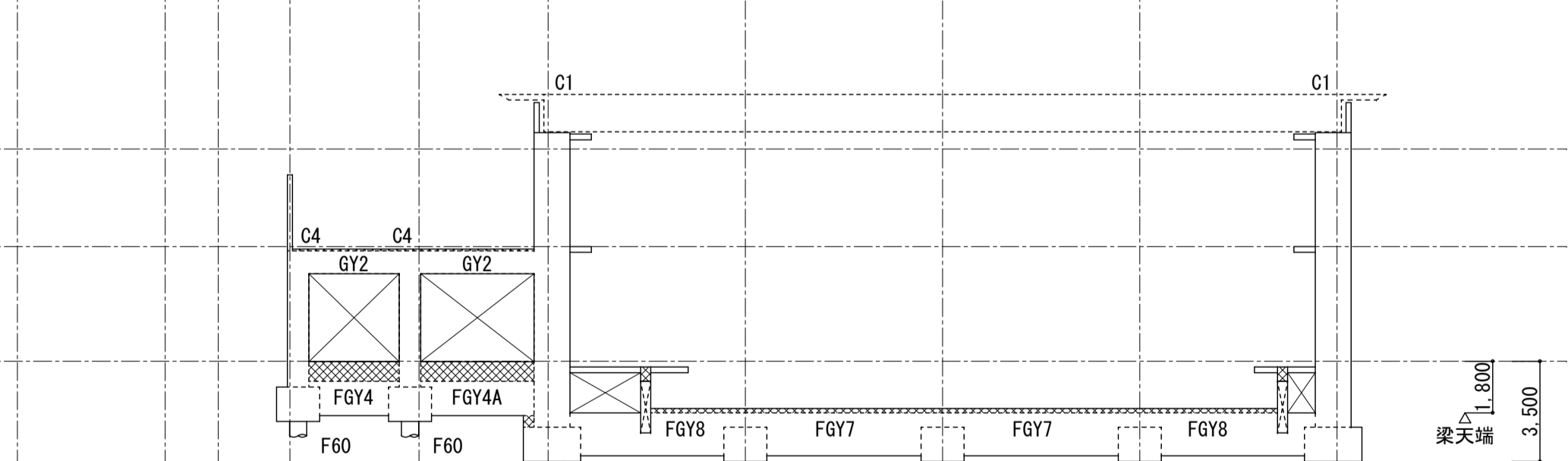
2 通軸組図 1/200



6 通軸組図 1/200



1 通軸組図 1/200

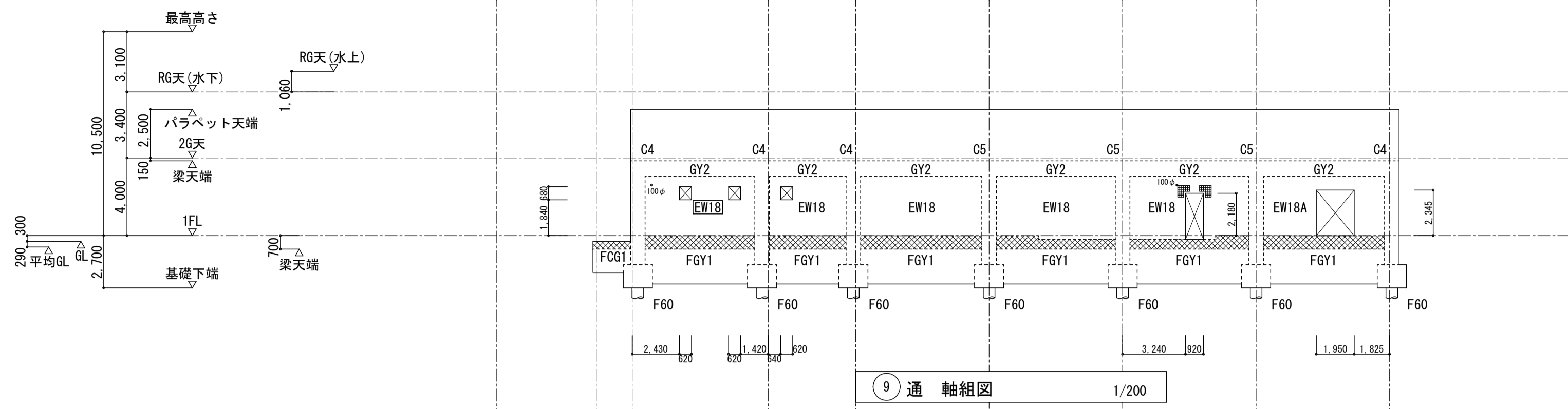


5 通軸組図 1/200

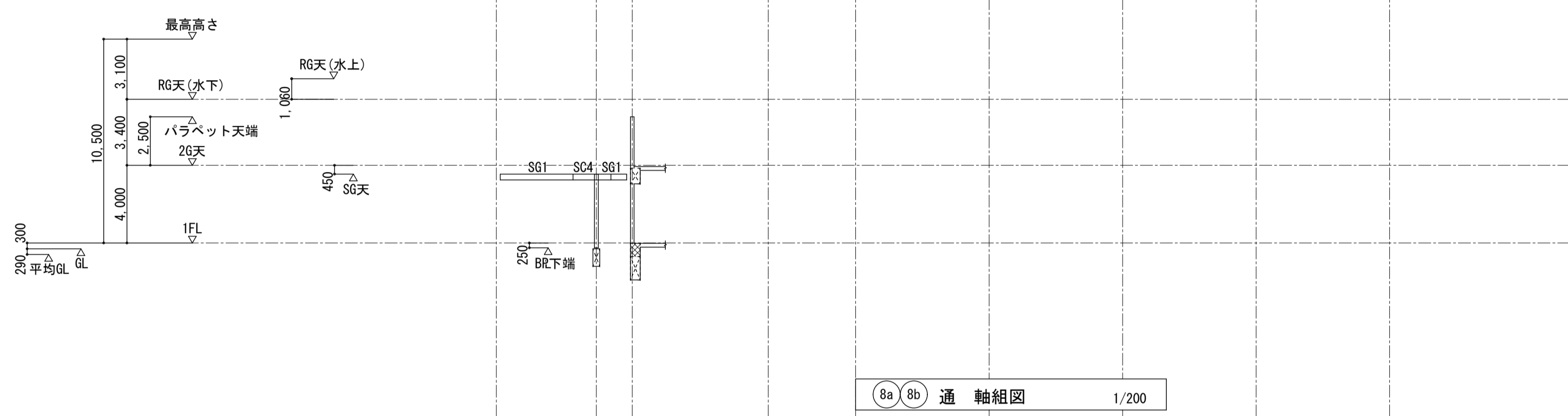
- 特記なき限り下記による
- 一般壁は、W18とする
 - 構造スリット(完全スリット)
 - 増し打ちコンクリートを示す
 - 部の仕口部フープはS-020参照とする
 - 開口隅角部補強(S-021参照)
 - EW18: 耐震壁ひび割れ補強(S-021参照)

| | | | | | | |
|---|------|--|--|--|------|----------|
| 工 | 工事名称 | 温水プール改築工事(建築工事) | | | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | | | 図面名称 | 軸組図-2 |
| 事 | 設計者 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (L-4) 第11452号
一級建築士(大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | | | 縮尺 | A1:1/200 |
| | 設計者 | 構造設計:株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計:一級建築士 第3858号 平野 進 | | | 図面番号 | S-016 |

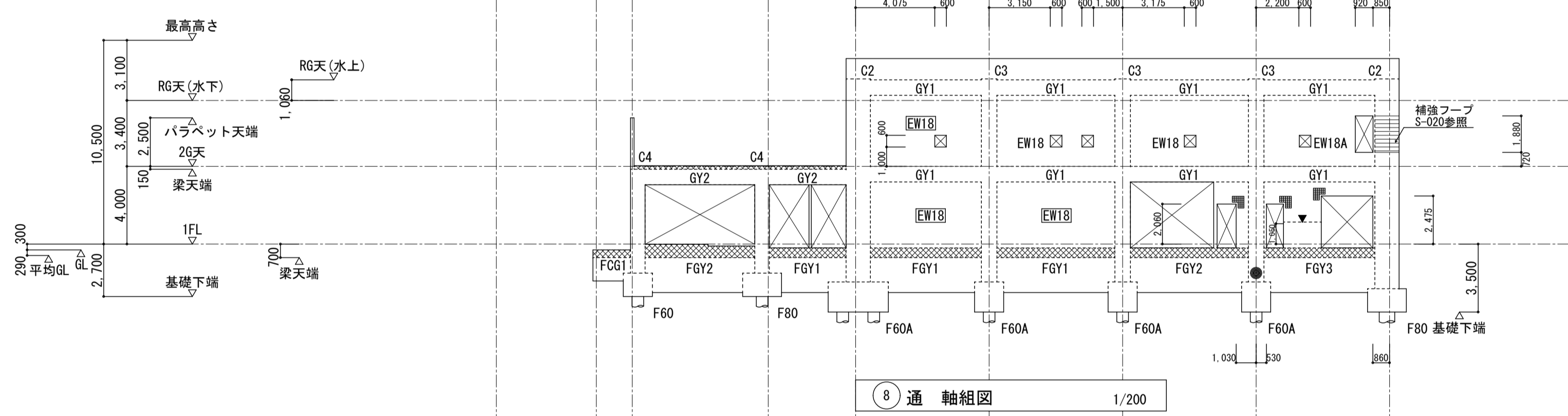
※A3版の場合は50%縮小とする。



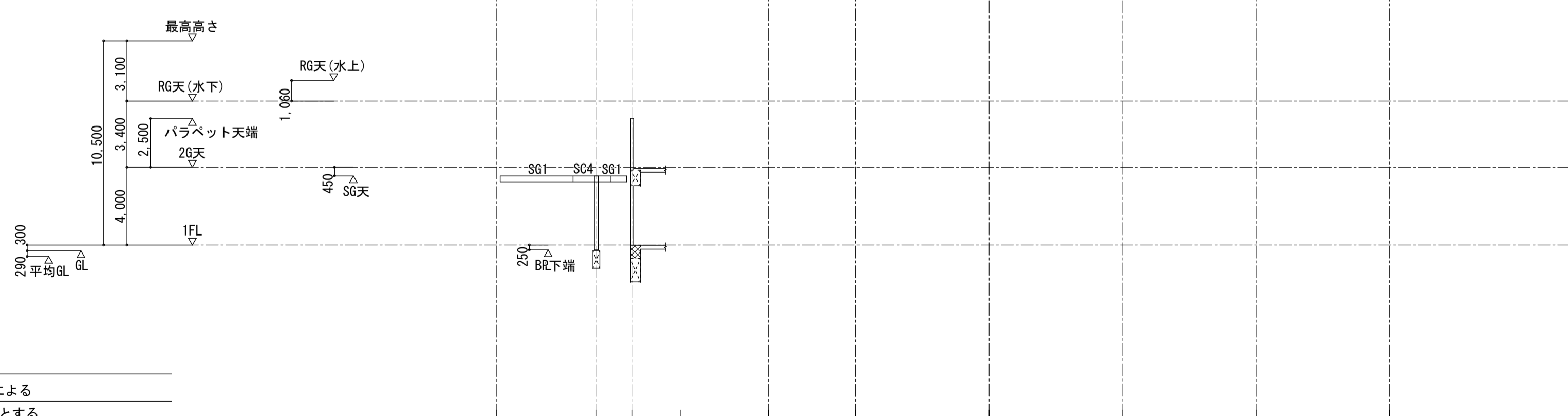
9 通 軸組図 1/200



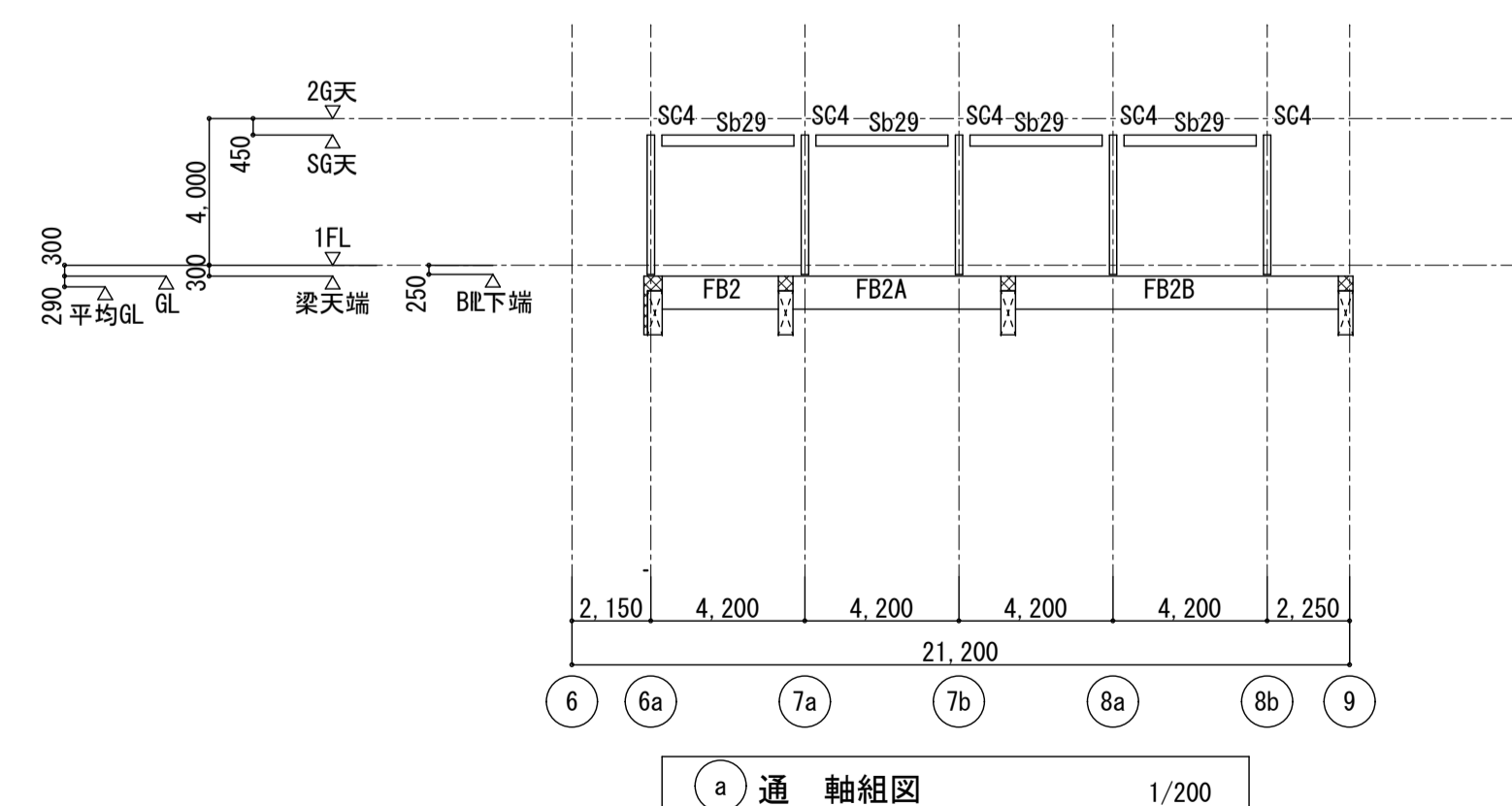
8a 8b 通 軸組図 1/200



8 通 軸組図 1/200



7a 7b 通 軸組図 1/200



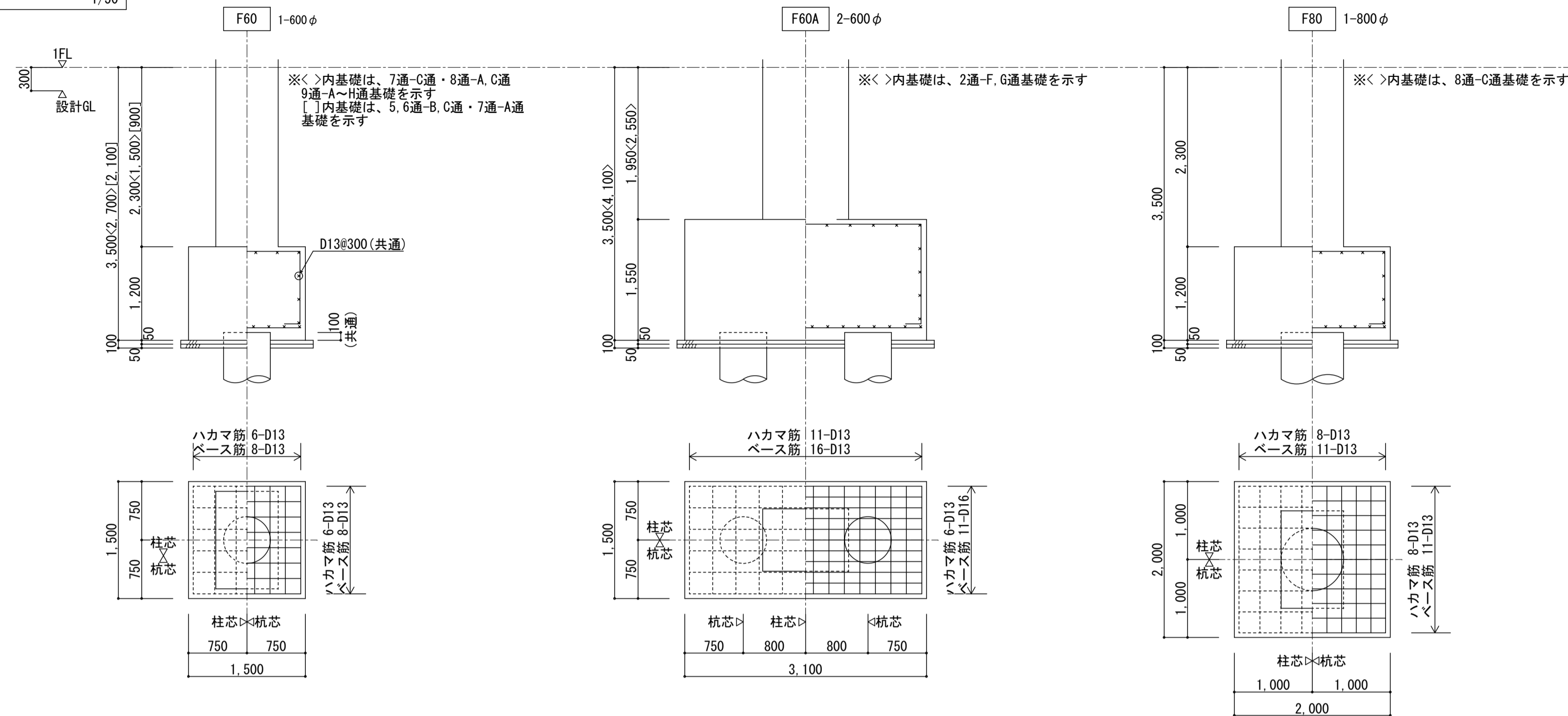
a 通 軸組図 1/200

- 特記なき限り下記による
1. 一般壁は、W18とする
 2. ▽ : 構造スリット (完全スリット)
 3. [] : 増し打ちコンクリートを示す
 4. ● : 部の仕口部フープはS-020参照とする
 5. [] : 開口隅角部補強 (S-021参照)
 6. [EW18] : 耐震壁ひび割れ補強 (S-021参照)

| | | | | | | |
|--------|------|---|---|---|------|----------|
| 記
事 | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | | | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (L-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 印 | 図面名称 | 軸組図-3 |
| | 構造設計 | 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
構造設計一級建築士 第38558号
平野 進 | | | 縮尺 | A1:1/200 |
| | | | | | 図面番号 | S-017 |

※A3版の場合は50%縮小とする。

基礎リスト 1/50

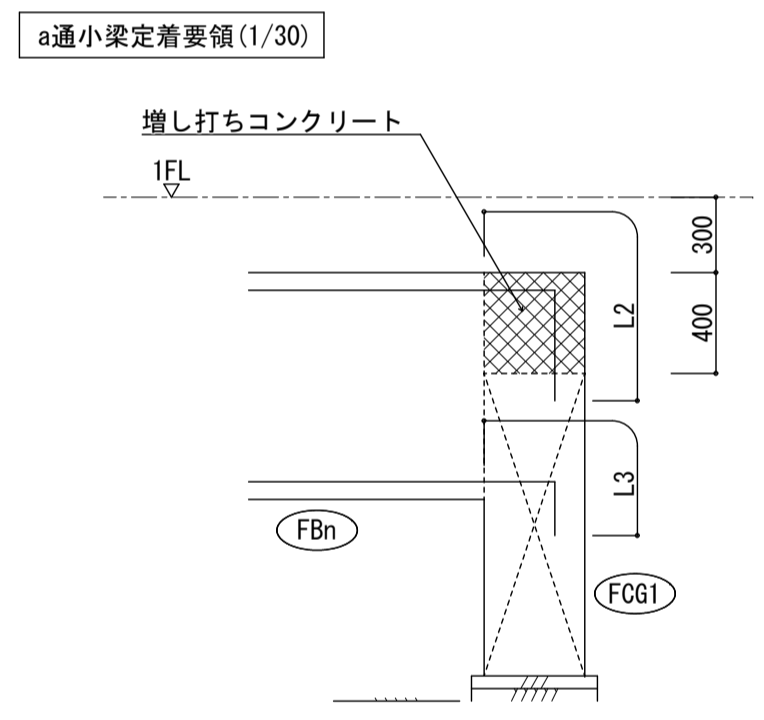
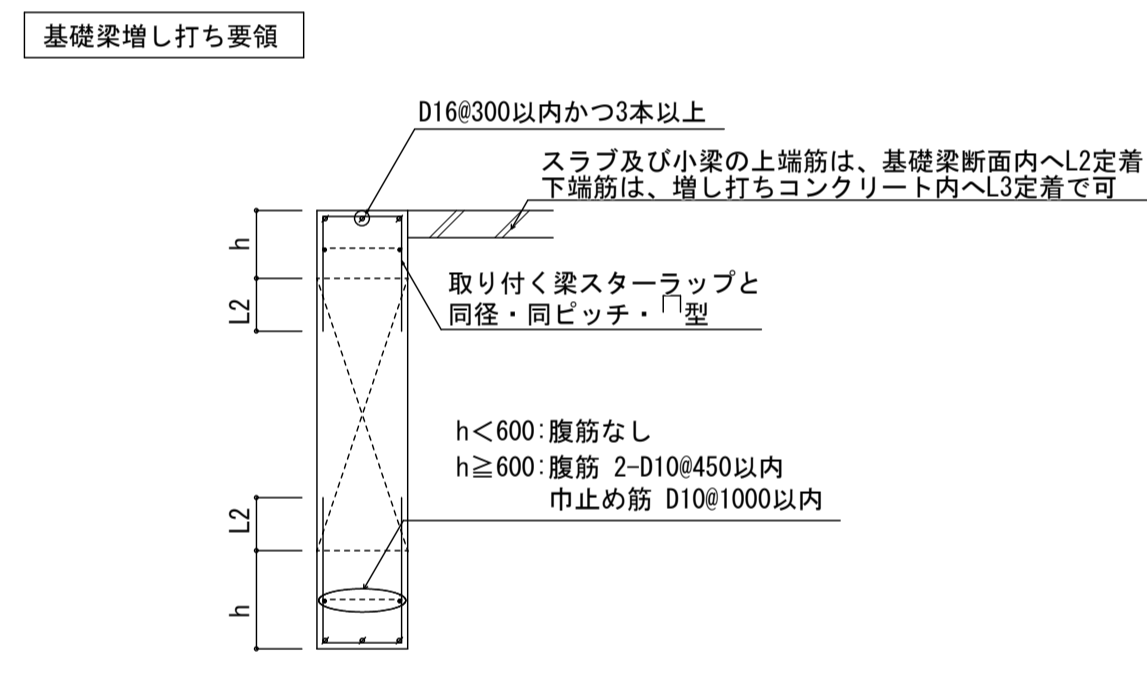
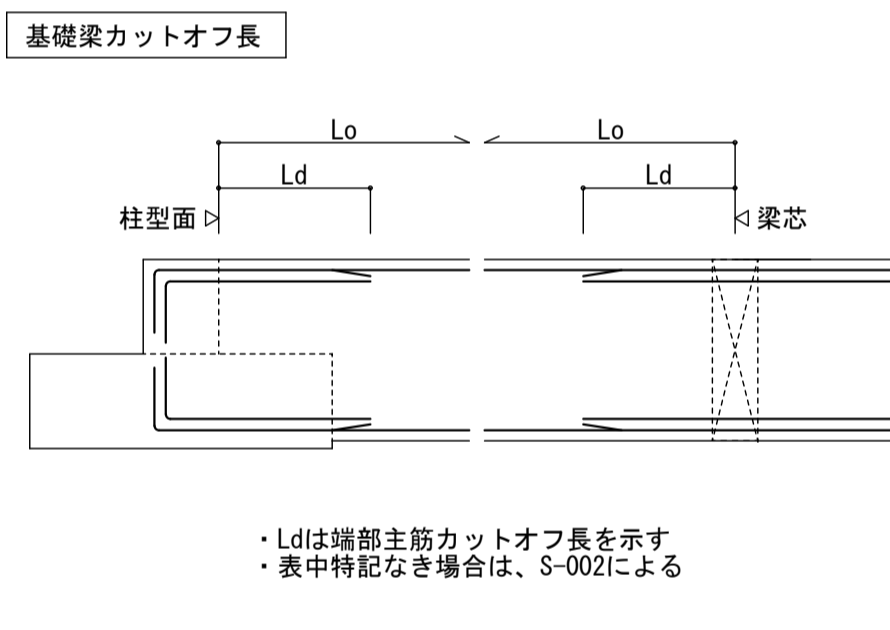
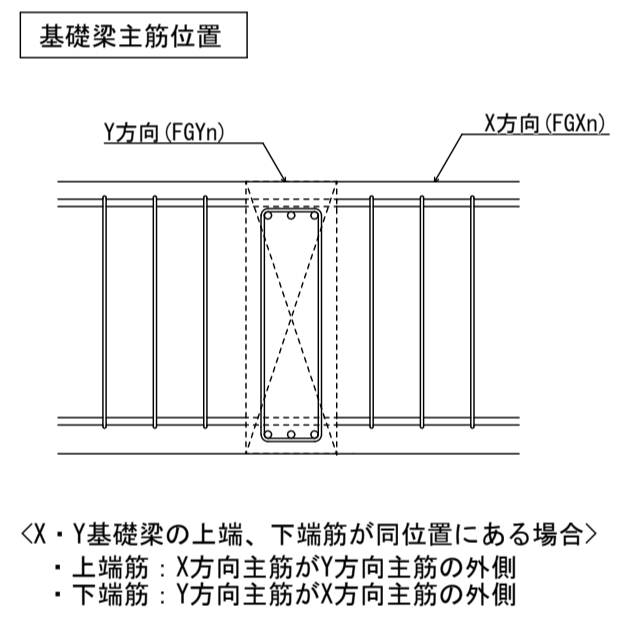


基礎梁リスト 1/50 特記なき限り、1. 巾止筋はD10#1,000以内とする
2. 表中Ldは、カットオフ長を示す

| 符号 | FGX1 | FGX2 | FGX3 | FGX4 | FGX5 | FGX5A | FGX6 | FGX7 | FGX8 | | | | | | |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 位置 | 全断面 | 全断面 | 8通端
中央 | 9通端 | 8通端
中央 | 9通端 | 6通端
中央 | 1通端
中央 | 2通端 | 全断面
端部
中央 | | | | | |
| 断面 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 3-D25 | 3/3-D25 | 3/3-D25 | 3-D25 | 5/3-D25 | 5-D25 | 3/2-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 3-D25 | | | | | |
| 下端筋 | 3-D25 | 3/1-D25 | 3/2-D25 | 3/2-D25 | 5/1-D25 | 5/3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 5/2-D25 | 5/4-D25 | | | | | |
| スターラップ | □-D13#200 | □-D13#100 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | | | | | |
| 腹筋 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 4-D10 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | | | | | |
| 符号 | FGY9 | FGY1 | FGY1A | FGY2 | FGY3 | FGY4 | FGY4A | FGY5 | FGY6 | FGY7 | FGY8 | | | | |
| 位置 | 2.8通端 | 中央 | 3.7通端 | 全断面 | C通端 | 中央 | D通端 | 全断面 | G通端 | 中央 | H通端 | 全断面 | C通端 | 中央 | D通端 |
| 断面 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 5/3-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3/2-D25 | 3/3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 |
| 下端筋 | 5/4-D25 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3/1-D25 | 3/3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 |
| スターラップ | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 |
| 腹筋 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 4-D10 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 4-D10 | 4-D10 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 |
| 符号 | FGY5 | FGY6 | FGY7 | FGY8 | FGY9 | FGY10 | FGY11 | FGY12 | FGY13 | FGY14 | FGY15 | FGY16 | FGY17 | FGY18 | FGY19 |
| 位置 | A通端 | 中央 | C通端 | 全断面 | 端部 | 中央 | D,H通端 | 中央 | E,G通端 | 全断面 | 端部 | 中央 | D,H通端 | 中央 | E,G通端 |
| 断面 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 5/2-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 3-D25 | 4/1-D29 | 4-D29 | 4/3-D29 | 4-D29 | 4/1-D29 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 |
| 下端筋 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D29 | 3-D29 | 4/4-D29 | 4/2-D29 | 4-D29 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 |
| スターラップ | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 |
| 腹筋 | 4-D10 | 4-D10 | 4-D10 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 |

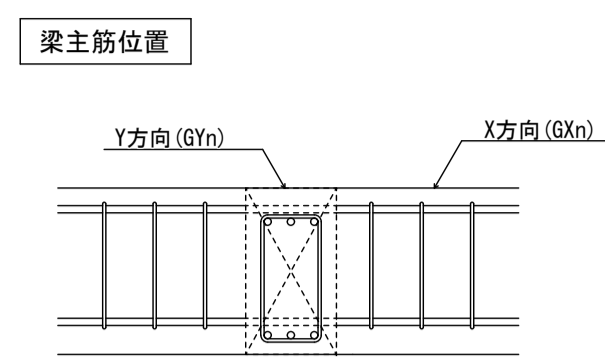
| 符号 | FB1 | FB1A側 | FB1A中央 | 他端 | FB2側 | FB2中央 | 他端 | FB2A側 | FB2A中央 | FB2B側 | FB2B中央 | 他端 | FB3側 | FB3中央 | 他端 | FB4側 | FB4中央 | 他端 | |
|--------|-----------|---------|-----------|-------|---------|-----------|-------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|---------|-----------|-------|-----------|-------|-------|-----------|
| 位置 | 全断面 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 断面 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 3-D22 | 3/1-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3/1-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3/1-D22 | 3-D22 | 3/1-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3/2-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D19 | 4-D22 | 3-D22 | 3-D22 |
| 下端筋 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3/1-D22 | 3-D22 | 3/1-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D19 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 |
| スターラップ | □-D13#200 | | □-D13#200 | | | □-D13#200 | | □-D13#200 | | □-D13#200 | | □-D13#200 | | □-D13#200 | | □-D10#200 | | | □-D10#150 |
| 腹筋 | 6-D13 | | 6-D13 | | | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | | 4-D10 | | - | | | 2-D10 |

| 符号 | FB6 | FB7 | FB8 | FCG1 | FCG2 | FCG1 |
|--------|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 位置 | 端部 | 中央 | 端部 | 元端 | 先端 | 全断面 |
| 断面 | | | | | | |
| 上端筋 | 3-D22 | 3-D22 | 5-D25 | 3/3-D25 | 3-D25 | 3-D25 |
| 下端筋 | 3-D22 | 3/2-D22 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 |
| スターラップ | □-D13#200 | | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 | □-D13#200 |
| 腹筋 | 10-D13 | | 2-D10 | 4-D10 | 2-D10 | 4-D10 |

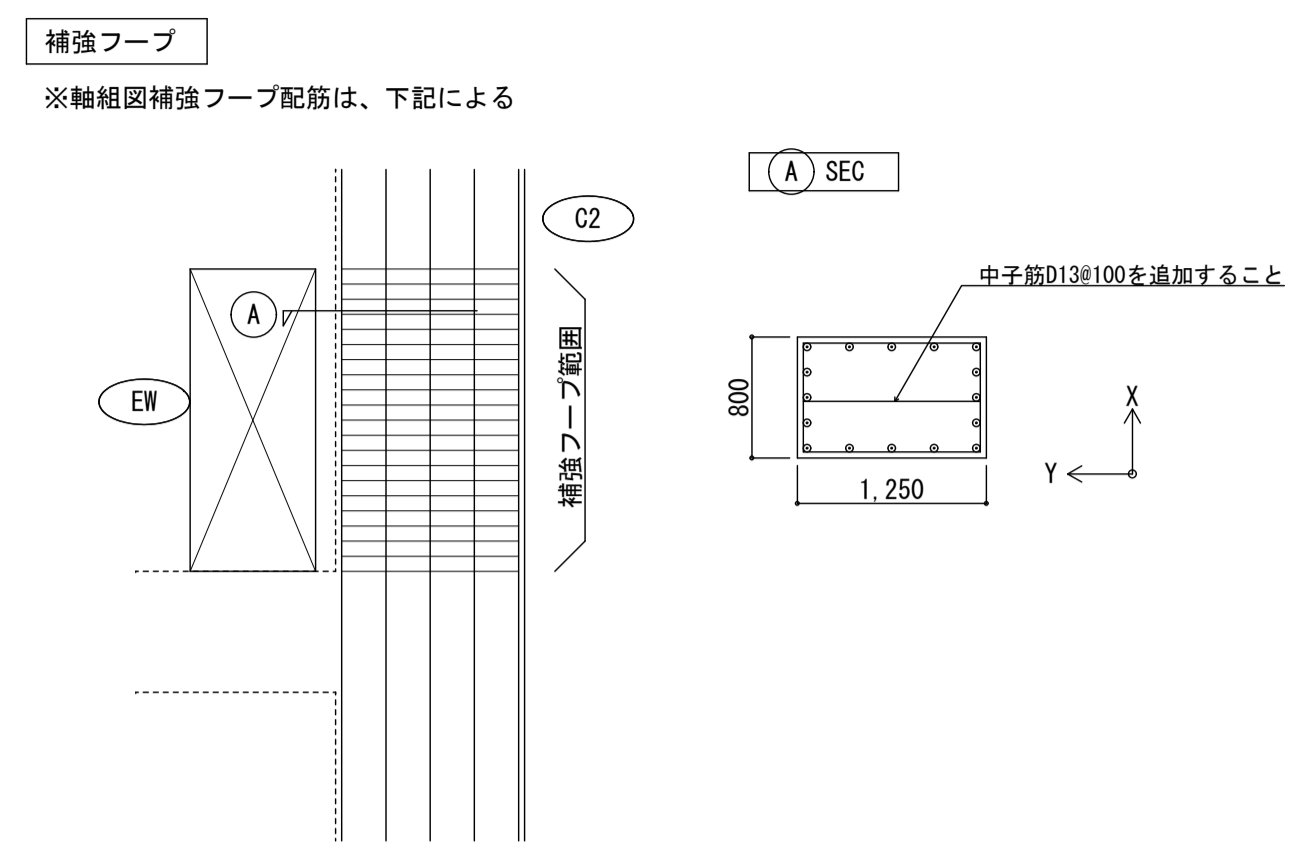
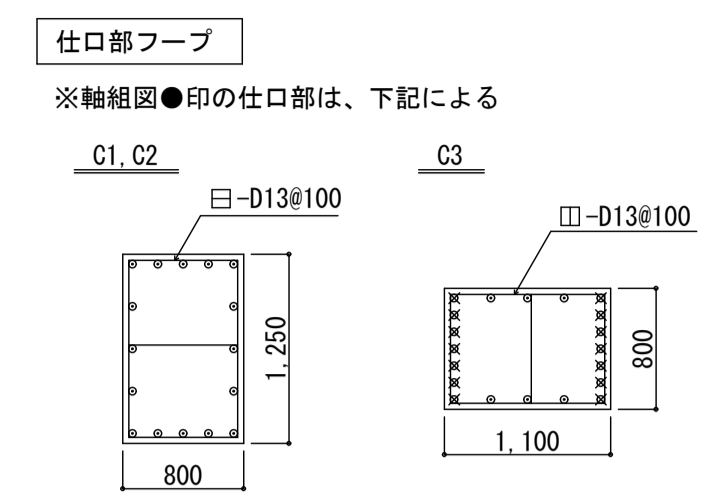


柱リスト 1/50 特記なき限り、1.一般部フープは、溶接閉鎖型とする

| 符号 | C1 | C2 | C3 | C4 | C5 |
|---------|--------------|-----------|--------------|-----------|-----------|
| 仕口部フープ | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 | | |
| 2階 | | | | | |
| 主筋 | 14-D29+6-D25 | 16-D25 | 14-D29+6-D25 | | |
| 一般部フープ | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 | | |
| 仕口部フープ | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 |
| 1階 | | | | | |
| 主筋 | 14-D29+6-D25 | 16-D25 | 14-D29+6-D25 | 12-D25 | 16-D25 |
| 一般部フープ | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 |
| 基礎梁内フープ | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 | □-D13#100 |

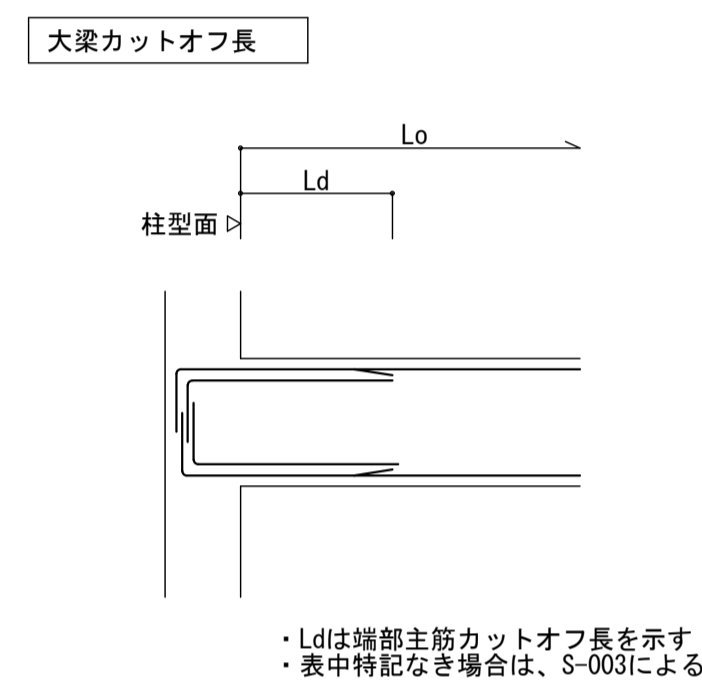


×Y梁の上端、下端筋が同位置にある場合
 ・上端筋：X方向主筋がY方向主筋の外側
 ・下端筋：Y方向主筋がX方向主筋の外側



大梁リスト 1/50 特記なき限り、1. 巾止筋はD10#1,000以内とする
2. 表中Ldは、カットオフ長を示す

| 符号 | GX1 | | | | GX2 | | | | GX2A | | GX3 | | GX4 | | GX4A | | | GY1 | | GY2 | |
|--------|-----------|-------|---------|---------|-----------|---------|---------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----|--|
| | 全断面 | | | | 1.9通端 | 中央 | 2.8通端 | 9通端 | 中央 | 8通端 | 全断面 | 全断面 | 6通端 | 中央 | 7通端 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | 全断面 | | |
| R階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 8-D25 | | | | | | | | | | | | | | | | | 6-D25 | | | |
| 下端筋 | 8-D25 | | | | | | | | | | | | | | | | | 6-D25 | | | |
| スターラップ | □-D13#150 | | | | | | | | | | | | | | | | | □-D13#150 | | | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2-D10 | | | |
| 2階 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 4-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 5/4-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 5/4-D25 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 4-D25 | 3-D25 | | |
| 下端筋 | 4-D25 | 5-D25 | 5/2-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 5/2-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 4-D25 | 3-D25 | | |
| スターラップ | □-D13#200 | | | | □-D13#200 | | | | □-D13#200 | | □-D13#200 | | □-D13#200 | | | □-D13#200 | | □-D13#200 | | | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | | 4-D10 | | | | 4-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | | | 2-D10 | | | |



小梁リスト 1/50 特記なき限り、1. 巾止筋はD10#1,000以内とする

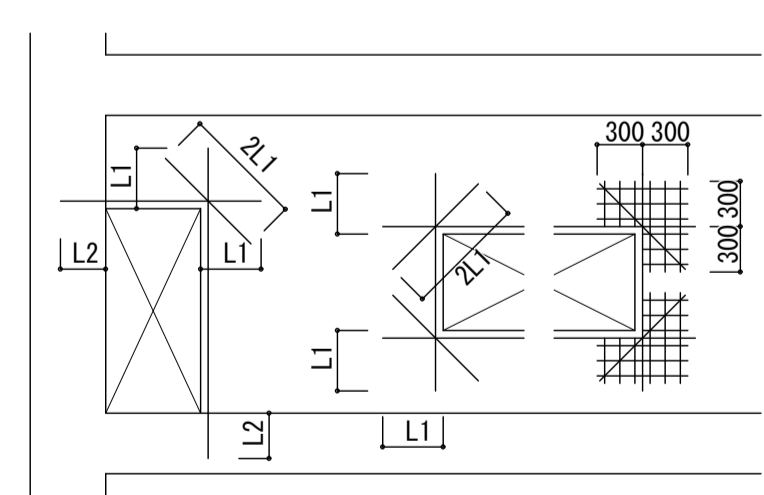
| 符号 | B1 | | | B2 | | B3 | | B4 | | B5 | | | B6 | | | B7 | CG1 | | CG2 | | CG3 | CB1 |
|--------|-----------|-------|-------|-----------|---------|-----------|-------|-----------|--------------|-----------|-------|---------|-----------|-------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-----------|-------|
| | B1側 | 中央 | 他端 | 端部 | 中央 | 全断面 | 端部 | 中央 | B5, B6, FB5側 | 中央 | 他端 | B6側 | 中央 | 他端 | 全断面 | 元端 | 先端 | 元端 | 先端 | 全断面 | 全断面 | |
| 断面 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 3/1-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D19 | 3-D25 | 3-D25 | 4-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 4/2-D22 | 4-D22 | 4-D22 | 3-D19 | 5/3-D25 | 5-D25 | 3/2-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D19 | |
| 下端筋 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3/1-D22 | 3-D19 | 3-D25 | 5-D25 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 4-D22 | 4-D22 | 4-D22 | 3-D19 | 5-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D25 | 3-D19 | |
| スターラップ | □-D10#200 | | | □-D10#200 | | □-D10#200 | | □-D10#150 | | □-D10#150 | | | □-D10#150 | | | □-D10#200 | | □-D13#200 | | □-D10#150 | □-D10#200 | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | 2-D10 | | - | | 2-D10 | | 2-D10 | | | 2-D10 | | | 2-D10 | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | 2-D10 |

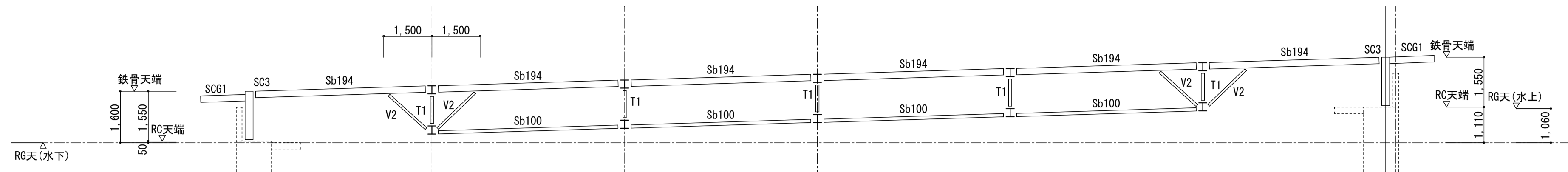
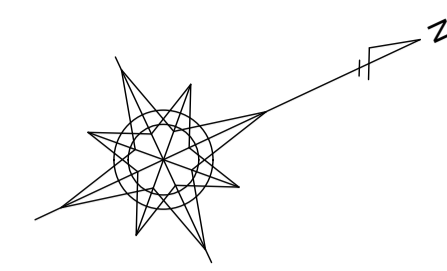
スラブリスト

| 符号 | 厚さ | 位置 | 主筋方向 | | | | 配筋方向 | | | | 備考 |
|-----|-----|-----|------------|---------|---------|---------|------|----|----|----|----|
| | | | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | |
| S1 | 150 | 上端筋 | D10D13#200 | D10#200 | D10#200 | D10#200 | | | | | |
| | | 下端筋 | D10#200 | D10#200 | D10#200 | D10#200 | | | | | |
| S2 | 150 | 上端筋 | D10D13#150 | D10#200 | D10#200 | D10#200 | | | | | |
| | | 下端筋 | D10#150 | D10#200 | D10#200 | D10#200 | | | | | |
| S2A | 150 | 上端筋 | D10D13#150 | D10#150 | D10#150 | D10#150 | | | | | |
| | | 下端筋 | D10#150 | D10#150 | D10#150 | D10#150 | | | | | |
| S3 | 180 | 上端筋 | D13#100 | D13#150 | D13#150 | D13#150 | | | | | |
| | | 下端筋 | D13#100 | D13#150 | D13#150 | D13#150 | | | | | |
| S4 | 200 | 上端筋 | D13#200 | D10#200 | D10#200 | D10#200 | | | | | |
| | | 下端筋 | D10#200 | D10#200 | D10#200 | D10#200 | | | | | |
| S5 | 200 | 上端筋 | D13#200 | D13#200 | D13#200 | D13#200 | | | | | |
| | | 下端筋 | D13#200 | D13#200 | D13#200 | D13#200 | | | | | |

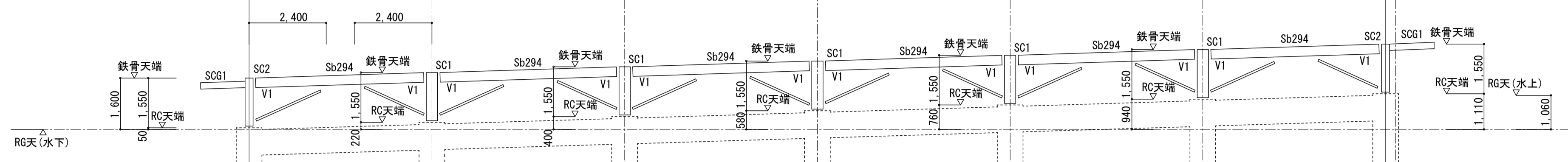
壁リスト 1/50 特記なき限り、1. 巾止筋はD10#1,000以内とする(シングル配筋を除く)

| 符号 | W12 | W15 | W18 | EW18 | EW18A |
|----------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 断面(水平断面) | | | | | |
| 縦筋 | D10#200(S) | D10#200(T) | D10#200(W) | D10#200(W) | D10#100(W) |
| 横筋 | D10#200(S) | D10#200(T) | D10#200(W) | D10#200(W) | D10#100(W) |
| 開口部補強筋 | 縦筋 1-D13 | 2-D13 | 2-D13 | 2-D13 | 2-D16 |
| | 横筋 1-D13 | 2-D13 | 2-D13 | 2-D16 | 4-D16 |
| | 斜筋 1-D13 | 2-D13 | 2-D13 | 2-D13 | 2-D13 |

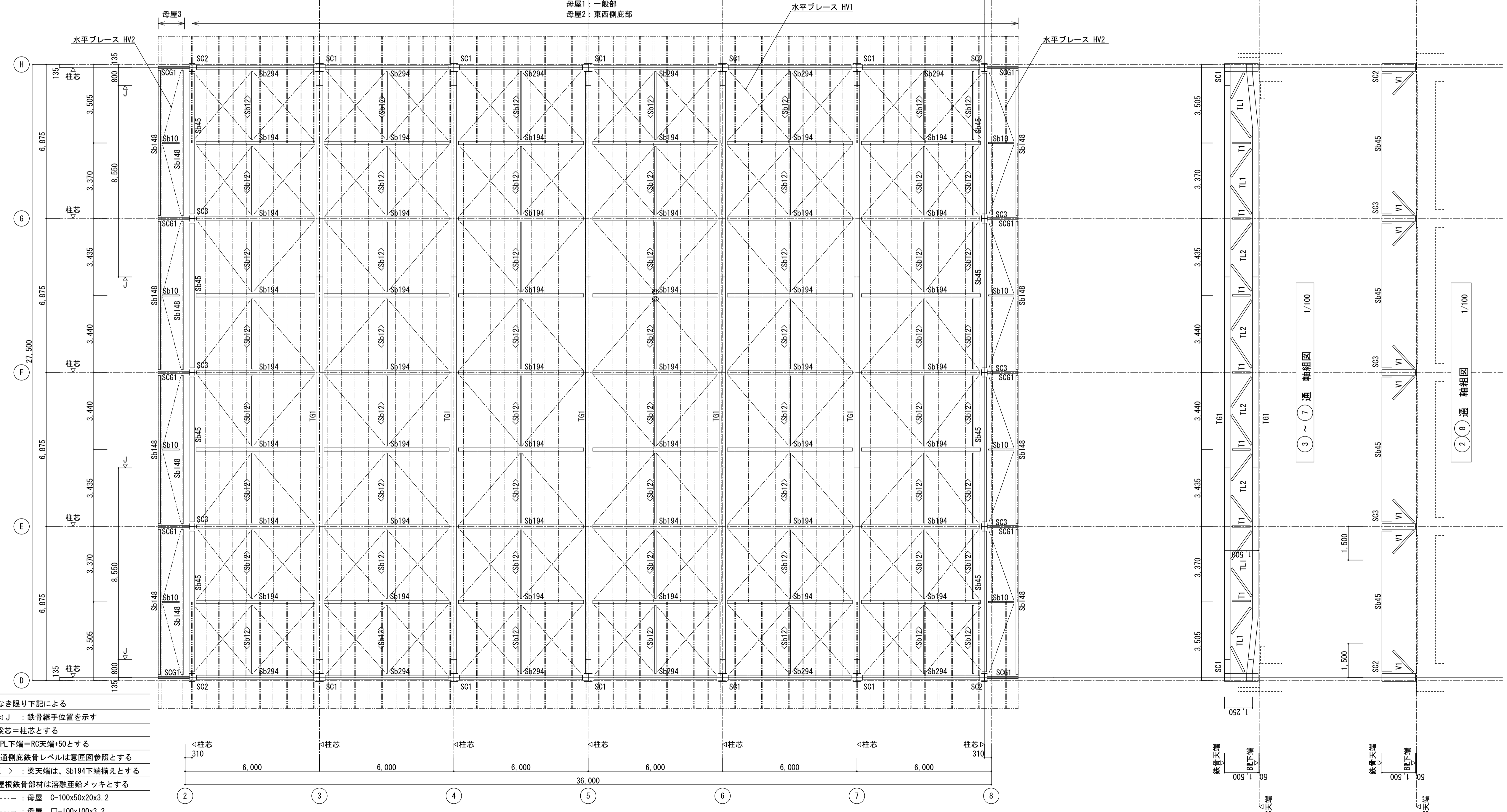




E F G 通 軸組図 1/100



D H 通 軸組図 1/100



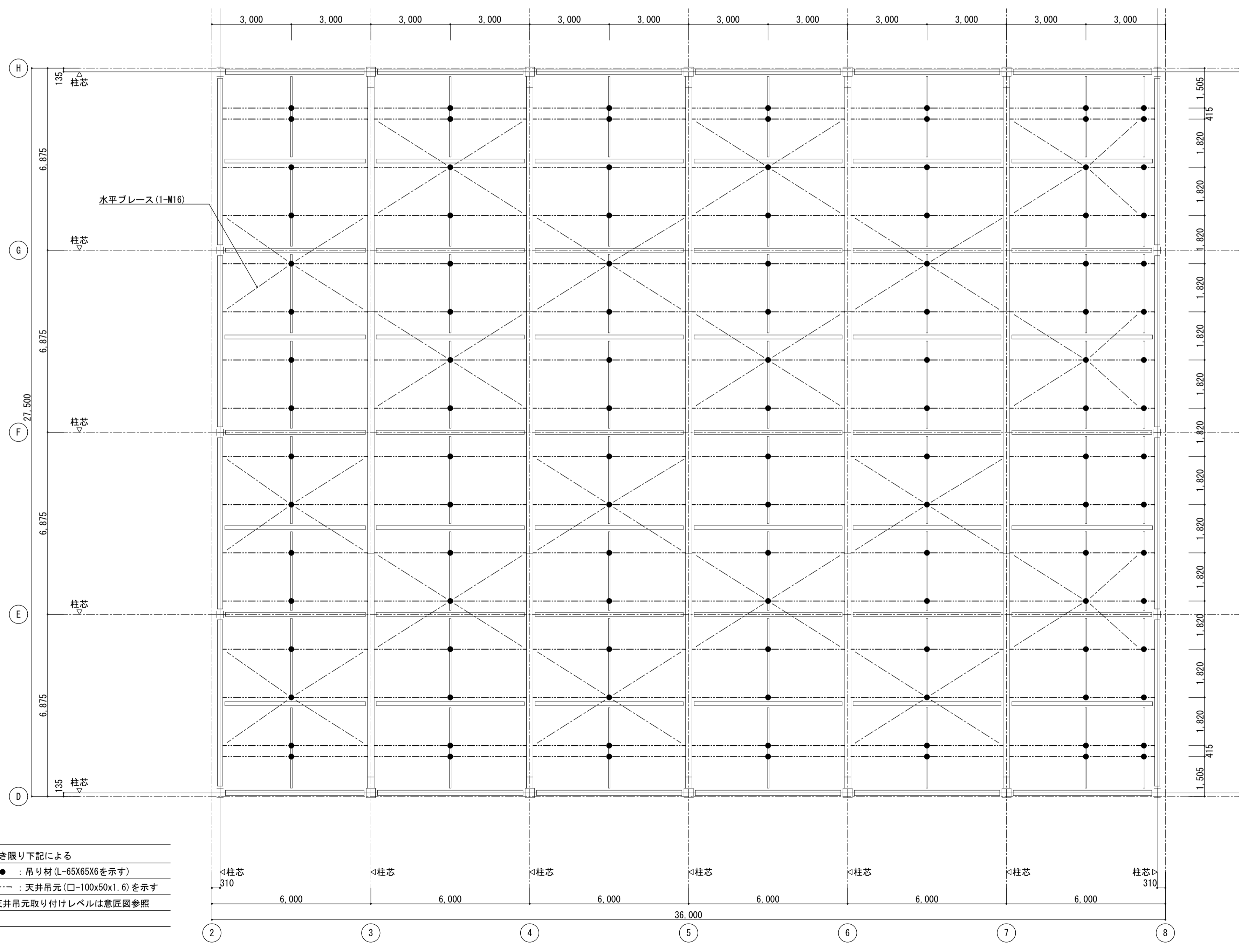
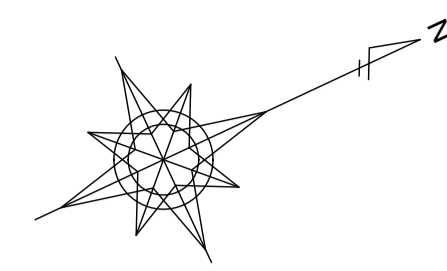
鉄骨屋根伏図 1/100

- 特記なき限り下記による
1. <J> : 鉄骨継手位置を示す
 2. 梁芯=柱芯とする
 3. BPL下端=RC天端+50とする
 4. 2通側底鉄骨レベルは意匠図参照とする
 5. <> : 梁天端は、Sb194下端揃えとする
 6. 屋根鉄骨部材は溶融亜鉛メッキとする
 7. --- : 母屋 C-100x50x20x3.2
 7. --- : 母屋 □-100x100x3.2

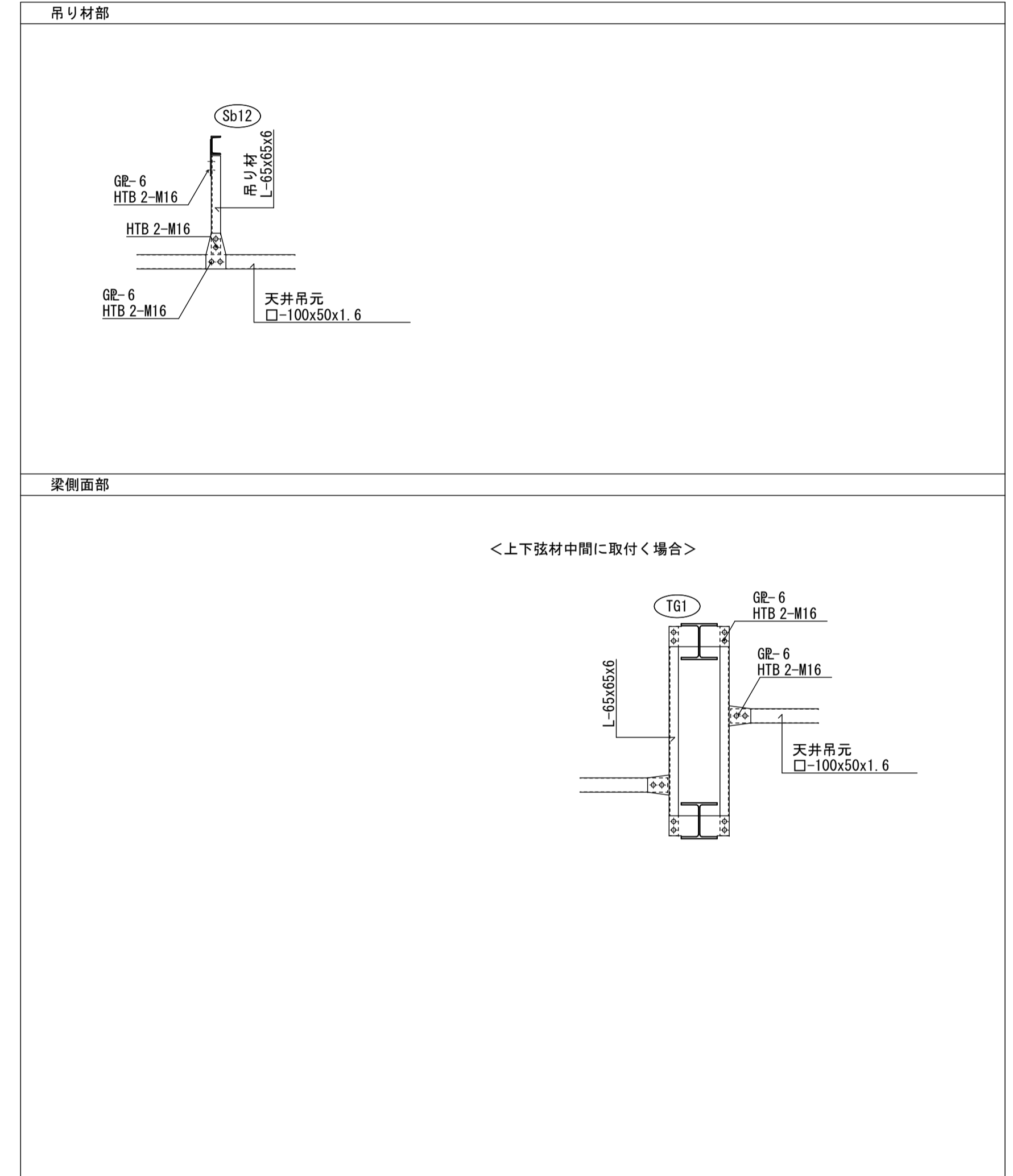
3 ~ 7 通 軸組図 1/100

2 8 通 軸組図 1/100

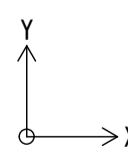
| | | | | |
|--------|--|--|---|---|
| 記
事 | 工事名称
温水プール改築工事 (建築工事) | | | 設計年月
令和6年2月 |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
構造設計: 株式会社 平野構造技術 一級建築士 第282608号
平野 進 | | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (L-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面名称
鉄骨屋根伏図
縮尺
A1:1/100
図面番号
S-023 |
| | | | | ※A3版の場合は50%縮小とする。 |



天井吊元取り付け要領 1/30



- 特記なき限り下記による
- : 吊り材 (L-65X65X6) を示す
 - : 天井吊元 (□-100x50x1.6) を示す
 - 天井吊元取り付けレベルは意匠図参照



天井地下伏図 1/100

| | | | | | | | | |
|--------|-------------------|---|--|--|------|--------|--|--|
| 記
事 | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | | | 設計年月 | 令和6年2月 | | |
| | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (L-4) 第11452号
一級建築士 (大匠) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | | | 図面名称 | 天井地下伏図 | | |
| | 縮尺 | A1:1/100 | | | 図面番号 | S-025 | | |
| | ※A3版の場合は50%縮小とする。 | | | | | | | |

| 温水プール改築工事（建築解体工事）特記仕様書 | | | | | | | |
|--|-------------|--|--|--|--|--|--|
| <p>総 則</p> <p>工 事 概 要</p> <p>1. 工事場所 四日市市 昌栄町 地内</p> <p>2. 工事種目 既存プール棟、管理棟、休憩所、駐輪所、外構ほか解体工事</p> <p>1. 共通仕様</p> <p>(1) 図面及び特記仕様に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説(令和4年版)」(以下「解体共通仕様書」という。)による。</p> <p>2. 特記仕様</p> <p>(1) 項目は、○印の付いたものを適用する。</p> <p>(2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。</p> <p>○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。</p> <p>○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。</p> <p>(3) 特記事項に記載の [. . .] 内表示番号は、解体共通仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p> <p>(4) 特記事項に記載の (標 . . .) 内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p> <p>部 分 完 成 ○無 ・有 ()</p> <p>部 分 引 渡 し ○無 ・有 ()</p> <p>1) 保 険 及 び 保 証</p> <p>◎建設工事保険 (保険証の写しを提出)</p> <p>◎請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出)</p> <p>(○管理財物担保特約に加入のこと)</p> <p>・任意にて加入</p> <p>2) 建 設 共 済 等</p> <p>下記の制度について加入すること。</p> <p>◎法定外労災補償制度 (加入証明書の写しを提出)</p> <p>◎建設業退職金共済制度 当初の請負金額が500万円以上の場合は、掛金収納書を提出すること。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を提出すること。 共済証紙購入額：請負金額の 0.8/1000以上</p> <p>なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする</p> <p>・任意にて加入</p> <p>※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項</p> <p>資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、出来る限り市内業者を優先させること。</p> | | | <p>④振動、騒音、ほこりのでる作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣施設等と調整を行うこと。</p> <p>◎音の発生する工事は昼間の作業とし、早期、夕方以降は作業を行わないこと。また、低騒音の建設重機を使用し周辺への影響に配慮すること。</p> <p>◎工事期間中は、近隣住民の安全確保に努めること。</p> <p>・2020/ / ~ / は工事を行わないこと。</p> <p>◎解体中は必ず散水を行い、埃の飛散に注意して施工すること。また強風時は施工を行わないこと。</p> <p>交通誘導員 ◎配置する 1名以上(大型車の出入は必ず) ・配置しない [1.3.6]</p> <p>・交通誘導警備員A ※交通誘導警備員B</p> <p>・引渡しを要するもの () [1.3.10]</p> <p>・工事現場において再利用及び再資源化を図るもの ()</p> <p>・特定建設資材の搬出</p> <p>再資源化等を行う(再資源化が困難な場合には縮減)</p> <p>・特定建設資材以外の搬出 ・構外搬出適正処理</p> <p>※廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。</p> <p>※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面にて処分地の報告(位置図等)を行い、処分地での処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。</p> <p>事前調査(有資格者) ◎行う ・行わない [1.4.1]</p> <p>調査結果報告書等の賞与 ○有 ・無</p> <p>分析調査 ・行う(対象箇所:) ◎行わない</p> <p>※定性分析 ・定量分析</p> <p>※分析調査は「建材中の石綿含有率の分析方法について(令和3年12月22日改正)」に基づき行う。</p> <p>※現地調査を行い、事前調査結果報告書を作成し、提出する。</p> <p>調査の結果、設計図書と異なる場合は、監督職員と協議する。</p> <p>公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。なお、警備業者についても記載すべき下請負人の範囲に含むものとする。</p> <p>※本工事が資源の有効な利用の促進に関する法律(平成三年法律第四十八号)の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合(下記内容該当工事)は、受注者は、工事の施工前に発注者に再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならず、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。</p> <p>◎建設副産物を搬出する際の計画</p> <p>1. 土砂500m3以上</p> <p>2. コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材の合計が200t以上</p> <p>・再生資材を利用する際の計画</p> <p>1. 土砂500m3以上</p> <p>2. 砕石500t以上</p> <p>3. 加熱アスファルト200t以上</p> | <p>②産業廃棄物 広域認定制度</p> <p>3 最終処分</p> <p>4 処理に注意を要する 建設廃棄物</p> <p>5 廃棄物管理票</p> <p>産業廃棄物の広域的処理 ・行う ○行わない [4.4.2]</p> <p>最終処分場(引渡しを受ける物及び再資源化を行うもの以外の物) () [4.4.3]</p> <p>最終処分場(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設) ()</p> <p>・CCA処理木材 [4.5.1]</p> <p>・ひ素・カドミウム含有石膏ボード</p> <p>・上記以外の石膏ボード ・最終処分 ・再資源化</p> <p>※ 廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。</p> | | | |
| <p>5章 特別管理産業廃棄物の処理</p> <p>①施工調査</p> <p>②特別管理産業廃棄物の処理等</p> <p>特別管理産業廃棄物の分析調査 ○行う ・行わない [5.1.2]</p> <p>特別管理産業廃棄物の処理等 ○行う ・行わない [5.4.1]</p> <p>PCBを含む機器類</p> <p>微量PCBの分析調査 ・行う ・行わない [5.4.1]</p> <p>PCB含有シーリング材</p> <p>分析調査及び撤去 ・行う ・行わない [5.4.1]</p> <p>廃油</p> <p>・焼却処分 ・中間処理施設での再生処理 [5.4.1]</p> <p>廃酸・廃アルカリ</p> <p>・中和処理 ・焼却処分 ・中間処理施設での再生処理 [5.4.1]</p> <p>ダイオキシン類</p> <p>サンプリング調査 ・行う ○行わない [5.4.1]</p> | | | <p>⑦石綿含有建材の調査</p> <p>⑧施工体制台帳の提出</p> <p>⑨資源有効利用促進</p> | <p>6章 石綿含有建材の除去及び処理</p> <p>①一般事項</p> <p>労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針(建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にはばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針)を遵守すること。</p> <p>◎アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。</p> <p>石綿障害予防規則及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への報告等を行うこと。</p> <p>◎石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。</p> <p>◎事前調査結果及び特定粉塵排出等作業の掲示を行うこと。</p> <p>◎アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。</p> <p>◎アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。</p> <p>②施工調査</p> <p>分析による調査 ○行う ・行わない [6.1.3]</p> <p>※書面調査及び現地調査の調査結果を監督職員に提出すること。</p> <p>③石綿含有吹付け材の除去</p> <p>石綿含有吹付け材の有無 ・有 ○無 [6.1.3]</p> <p>除去吹付け材()含有場所()</p> <p>吹付け材の施工数量調査 ※行う</p> <p>石綿粉じん濃度測定 ※行う</p> | | | |
| 章 | 項 目 | 特 記 事 項 | 2章 仮設工事 | <p>①騒音・粉じん等の対策</p> <p>※ 騒音、粉じん等の対策 [2.2.1]</p> <p>※ 防音パネルを隙間なく取り付ける。</p> <p>・ 防音シートをジョイントの重ねと結束を十分に施し、隙間なく取り付ける。</p> <p>・ メッシュ金網、養生シート等を隙間なく取り付ける。</p> <p>なお、シート類は防災処理されたものとする。</p> <p>※ 防音パネル等を取り付ける足場等の範囲</p> <p>※ 図示による。</p> <p>◎設ける。(規模・備品等の設置は下記による) ・設けない [2.3.1]</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> | <p>①杭</p> <p>杭の解体 ○行う ・行わない [3.9.2]</p> <p>○引抜き工法 ・破砕工法</p> <p>②構内舗装、樹木等</p> <p>◎ 樹木等の伐採 ○行う ・行わない [3.11.1]</p> <p>◎ 樹木等の伐採抜根 ○行う ・行わない</p> <p>◎ 樹木等の移植 ・行う ○行わない</p> <p>※ 対象樹木等は図示による。</p> <p>地下埋設物及び埋設配管等の解体 ○行う ・行わない [3.12.1]</p> <p>解体後の埋戻し ○行う ・行わない [3.13.1]</p> <p>盛 土 ・行う ○行わない</p> | <p>3章 解体施工</p> <p>④地下埋設物等</p> <p>④埋戻し、盛土及び整地</p> | <p>4章 建設廃棄物の処理</p> <p>①再資源化等</p> <p>中間処理施設(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設) () [4.4.1]</p> <p>再資源化施設(同上) ()</p> <p>※ 特定建設資材廃棄物は、再資源化を行う(再資源化が困難な場合は縮減)</p> <p>水銀使用製品産業廃棄物 ・行う ○行わない</p> <p>硬質ポリ塩化ビニル管・継手 ・行う ○行わない</p> <p>ガラス ・行う ○行わない</p> <p>木材の縮減 ・行う ○行わない</p> <p>現場での利用 ・行う ○行わない</p> |
| 1章 一般共通事項 | 1 工事実績情報の登録 | ※請負金額が500万円以上の場合は、登録を行う。 [1.1.4] | 3章 解体施工 | <p>①騒音・粉じん等の対策</p> <p>※ 騒音、粉じん等の対策 [2.2.1]</p> <p>※ 防音パネルを隙間なく取り付ける。</p> <p>・ 防音シートをジョイントの重ねと結束を十分に施し、隙間なく取り付ける。</p> <p>・ メッシュ金網、養生シート等を隙間なく取り付ける。</p> <p>なお、シート類は防災処理されたものとする。</p> <p>※ 防音パネル等を取り付ける足場等の範囲</p> <p>※ 図示による。</p> <p>◎設ける。(規模・備品等の設置は下記による) ・設けない [2.3.1]</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> | <p>①杭</p> <p>杭の解体 ○行う ・行わない [3.9.2]</p> <p>○引抜き工法 ・破砕工法</p> <p>②構内舗装、樹木等</p> <p>◎ 樹木等の伐採 ○行う ・行わない [3.11.1]</p> <p>◎ 樹木等の伐採抜根 ○行う ・行わない</p> <p>◎ 樹木等の移植 ・行う ○行わない</p> <p>※ 対象樹木等は図示による。</p> <p>地下埋設物及び埋設配管等の解体 ○行う ・行わない [3.12.1]</p> <p>解体後の埋戻し ○行う ・行わない [3.13.1]</p> <p>盛 土 ・行う ○行わない</p> | <p>3章 解体施工</p> <p>④地下埋設物等</p> <p>④埋戻し、盛土及び整地</p> | <p>4章 建設廃棄物の処理</p> <p>①再資源化等</p> <p>中間処理施設(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設) () [4.4.1]</p> <p>再資源化施設(同上) ()</p> <p>※ 特定建設資材廃棄物は、再資源化を行う(再資源化が困難な場合は縮減)</p> <p>水銀使用製品産業廃棄物 ・行う ○行わない</p> <p>硬質ポリ塩化ビニル管・継手 ・行う ○行わない</p> <p>ガラス ・行う ○行わない</p> <p>木材の縮減 ・行う ○行わない</p> <p>現場での利用 ・行う ○行わない</p> |
| 1章 一般共通事項 | ②工事の記録 | ※工事写真については以下による。(編集工程写真はA4版程度) [1.2.3] | 3章 解体施工 | <p>①騒音・粉じん等の対策</p> <p>※ 騒音、粉じん等の対策 [2.2.1]</p> <p>※ 防音パネルを隙間なく取り付ける。</p> <p>・ 防音シートをジョイントの重ねと結束を十分に施し、隙間なく取り付ける。</p> <p>・ メッシュ金網、養生シート等を隙間なく取り付ける。</p> <p>なお、シート類は防災処理されたものとする。</p> <p>※ 防音パネル等を取り付ける足場等の範囲</p> <p>※ 図示による。</p> <p>◎設ける。(規模・備品等の設置は下記による) ・設けない [2.3.1]</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> | <p>①杭</p> <p>杭の解体 ○行う ・行わない [3.9.2]</p> <p>○引抜き工法 ・破砕工法</p> <p>②構内舗装、樹木等</p> <p>◎ 樹木等の伐採 ○行う ・行わない [3.11.1]</p> <p>◎ 樹木等の伐採抜根 ○行う ・行わない</p> <p>◎ 樹木等の移植 ・行う ○行わない</p> <p>※ 対象樹木等は図示による。</p> <p>地下埋設物及び埋設配管等の解体 ○行う ・行わない [3.12.1]</p> <p>解体後の埋戻し ○行う ・行わない [3.13.1]</p> <p>盛 土 ・行う ○行わない</p> | <p>3章 解体施工</p> <p>④地下埋設物等</p> <p>④埋戻し、盛土及び整地</p> | <p>4章 建設廃棄物の処理</p> <p>①再資源化等</p> <p>中間処理施設(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設) () [4.4.1]</p> <p>再資源化施設(同上) ()</p> <p>※ 特定建設資材廃棄物は、再資源化を行う(再資源化が困難な場合は縮減)</p> <p>水銀使用製品産業廃棄物 ・行う ○行わない</p> <p>硬質ポリ塩化ビニル管・継手 ・行う ○行わない</p> <p>ガラス ・行う ○行わない</p> <p>木材の縮減 ・行う ○行わない</p> <p>現場での利用 ・行う ○行わない</p> |
| 1章 一般共通事項 | ③電気保安技術者 | ◎適用する ・適用しない [1.3.3] | 3章 解体施工 | <p>①騒音・粉じん等の対策</p> <p>※ 騒音、粉じん等の対策 [2.2.1]</p> <p>※ 防音パネルを隙間なく取り付ける。</p> <p>・ 防音シートをジョイントの重ねと結束を十分に施し、隙間なく取り付ける。</p> <p>・ メッシュ金網、養生シート等を隙間なく取り付ける。</p> <p>なお、シート類は防災処理されたものとする。</p> <p>※ 防音パネル等を取り付ける足場等の範囲</p> <p>※ 図示による。</p> <p>◎設ける。(規模・備品等の設置は下記による) ・設けない [2.3.1]</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> | <p>①杭</p> <p>杭の解体 ○行う ・行わない [3.9.2]</p> <p>○引抜き工法 ・破砕工法</p> <p>②構内舗装、樹木等</p> <p>◎ 樹木等の伐採 ○行う ・行わない [3.11.1]</p> <p>◎ 樹木等の伐採抜根 ○行う ・行わない</p> <p>◎ 樹木等の移植 ・行う ○行わない</p> <p>※ 対象樹木等は図示による。</p> <p>地下埋設物及び埋設配管等の解体 ○行う ・行わない [3.12.1]</p> <p>解体後の埋戻し ○行う ・行わない [3.13.1]</p> <p>盛 土 ・行う ○行わない</p> | <p>3章 解体施工</p> <p>④地下埋設物等</p> <p>④埋戻し、盛土及び整地</p> | <p>4章 建設廃棄物の処理</p> <p>①再資源化等</p> <p>中間処理施設(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設) () [4.4.1]</p> <p>再資源化施設(同上) ()</p> <p>※ 特定建設資材廃棄物は、再資源化を行う(再資源化が困難な場合は縮減)</p> <p>水銀使用製品産業廃棄物 ・行う ○行わない</p> <p>硬質ポリ塩化ビニル管・継手 ・行う ○行わない</p> <p>ガラス ・行う ○行わない</p> <p>木材の縮減 ・行う ○行わない</p> <p>現場での利用 ・行う ○行わない</p> |
| 1章 一般共通事項 | ④週休2日制工事 | 「四日市市週休2日制工事実施要領(営繕工事)」に基づく適用は下記による。 | 3章 解体施工 | <p>①騒音・粉じん等の対策</p> <p>※ 騒音、粉じん等の対策 [2.2.1]</p> <p>※ 防音パネルを隙間なく取り付ける。</p> <p>・ 防音シートをジョイントの重ねと結束を十分に施し、隙間なく取り付ける。</p> <p>・ メッシュ金網、養生シート等を隙間なく取り付ける。</p> <p>なお、シート類は防災処理されたものとする。</p> <p>※ 防音パネル等を取り付ける足場等の範囲</p> <p>※ 図示による。</p> <p>◎設ける。(規模・備品等の設置は下記による) ・設けない [2.3.1]</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> | <p>①杭</p> <p>杭の解体 ○行う ・行わない [3.9.2]</p> <p>○引抜き工法 ・破砕工法</p> <p>②構内舗装、樹木等</p> <p>◎ 樹木等の伐採 ○行う ・行わない [3.11.1]</p> <p>◎ 樹木等の伐採抜根 ○行う ・行わない</p> <p>◎ 樹木等の移植 ・行う ○行わない</p> <p>※ 対象樹木等は図示による。</p> <p>地下埋設物及び埋設配管等の解体 ○行う ・行わない [3.12.1]</p> <p>解体後の埋戻し ○行う ・行わない [3.13.1]</p> <p>盛 土 ・行う ○行わない</p> | <p>3章 解体施工</p> <p>④地下埋設物等</p> <p>④埋戻し、盛土及び整地</p> | <p>4章 建設廃棄物の処理</p> <p>①再資源化等</p> <p>中間処理施設(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設) () [4.4.1]</p> <p>再資源化施設(同上) ()</p> <p>※ 特定建設資材廃棄物は、再資源化を行う(再資源化が困難な場合は縮減)</p> <p>水銀使用製品産業廃棄物 ・行う ○行わない</p> <p>硬質ポリ塩化ビニル管・継手 ・行う ○行わない</p> <p>ガラス ・行う ○行わない</p> <p>木材の縮減 ・行う ○行わない</p> <p>現場での利用 ・行う ○行わない</p> |
| 1章 一般共通事項 | ⑤施工条件 | [1.3.5] | 3章 解体施工 | <p>①騒音・粉じん等の対策</p> <p>※ 騒音、粉じん等の対策 [2.2.1]</p> <p>※ 防音パネルを隙間なく取り付ける。</p> <p>・ 防音シートをジョイントの重ねと結束を十分に施し、隙間なく取り付ける。</p> <p>・ メッシュ金網、養生シート等を隙間なく取り付ける。</p> <p>なお、シート類は防災処理されたものとする。</p> <p>※ 防音パネル等を取り付ける足場等の範囲</p> <p>※ 図示による。</p> <p>◎設ける。(規模・備品等の設置は下記による) ・設けない [2.3.1]</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> <p>構内既存の施設 ○利用できる(◎有償 ・無償) ・利用できない</p> | <p>①杭</p> <p>杭の解体 ○行う ・行わない [3.9.2]</p> <p>○引抜き工法 ・破砕工法</p> <p>②構内舗装、樹木等</p> <p>◎ 樹木等の伐採 ○行う ・行わない [3.11.1]</p> <p>◎ 樹木等の伐採抜根 ○行う ・行わない</p> <p>◎ 樹木等の移植 ・行う ○行わない</p> <p>※ 対象樹木等は図示による。</p> <p>地下埋設物及び埋設配管等の解体 ○行う ・行わない [3.12.1]</p> <p>解体後の埋戻し ○行う ・行わない [3.13.1]</p> <p>盛 土 ・行う ○行わない</p> | <p>3章 解体施工</p> <p>④地下埋設物等</p> <p>④埋戻し、盛土及び整地</p> | <p>4章 建設廃棄物の処理</p> <p>①再資源化等</p> <p>中間処理施設(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設) () [4.4.1]</p> <p>再資源化施設(同上) ()</p> <p>※ 特定建設資材廃棄物は、再資源化を行う(再資源化が困難な場合は縮減)</p> <p>水銀使用製品産業廃棄物 ・行う ○行わない</p> <p>硬質ポリ塩化ビニル管・継手 ・行う ○行わない</p> <p>ガラス ・行う ○行わない</p> <p>木材の縮減 ・行う ○行わない</p> <p>現場での利用 ・行う ○行わない</p> |
| <p>※提出書類はA4版とする</p> <p>※産業廃棄物税</p> <p>本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、請負者が本工事により生じた産業廃棄物が、課税対象となった場合には、翌年度に産業廃棄物税納税証明書等を添付して、本工事により生じた産業廃棄物税相当分を請求することができる。</p> | | | <p>四日市市都市整備部営繕工務課</p> <p>一級建築士 登録 第 号</p> <p>四日市市諏訪町1番5号</p> | | <p>工事名</p> <p>温水プール改築工事(建築工事)</p> | | |
| | | | <p>日付</p> <p>令和6年3月</p> | <p>図面名</p> <p>特記仕様書(解体1)</p> | <p>縮尺</p> <p>—</p> | <p>図面番号</p> <p>K-001</p> <p>/</p> | |
| | | | | | <p>令和6年版</p> | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|--|---|---------------------|------|------|--------|--------|------------|--------------|-------|------|------|---------|--------|--------|---------|---------|-------|---------|---------|--------|-------------------------|--|--|------|-------------------------|--|--|---------|----------------------------|--|--|------|--------|---------|---------|--|--|
| 6章
石綿含有建材の除去及び処理 | <p>石綿粉じん濃度測定方法</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>測定 3</td> <td>測定 1, 2, 4, 6, 7, 8</td> <td>測定 5</td> </tr> <tr> <td>計数機器</td> <td>位相差顕微鏡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>メンブレンフィルタの直径</td> <td></td> <td>25mm</td> <td>47mm</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量</td> <td>1l/min</td> <td>5l/min</td> <td>10l/min</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間</td> <td>5 min</td> <td>120 min</td> <td>210 min</td> </tr> <tr> <td>試料の透明化</td> <td colspan="3">アセトントリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法</td> </tr> <tr> <td>計数条件</td> <td colspan="3">総アスベスト繊維数 200本又は視野数50視野</td> </tr> <tr> <td>計数アスベスト</td> <td colspan="3">直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ直径比3：1以上</td> </tr> <tr> <td>定量限界</td> <td>50 f/l</td> <td>0.5 f/l</td> <td>0.3 f/l</td> </tr> </table> <p>作業場の隔離等 ※行う [6.3.1]
除去工法
※除去工法については、工法に関する資料を監督職員に提出し、承諾を得ること。
処分方法
・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。
・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う。</p> <p>④ アスベスト含有仕上塗材の除去
アスベスト含有仕上塗材の除去(除去工法、養生、粉じん飛散防止措置、呼吸用保護具・保護衣等)については、「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による。
アスベスト含有仕上塗材の有無 ○有 ・無
ブル棟除去仕上塗材 (77ル系)の吹付 下地調整材) 含有場所 (77ル棟・管理棟 外壁・庇上裏)
撤去の範囲 ○全面撤去 ・図示による
除去工法 (原則湿潤化し、下記工法とする)
・水洗い工法 ・手工具ケレン工法
・集じん装置付高圧水洗工法 ・集じん装置付超高圧水洗工法 ・超音波ケレン工法
・剥離材併用高圧水洗工法 ・剥離材併用超高圧水洗工法 ・剥離材併用手工具ケレン工法
・剥離材併用超音波ケレン工法 ○集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法
上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。
除去工法の試験施工 ・行う ※行わない
作業場の隔離及び養生
「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」による。
・隔離養生不要 ・隔離養生必要(負圧不要)・その他 ()
処分方法
○埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。
・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う</p> <p>⑤ 石綿含有保温材等の除去
石綿含有保温材の有無 ○有 ・無 [6.4.1]
除去保温材 (煙突用石綿断熱材) 含有場所 (煙突内面)
作業場の区画 ○行う ・行わない
処分方法
○埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。
・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う。</p> <p>⑥ 石綿含有成形板の除去
石綿含有成形板の有無 ○有 ・無 [6.5.1]
除去成形板 (ビニル床タイル) 含有場所 (事務室床)
作業場の区画 ・行う ○行わない
処分方法
石綿含有石膏ボード
※管理型最終処分場で埋立処分する。
石綿含有石膏ボード以外
・埋立処分の場合は、石綿含有産業廃棄物として、安定型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。
・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う。</p> <p>⑦ 特記事項
※本工事に配置管理させる者(有資格者)
※特定化学物質等作業主任者(H18.3.31以前の講習修了者)
又は石綿作業主任者(H18.4.1以降の講習修了者)</p> | | 測定 3 | 測定 1, 2, 4, 6, 7, 8 | 測定 5 | 計数機器 | 位相差顕微鏡 | | | メンブレンフィルタの直径 | | 25mm | 47mm | 試料の吸引流量 | 1l/min | 5l/min | 10l/min | 試料の吸引時間 | 5 min | 120 min | 210 min | 試料の透明化 | アセトントリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法 | | | 計数条件 | 総アスベスト繊維数 200本又は視野数50視野 | | | 計数アスベスト | 直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ直径比3：1以上 | | | 定量限界 | 50 f/l | 0.5 f/l | 0.3 f/l | <p>(秘密の保持)</p> <p>第3 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するに当たって知り得た個人情報を当該工事を施工するために必要な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。
2 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない。
3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。
(適正な管理)</p> <p>第4 乙は、この契約による工事に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。
2 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。
3 管理責任者は、個人情報を取り扱う工事の従事者を必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方法等について適正な指導管理を行わなければならない。
4 四日市市(以下「甲」という。)は、必要があると認めるときは、個人情報の管理状況等に関し、乙に対して報告を求め、又は乙の作業場所を突地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。
(収集の制限)</p> <p>第5 乙及び乙の従事者は、この契約による工事を施工するために、個人情報を収集するときは、当該工事を施工するために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。
(再提供の禁止)</p> <p>第6 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供してはならない。
2 乙は、前項の承諾により再提供する場合は、再提供先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じなければならない。
3 前項の場合において、乙は、再提供先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。(複写、複製の禁止)</p> <p>第7 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等(以下「資料等」という。)を複写し、又は複製してはならない。
(持ち出しの禁止)</p> <p>第8 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等(複写又は複製したものを含む。第9において同じ。)を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。
2 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書面により確認するものとする。
3 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等を施して関係者以外の者がアクセスできないようにするとともに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びき損の防止その他適切な管理を行わなければならない。(資料等の返還)</p> <p>第9 乙は、この契約による工事を施工するに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等を、当該工事の終了後速やかに甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄し、又は消去する場合を除く。
2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。
(1) 紙媒体 シュレッダーによる裁断
(2) 電子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕
3 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による工事に係る個人情報を第三者に再提供したときは、当該工事の終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。
4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合においては、乙は、当該資料等が廃棄、又は消去されたことを直接確認しなければならない。(研修・教育の実施)</p> <p>第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による工事における個人情報の適正な取り扱いに資するための研修・教育を行うものとする。(苦情の処理)</p> <p>第11 乙は、この契約による工事の施工に当たって、個人情報の取り扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処理に努めるものとする。
(定期報告及び事故発生時における報告)</p> <p>第12 乙は、甲から個人情報の取扱の状況について報告を求められた場合は、直ちに報告しなければならない。
2 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。
(監査及び検査)</p> <p>第13 甲は、この契約による業務に係る個人情報の取り扱いについて、この契約の規定に基づき必要な措置が講じられていることを検証および確認するため、乙及び第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による業務を受託し、又は請け負った第三者に対して、監査又は検査を行うことができる。
2 甲は、前項の目的を達するため、乙に対して必要な情報を求め、又はこの契約による業務の処理に関して必要な指示をすることができる。
(契約解除及び損害賠償)</p> <p>第14 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めるときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。</p> | <p>暴力団等不当介入に関する事項</p> <p>1. 契約の解除
四日市市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱(平成20年四日市市告示第28号)第3条又は第4条の規定により、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止措置を受けたときは、契約を解除することができる。
2. 暴力団等による不当介入を受けたときの義務
(1) 不当介入には、断固拒否するとともに、速やかに警察へ通報並びに業務発注所属へ報告し、警察への捜査協力を行うこと。
(2) 契約の履行において、不当介入を受けたことにより、業務遂行に支障が生じたり、納期等に遅れが生じるおそれがあるときには、業務発注所属と協議を行うこと。
(3) (1)(2)の義務を怠ったときは、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止等の措置を講ずる。</p> <p>障害者差別解消に関する事項</p> <p>1. 対応要領に沿った対応
(1) この契約による事務・事業の実施(以下「本業務」という。)の請負(委託)を受けた者(以下「受注者(受託者)」という。)は、本業務を履行するに当たり、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号。以下「法」という。)に定めるもののほか、障害を理由とする差別の解消の推進に関する四日市市職員対応要領(平成29年2月28日策定。以下「対応要領」という。)に準じて、「障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止」及び「社会的障壁の除去のための合理的な配慮の提供」等、障害者に対する適切な対応を行うものとする。
(2) (1)に規定する適切な対応を行うに当たっては、対応要領に示されている障害種別の特性について十分に留意するものとする。
2. 対応指針に沿った対応
上記1に定めるもののほか、受注者(受託者)は、本業務を履行するに当たり、本業務に係る対応指針(法第11条の規定により主務大臣が定める指針をいう。)に則り、障害者に対して適切な対応を行うよう努めなければならない。</p> |
| | | 測定 3 | 測定 1, 2, 4, 6, 7, 8 | 測定 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計数機器 | 位相差顕微鏡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| メンブレンフィルタの直径 | | 25mm | 47mm | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試料の吸引流量 | 1l/min | 5l/min | 10l/min | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試料の吸引時間 | 5 min | 120 min | 210 min | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試料の透明化 | アセトントリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計数条件 | 総アスベスト繊維数 200本又は視野数50視野 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計数アスベスト | 直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ直径比3：1以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 定量限界 | 50 f/l | 0.5 f/l | 0.3 f/l | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 個人情報取扱注意事項 | <p>個人情報の取り扱いに関する事項</p> <p>(基本事項)</p> <p>第1 この契約による工事の施工者(以下「乙」という。)は、この契約による工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱う際には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。(施工者の義務)</p> <p>第2 乙及びこの契約による工事に従事している者又は従事していた者(以下「乙の従事者」という。)は、当該工事を施工するに当たり、個人情報を取り扱うときは、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号。以下「法」という。)第11条に規定する義務を負う。
2 乙は、この契約による工事において個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。</p> | <p>四日市市都市整備部営繕工務課</p> <p>一級建築士 登録 第 号</p> <p>四日市市諏訪町1番5号</p> | <p>工事名</p> <p>温水プール改築工事(建築工事)</p> <table border="1"> <tr> <td>日付</td> <td>図面名</td> <td>縮尺</td> <td>図面番号</td> </tr> <tr> <td>令和6年3月</td> <td>特記仕様書(解体2)</td> <td>—</td> <td>K-002</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>令和6年版</td> <td>/</td> </tr> </table> | 日付 | 図面名 | 縮尺 | 図面番号 | 令和6年3月 | 特記仕様書(解体2) | — | K-002 | | | 令和6年版 | / | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日付 | 図面名 | 縮尺 | 図面番号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和6年3月 | 特記仕様書(解体2) | — | K-002 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 令和6年版 | / | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

概要（※特記なき限り全て撤去とする。）

| | |
|-------|------------------------|
| 敷地概要 | |
| 敷地所在地 | 四日市市昌栄町21番21号 |
| 敷地面積 | 4939.13 m ² |
| 用途地域 | 工業地域 |
| 防火地域 | 指定なし |
| 前面道路 | 東：15m 南：6m 西：35m |

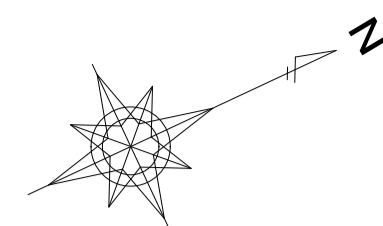
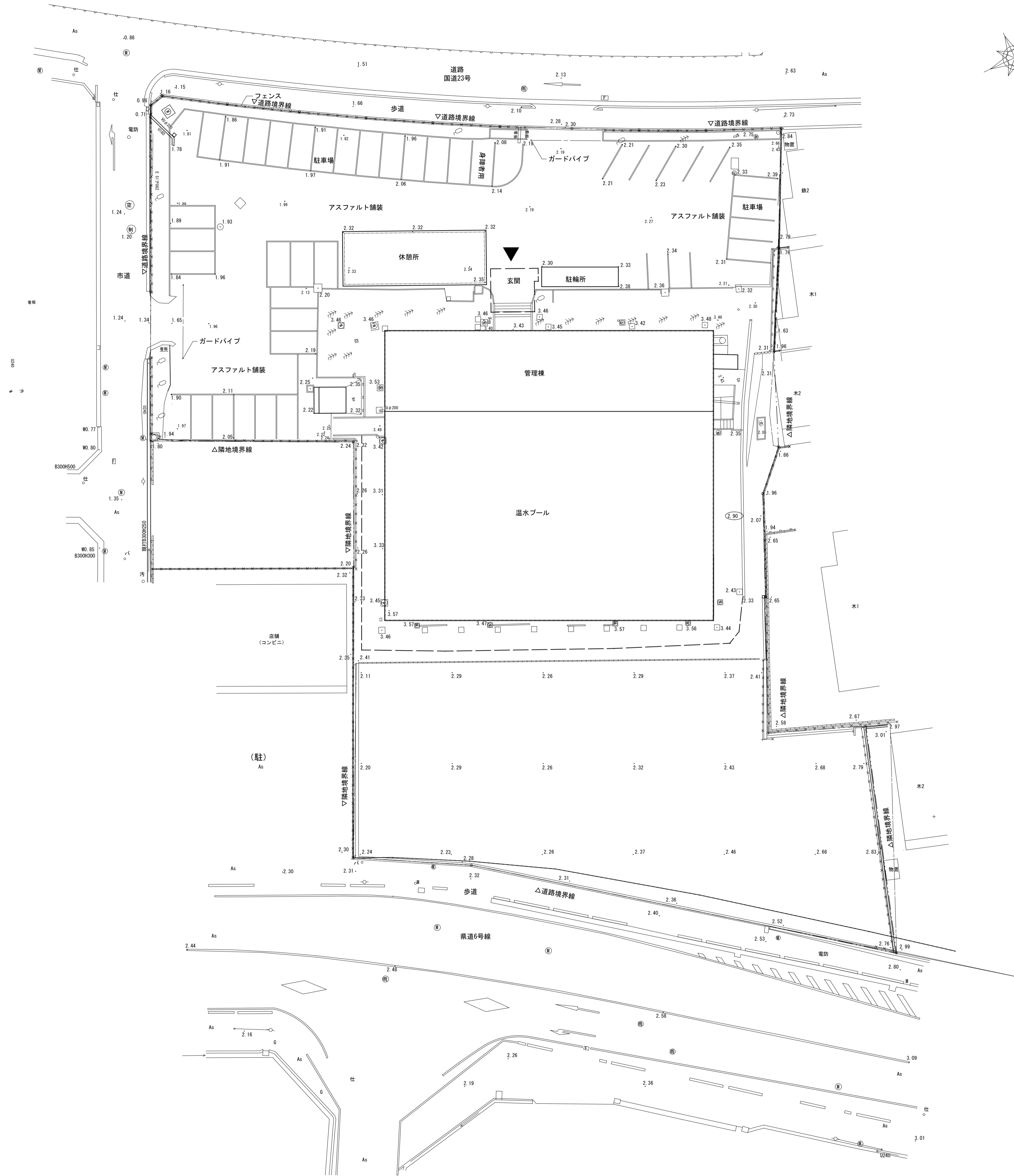
| | | | |
|---------|----------------------|---------|----------------------|
| 建物名 | 温水プール棟（解体建物） | 建物名 | 管理棟（解体建物） |
| 用途 | 温水プール棟 | 用途 | 管理棟 |
| 構造 階数 | PCコンクリート造 平屋建て | 構造 階数 | 組積造 平屋建て |
| 最高高さ | 8.276mm | 最高高さ | 4.100mm |
| 建築面積 | 826.20m ² | 建築面積 | 329.36m ² |
| 延床面積 | 826.20m ² | 延床面積 | 329.36m ² |

| | | | |
|---------|---------------------|---------|---------------------|
| 建物名 | 休憩所（解体建物） | 建物名 | 駐輪所（解体建物） |
| 用途 | 休憩所 | 用途 | 駐輪所 |
| 構造 階数 | 鉄骨造 平屋建て | 構造 階数 | 鉄骨造 平屋建て |
| 最高高さ | 4.000mm | 最高高さ | 2.200mm |
| 建築面積 | 82.08m ² | 建築面積 | 22.82m ² |
| 延床面積 | 82.08m ² | 延床面積 | 22.82m ² |

○ 敷地案内図

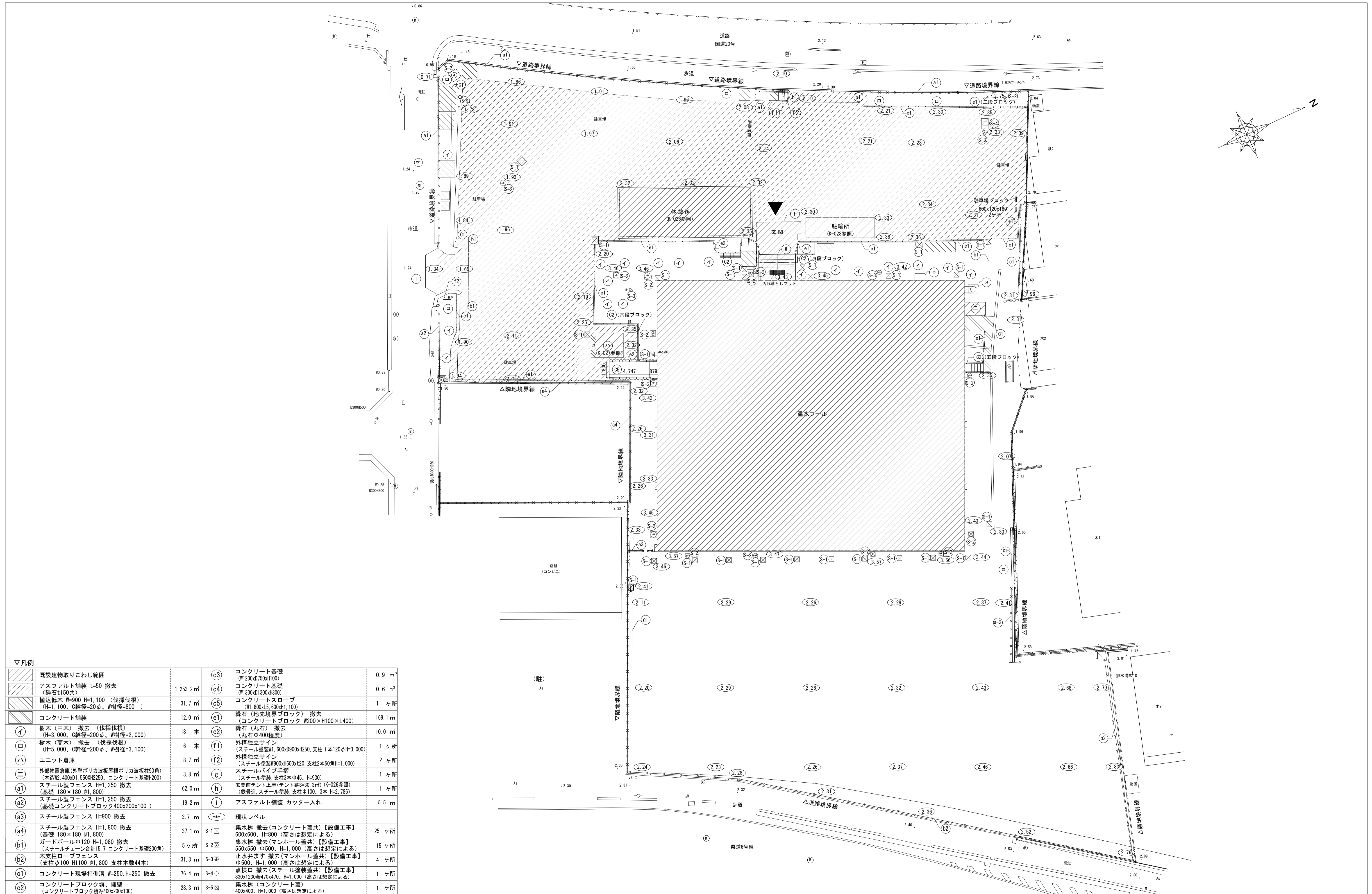


案内図 S=1/2500



| | | | | |
|--------|------------------|---|------|----------|
| 記
事 | 工事名称 | 温水プール改築工事（建築工事） | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 図面名称 | 建物概要・敷地案内図・現況配置図 | 縮尺 | A1:1/250 |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面番号 | K-004 |

※A3版の場合は50%縮小とする。

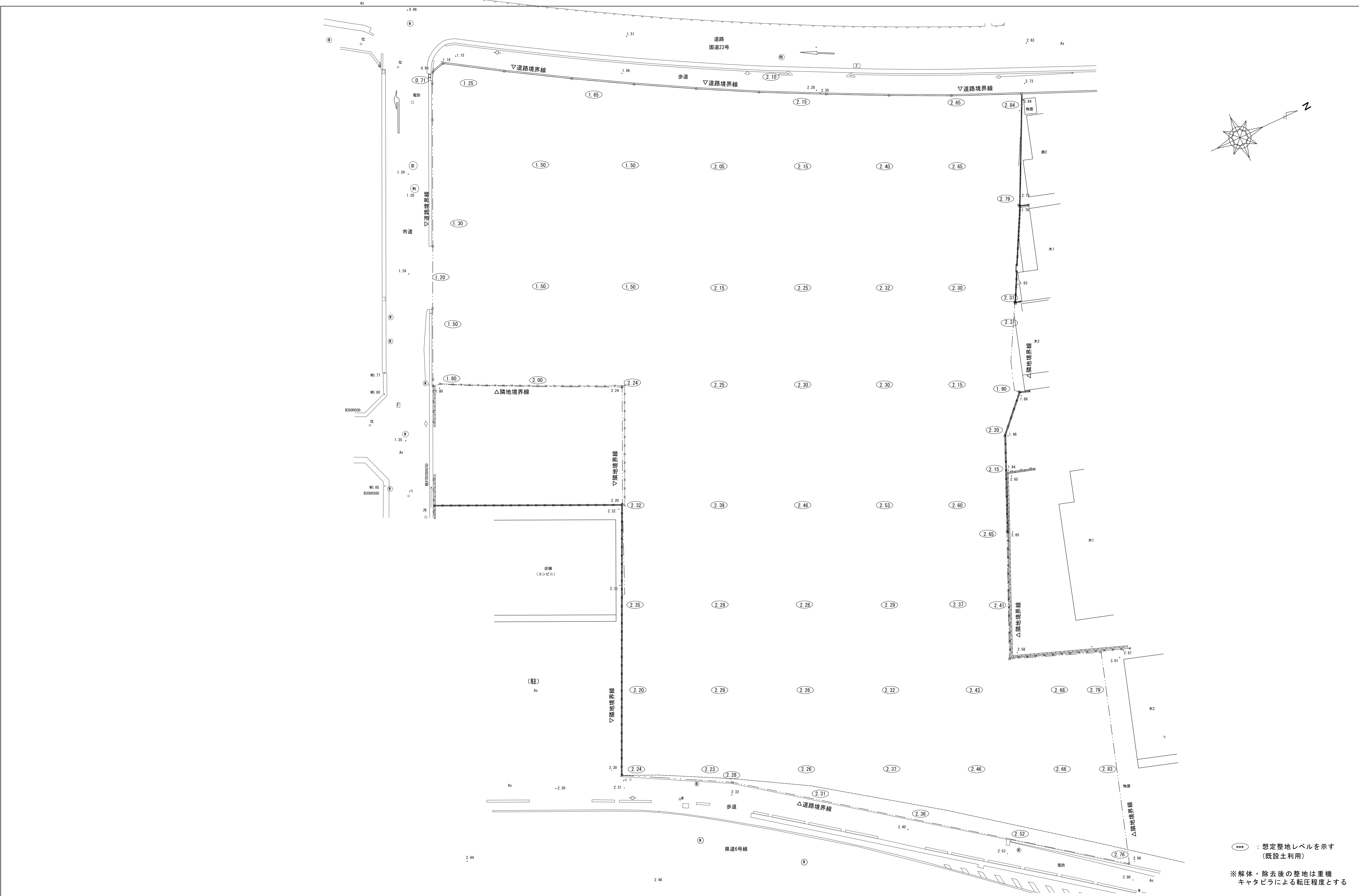


▽凡例

| | | | | | | |
|----|--|------------------------|-----|---|---------------------|--|
| | 既設建物取りこわし範囲 | | | | | |
| | アスファルト舗装 t=50 撤去 (砕石t150共) | 1,253.2 m ² | c3 | コンクリート基礎 (W1200x750xH100) | 0.9 m ³ | |
| | 植込低木 W=900 H=1,100 (伐採伐根) (砕石t150共) | 31.7 m ² | c4 | コンクリート基礎 (W1300x1300xH300) | 0.6 m ³ | |
| | コンクリート舗装 | 12.0 m ² | c5 | コンクリートスロープ (W1,800xL5,630xH1,100) | 1ヶ所 | |
| イ | 樹木 (中木) 撤去 (伐採伐根) (H=3,000、C幹径=200φ、W樹径=2,000) | 18本 | e1 | 緑石 (地先境界ブロック) 撤去 (コンクリートブロック W200×H100×L400) | 169.1 m | |
| ロ | 樹木 (高木) 撤去 (伐採伐根) (H=5,000、C幹径=200φ、W樹径=3,100) | 6本 | e2 | 緑石 (丸石) 撤去 (丸石φ400程度) | 10.0 m ² | |
| ハ | ユニット倉庫 | 8.7 m ² | f1 | 外構独立サイン (スチール塗装W1,600xH900xH250 支柱1本120φH=3,000) | 1ヶ所 | |
| ニ | 外部物置倉庫 (外壁ポリカ波板屋根ポリカ波板柱90°角) (木造W2,400xD1,550xH2,250、コンクリート基礎H200) | 3.8 m ² | f2 | 外構独立サイン (スチール塗装W900xH600xH20 支柱2本50角H=1,000) | 2ヶ所 | |
| a1 | スチール製フェンス H=1,250 撤去 (基礎コンクリートブロック400x200x100) | 62.0 m | g | スチールパイプ手摺 (スチール塗装 支柱3本φ45、H=930) | 1ヶ所 | |
| a2 | スチール製フェンス H=1,250 撤去 (基礎コンクリートブロック400x200x100) | 19.2 m | h | 玄関前テント上屋 (テント幕S=30.3㎡) (K-Q26参照) (鉄骨造 スチール塗装 支柱φ100、3本 H=2,786) | 1ヶ所 | |
| a3 | スチール製フェンス H=900 撤去 | 2.7 m | i | アスファルト舗装 カッター入れ | 5.5 m | |
| a4 | スチール製フェンス H=1,800 撤去 (基礎 180×180 φ1,800) | 37.1 m | *** | 現状レベル | | |
| b1 | ガードポールφ120 H=1,080 撤去 (スチールチェーン合計15.7 コンクリート基礎200角) | 5ヶ所 | S-1 | 集水溝 撤去 (コンクリート蓋共) 【設備工事】 600x600、H=900 (高さは想定による) | 25ヶ所 | |
| b2 | 木支柱ロープフェンス (支柱φ100 H1100 φ1,800 支柱本数44本) | 31.3 m | S-2 | 集水溝 撤去 (マンホール蓋共) 【設備工事】 550x550 φ500、H=1,000 (高さは想定による) | 15ヶ所 | |
| c1 | コンクリート現場打倒溝 W=250、H=250 撤去 | 76.4 m | S-3 | 止水弁ます 撤去 (マンホール蓋共) 【設備工事】 φ500、H=1,000 (高さは想定による) | 4ヶ所 | |
| c2 | コンクリートブロック塀、擁壁 (コンクリートブロック積み400x200x100) | 28.3 m ² | S-4 | 点検口 撤去 (スチール塗装蓋共) 【設備工事】 830x1230蓋470x470、H=1,000 (高さは想定による) | 1ヶ所 | |
| | | | S-5 | 集水溝 (コンクリート蓋) 400x400、H=1,000 (高さは想定による) | 1ヶ所 | |

| | | | | | |
|------|---|--|--|------|----------|
| 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | | | 設計年月 | 令和6年2月 |
| 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | | | 図面名称 | 外構撤去図 |
| 監理者 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | | | 縮尺 | A1:1/200 |
| 図面番号 | K-005 | | | 図面番号 | K-005 |

※A3版の場合は50%縮小とする。

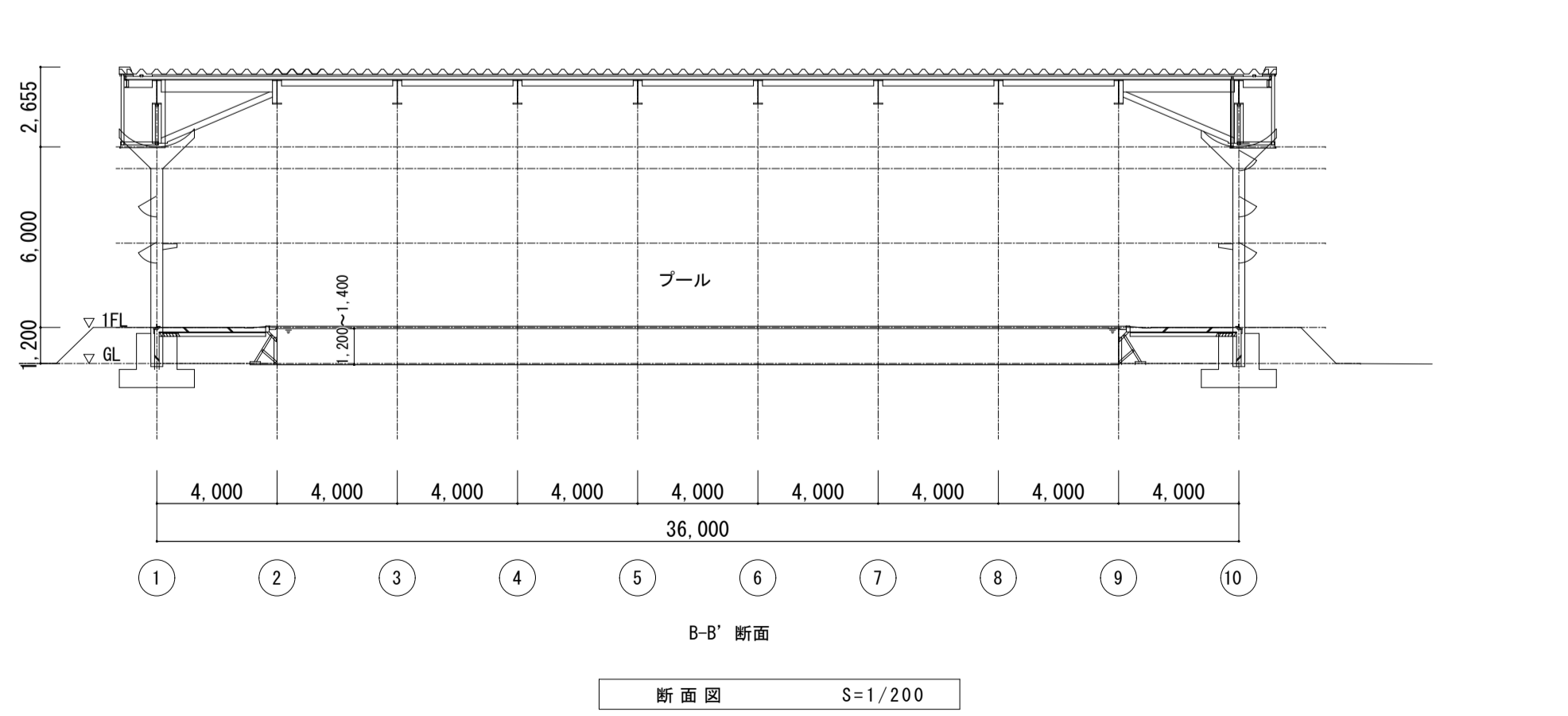
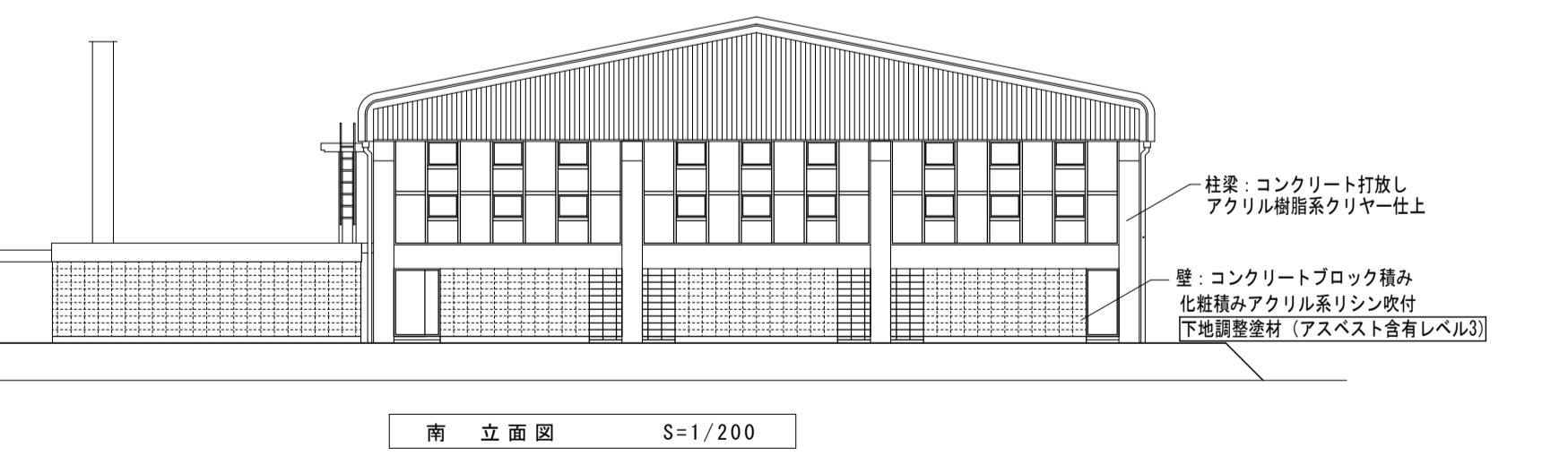
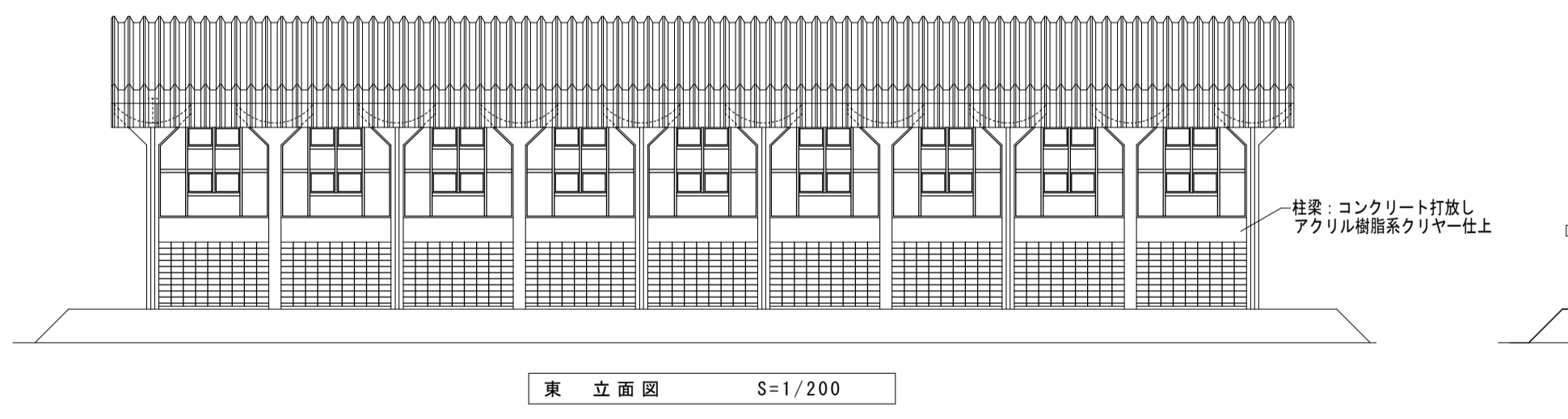
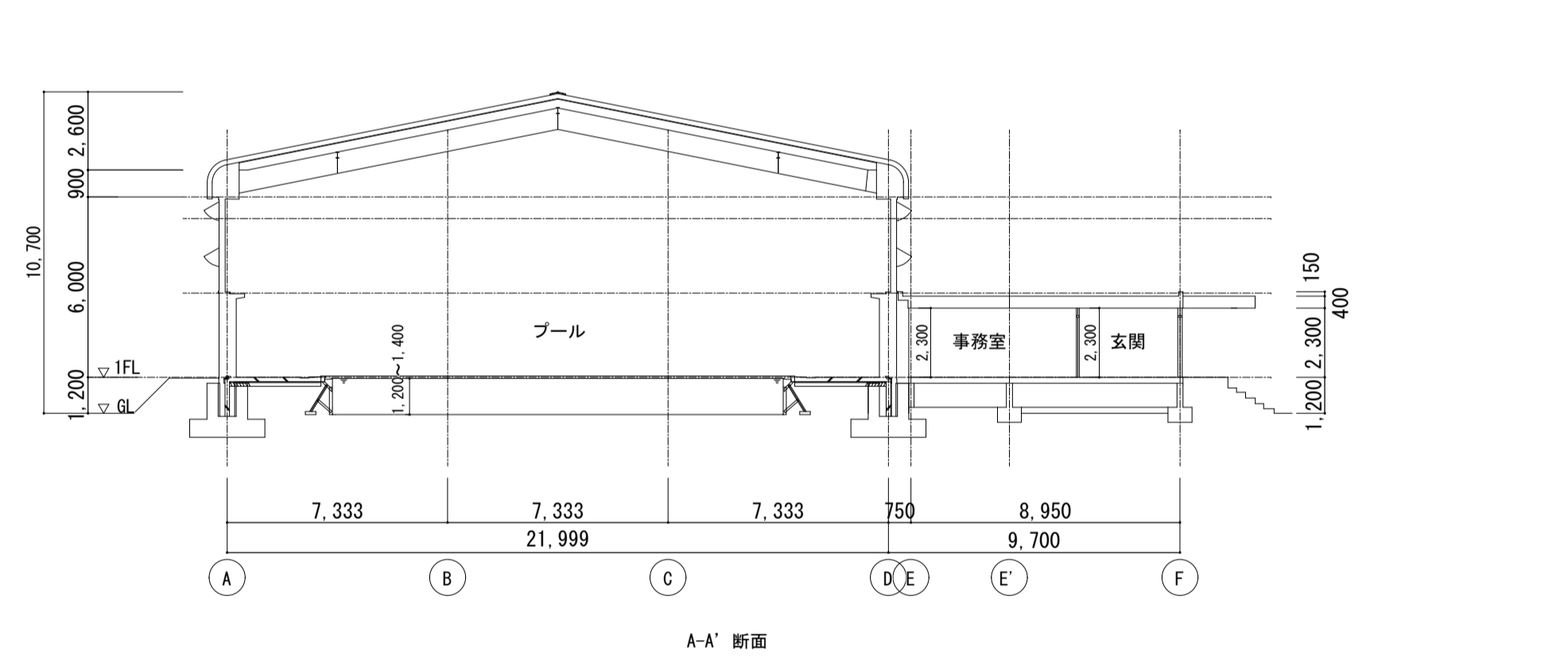
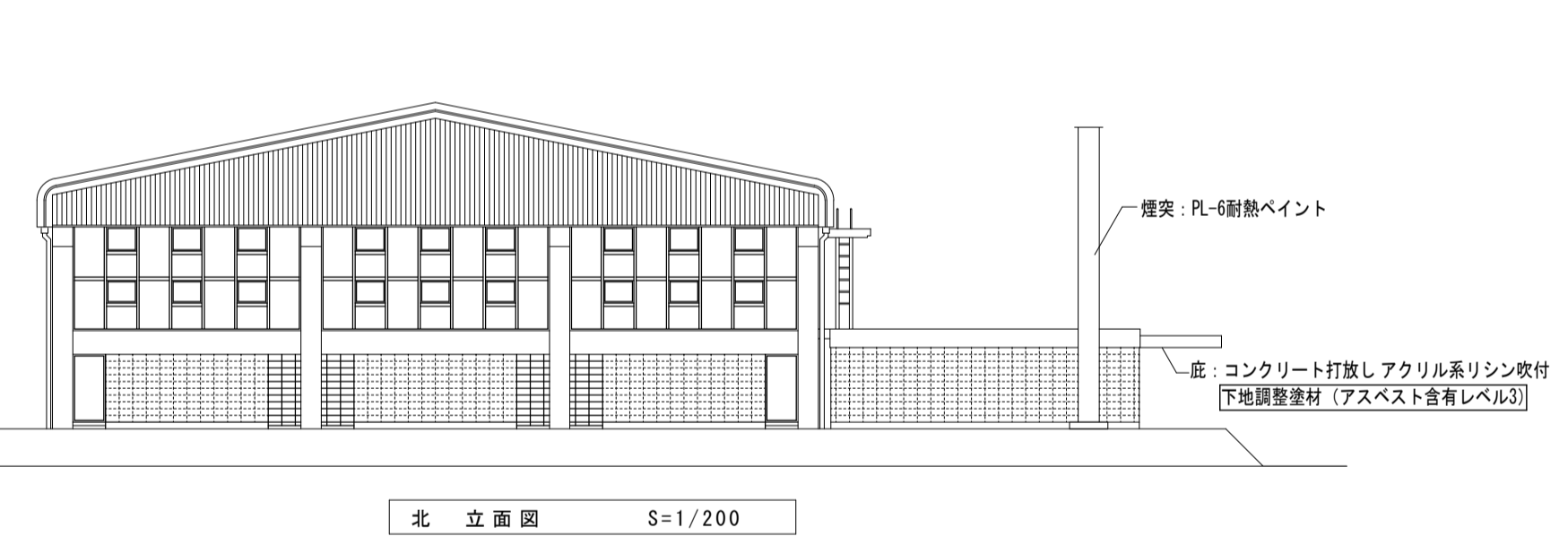
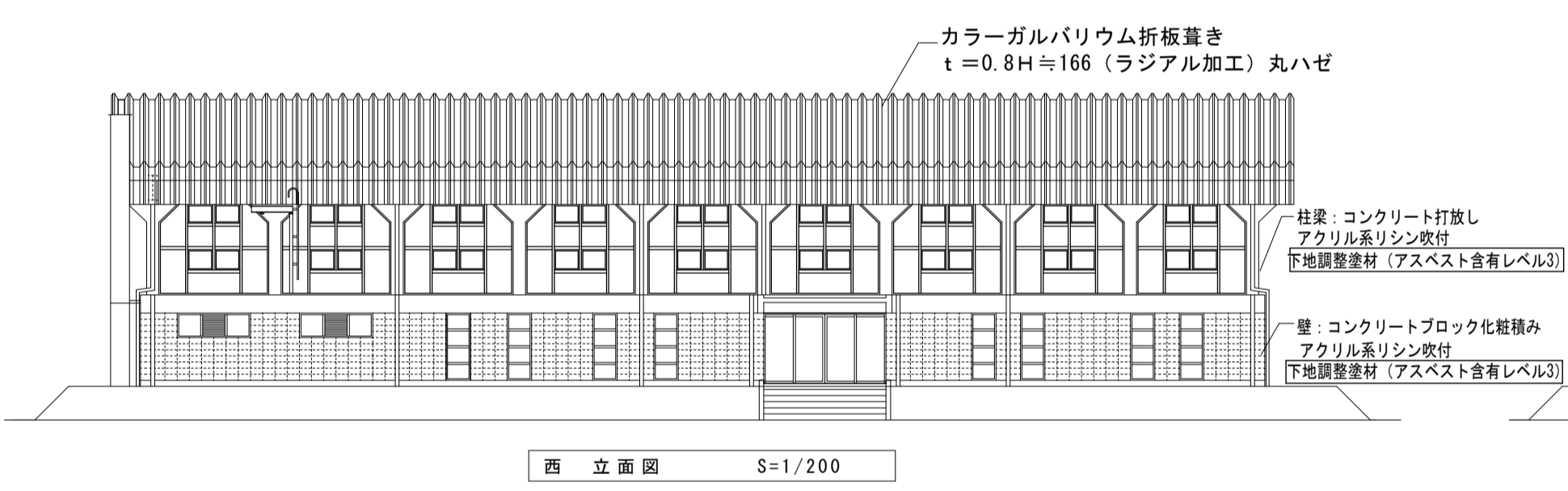
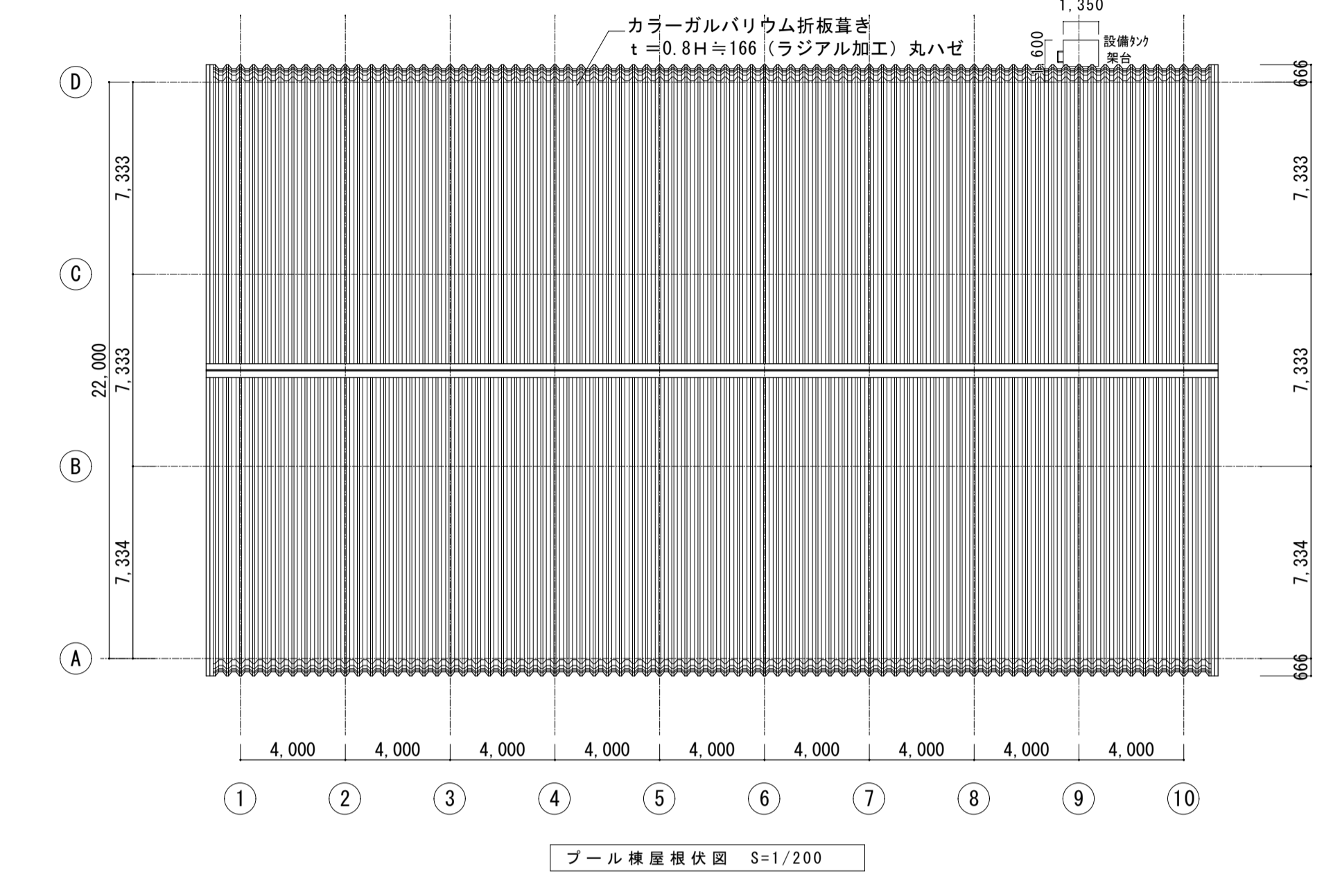
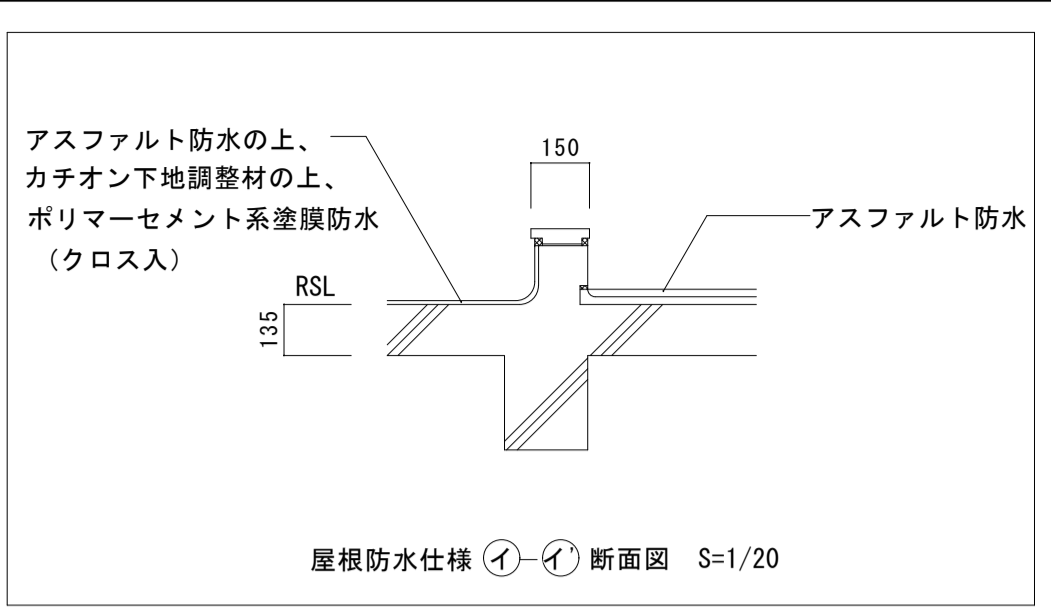
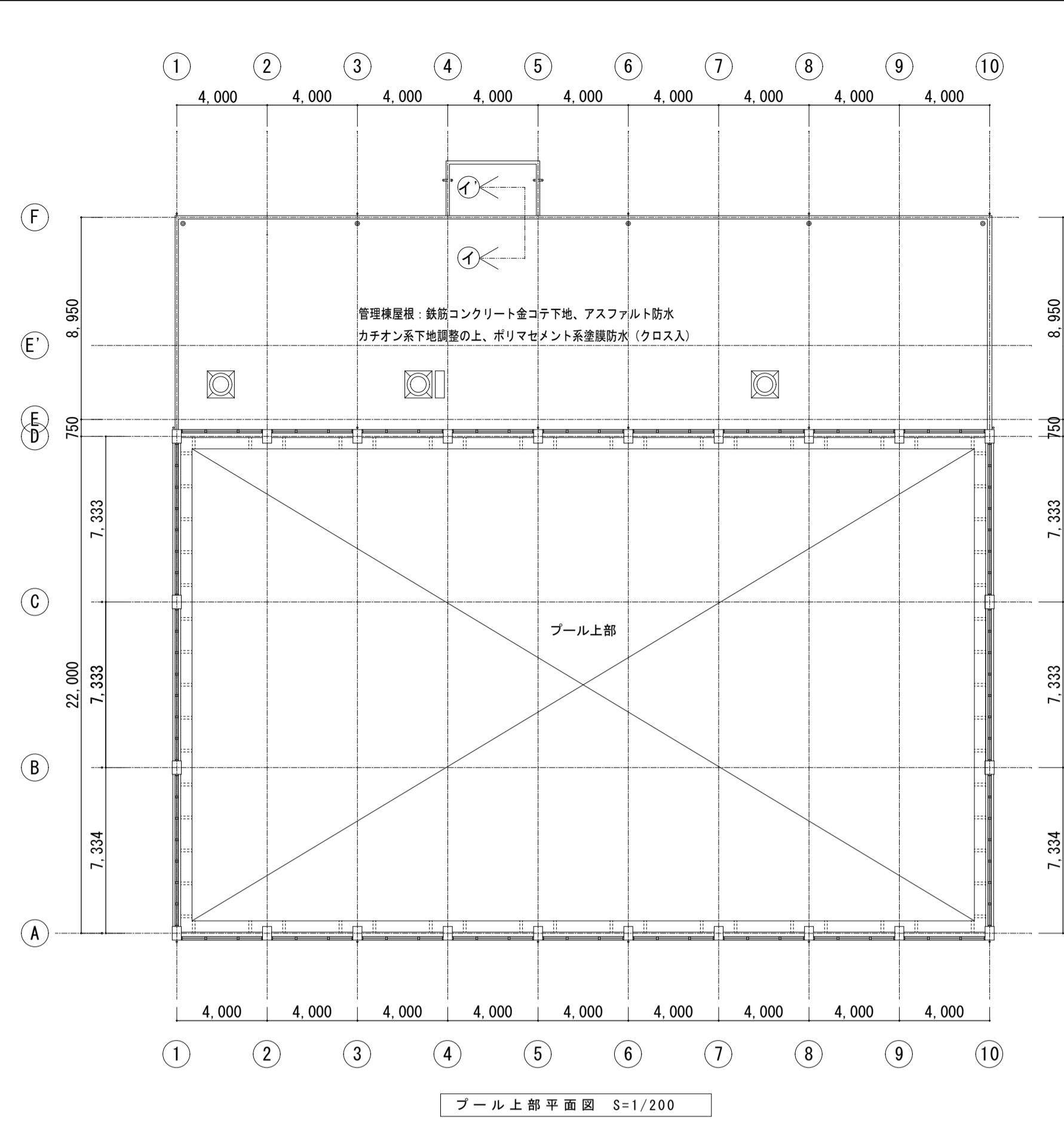
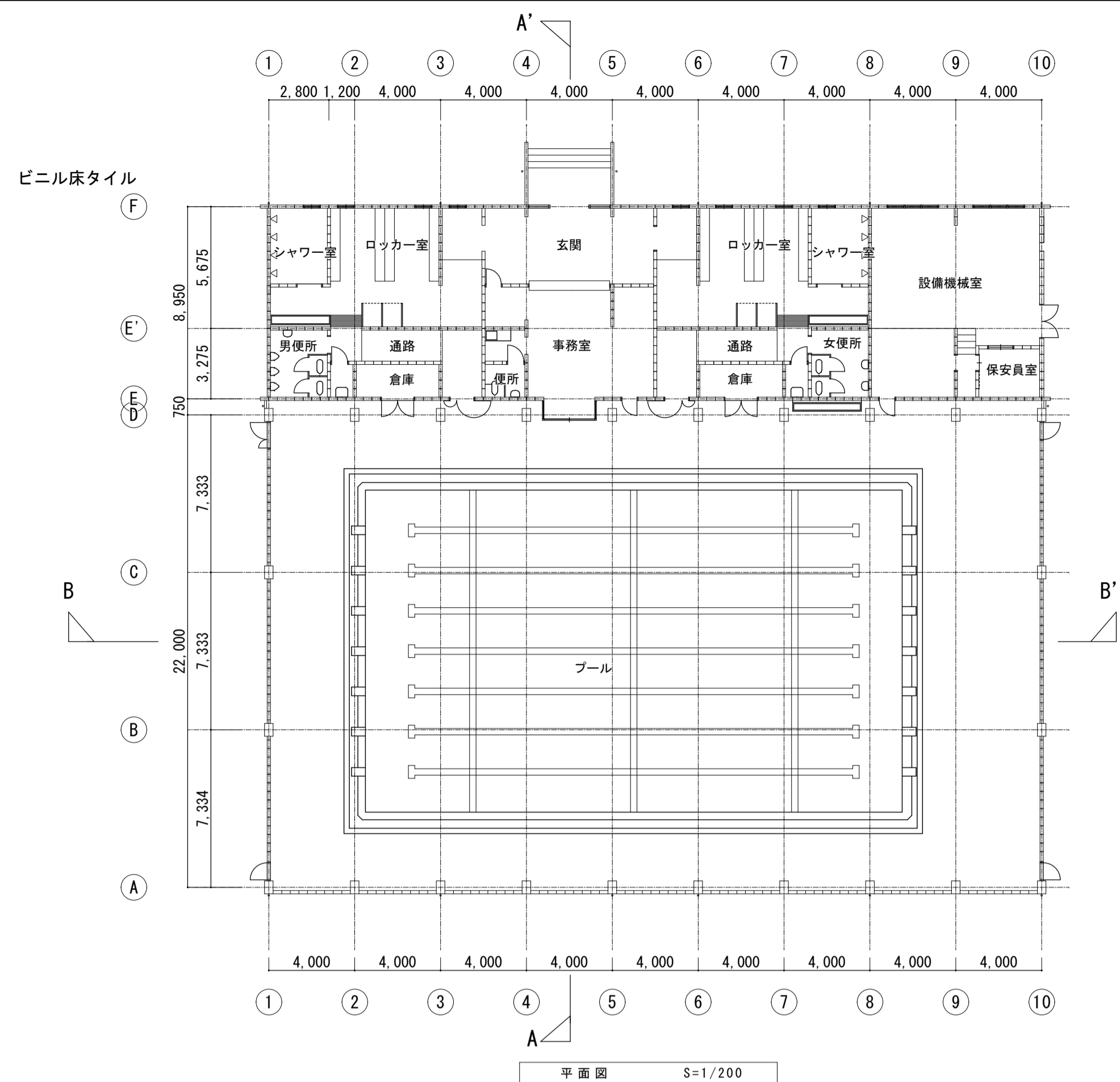


*** : 想定整地レベルを示す
(既設土利用)

※解体・除去後の整地は重機
キャタピラによる転圧程度とする

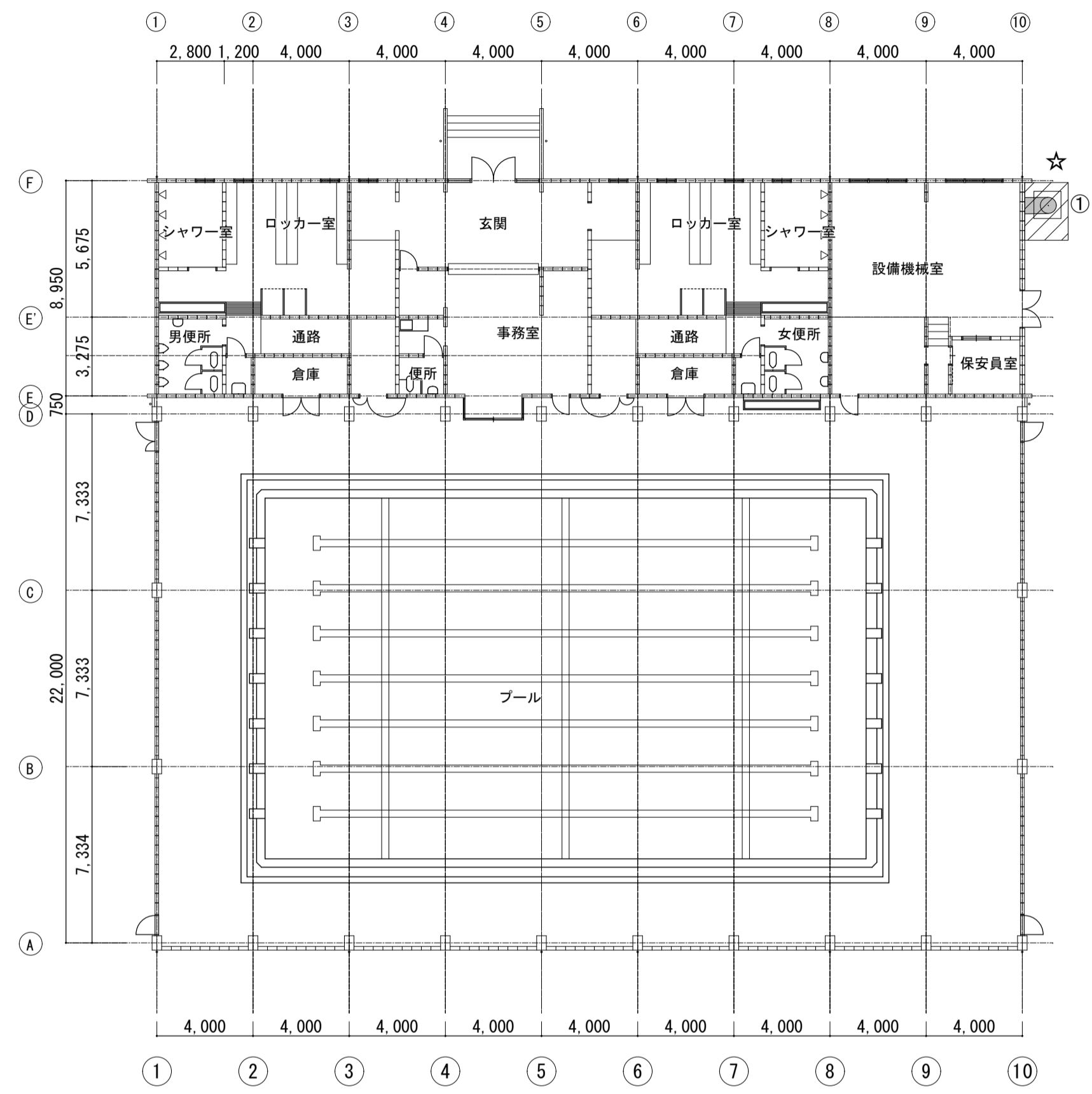
| | | | | | |
|--------|------|------------------|---|------|----------|
| 記
事 | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 図面名称 | 解体後整地図 | | 縮尺 | A1:1/200 |
| | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面番号 | K-006 |

※A3版の場合は50%縮小とする。

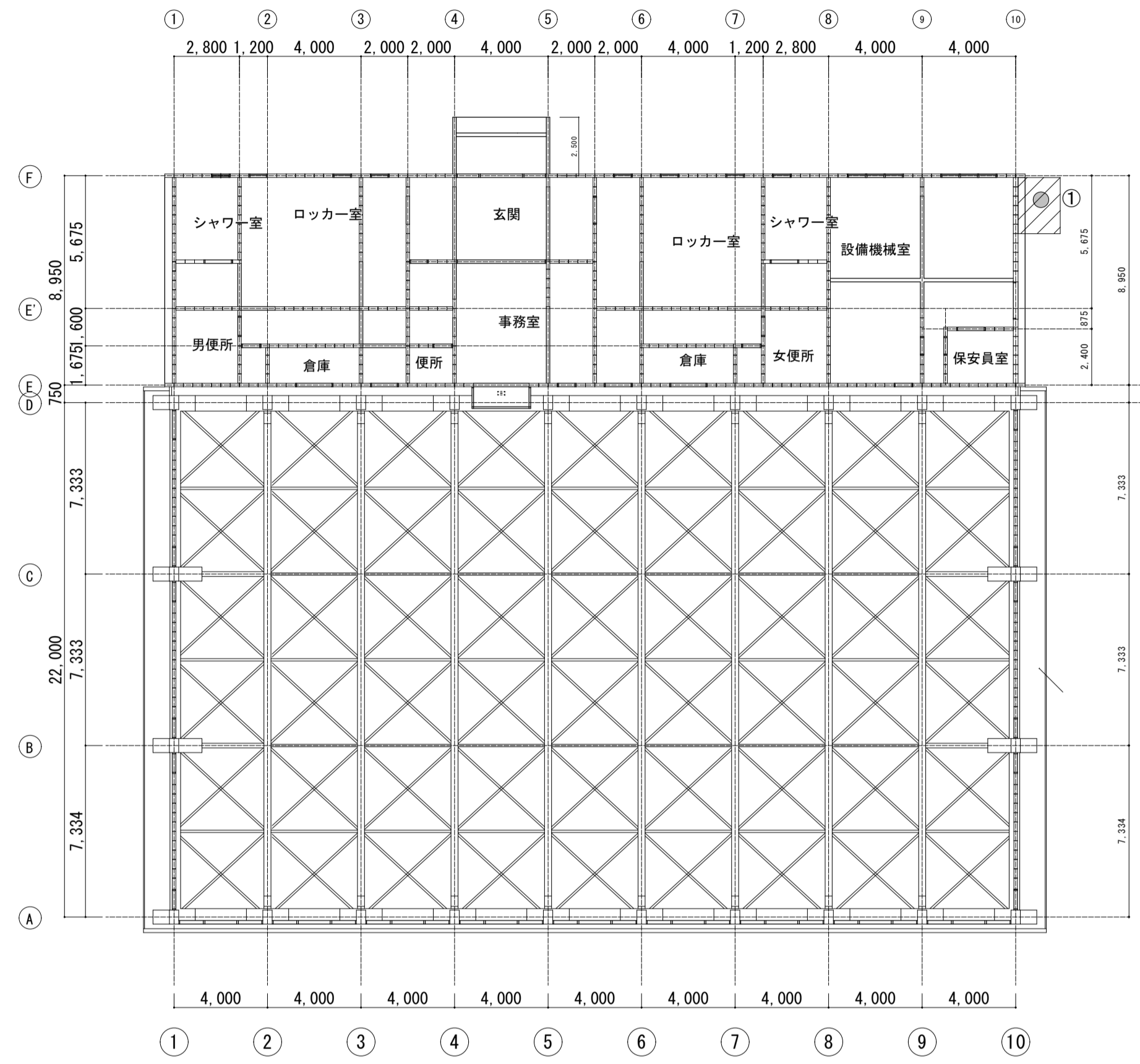


| | | |
|---------|---|-------------------|
| 工務
事 | 工事名称
温水プール改築工事（建築工事） | 設計年月
令和6年2月 |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面名称
平面、立面、断面図 |
| | 縮尺
A1:1/200 | 図面番号
K-007 |

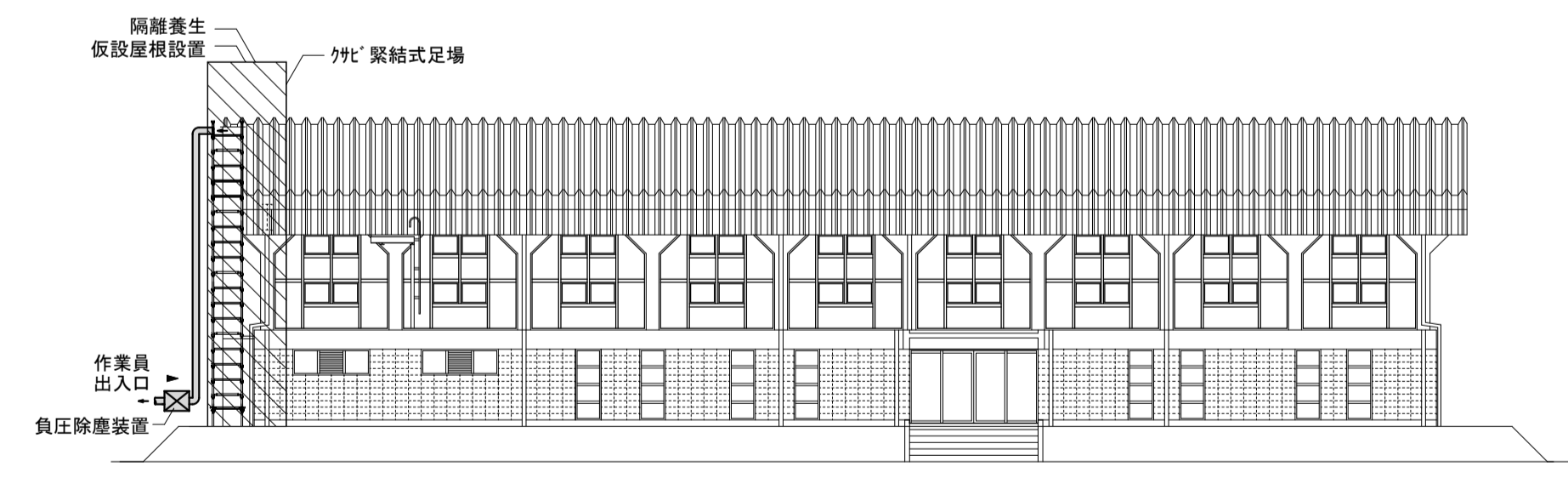
※A3版の場合は50%縮小とする。



平面図 S=1/200



天井伏図 S=1/200



西立面図 S=1/200



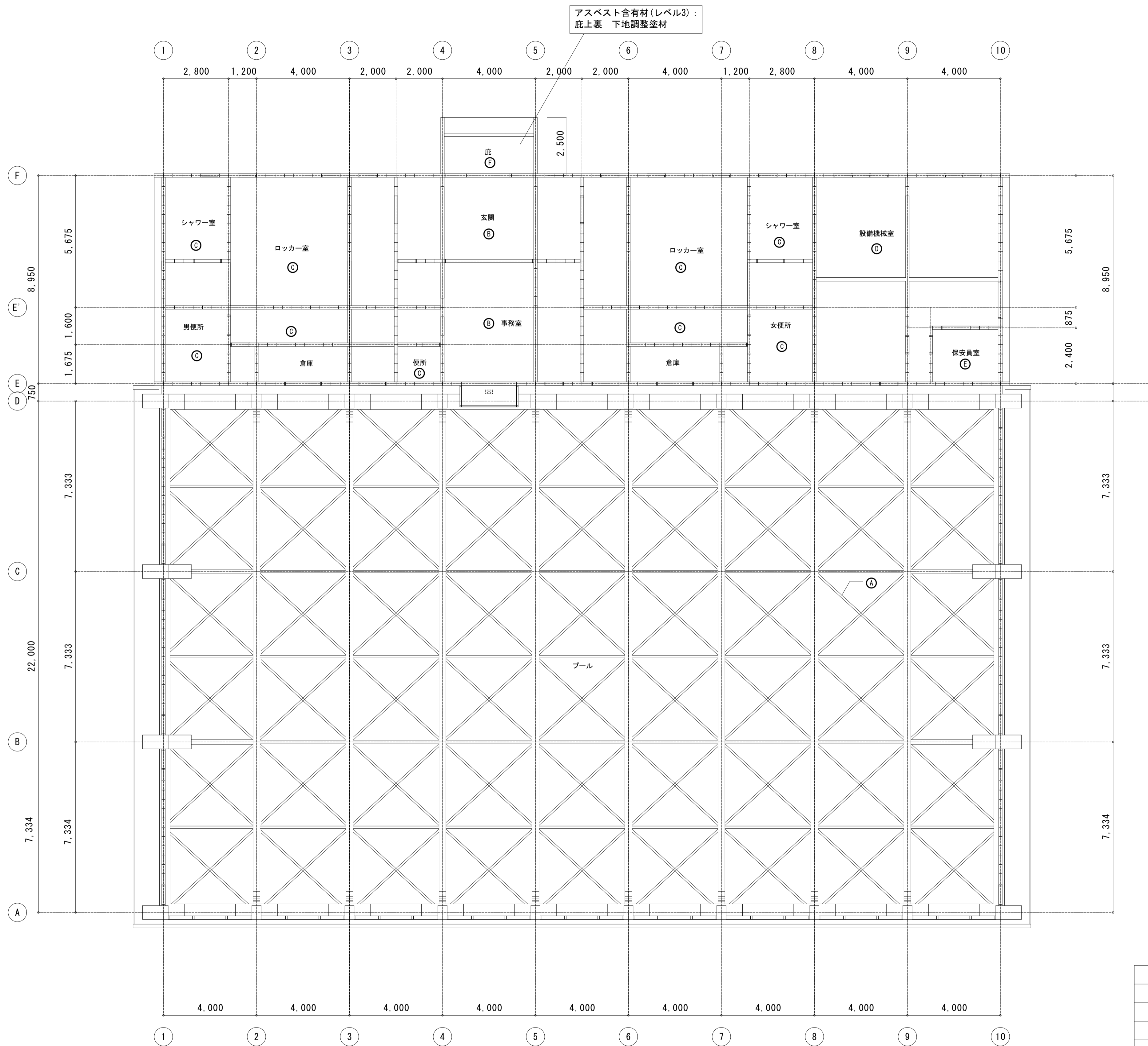
北立面図 S=1/200

凡例

- ☆ : 立入禁止看板・事前調査結果掲示
 - ① : 煙突昇降用足場
 - : レベル1同等養生範囲
- ※アスベストの除去は、大気汚染防止法、公共建築改修工事標準仕様書、建築物等の解体に係る石綿ばく露防止及び石棉飛散漏えい防止対策徹底マニュアルを遵守し、工事を行うこと。
 ※除去作業開始前には、作業所内が負圧に保たれているか差圧計及びスモークステラーにて確認を行うこと。
 ※除去作業開始前に、負圧除塵装置からの粉塵暴露がないかをデジタル粉塵計にて確認し、記録を残すこと。

| | | | | |
|--------|------------------|---|------|----------|
| 記
事 | 工事名称 | 温水プール改築工事（建築工事） | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 図面名称 | アスベスト範囲図 | 縮尺 | A1:1/200 |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面番号 | K-008 |

※A3版の場合は50%縮小とする。

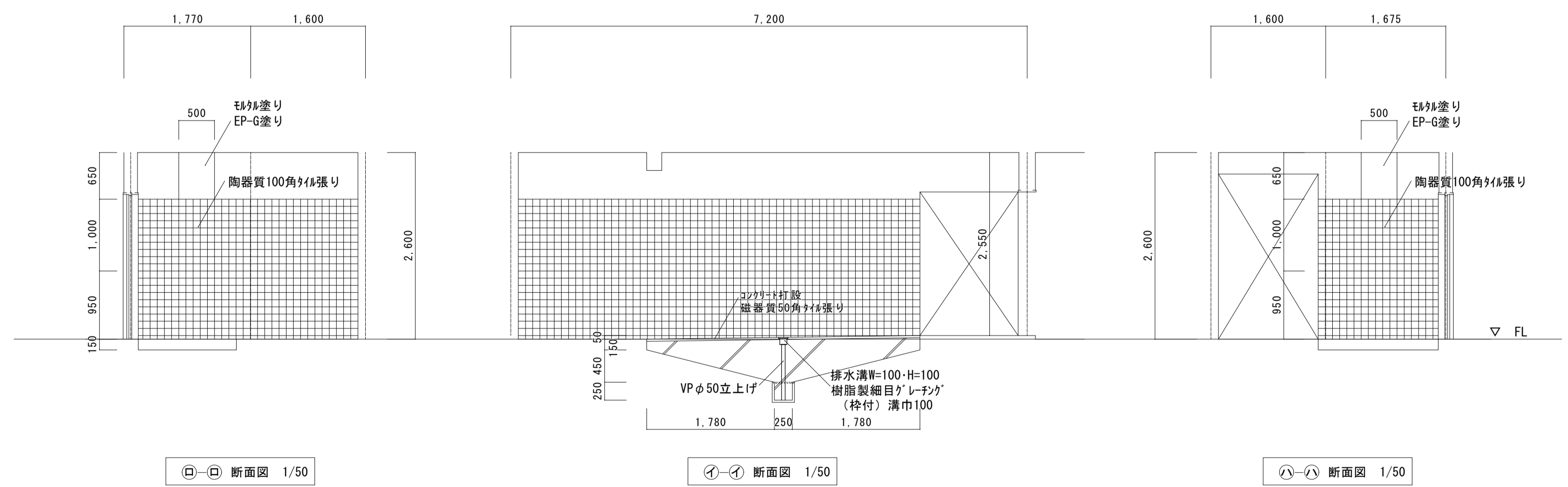
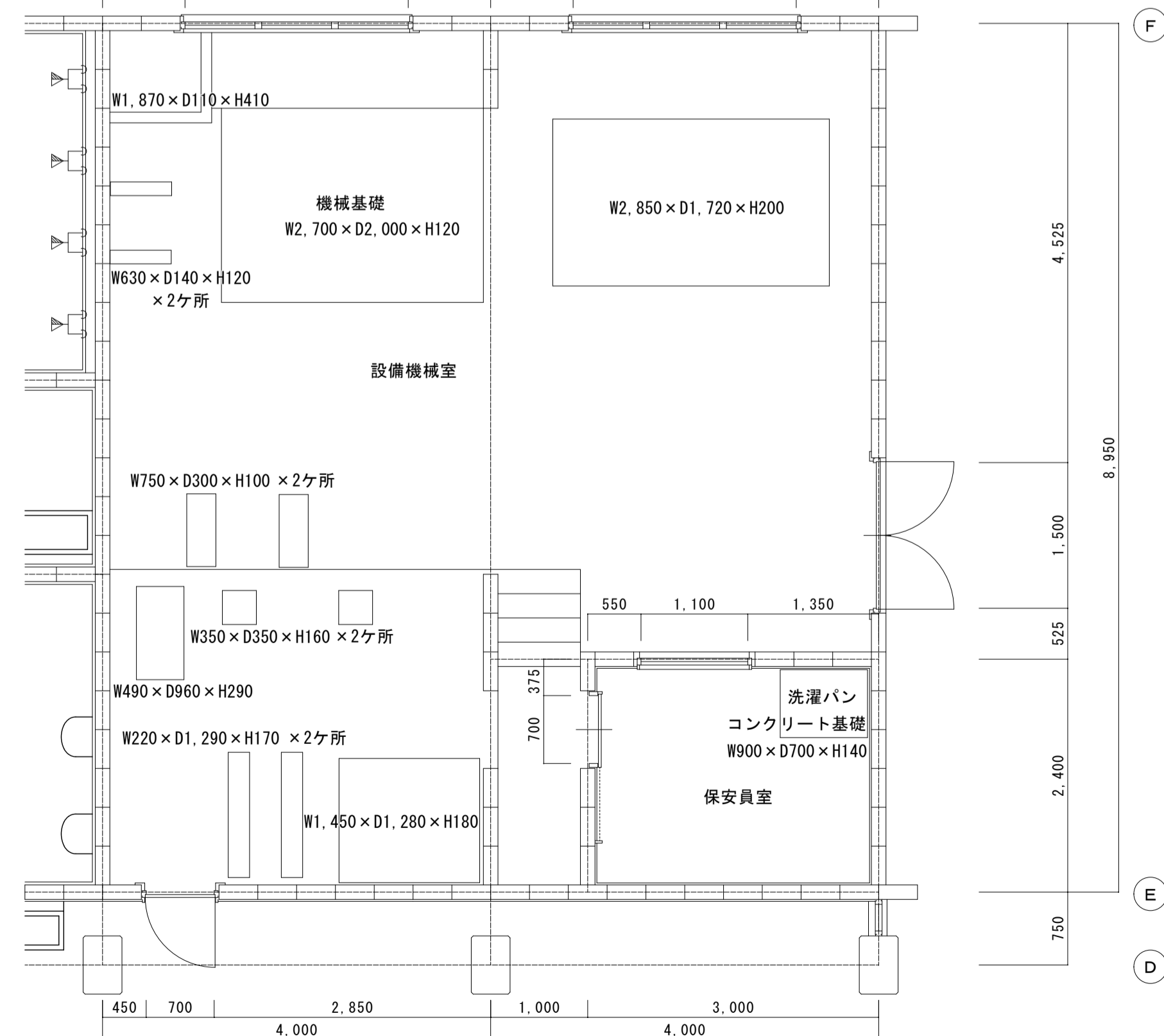
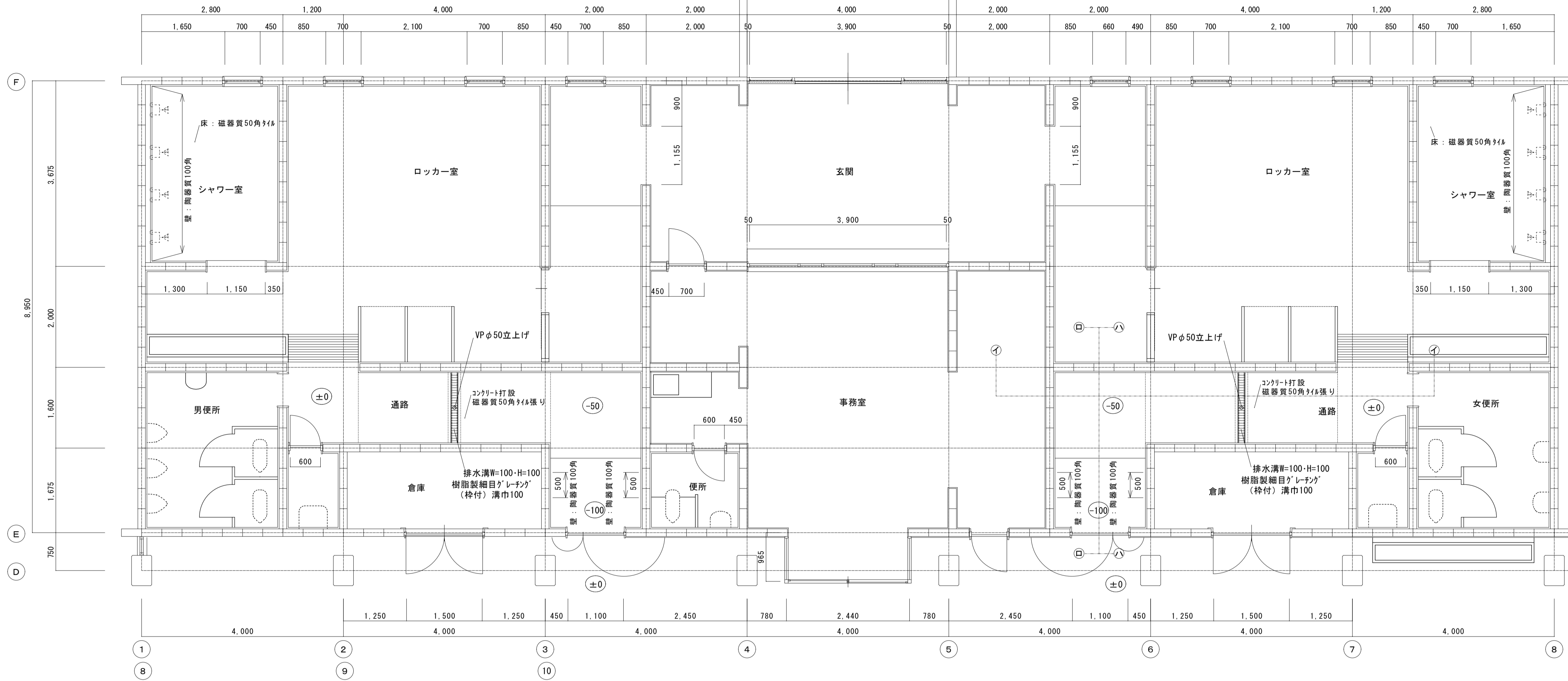


天井伏図 S=1/100

| 記号 | 天井仕上材 |
|----|--|
| Ⓐ | 鉄骨表し (結露防止材吹き付け)
2-UP塗り 木毛セメント板t=30(温水プール用) |
| Ⓑ | 断熱材下地の上 着色ひる石吹付け EP塗装 |
| Ⓒ | 断熱材下地t=28 表し EP塗り |
| Ⓓ | 木毛セメント板t=25打ち込み |
| Ⓔ | 天井表し |
| Ⓕ | コンクリート打ち放しアクリル系リシン吹付 |

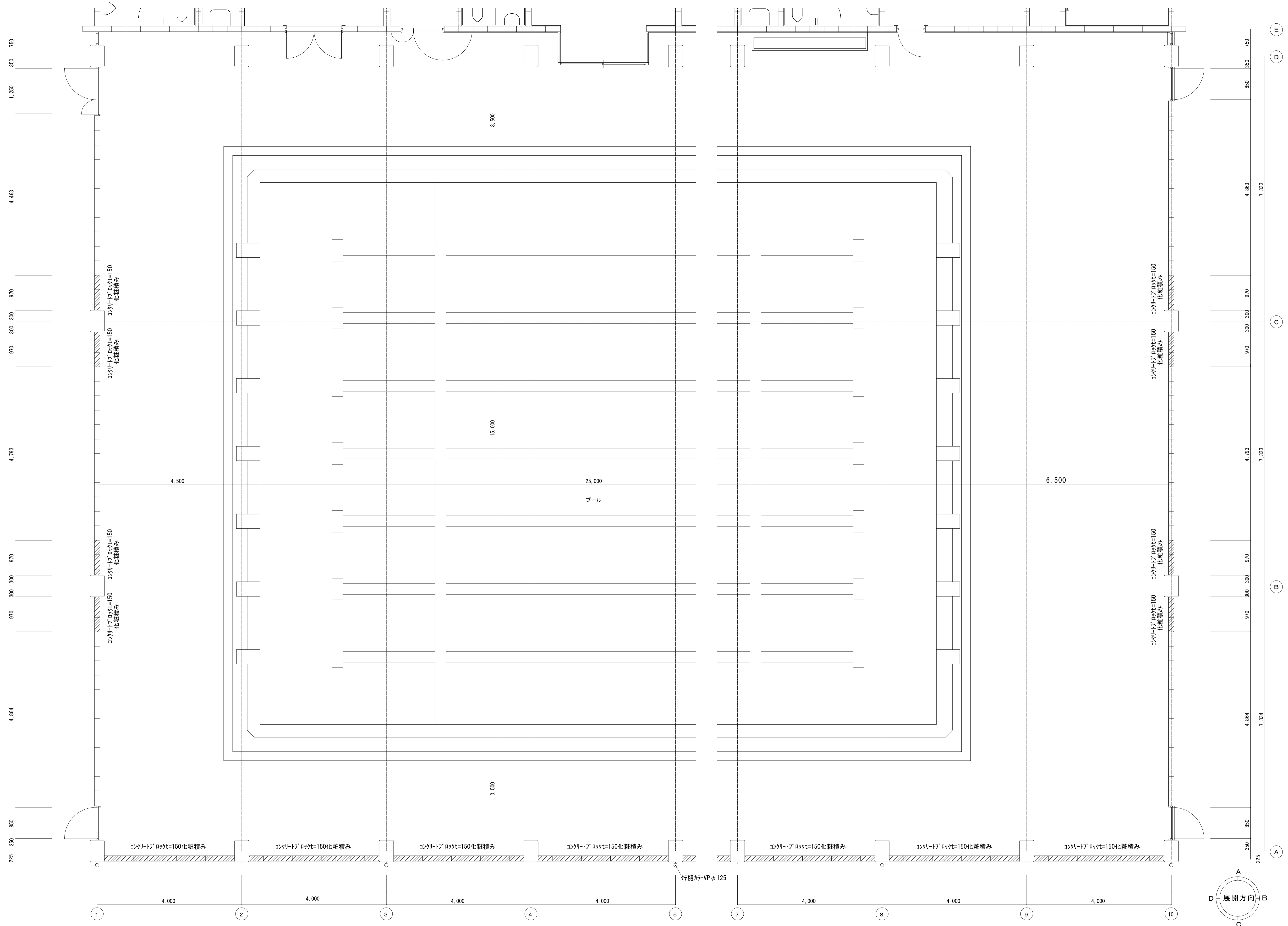
| | | | | |
|--------|------|---|------|--------|
| 記
事 | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面番号 | K-009 |
| | 縮尺 | A1:1/100 | 図面名称 | 天井伏図 |

※A3版の場合は50%縮小とする。



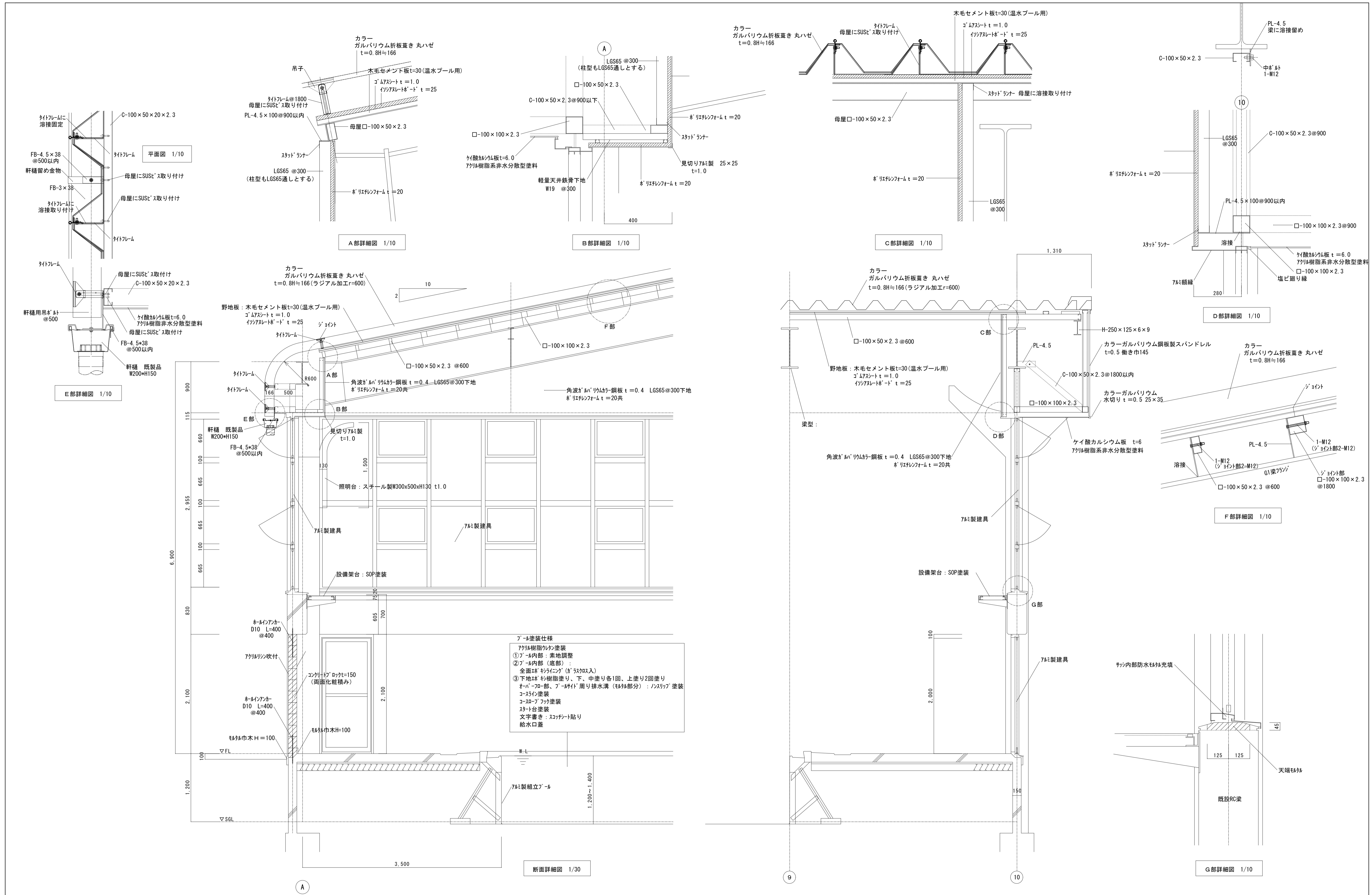
| | | | |
|---|---|------------------|---------------|
| 工
事
名
称
温
水
プ
ール
改
築
工
事
（
建
築
工
事
） | 工事名称
温水プール改築工事（建築工事） | 設計年月
令和6年2月 | |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面名称
管理棟平面詳細図 | 縮尺
A1:1/50 |

※A3版の場合は50%縮小とする。



| | | | | |
|---|---|-------------------|---------------|----------------|
| 工
事
名
称
温
水
プ
ール
改
築
工
事
（
建
築
工
事
） | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面名称
プール棟平面詳細図 | 図面番号
K-011 | 設計年月
令和6年2月 |
| | 縮尺
A1:1/50 | | | |

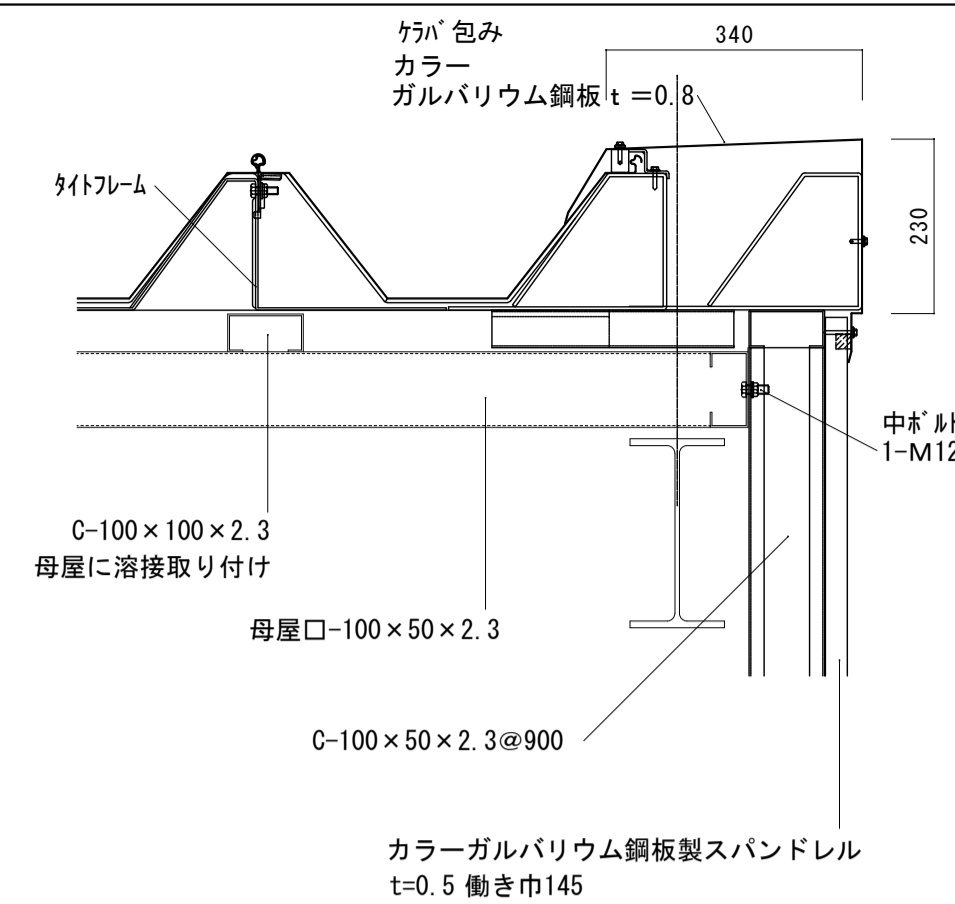
※A3版の場合は50%縮小とする。



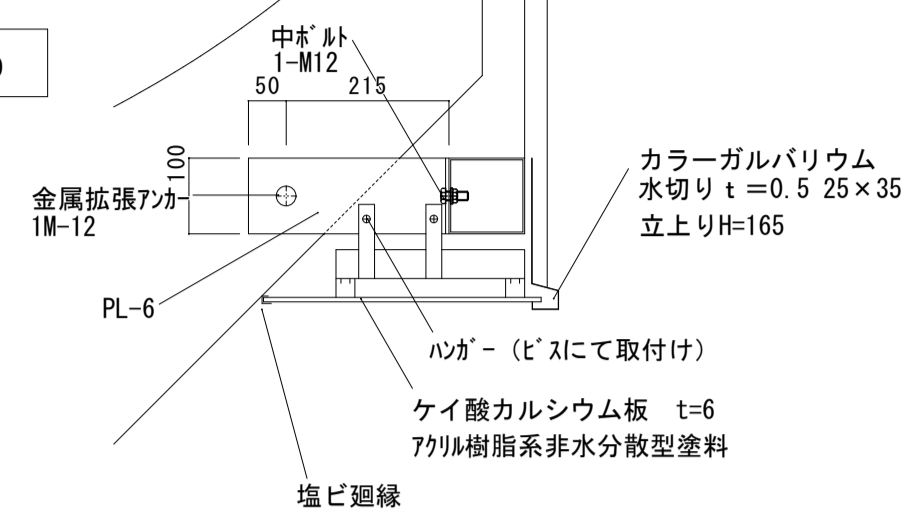
| | |
|--|----------------------|
| 工 事 名 称
温 水 プール 改 築 工 事 (建 築 工 事) | 設計年月
令和6年2月 |
| | 縮 尺
A1: 1/10, 30 |
| 設 計 者
株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号
一級建築士 (大匠) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図 面 名 称
プール棟断面詳細図 |
| 図 面 番 号
K-012 | 縮 尺
A1: 1/10, 30 |

※A3版の場合は50%縮小とする。

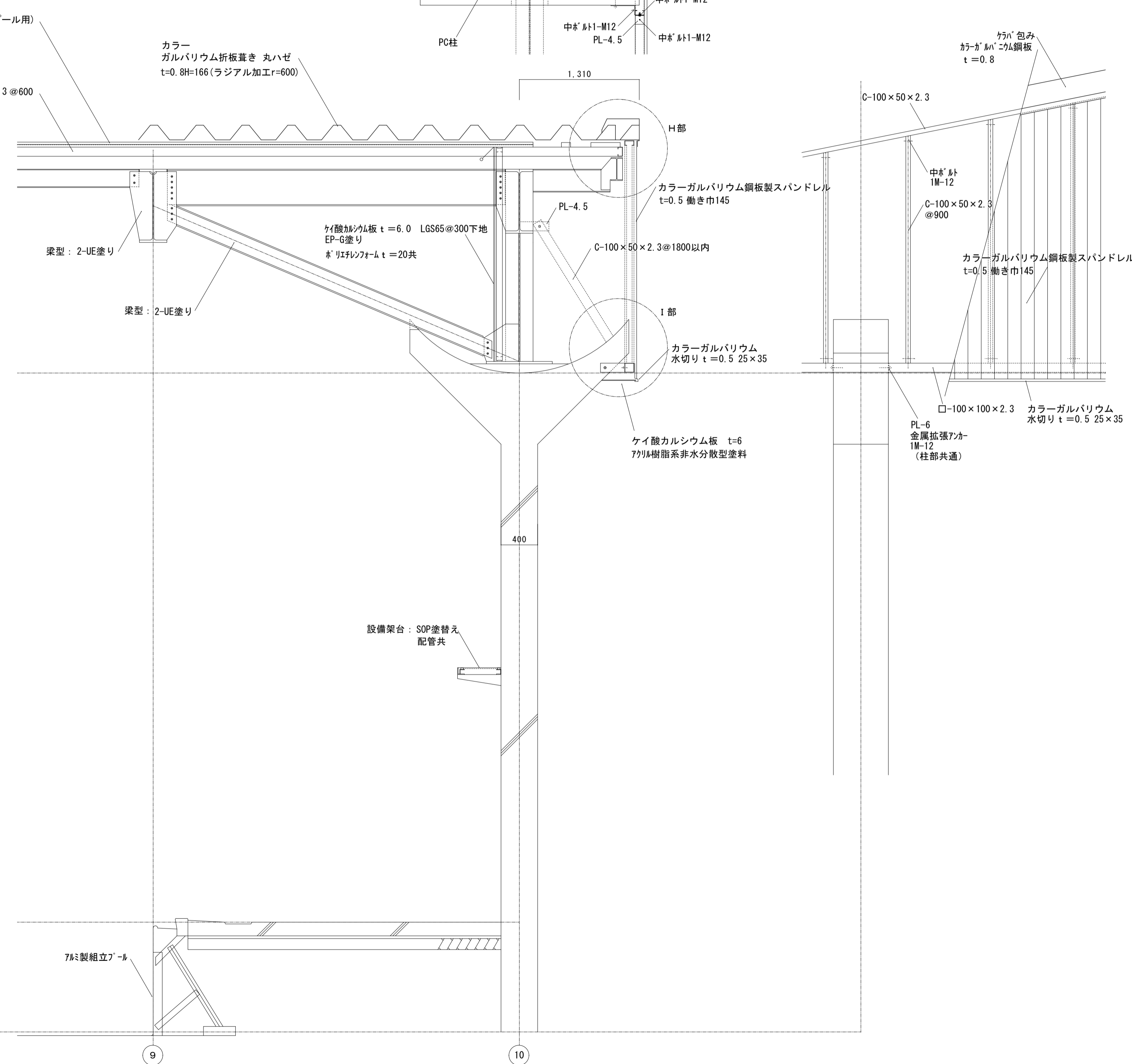
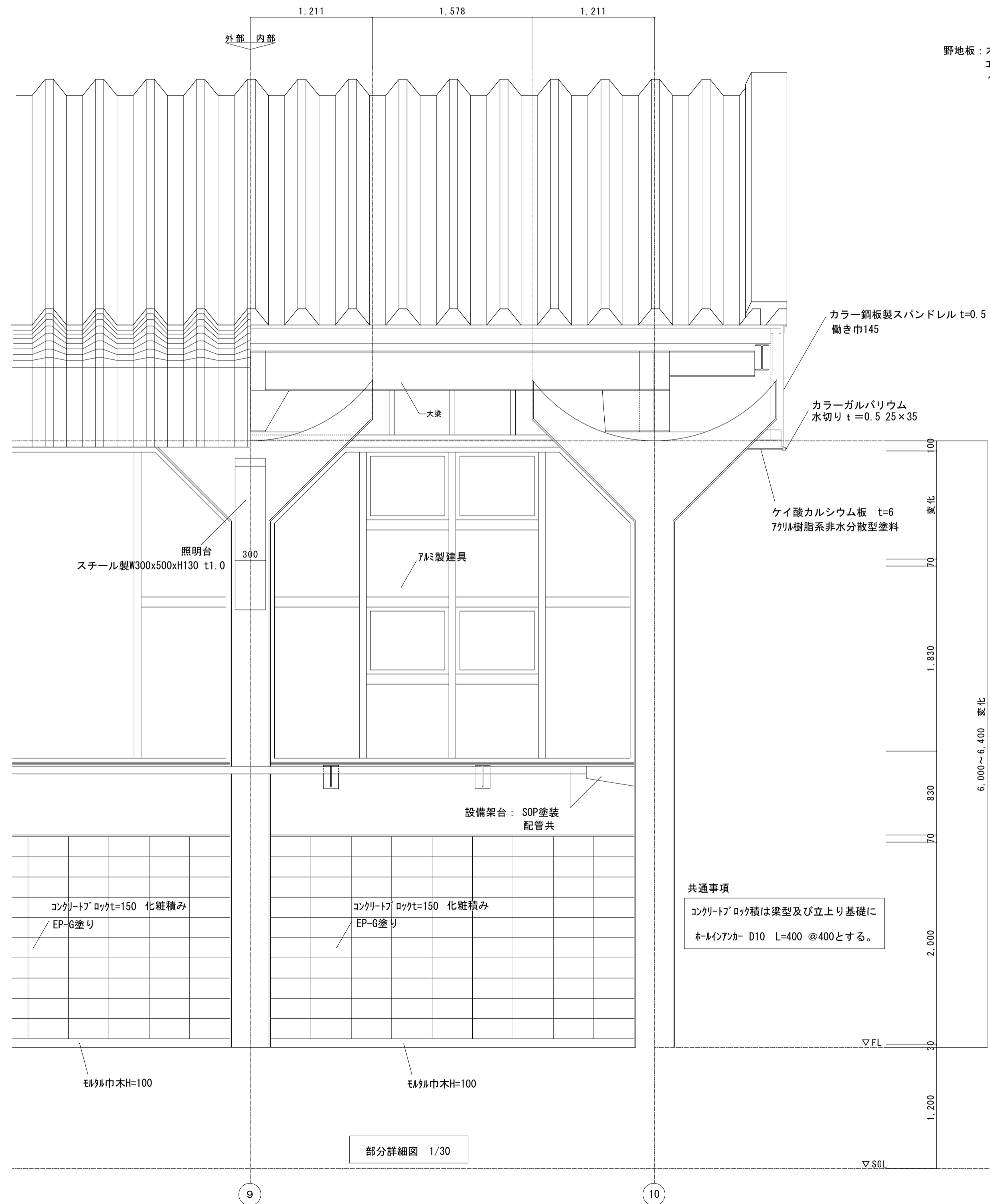
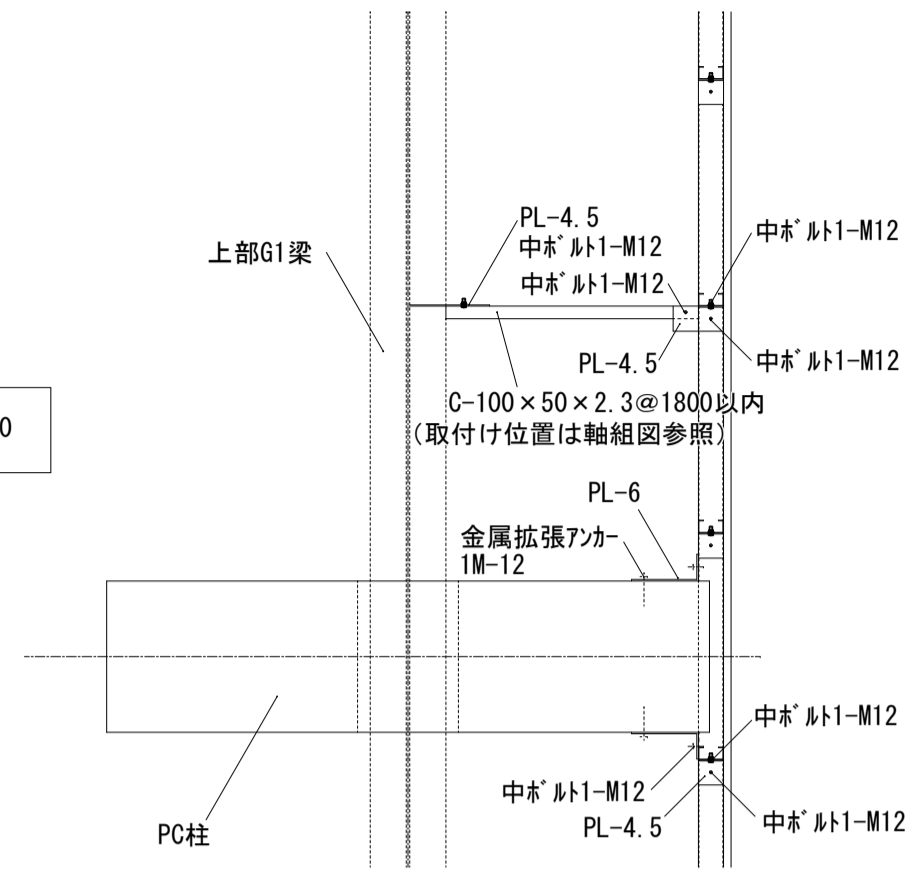
H部詳細図 1/10



I部詳細図 1/10

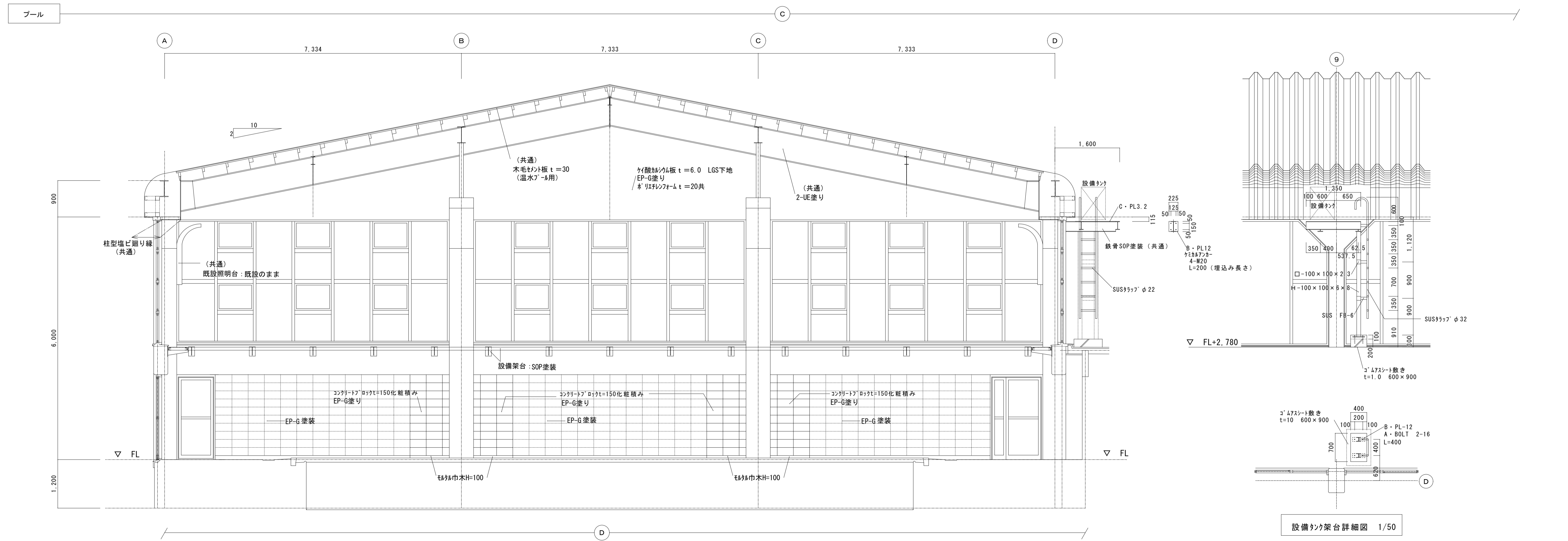
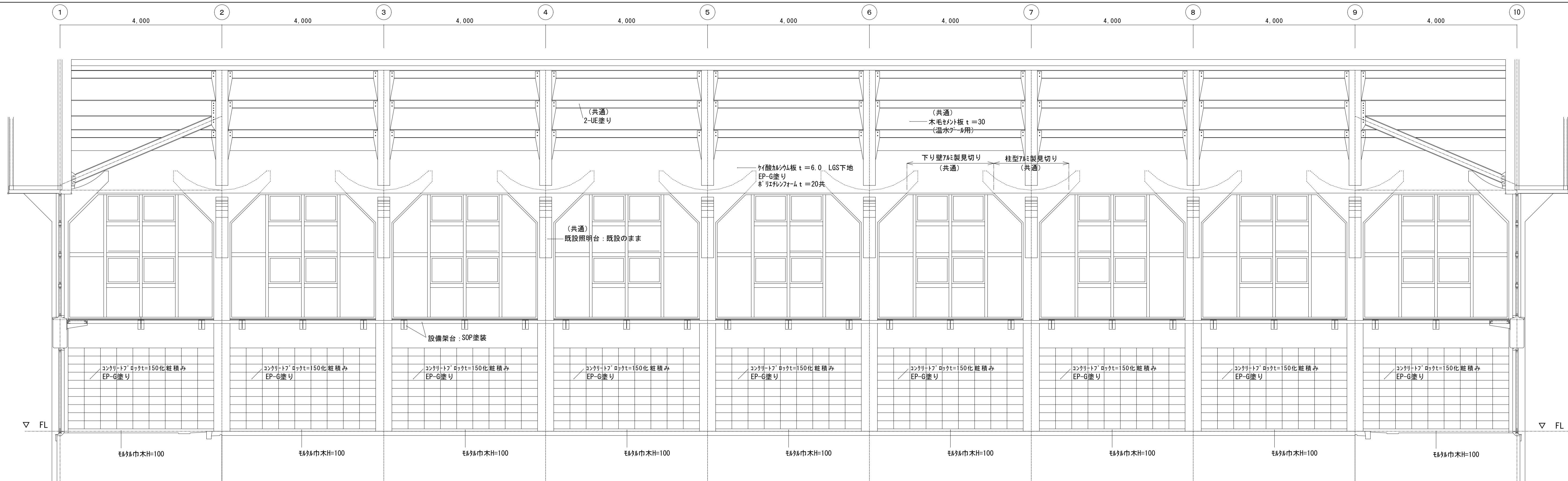


平面図 1/50



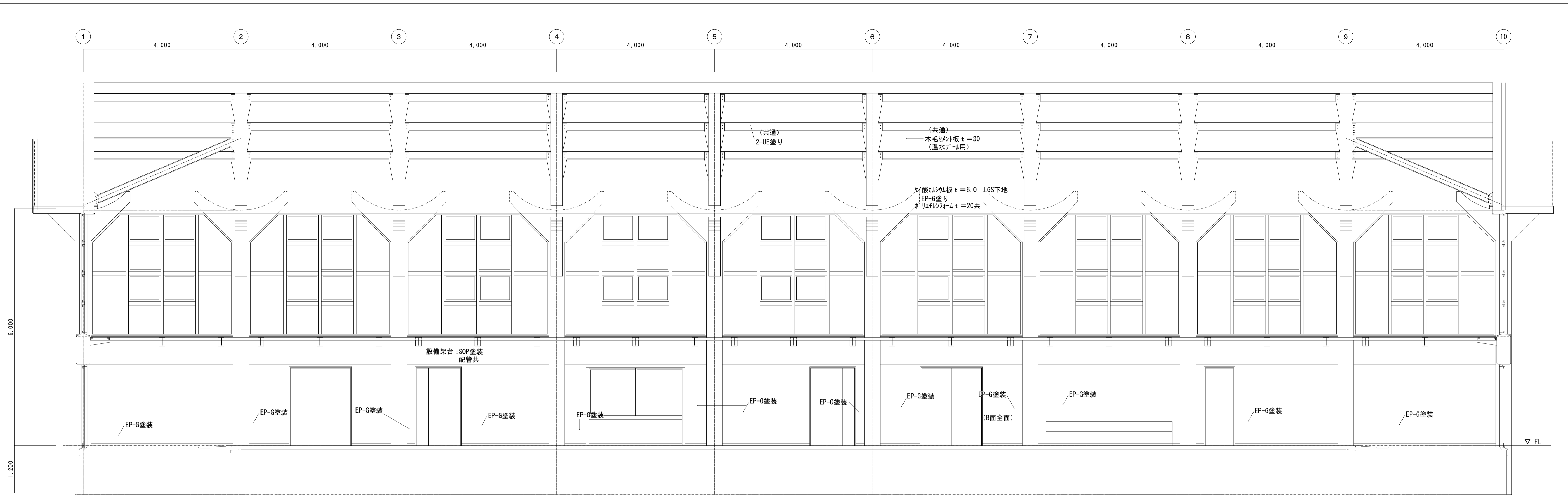
| | | | | |
|---|------|---|------|-------------|
| 記 | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 図面名称 | プール棟断面詳細図(2) | 縮尺 | A1:1/10, 30 |
| 事 | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 図面番号 | K-013 |
| | 監理者 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | | |

※A3版の場合は50%縮小とする。

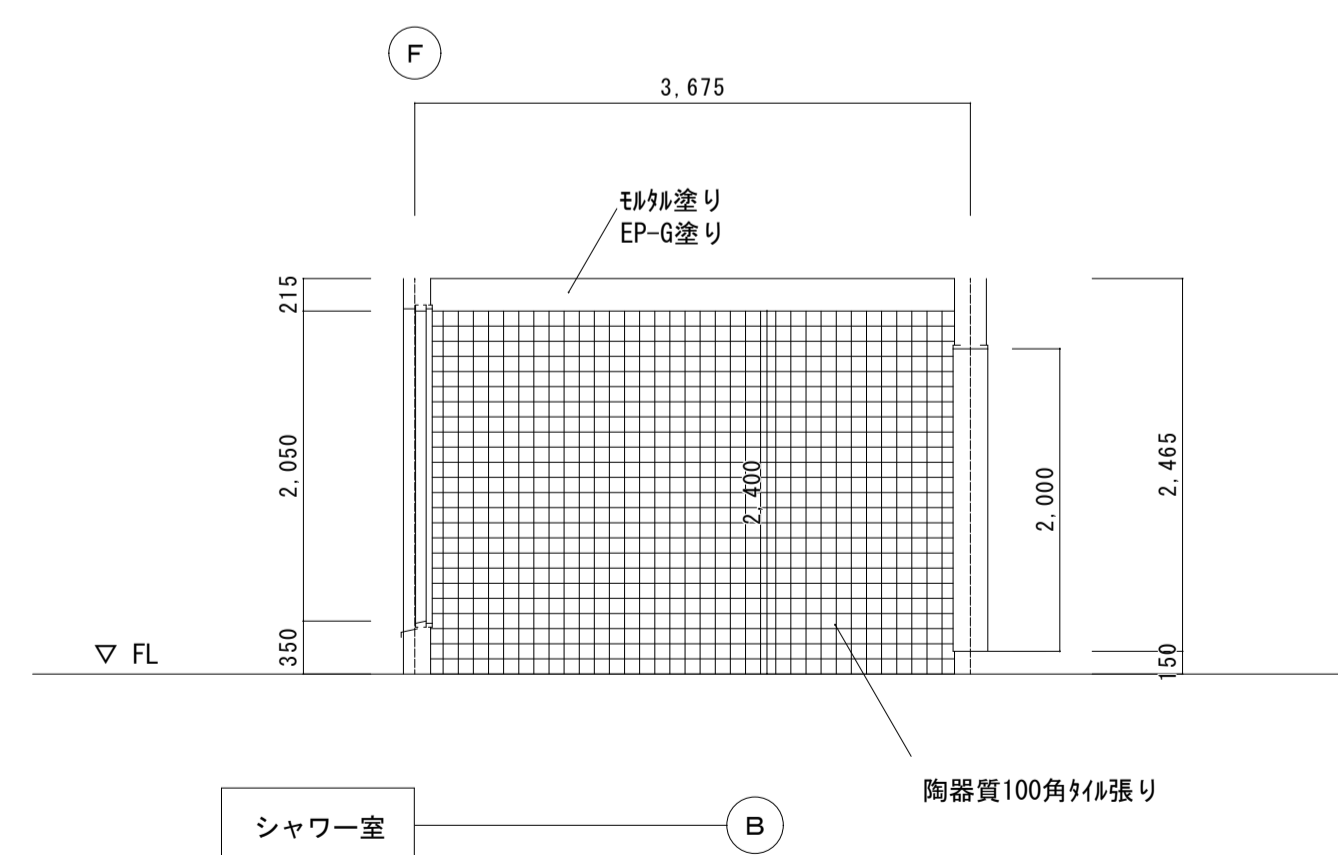


| | | | |
|--------------------------------------|---|-----------------|---------------|
| 工
事
名
称
温水プール改築工事 (建築工事) | 工事名称
温水プール改築工事 (建築工事) | 設計年月
令和6年2月 | |
| | 株式会社 総企画設計 名古屋支店
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | 図面名称
展開図 (1) | 縮尺
A1:1/50 |

※A3版の場合は50%縮小とする。

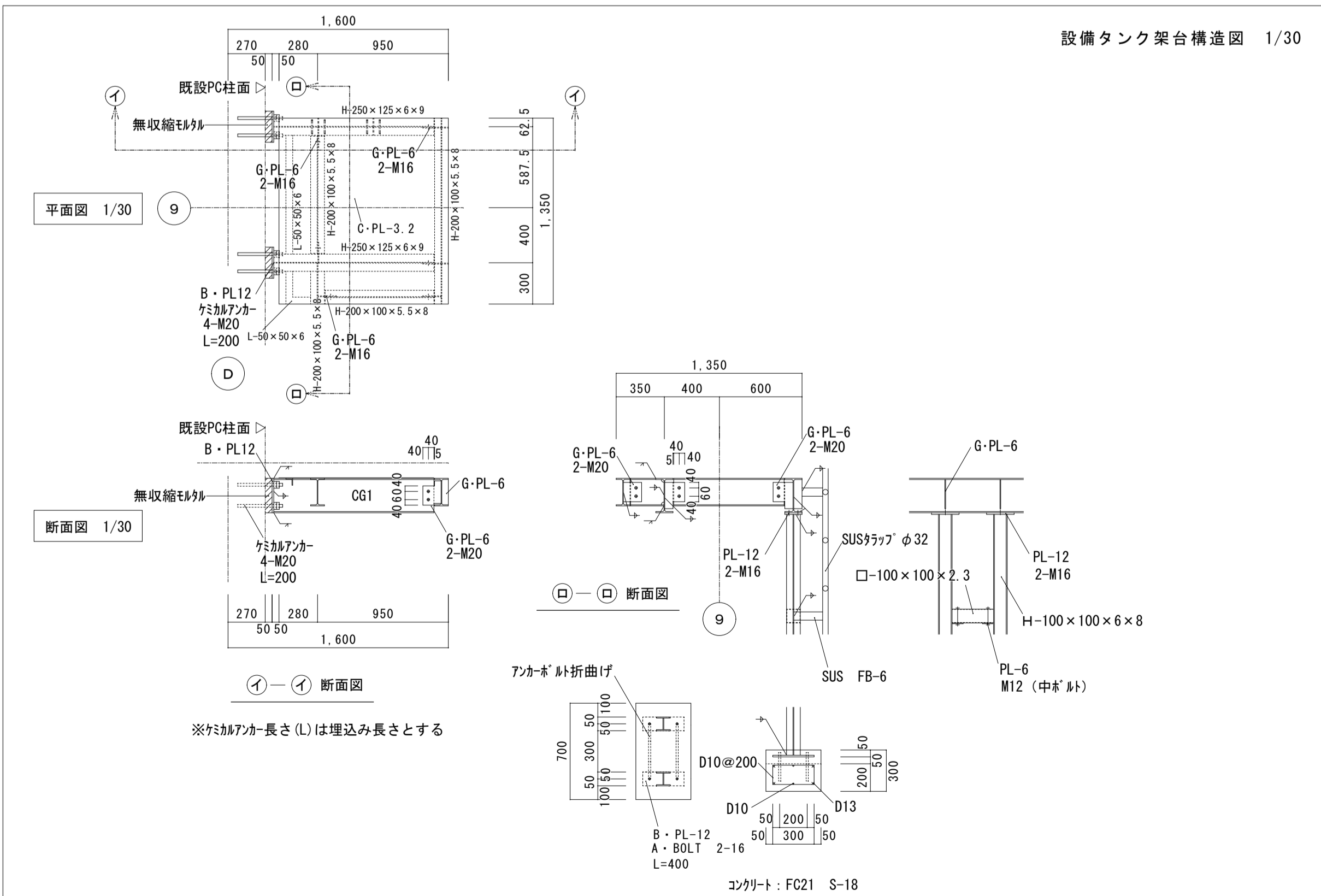


A



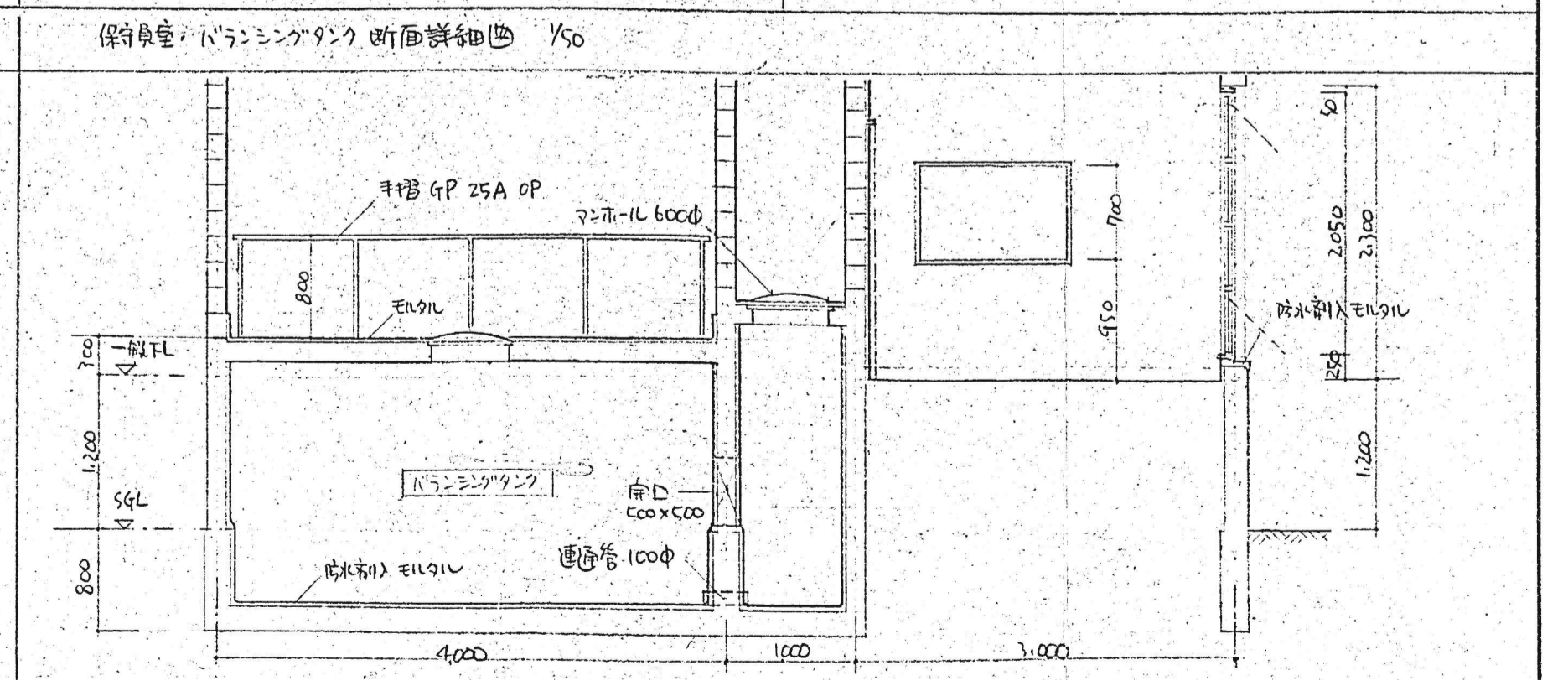
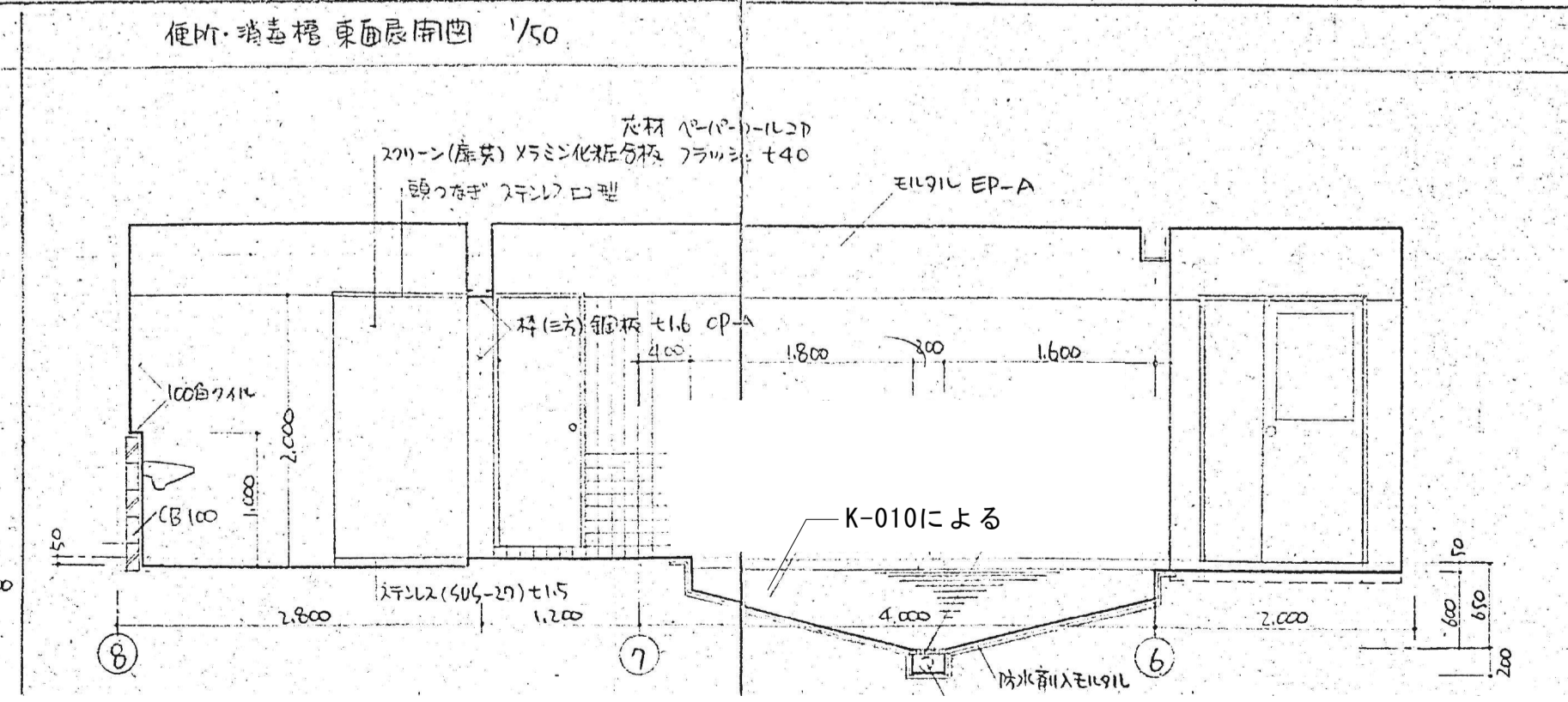
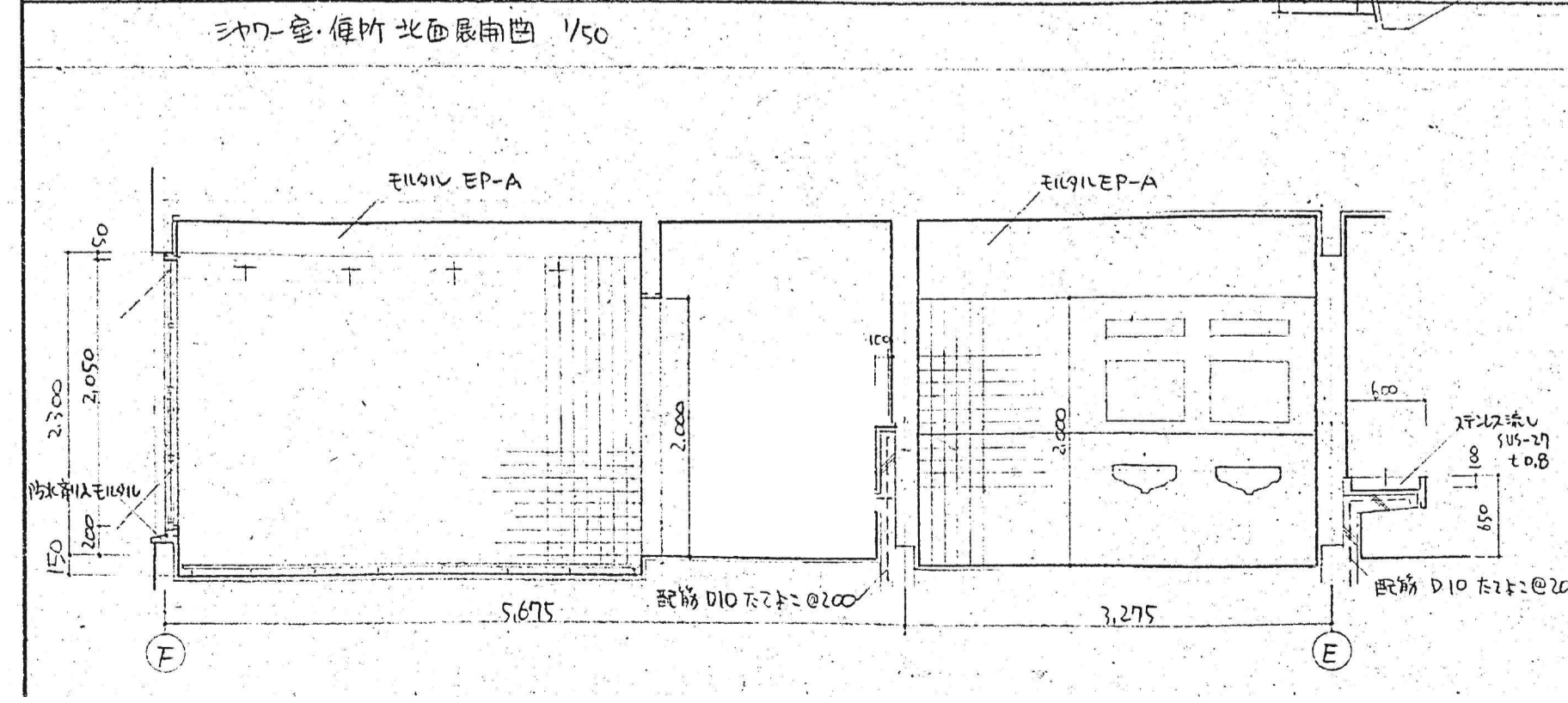
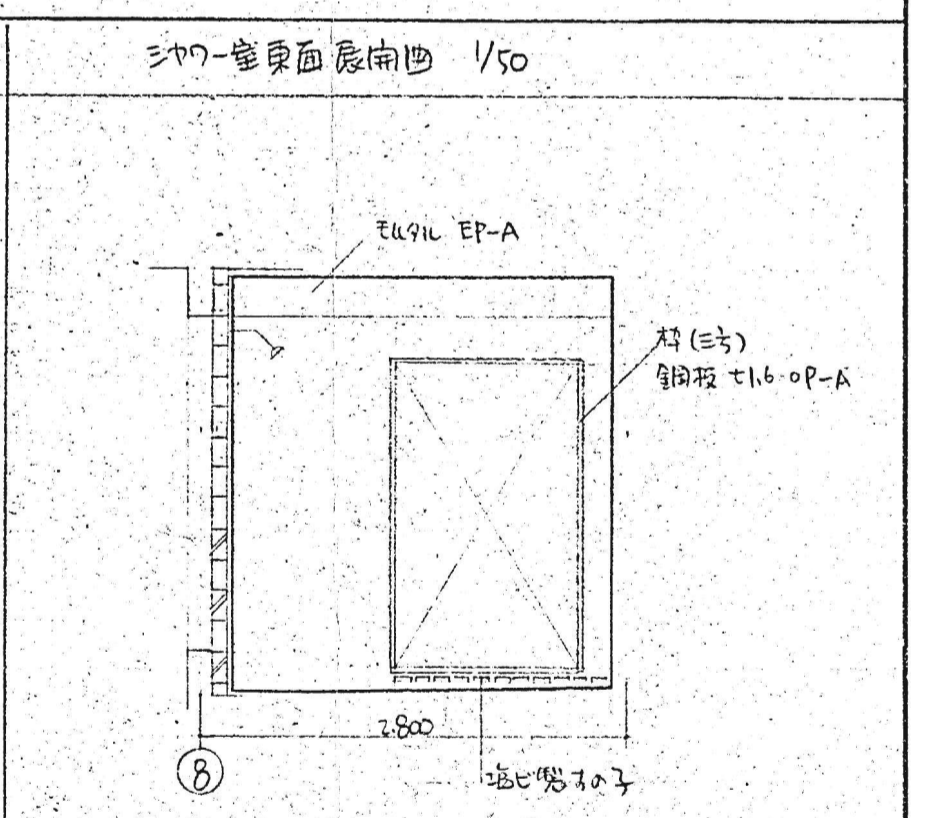
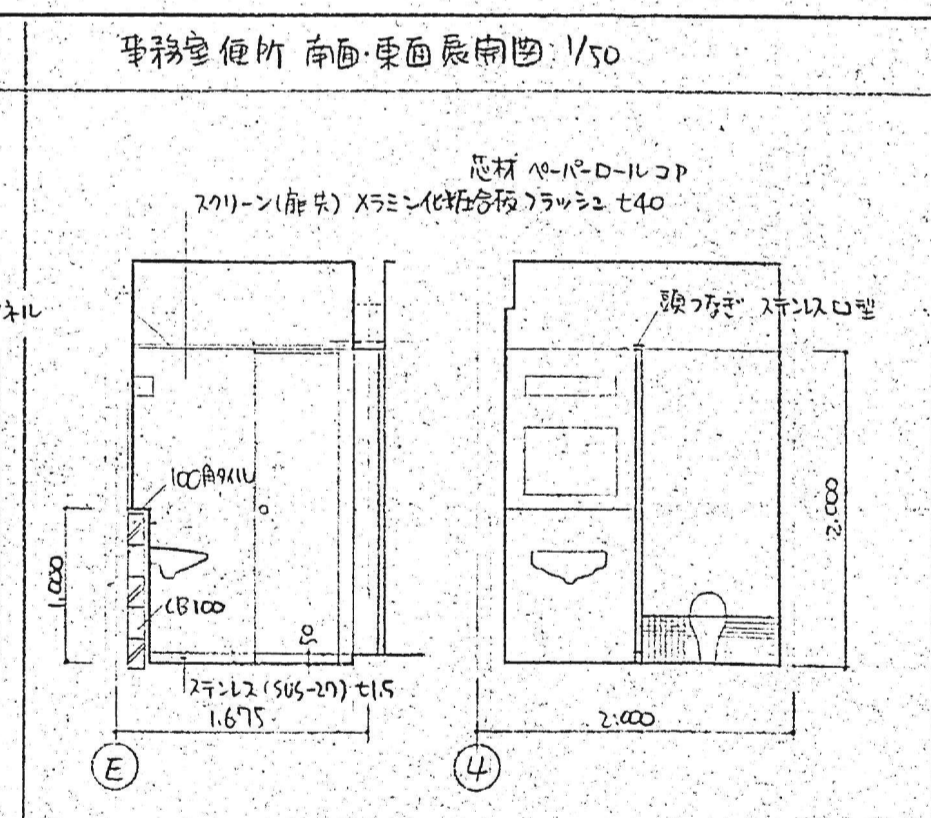
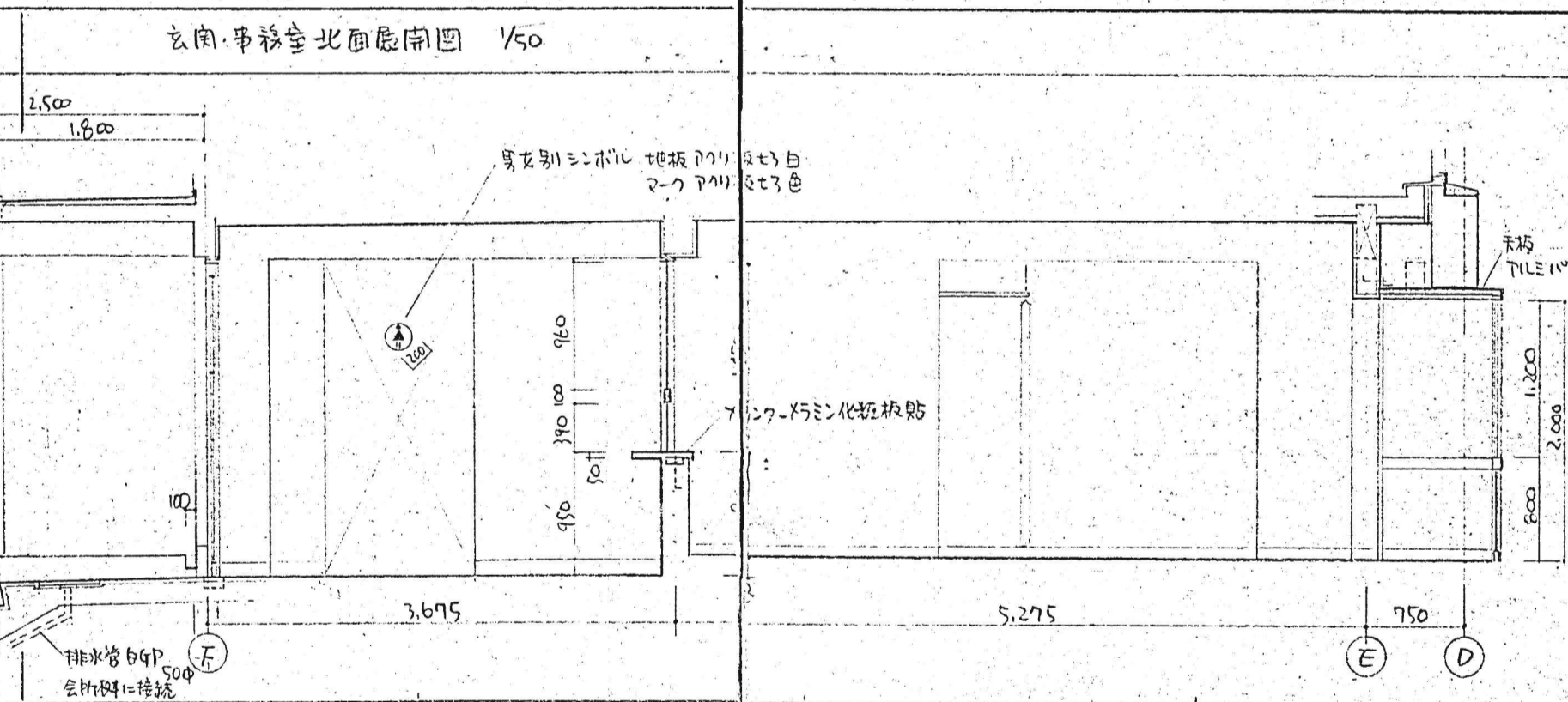
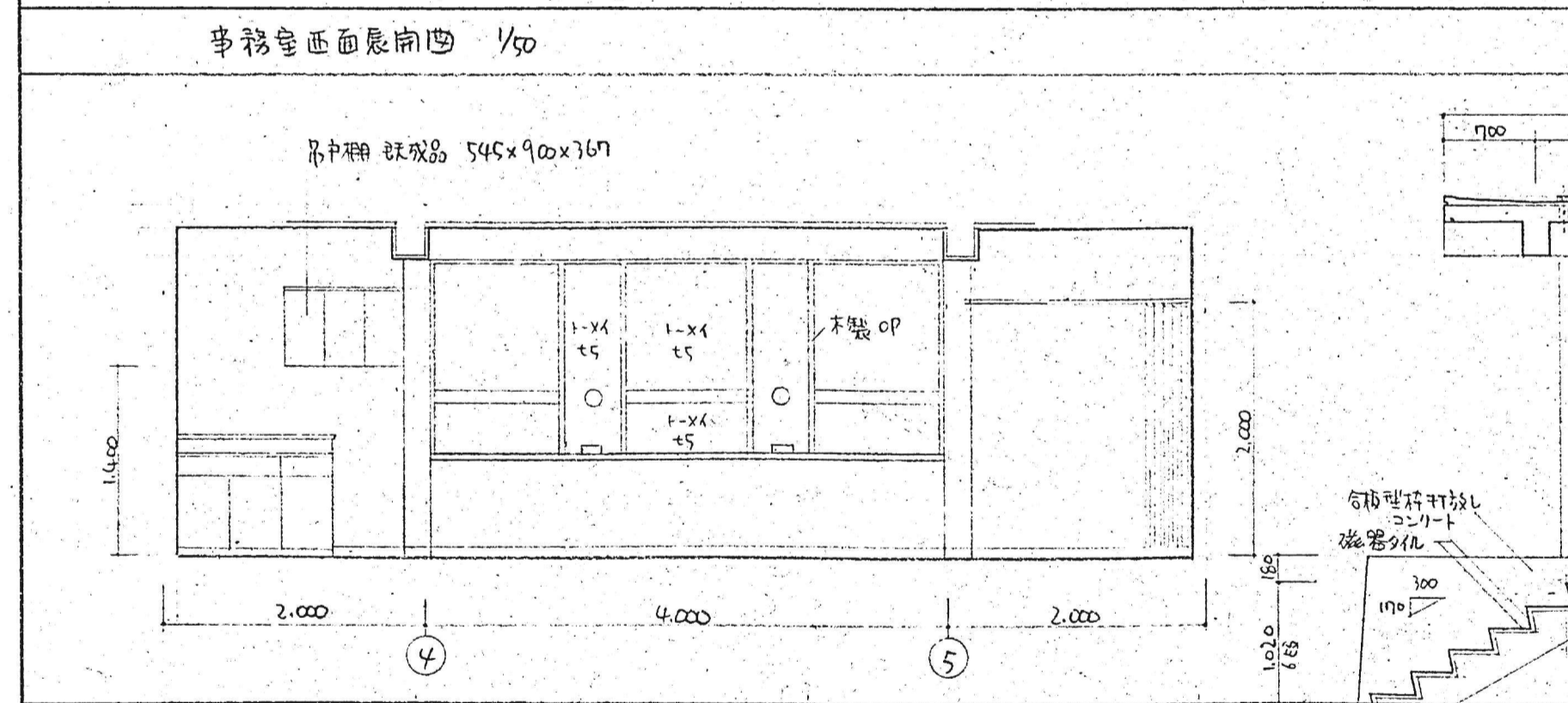
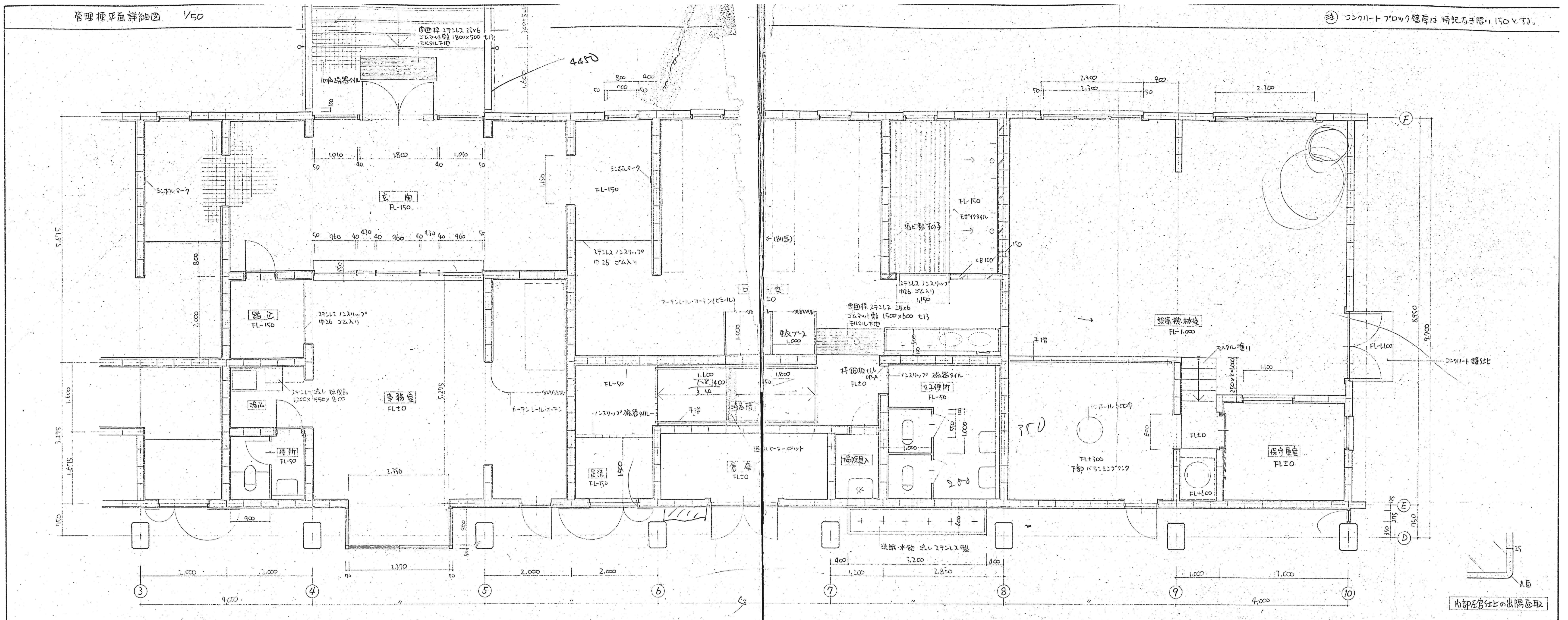
※1通り側シャワー室は対象展開

設備タンク架台構造図 1/30



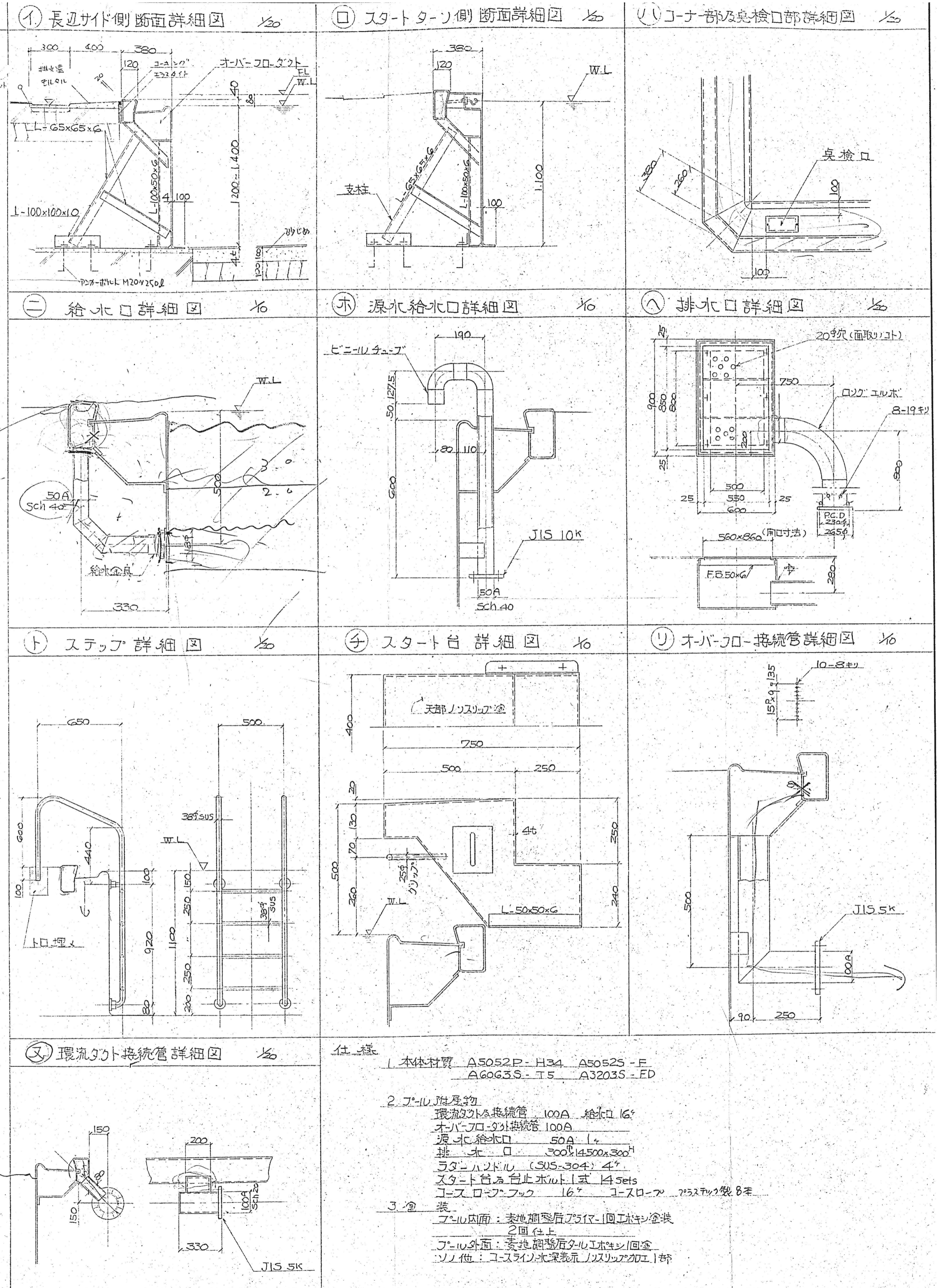
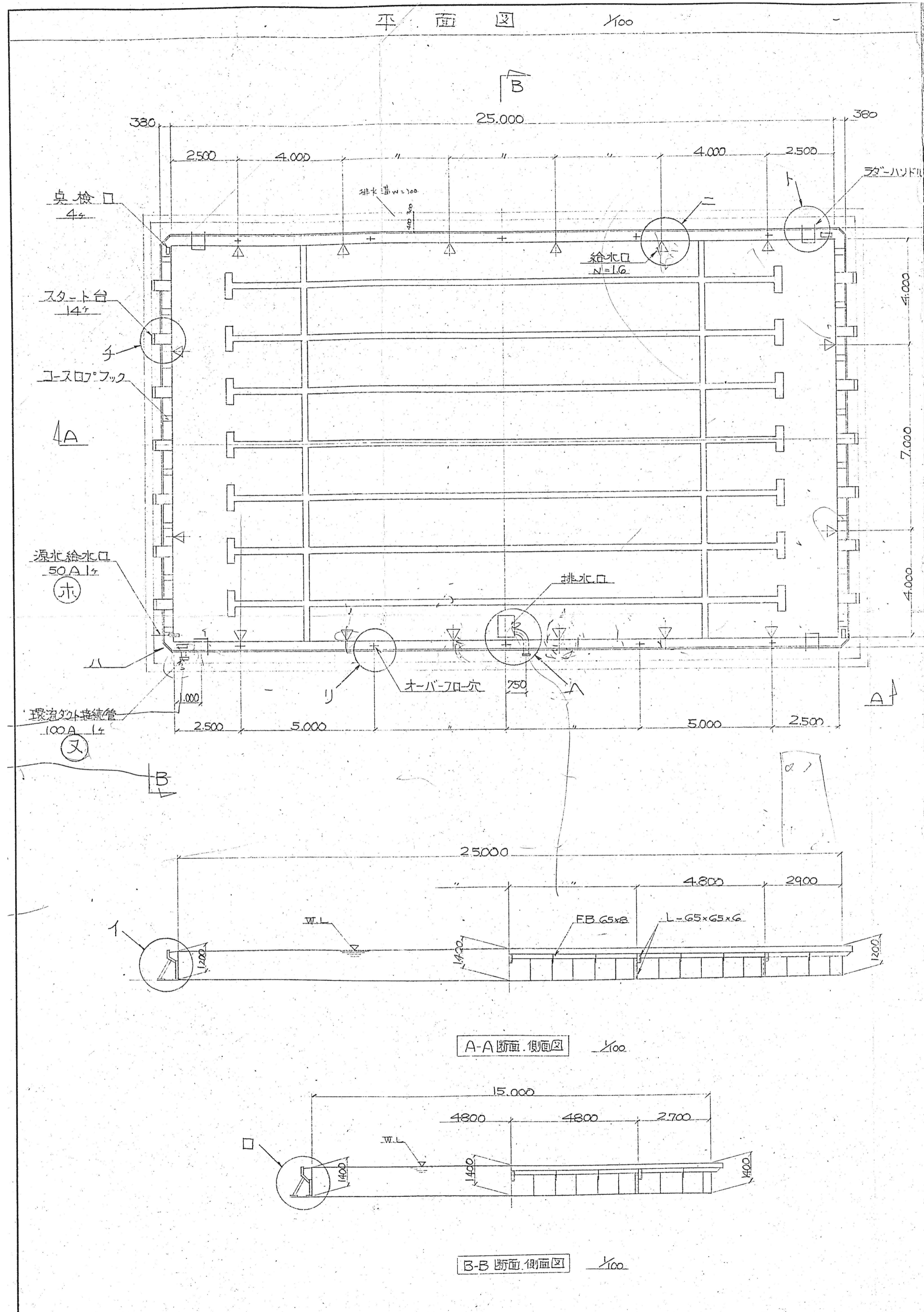
| | | | | | |
|---|------|---------------------------------|---|------|-------------|
| 工 | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | | 縮尺 | A1:1/30, 50 |
| 事 | 監理者 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号 | 印 | 図面名称 | 展開図 (2) |
| | 施工者 | 一級建築士 (大臣) 第270315号 管理建築士 犬飼 和行 | | 図面番号 | K-015 |

※A3版の場合は50%縮小とする。



| | | | | | |
|---|------|------------------|---|------|---------|
| 工 | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 図 | 図面名称 | 展開図 (3) | 縮尺 | A1:1/50 |
| 事 | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士 (大田) 第270315号 管理建築士 大田 和行 | 図面番号 | K-016 |

※A3版の場合は50%縮小とする。



- 仕様
1. 本体材質 A5052P-H34 A5052S-F
A6063S-T5 A3203S-FD
 2. プール関連物
環流パイプ接続管 100A 給水口 16"
オーバーフロー接続管 100A
源水給水口 50A 1"
排水口 300x1450x300"
スタート台 (SU5-304) 4"
スタート台止ボルト 1.5寸 14 Sets
コースロープ 16' コースロープ 752mm径 8本
 3. 塗装
プール内面: 表地: 珪藻土/塩化ビニル/同工法/同色
2回仕上
プール外面: 表地: 珪藻土/塩化ビニル/同色
同工法
その他: コースロープ/深さ表示/スリッパ/カゴE.1部

| | | | | |
|---|------|---|------|----------|
| E | 工事名称 | 温水プール改築工事 (建築工事) | 設計年月 | 令和6年2月 |
| | 設計者 | 株式会社 総企画設計 名古屋支店 | 図面番号 | K-017 |
| F | 設計者 | 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-4) 第11452号
一級建築士 (大田) 第270315号 管理建築士 大綱 和行 | 縮尺 | A1:1/100 |
| | 図面名称 | 展開図 (4) | 図面番号 | K-017 |

※A3版の場合は50%縮小とする。